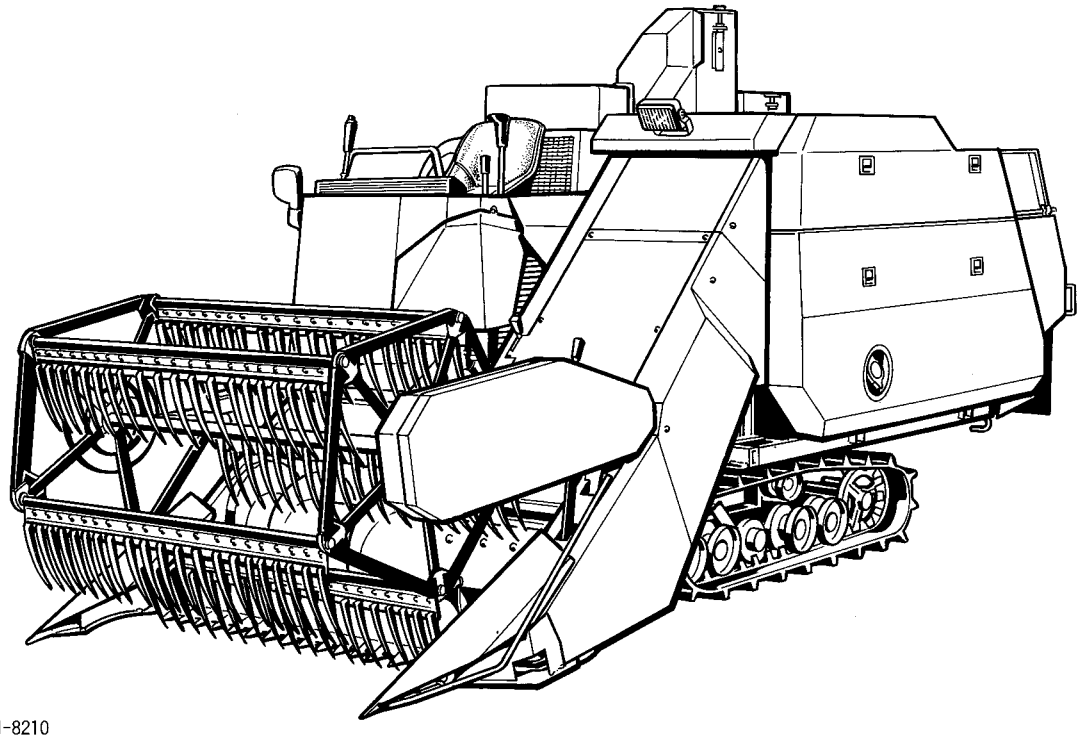
クボタ 大豆・そば用 コンバイン

取扱説明書

スーパー デコイチ

DC-1S



M-8210

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

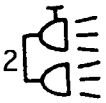
操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ホーン

エンジン回転**低回転**

エンジン回転**高回転**


ランプ

車高調節の方向

エンジン停止

燃料

水温

エンジン油圧

バッテリ充電(チャージ)

エンジン予熱(グロー)

専門用語の説明

- 主変速レバー …… 機体の前・後進の切換え及び車速を調節するレバー
- パワーステアリングレバー …… 機体の操向操作と刈取部の上昇・下降の操作及びリール上下スイッチが上部に付いているレバー
- バックアップ …… 主変速レバーを**“後進”**位置に入れると刈取部が自動的に上昇する機能
- リール …… 回転して作物を引起こす刈取部の五角形状の部分
- タイン …… リールに取付けられている黒い樹脂の爪
- オーガドラム …… 回転すると作物をフィーダ入口へ寄せる**らせん**の付いている円筒の部分
- 出入フィンガ …… オーガのフィーダ入口にあるかき込み棒
- デバイダ …… 刈取部の左右の最前部にある作物を条分けする部分
- フィーダ …… 作物をオーガから脱こく部へ搬送する部分
- ヘッドロス …… 刈取部で損失するこく粒
- ビータ …… フィーダから送られてくる作物をロータへ供給する回転体
- １番スクリュ …… 選別部で精選されたこく粒を１番バケットコンベアへ横搬送する部分
- ２番スクリュ …… １番スクリュ部へ選別されなかった作物・こく粒を再度選別部へ搬送する横搬送の部分
- １番バケットコンベア …… ホッパまで縦搬送するバケットカップ付コンベア
- ２番バケットコンベア …… 再度選別部まで縦搬送するバケットカップ付コンベア
- チャフシーブ …… コンケーブから搬送されたこく粒と排稈くずを選別する桟状の板
- トウミ …… 選別風(ファン)を発生させる装置
- ササリロス …… こく粒損失で，排稈の中にささっている単粒
- こぎ残し …… こく粒損失で莢(さや)の中に残っているこく粒
- ホッパ …… 精選されたこく粒を一時貯留するタンク
- ロータ …… 供給ベルトと供給ロータを通って搬送されてくる作物を脱こくする部分

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

51575-8511-2

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，大豆・そばの刈取・収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細はサービスブックをご覧ください。）

コンバインを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取作業まで順番に理解体得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に走行装置を理解しましょう

2．**走行装置の名称と取扱い：**走行装置のはたらきをまず理解し，基本操作を体得してください。

作業装置でコンバインの性能を最大に発揮させましょう

3．**作業装置の名称と取扱い：**作業装置のはたらきと基本操作を体得してください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

4．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

エンジンの安全基本操作・コンバインの安全走行のための基本操作を体得しましょう

5．**移動走行と輸送：**

(1)機体の急発進を防止するため，エンジンの始動と停止の手順を体得してください。

(2)機体の前・後進や停車の基本操作を体得してください。

(3)コンバインをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取作業を始めてみましょう

6．**収穫作業のしかた：**作業前の各装置の取付け，作物とほ場条件に合わせた調整，安全で正しい刈取作業を体得してください。

良く働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取シーズン前・後及び長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

コンバインがもしもの不調のときは

8．**コンバインの不調と処置：**異常や故障かな？と思われたとき，現象に応じて，処置をしてください。

目　次

⚠安全に作業するために … ⚠-1

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1
2. ⚠表示ラベルと貼付け位置 …… ⚠-12
3. ⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-18

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 1

走行装置の名称と取扱い …… 2
機体方向説明と走行装置の名称 …… 2
各部の名称とはたらき …… 4
メインスイッチ …… 4
アクセルレバー …… 4
非常エンジン停止レバー …… 5
主変速レバー …… 5
副変速レバー …… 5
ブレーキペダル(駐車ブレーキ)…… 5
パワーステアリングレバー …… 6
運転席(シート) …… 6
コンバインメータ …… 7
コンビネーションスイッチ …… 7
ホーンスイッチ …… 7

作業装置の名称と取扱い …… 8
作業装置の名称 …… 8
各部の名称とはたらき …… 10
自動車体水平制御装置(モンロー) …… 11
水平操作レバー …… 11
刈取クラッチレバー …… 12
対地平行自動刈高制御装置(ロイヤルモンロー) …… 12
刈取下降ロック金具 …… 13
リール上下スイッチ …… 13
リール昇降ロックスイッチ …… 13
脱こくクラッチレバー …… 14
コンバインメータ …… 14

運転前の点検 …… 15
日常点検項目 …… 16

移動走行と輸送 …… 17
新車時の扱いかた …… 17
ならし運転について …… 17
エンジンの始動と停止のしかた …… 17
始動のしかた …… 17
停止のしかた …… 19
移動走行について …… 19
走行前の準備 …… 20
発進のしかた …… 20
旋回のしかた …… 22
停車・駐車のしかた …… 22
輸送について …… 22
トラックとあゆみ板の準備 …… 22
コンバインの準備 …… 22
コンバインの積込み・積降しのしかた … 23
トラック上での処置 …… 24

収穫作業のしかた …… 25
作物とほ場の条件 …… 25
作物の倒伏とほ場の傾き …… 25
大豆 …… 25
そば …… 26
ほ場の準備 …… 26
コンバインの準備 …… 26
準備のしかた …… 26
刈取作業のしかた …… 31
ほ場の出入りのしかた …… 31
刈取作業の手順 …… 32
ほ場の刈りかたと旋回のしかた …… 34
作物に合わせた変速の選びかた …… 35
こく粒の排出のしかた …… 36
手刈り(枕刈り)作物の投げ込み脱こくのしかた …… 37
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた …… 38
コンバインメータによる異常と処置 … 41

メンテナンス …… 43
各部のオープン(開閉)と脱着のしかた … 43
エンジンルームオープン …… 43
脱こくロータカバーオープン …… 44
カッタ後カバー・カッタ安全カバーの開閉 …… 44
カッタオープンのしかた …… 45
シーブケースの脱着 …… 46
各部の掃除と注油のしかた …… 47
掃除のしかた …… 48
注油のしかた …… 51
定期点検 …… 53
オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整 …… 53
使用済廃棄物の処分について …… 53
使用者が行なってはいけない修理 …… 53
定期点検一覧表 …… 54
給・注油(水)点検一覧表 …… 56
燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換 …… 57
ラジエータ冷却水の点検・交換 …… 59
エアクリーナの点検・掃除・交換 …… 60
パイプ・ホース類の点検・交換 …… 61
防じんあみ，ラジエータフィンの掃除 … 62
オイルクーラフィンの掃除 …… 62
フューエルフィルタカートリッジ・フューエルフィルタアッシの交換 …… 62
HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタの交換 … 63
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 …… 64
各部ワイヤの点検・調整 …… 64
各部ベルトの点検・調整 …… 66
各部チェーンの点検・調整 …… 72
供給ベルトの点検・調整・交換 …… 75
選別ベルトの点検・調整・交換 …… 78
1番・2番バケットコンベアの点検・調整・交換 …… 80
刈刃の点検・調整 …… 81
カッタ部の点検 …… 82
バッテリの点検・交換 …… 82
電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換 …… 85
ランプ(電球)の点検・交換 …… 85
ホーンスイッチの点検 …… 85
クローラの張り調整・交換 …… 86
刈取作業後の手入れ …… 87
毎日の作業後 …… 87
長期格納時 …… 87

コンバインの不調と処置 …… 89

付　表 …… 95
主要諸元 …… 95
付属部品 …… 96
オプション(別売品) …… 97
消耗部品 …… 98
クボタ純オイル …… 104

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり，機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

適格者運転

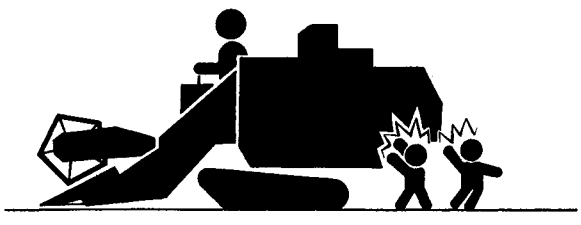
■運転操作には的確な判断が必要です。

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労，病気の人は使用しないでください。
- 初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検・整備中及び収穫作業中，機械に子供を近づけないでください。みえないところでコンバインにさわったり，かくれたりして危険です。

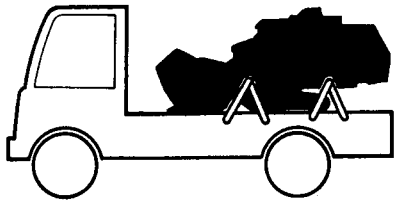


M-8213

⚠ 安全に作業するために

移動走行

■このコンバインは“道路運送車両法”に適合していないので公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（“移動走行について”の項参照）してください。

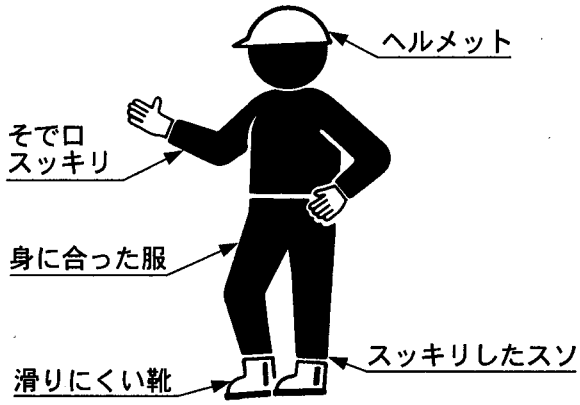


M-8353

安全な服装

■運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。

- レバーや作動部に誤って引っ掛かり，ケガをすることがありますのでだぶついた服は，着用しないでください。
  また，そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き，首巻き，腰タオルの着用は禁止です。
- サンダル，スリッパなどの履物の着用は禁止です。



M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転するときは，適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

F-8842

定期点検整備

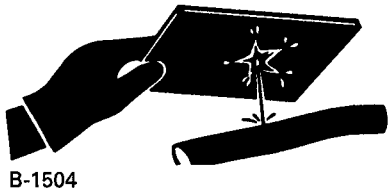
■1年ごとに定期点検整備を受け，各部の保守をしてください。

- フューエルパイプ，ラジエータホース，オイルドレーンゴムホースは2年ごとに交換してください。（**“定期交換”**の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（**“定期点検”**の項参照）

F-8847

■高圧噴油が皮ふに浸入すると危険です。

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接，手や体を触れないようにしてください。
  もし，高圧噴油に触れた場合，直ちに医者の診断を受けてください。油が皮ふに浸入した場合，数時間以内に取除かないと壊疽(えそ)にかかるおそれがあります。



B-1504

燃料の取扱いは安全に―火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いにはじゅうぶん注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとってください。

B-1499

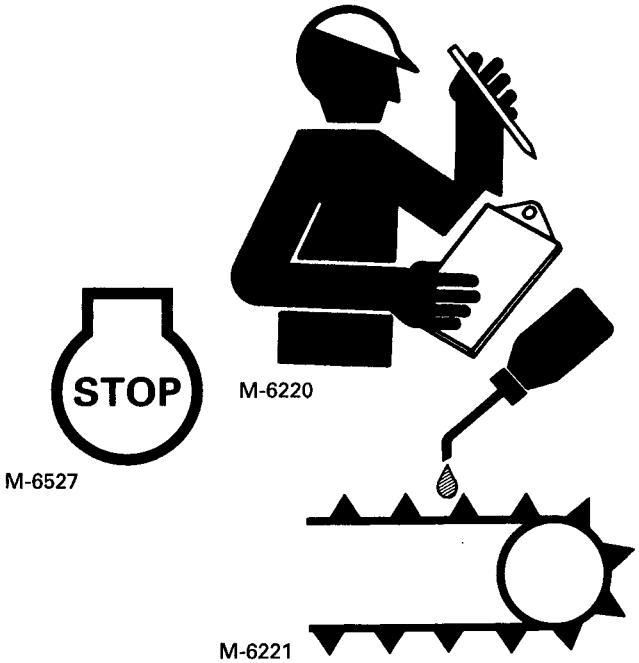
作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。

■点検・整備・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチレバー・刈取クラッチレバーは**“切”**位置にし，駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ・ベルトカバー内・配線部・バッテリ・燃料タンク各周辺部にわらくずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。

■取外した安全カバー，保護カバーは必ず取付けて作業してください。



M-6527

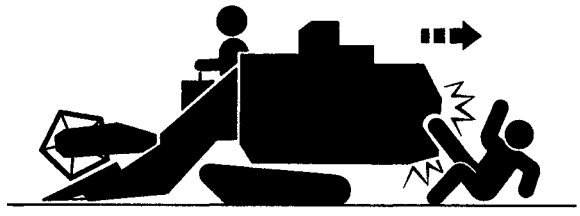
M-6220

M-6221

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，主変速レバーを**“停止”**位置にし各クラッチレバーを**“切”**位置にし，ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときや各クラッチレバーを操作するときは，ホーンを鳴らすなどの合図をして，機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは，必ず周囲の安全を確認してください。



M-8214

⚠ 安全に作業するために

安全なトラック輸送

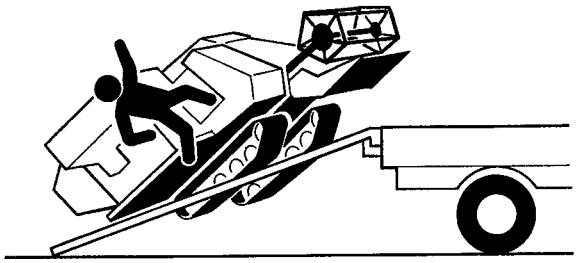
■積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。

■トラックへの積込み・積降しは，平地を選んで，最低速で行なってください。

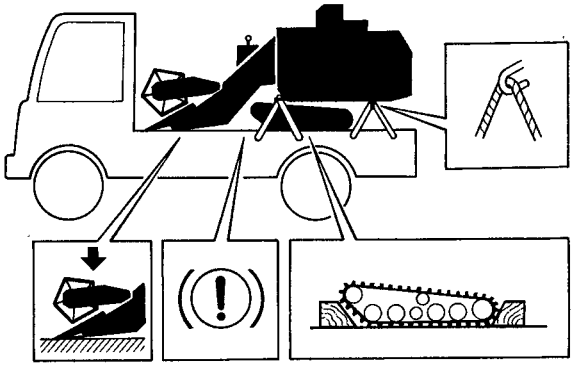
- あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(55cm以上)，長さ(高さの４倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用してください。
- あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。
- 積込み・積降し作業を行なうときは，機体に乗り発進させてください。
- 各作業クラッチ(刈取，脱こく)レバーを切り，運転者以外乗らないでください。
- ホッパ内のこく粒は空にしてください。
- 脱こくクラッチレバーを**“切”**位置又は，対地平行自動刈高制御スイッチを**自動切り**位置(手動)にしてください。
- あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機体の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。

■トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかり固定します。

- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので，必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから，絶対しないでください。



M-8215



M-8216

あゆみ板の基準

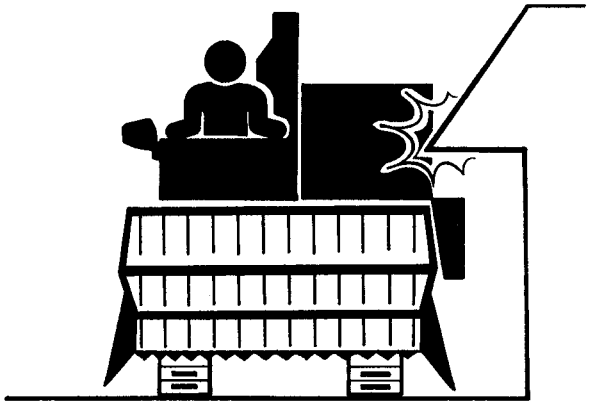
長　さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	55cm以上
数　量	２枚
強　度	１枚が1500kg以上の重量に耐えうる

安全な移動走行

■補助デッキ・左分草かんを収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にデバイダカバーを取付けてください。
- 各作業クラッチ(刈取，脱こく)レバーを切り，運転者以外乗らないでください。

■こく粒はすべて排出，又は降ろしてください。

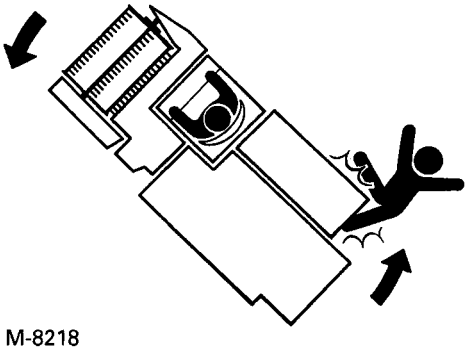


M-8217

高速走行の場合の注意

■急激なパワーステアリングレバーの操作をすると急旋回し危険です。

- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。

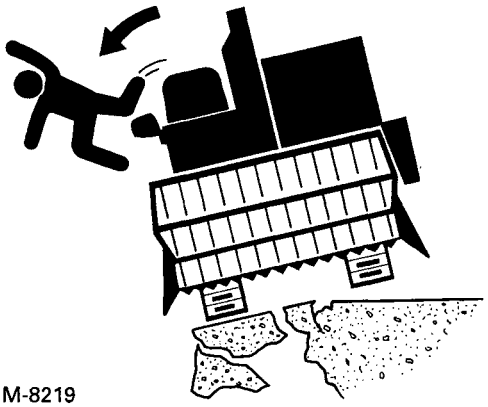


M-8218

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

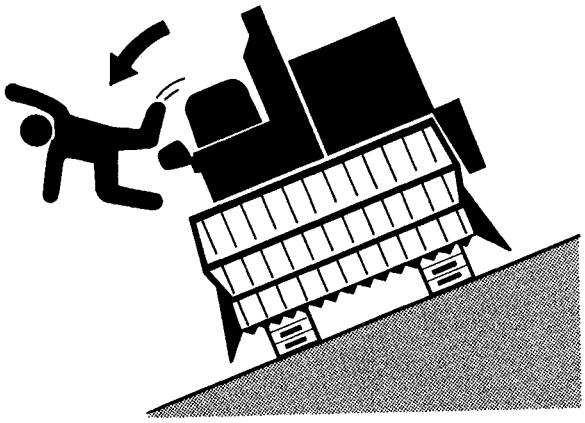
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあり，コンバインの重みでくずれる場合がありますので，走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると，転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。
- 作業時以外（特にあぜ越時，移動走行時，運搬時，格納時）は，こく粒をすべて排出，又は降ろして各作業クラッチを**“切”**位置にしてください。
- 草のおい茂ったところなどでは，水たまりなど見えない窪地があると転倒するおそれがあるので，事前に降車してよく確かめてください。



M-8219

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作しないでください。
- 前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，機械から降りて操作してください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。
- ほ場のすみ刈りで，後退し過ぎないようにしてください。



M-8220

■あぜ越えなど10cm以上の段差のあるところでは，段差の4倍以上の長さですべり止めがある基準に合ったあゆみ板を使ってください。また，10cm以下の段差のあるところでも速度を最低速にし，上り方向は前進で段差に対して直角に走行してください。

- 段差に対して斜め方向に走行したり，後進で乗上げると転倒するおそれがあります。

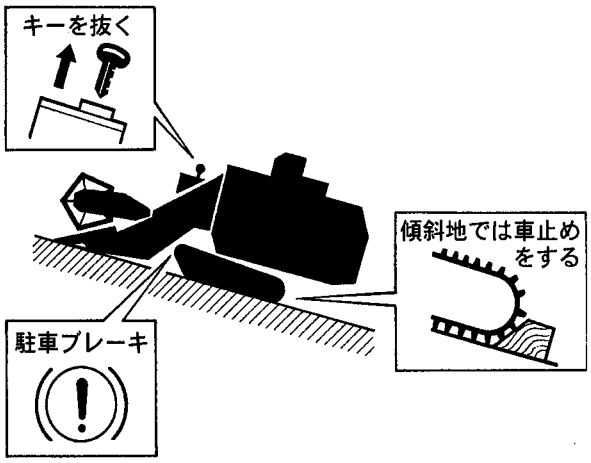
M-8221

⚠ 安全に作業するために

安全な駐車のしかた

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に接地させてキーを抜いてください。

- 傾斜地には駐車しないでください。やむをえず傾斜地に駐車するときは，車止めをしてください。



M-8222

運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

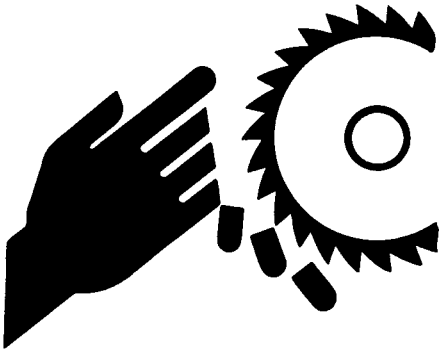
- ふり落とされたり，障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり，とび降りたりしないでください。

M-8223

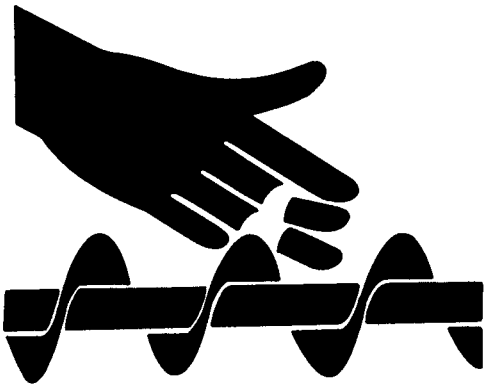
安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くありますので運転中に排稈の巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタに排稈が詰まったときは，すぐ各作業クラッチレバーを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まった排稈などを取除くときは，厚手の手袋をして，少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり，カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口，点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを必ず止めてください。

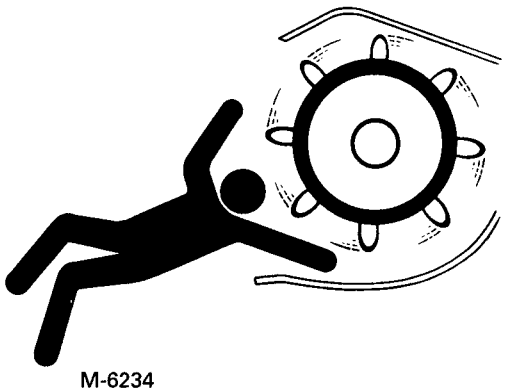


M-6232



M-6233

■カッタ部・脱こく部・エンジンルーム・機体各カバーの各部をオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また，エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。



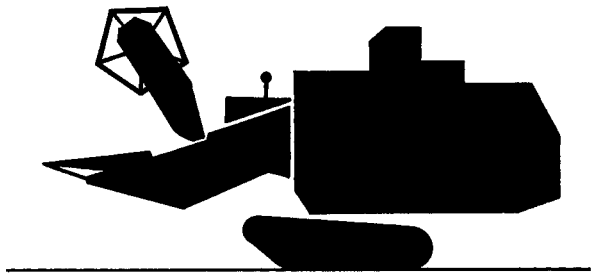
M-6234

⚠ 安全に作業するために

投げ込み脱こく時の安全確保

■刈取部を下げてリールを最上昇位置にし，リール・刈刃の各クラッチレバーを必ず“切”位置にし，作物は少しずつ投げ入れてください。

- リール昇降ロックスイッチで，リールの下降防止を行なってください。
- 副変速レバーを“中立”位置にし，駐車ブレーキを掛けてください。

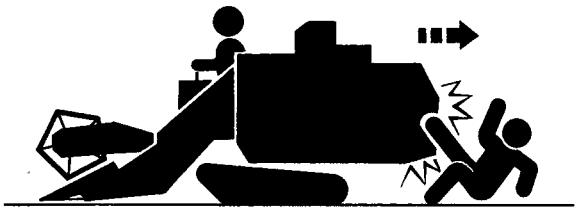


M-8224

共同作業の安全確保

■補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあります。補助者の安全にも配慮してください。

- エンジン始動時，各クラッチを入れるときはホーンで合図し，補助者のＯＫをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは，運転者に知らせることを徹底させてください。

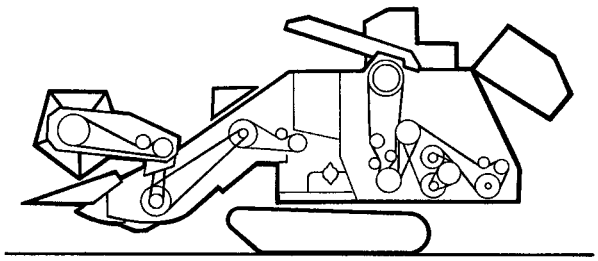


M-8214

オープン注意

■カッタ部・脱こく部・エンジンルーム・機体各カバーの各部をオープンするときは，エンジンを必ず止めて，平たんな場所で行なってください。

- 傾斜地でオープンすると，開閉時にいきおいよく動いて，機体の変形やケガをするおそれがあります。



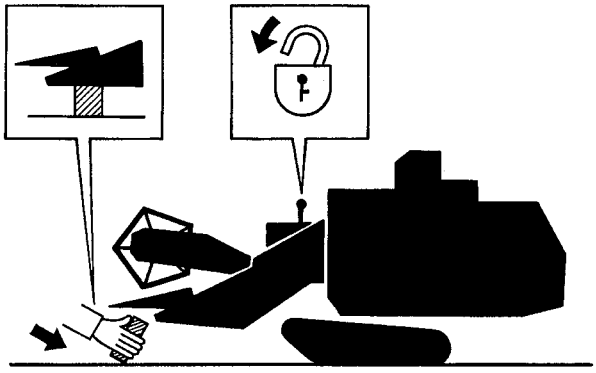
M-8225

安全な点検・整備

■点検・整備は水平で平たんな場所で行なってください。

■エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛けてください。

- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき，昇降部をロックするとともに，落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を点検・整備・掃除するときは手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。



M-8226

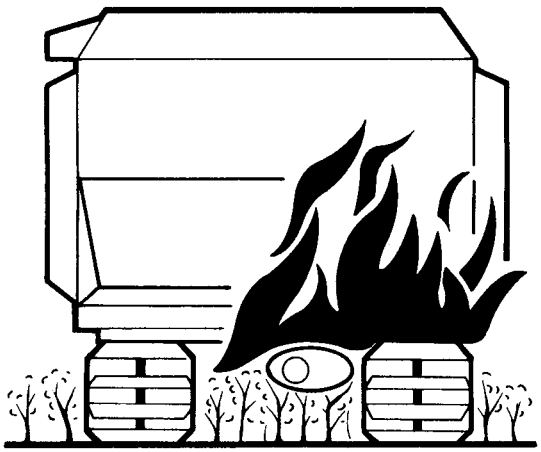
火災防止

■排稈くずは燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリ周辺に排稈くずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後排稈くずの上や枯れた雑草の上に停車すると，火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生するおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



M-6238

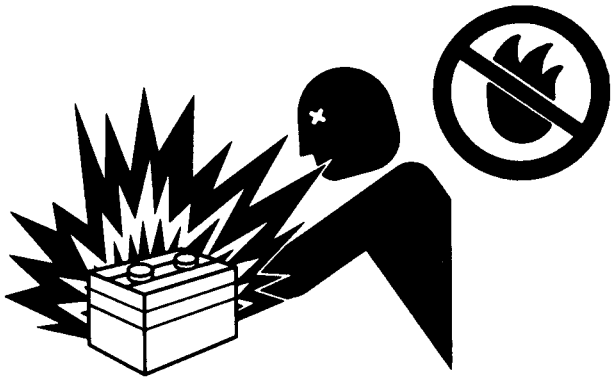
⚠ 安全に作業するために

バッテリの取扱い注意

■バッテリのガスは爆発のおそれがあります。

- バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，バッテリコードのショートによるスパークをさせないでください。

■バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。



F-8836

■バッテリの充電時，交換時は，バッテリの注意ラベルをよく読んでください。

- バッテリを取外すときは，最初にマイナス（⊖）側のバッテリコードを取外してください。
  バッテリを取付けるときは，最初にプラス（⊕）側のバッテリコードをプラス（⊕）側の端子に取付けてください。
- 充電は，機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂するおそれがあり危険です。
- 指定外のバッテリは使わないでください。

M-6465

■バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。

- 目，皮ふ，衣服についたときは，すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入ったときは，水でよく洗った後，医師に治療を受けてください。

ヤケド防止

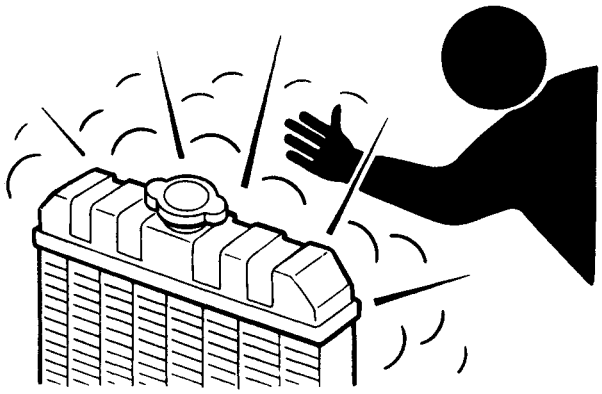
■過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。

● 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は，過熱，加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け，ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

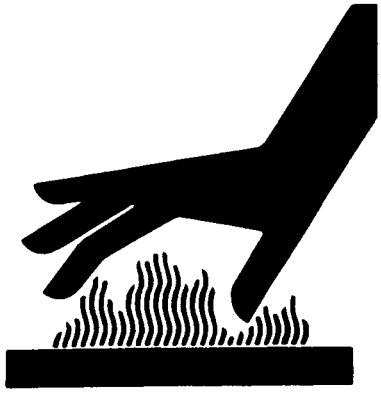
■高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

● 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるためじゅうぶんに温度が下がって，残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



B-1503



B-1502

夜間作業の禁止

■夜間の作業や移動走行は，事故を起こすおそれがありますので，行なわないでください。

● 暗いときにやむをえず移動走行するときは，ランプを必ず点灯してください。

このコンバインを他人に貸すときは

■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱い方法・安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるように指導を行なってください。

▲ 安全に作業するために

2. ▲表示ラベルと貼付け位置

①品番　59900-4378-4

▲ 注　意

作業前

1．安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2．エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし主変速を「停止」にすること。
3．屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4．ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1．発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ合図をして、機械に人を近づけないこと。
2．緊急停止が必要なときは、主変速レバーを「停止」にすること。
3．転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4．急発進・暴走の危険があるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを「停止」にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5．刈取作業時以外（あぜ乗越時．移動走行時．運搬時格納時）は「もみ」はすべて排出又は降ろして、各作業クラッチを“切”にし、M仕様(車体水平制御)は、一番下げた状態にすること。

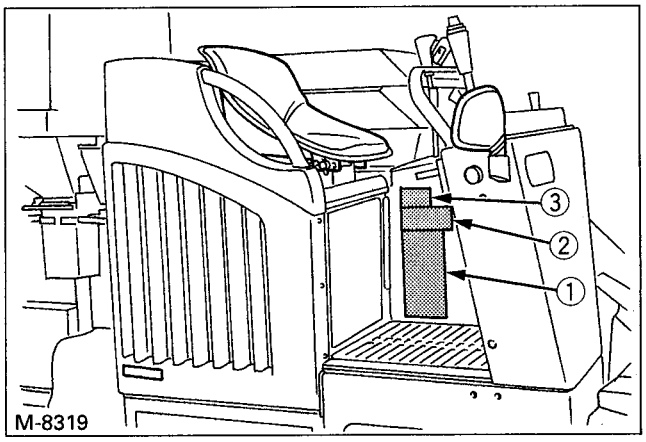
積込み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよび、あぜ越えをするときは以下を守ること。

① 上るときは前進に、降ろすときは後進にすること。
② 副変速を「倒伏」、主変速を低速にし、エンジンの回転を落とすこと。
③ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
④ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

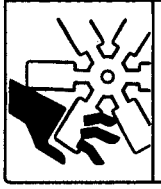
駐・停車

1．火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2．機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。



③品番　52320-3166-1

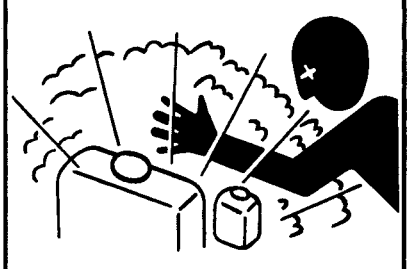
▲ 警　告



エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

②品番　56431-5219-4

▲ 注　意

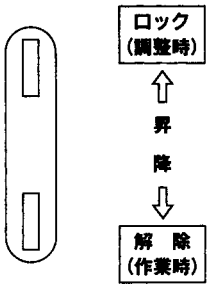


オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1．エンジンを止める。
2．必ず停止後30分以上経過してからエンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。

①品番　59900-4375-1

⚠ 注 意

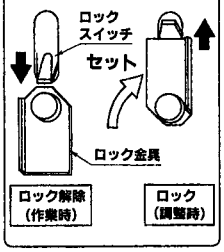
刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

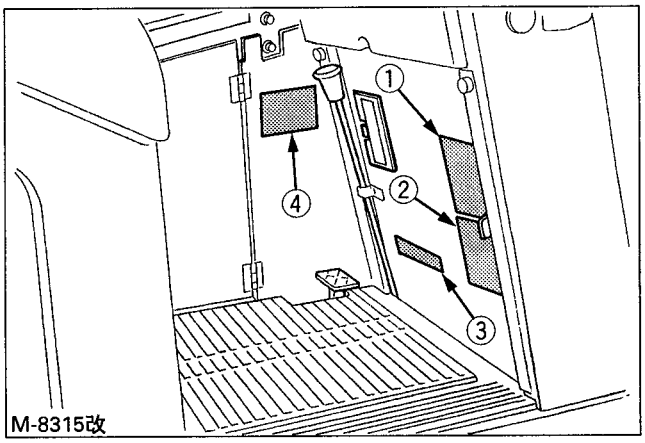


②品番　51840-3988-1

⚠ 注 意

リールを上げて点検・調整を行うときには、リールが不意に下降してはさまれることがあるので、ロックスイッチを上げて必ずロック金具をセットすること。



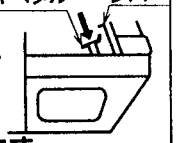


④品番　59900-4323-2

⚠ 注　　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1．駐車するときは、車止めをすること。
2．駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「倒伏」又は「標準」にし、主変速を「停止」にすること。

駐車ブレーキの操作方法



①主変速レバーを「停止」位置にし、停止を確認すること。
②駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むと自動的にロックされます。
③ロックを解除する時は、ペダルを踏みながらレバーを押して下さい。

③品番　51561-4379-1

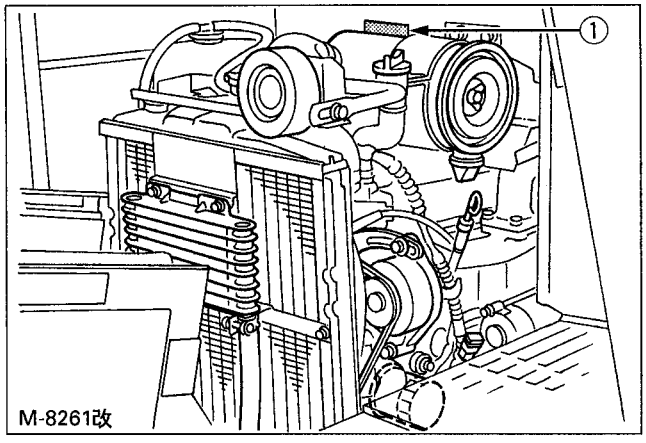
⚠ 注 意

転落、転倒事故の危険があるので 前後、左右共10度を越える傾斜地での作業はおこなわないこと。

①品番　52320-3159-1

⚠ 注　　意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。



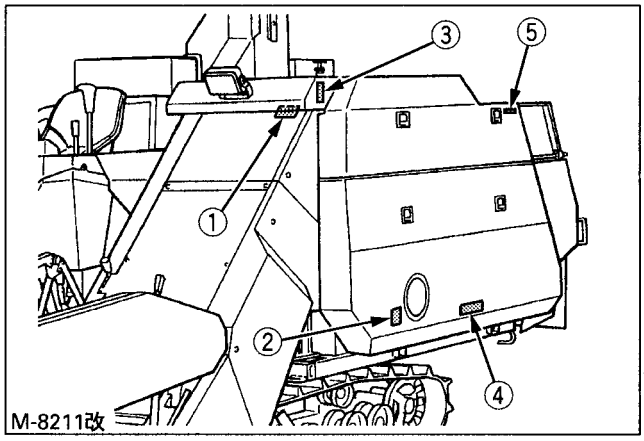
⚠ 安全に作業するために

①品番　53981-6434-1

注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。



②品番　52166-2575-1

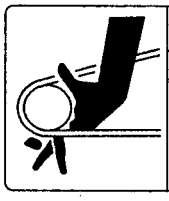
⚠ 注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

④品番　53981-6436-2

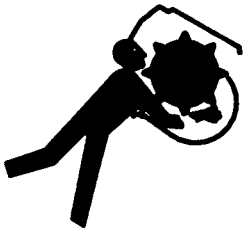


⚠ 注　意

1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　53981-6431-3

⚠ 警　告



中で扱歯が高速で回転しているので，接触するとケガをします。扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること。

⑤品番　53981-6432-1

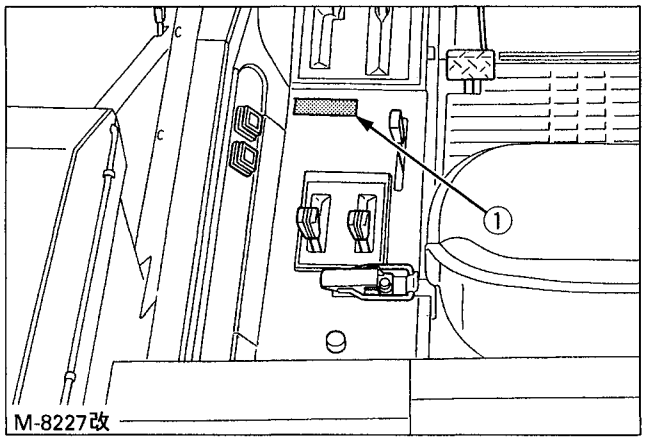
⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

①品番　59900-4365-3

⚠ 注　意

エンジンを始動するときは、主変速レバーを「中立」にし、脱こくクラッチを「切」にすること。

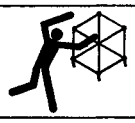


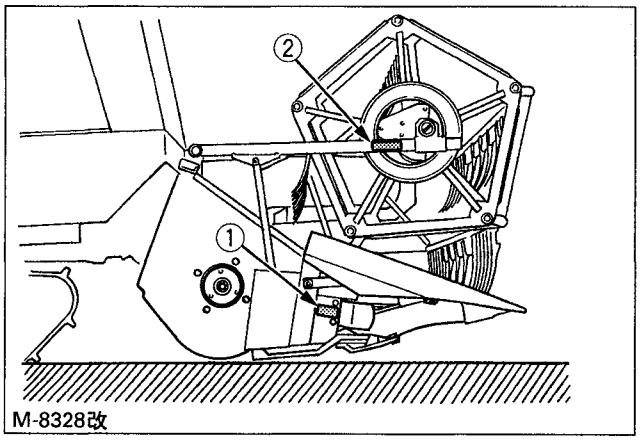
M-8227改

①品番　50080-5772-3

⚠注意 運転中は、刈刃・回転軸などでケガをする危険があるので手を絶対入れないこと。作業中は本品を必ず取付けること。

②品番　51850-3915-2

⚠注意  **リールの回転中は危険ですから手をふれないこと。**

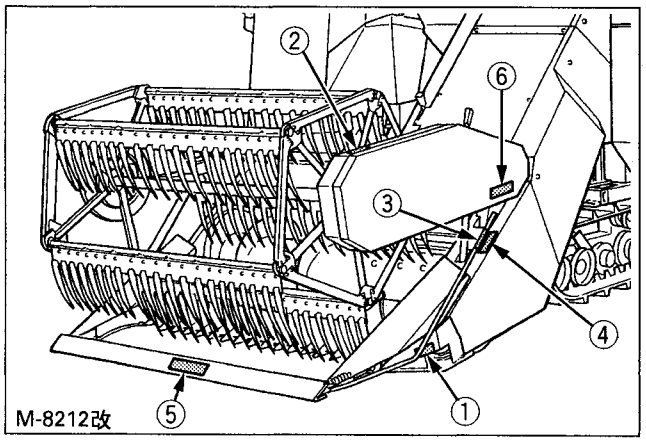


M-8328改

③品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-8212改

④品番　59700-2136-2

⚠注意 人に当たりケガをさせるおそれがあるので、移動するときは必ず収納すること。

⑤品番　59700-4332-2

⚠注意 デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

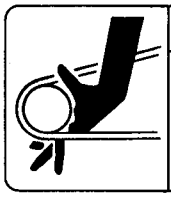
⑥品番　51960-3946-1

⚠ 注　意

はさまれるとけがをするおそれがあるのでカバーの下側に手を入れないこと。

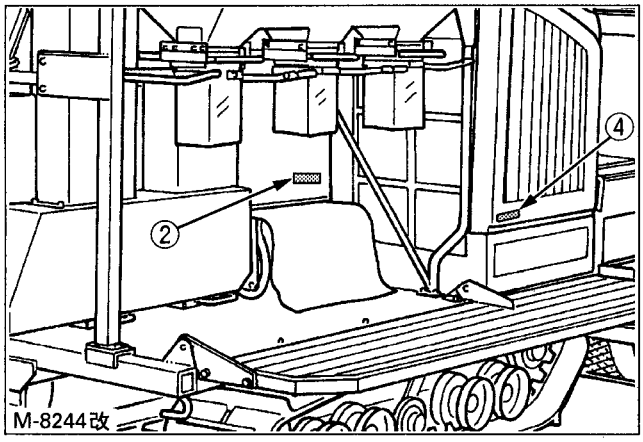
⚠ 安全に作業するために

①品番　53981-6436-2



⚠ 注　意

1．回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3．点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-8244改

②品番　53981-6432-1

⚠ 注　意

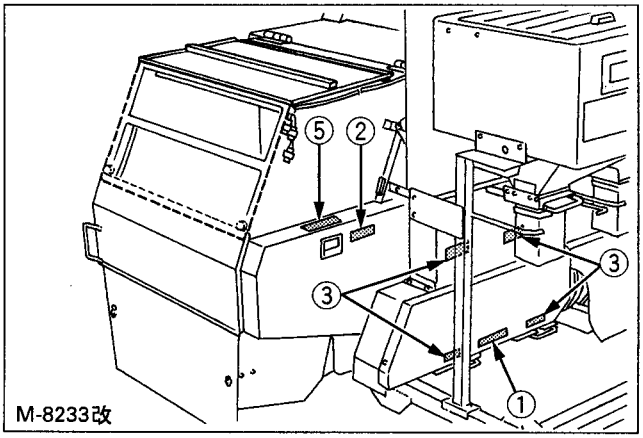
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

③品番　53981-6434-1

⚠ 注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

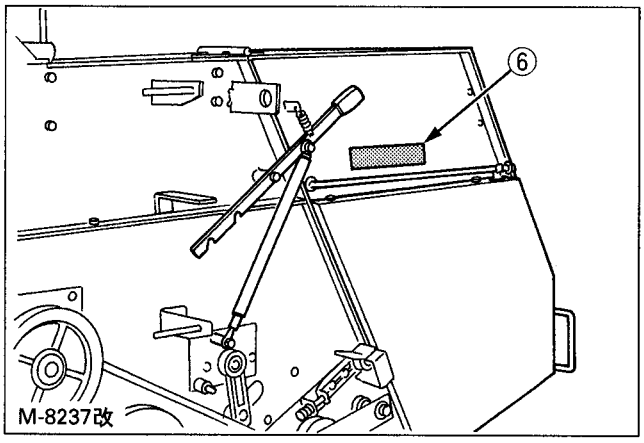


M-8233改

④品番　52166-2119-2

⚠ 注意

1．転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2．移動するときは、人に当ってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。



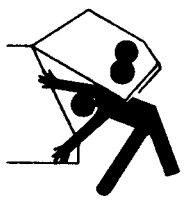
M-8237改

⑤品番　51870-3942-3

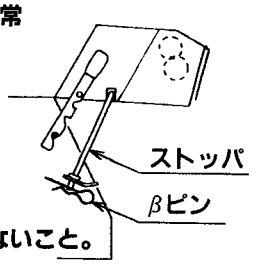
⚠ 注意　このカバーの上には乗らないこと。

⑥品番　51574-8635-1

⚠ 警　告



1．カッタ オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2．カッタ をオープンして、シーブケース・選別ベルトの脱着や機内の掃除をするときは、カッタ が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定し、βピンで抜け止めをすること。
3．カッタ をオープンしたまま走行すると、カッタ が落下したり、破損して非常に危険です。絶対に走行しないこと。

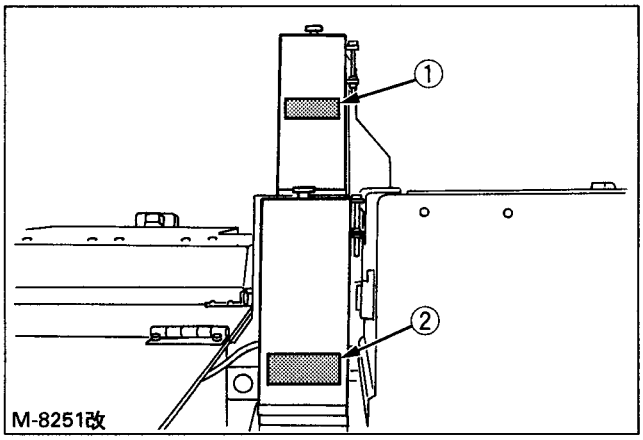


①品番　53981-6434-1

注意

掃　除　口

中に回転物がありケガをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

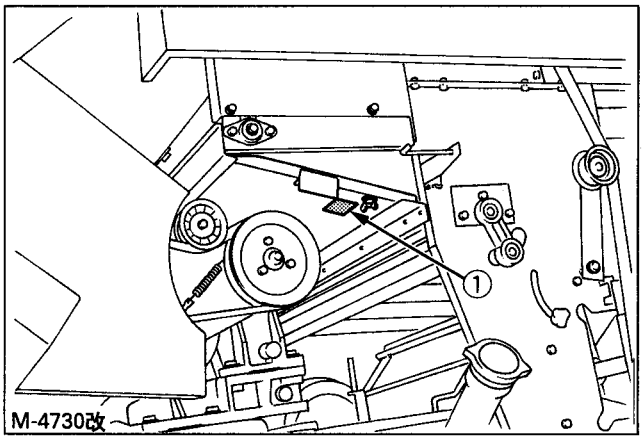


M-8251改

②品番　53690-3129-2

⚠ 注　意

中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

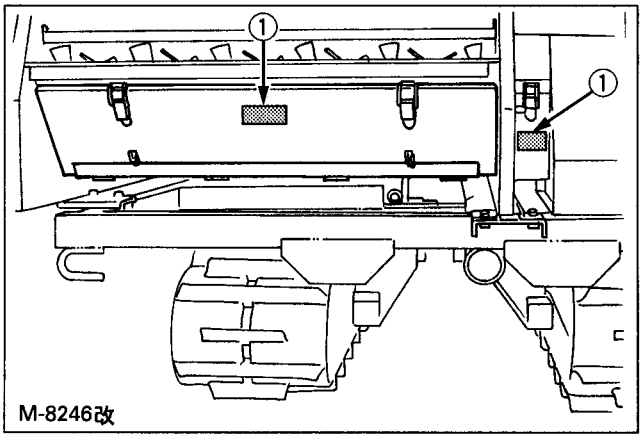


M-4730改

③品番　53981-6191-1

⚠警告

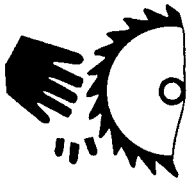
1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。



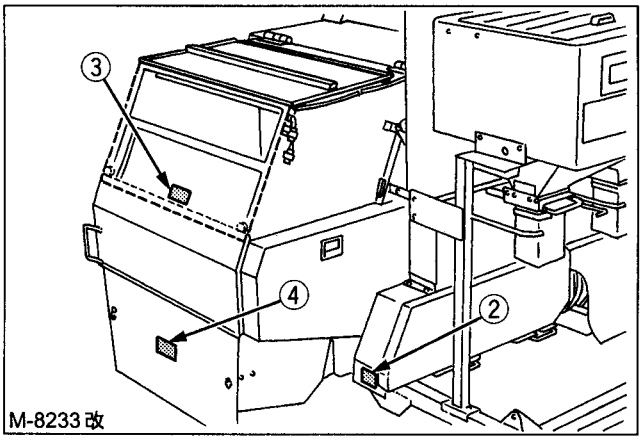
M-8246改

④品番　57745-5315-3

⚠警告



1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



M-8233改

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

3. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先又は(株)クボタアグリにそれぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)商品名・区分と車台番号
(2)とう載機関(エンジン)の型式名と機関(エンジン)番号

をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，ご購入先又は(株)クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

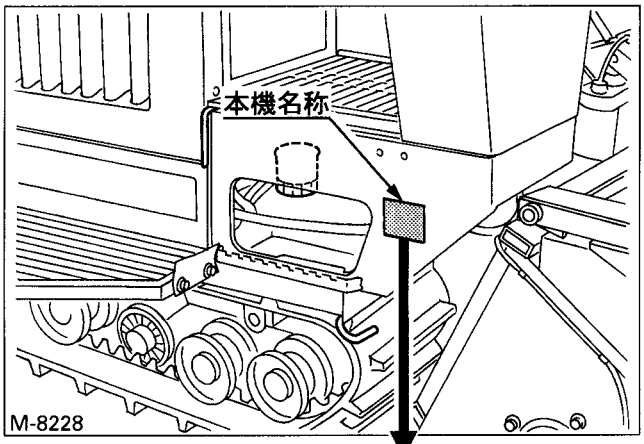
型　式　名	安全鑑定番号
DC-1S	23168

■補修用部品の供給年限について

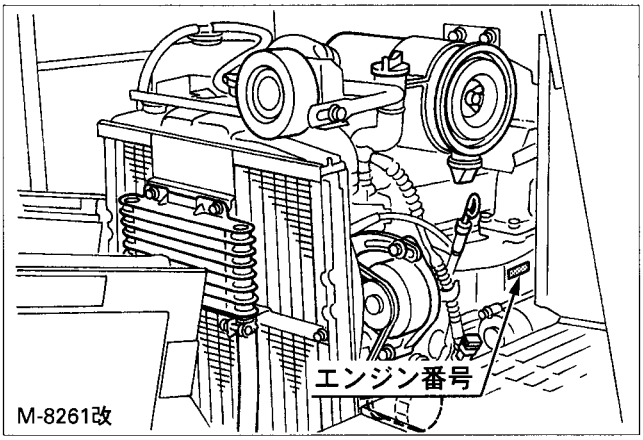
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。

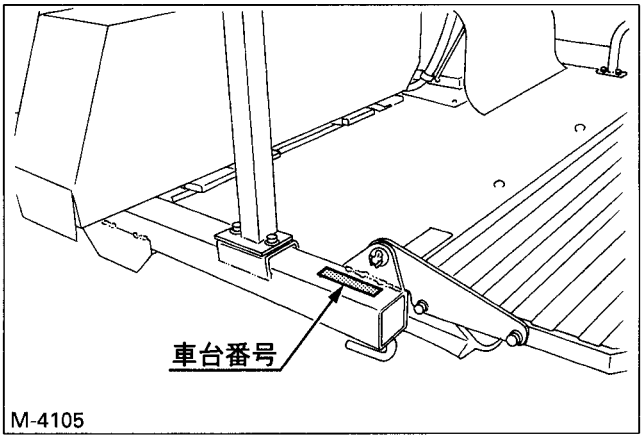
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



農業機械の種類	コンバイン(普通型)
農機型式名	クボタ
区分	
車両型式名	クボタ
車台番号	
とう型式名	
とう機関番号	
載最大出力	ps/ rpm
機無負荷最高回転速度	rpm
関製造元	株式会社クボタ

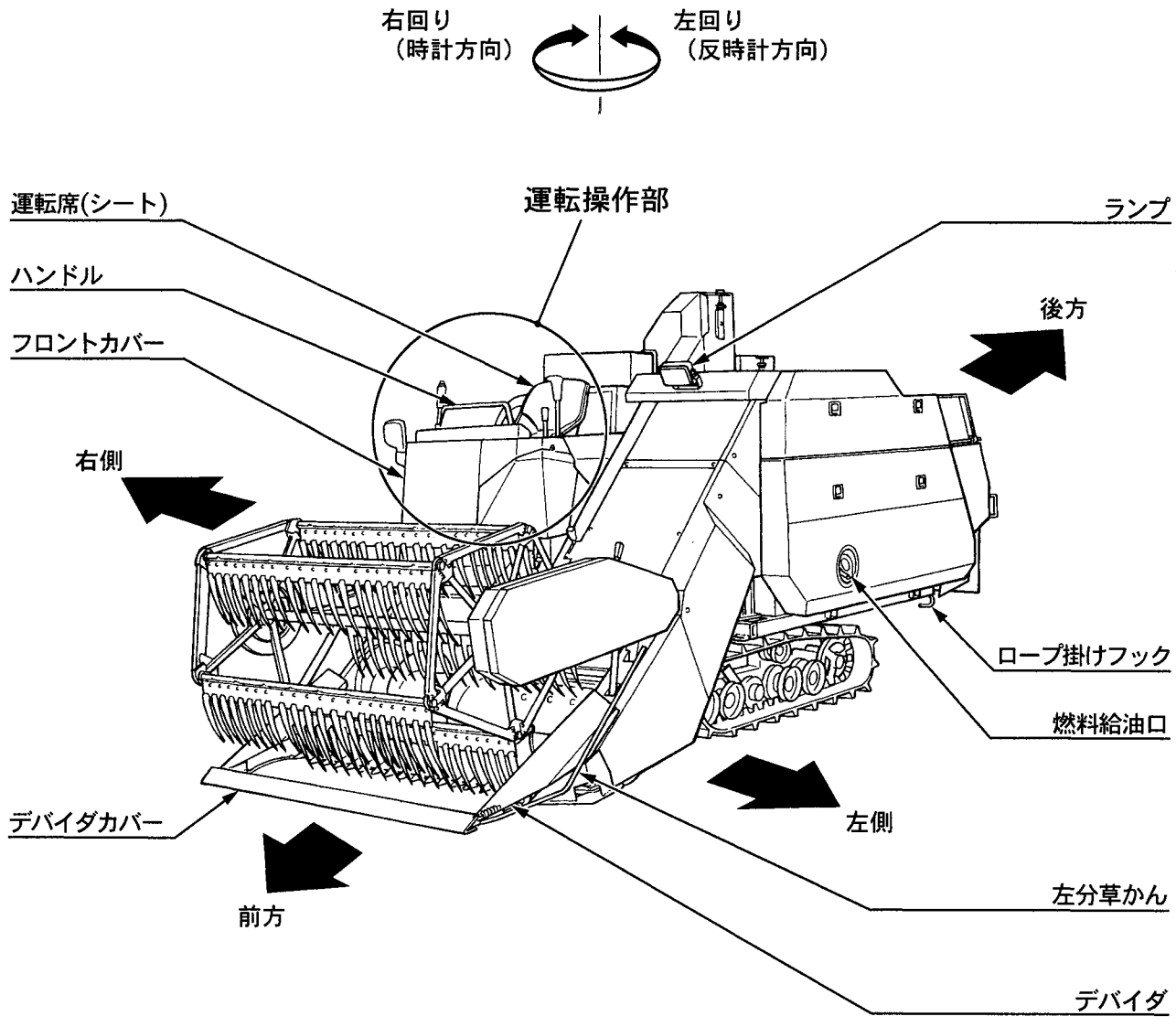




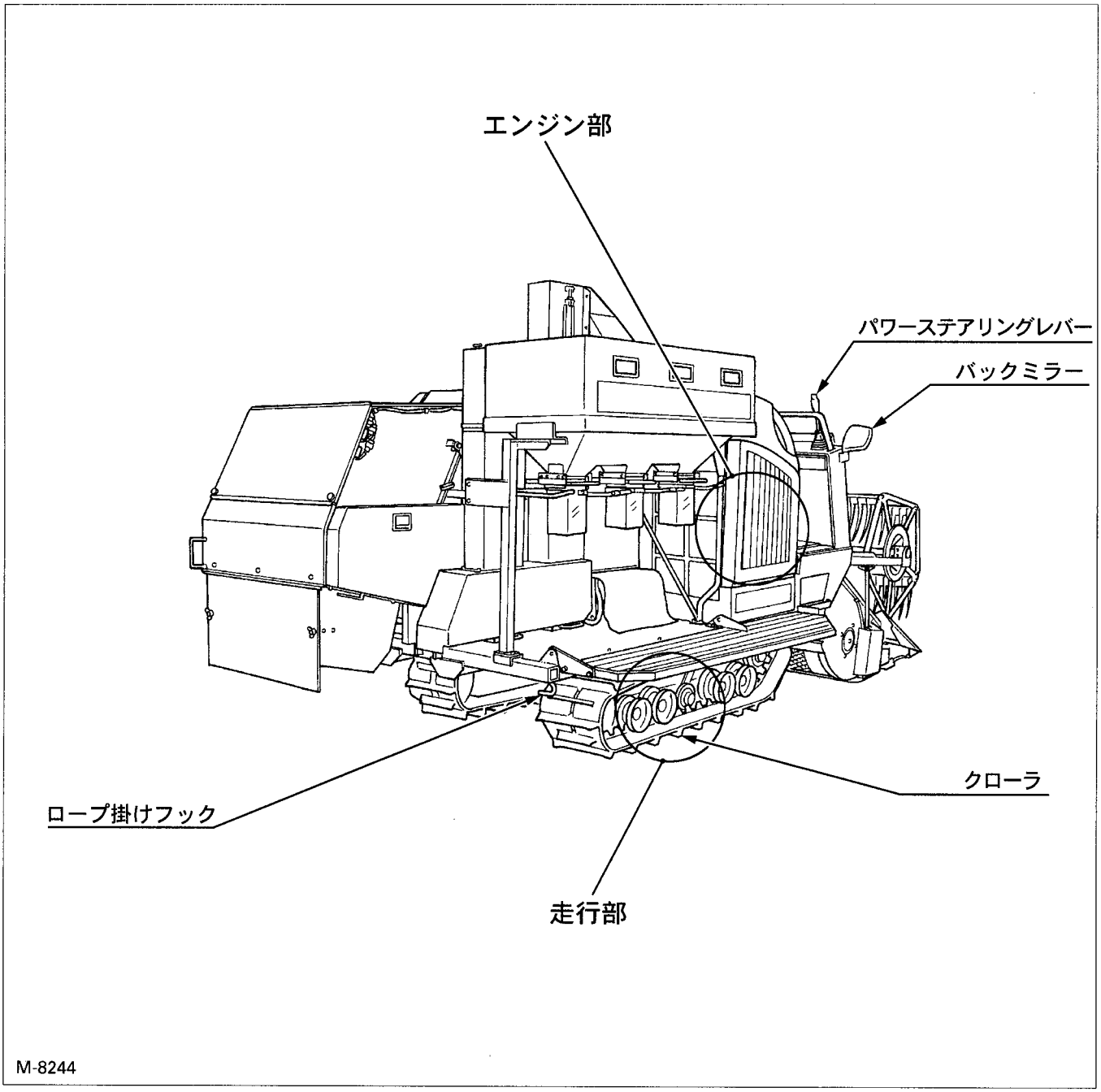
走行装置の名称と取扱い

機体方向説明と走行装置の名称

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

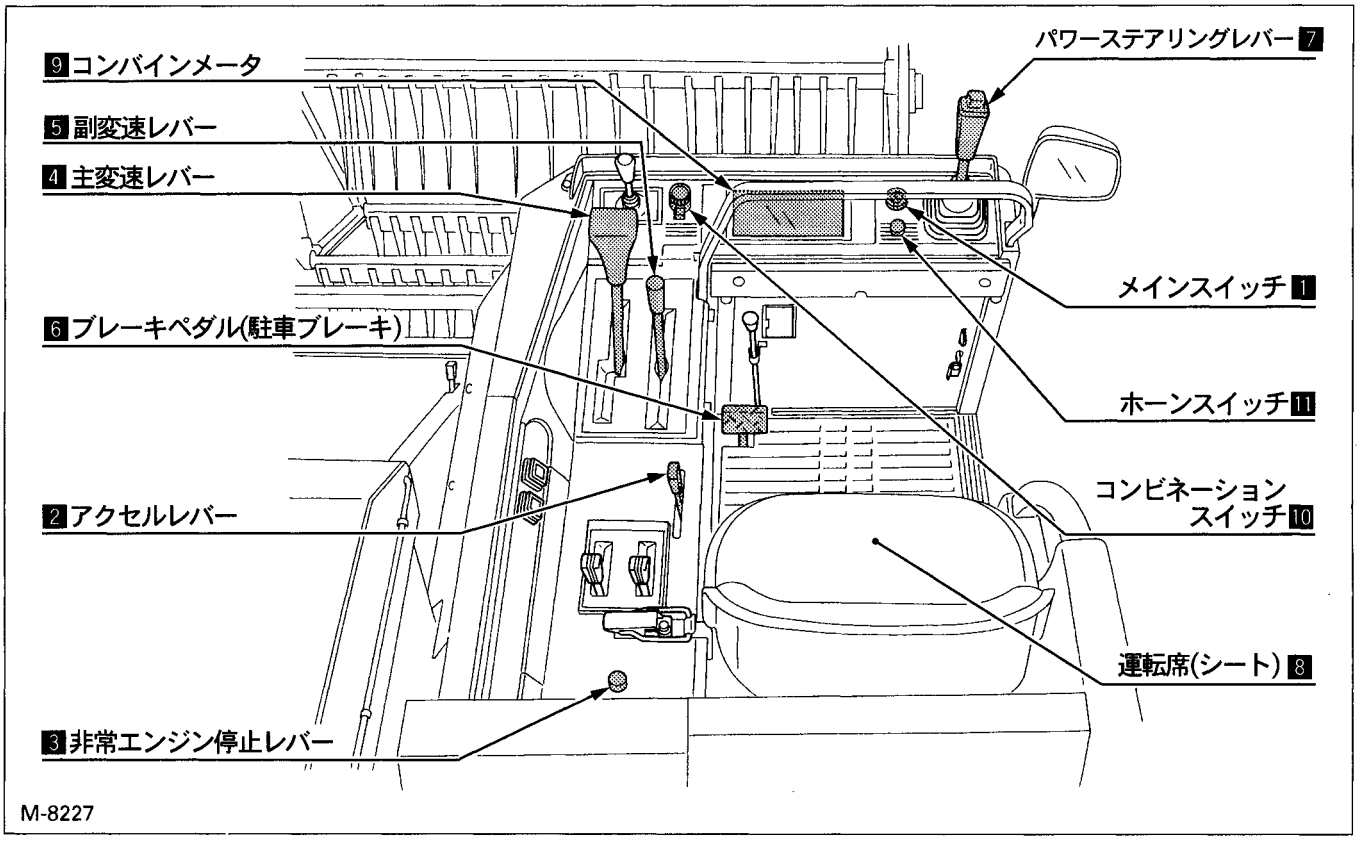


● **運転操作部**……エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ



- **エンジン部**……運転席下部にある動力装置
- **走行部**……クローラにより走行を行なうところ

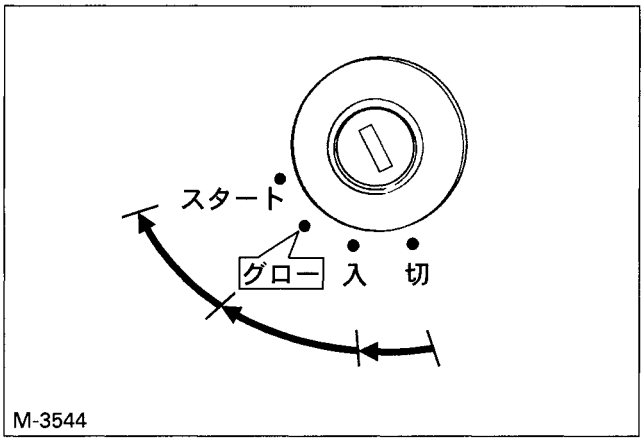
各部の名称とはたらき



◆エンジン操作関係

1 メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。



"切"……スイッチキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置。

"入"……電気(電装)装置がはたらく位置。

"グロー"……エンジンの燃焼室内が予熱される位置。(予熱)

"スタート"…セルモータが回転し，エンジンが始動する位置。(始動)

補　足

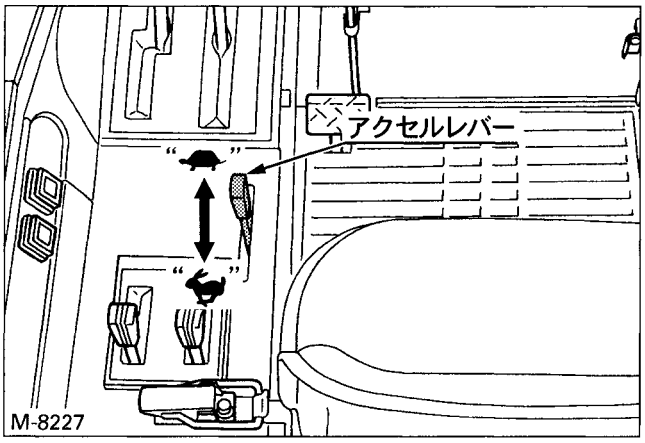
＊エンジン始動後，スイッチキーから手を離すとスイッチキーは，**"入"**位置に戻ります。

2 アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

"🐢"……エンジン回転数**低回転**の位置。

"🐇"……エンジン回転数**高回転**の位置。

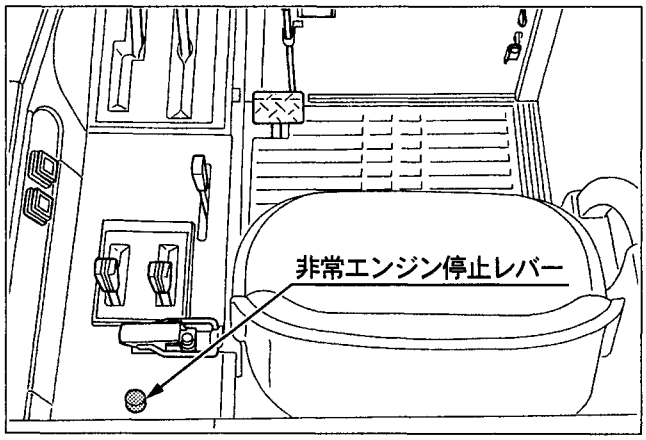


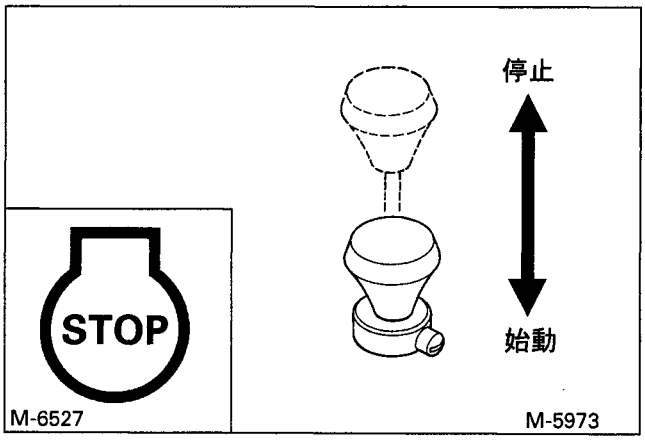
補　足

＊エンジン回転計は，**コンバインメータ**の項目を参照してください。

3非常エンジン停止レバー

スイッチキーを**"切"**位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンを停止させるレバーです。





補　足

＊レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆走行操作関係

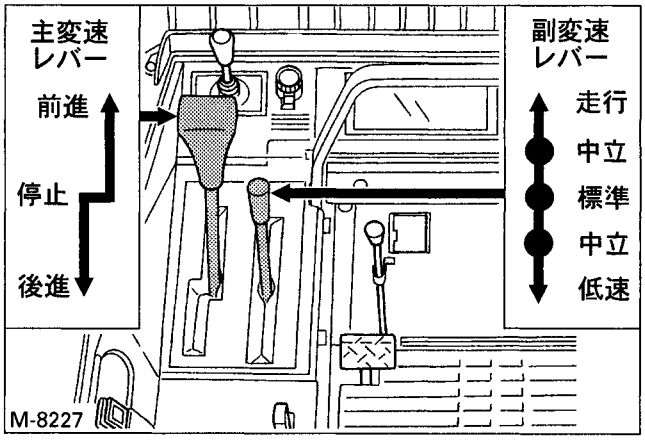
4主変速レバー

5副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。

主変速レバーで，機体の**前進・後進を無段階**で操作します。

副変速レバーは**"低速"・"標準"・"走行"**の3段階です。

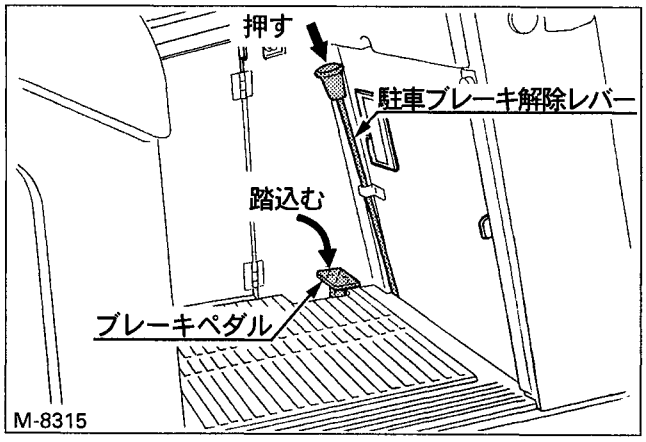


補　足

＊主変速レバーを**"後進"**位置にするとバックブザーが鳴ります。

6ブレーキペダル(駐車ブレーキ)

ブレーキペダルを踏込むとブレーキが掛かります。さらに踏込むと，ブレーキペダルが自動的にロックされ駐車ブレーキが掛かります。駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを踏込みながら駐車ブレーキ解除レバーを押してください。



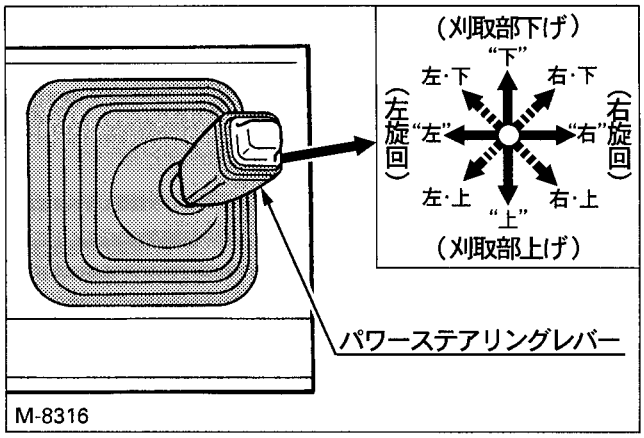
7 パワーステアリングレバー

機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

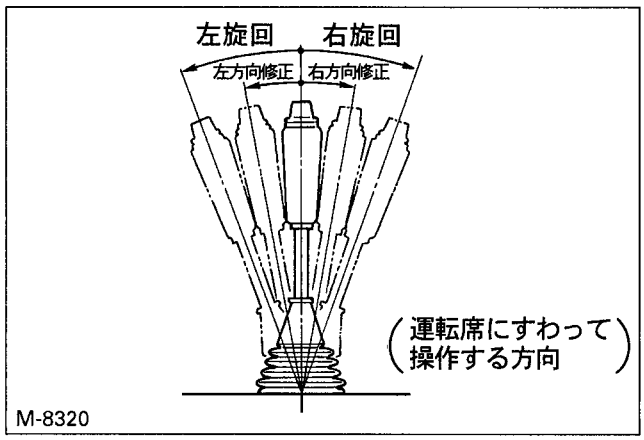
"左"⟷"右"……レバーを倒した方向に機体が曲がります。倒す角度に応じて機体の方向修正から旋回まで行なえます。

"下"
↕
"上"
……レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左·下　右·下
左·上　右·上
……レバーを倒した方向に機体が曲がると同時に，刈取部が上下に動きます。



M-8316



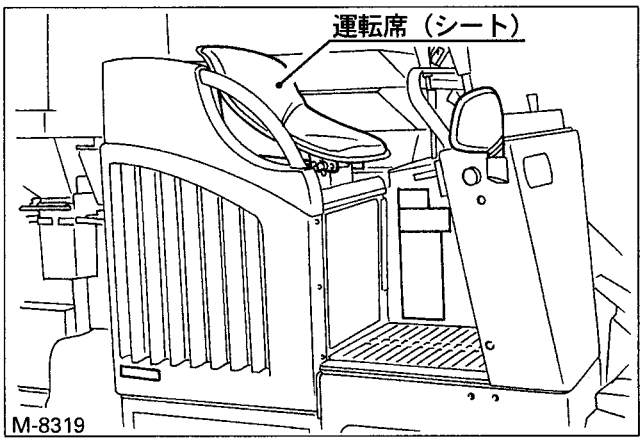
M-8320

補　足

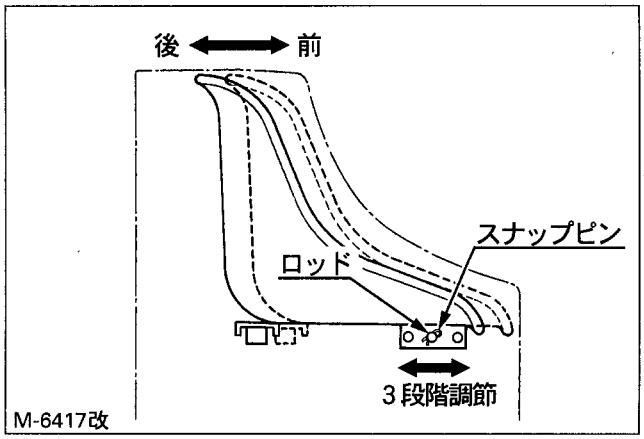
＊エンジン停止時にレバーを前方（**"下"**方向）に倒すと，刈取部が下降します。

8 運転席（シート）

運転席（シート）は，**前・後**に３段階調節できます。調節を行なうときは，スナップピンとロッドを取外してください。



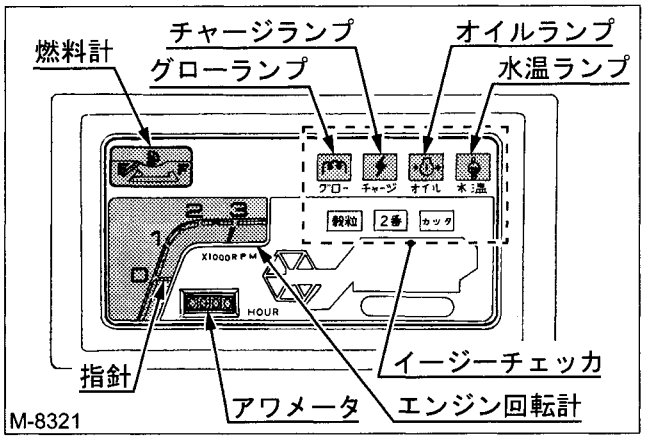
M-8319



M-6417改

◆電装関係

9コンバインメータ



◆各メータ

●エンジン回転計(単位：×1000rpm)

1分間のエンジン回転数を指針で表示します。

●燃料計

燃料の残量を**"F"**(満タン)⟷**"E"**(空)で表示します。

●アワメータ(単位：時間・分)

エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

補　足

＊5ケタ目(右端)は，数字を6倍して**"分"**単位の表示となります。

【例】 0 0 1 2 4 ……　12時間24分

◆各ランプ(イージーチェッカ)

●グロー(予熱)ランプ

寒冷時にエンジンをスタート(始動)するとき，スイッチキーを**"グロー"**位置にすると約4秒点灯します。

●チャージ(充電)ランプ

バッテリの電圧低下や電気系統の故障で，充電できなくなったときに点滅します。

●オイルランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下したとき点滅します。

●水温ランプ

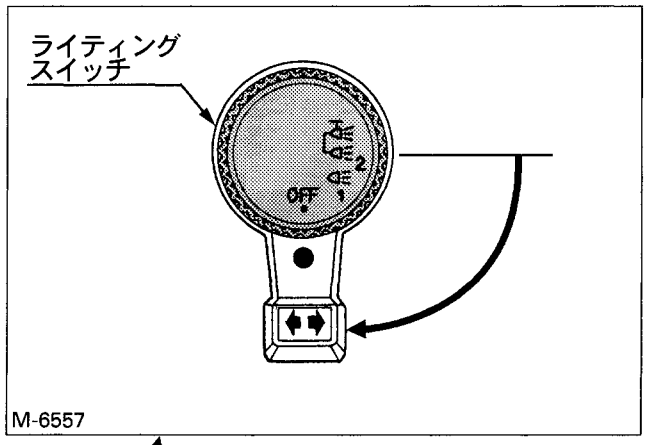
エンジン冷却水が，異常に高温になったとき点滅します。

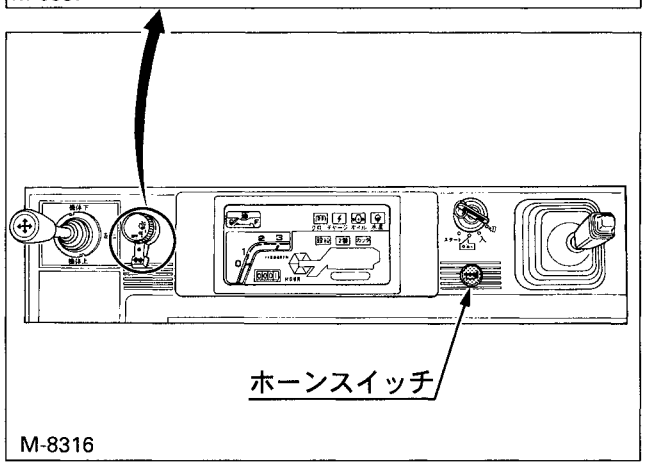
補　足

＊処置については，**コンバインメータによる異常と処置**の項を参照してください。

＊エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**"入"**位置にすると，イージーチェッカの全てのランプが点灯し，約2秒後にグローランプと水温ランプが消灯し，エンジン始動後にオイルランプとチャージランプが消灯します。

10コンビネーションスイッチ
11ホーンスイッチ





●ライティングスイッチ

スイッチを操作するとランプが点灯します。

"○"
"◐" } …消灯位置。

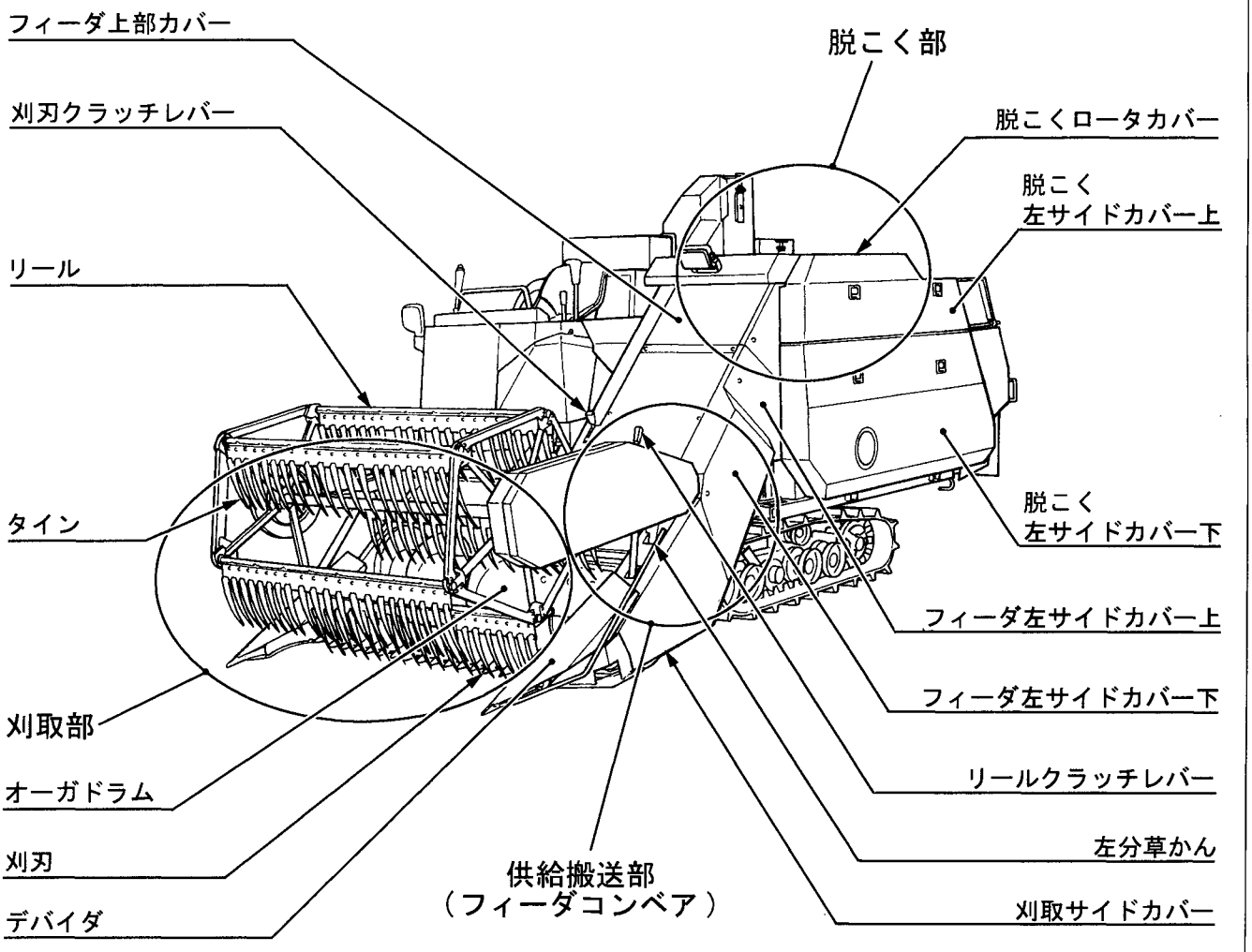
"◉"……ランプ点灯位置。

●ホーンスイッチ

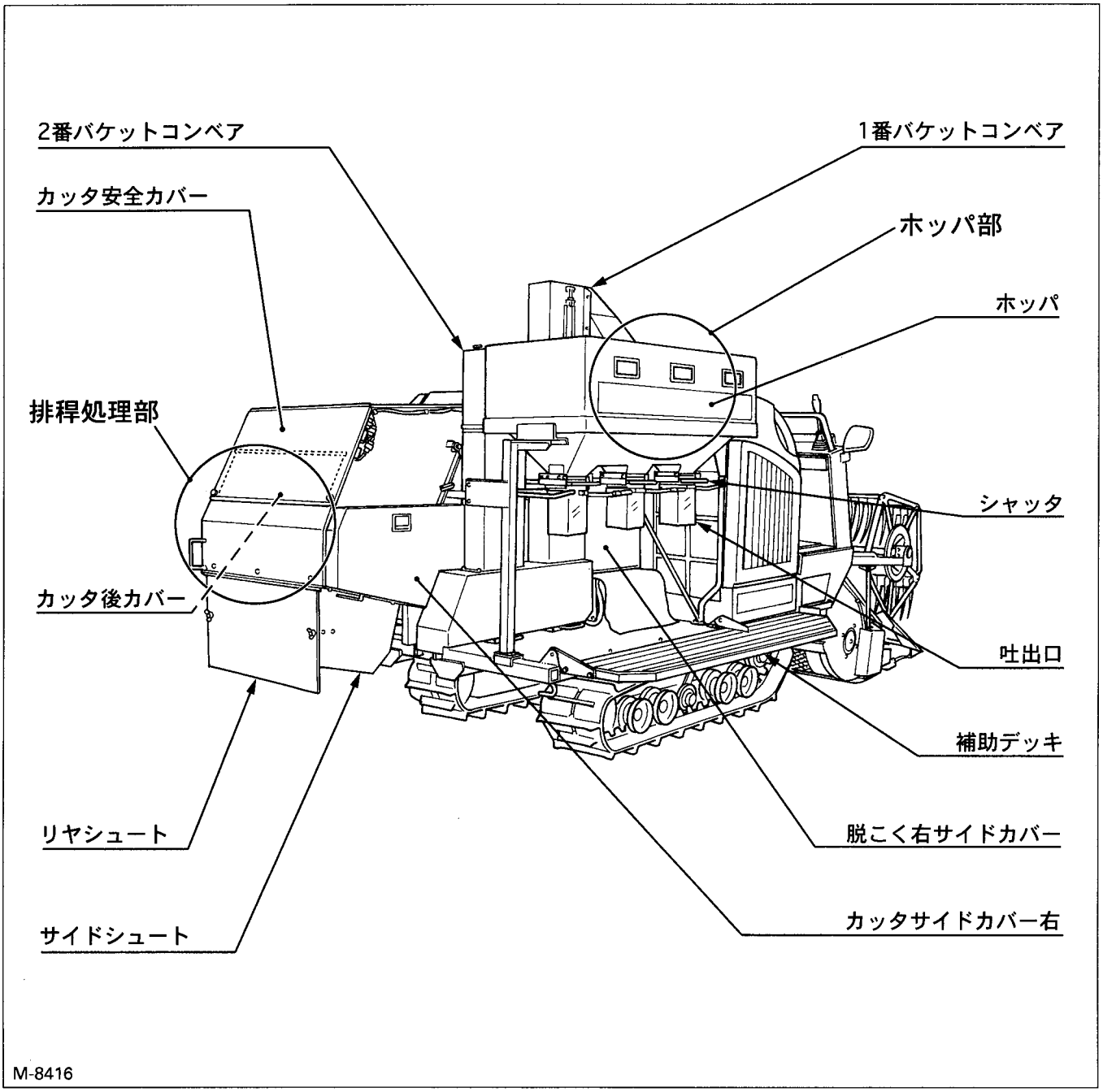
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

作業装置の名称と取扱い

作業装置の名称

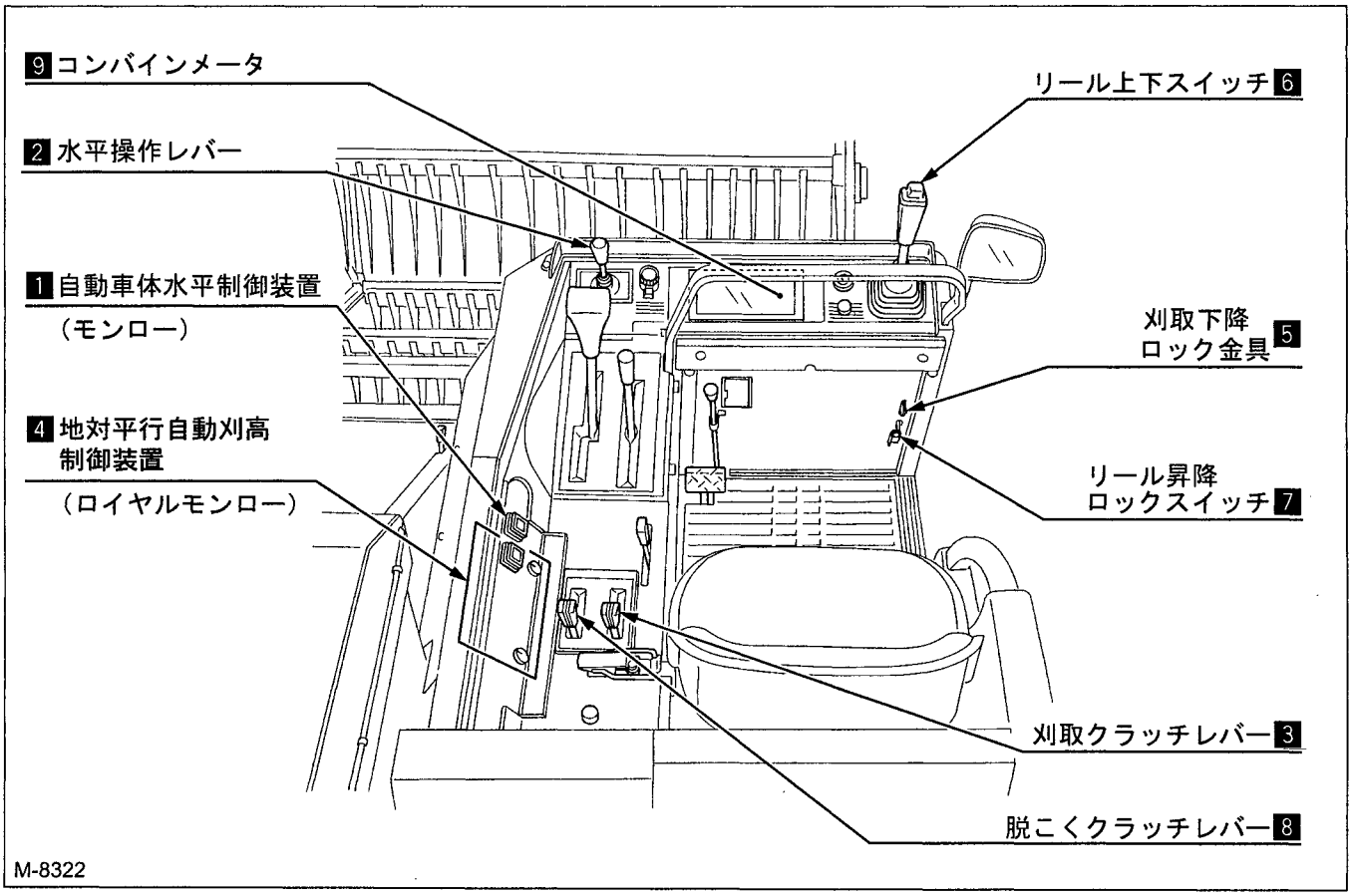


- **刈取部**……作物の刈取りと引起しを行なうところ
- **供給搬送部**……作物を脱こく部へ搬送するところ
  （フィーダコンベア）
- **脱こく部**……作物の脱こくを行なうところ



- **排稈処理部**……稈(茎)の切断など排稈の処理を行なうところ
- **ホッパ部**……脱こくで精選されたこく粒を一時貯蔵したあと袋詰めを行なうところ

各部の名称とはたらき


9 コンバインメータ
2 水平操作レバー
1 自動車体水平制御装置
（モンロー）
4 地対平行自動刈高
制御装置
（ロイヤルモンロー）
リール上下スイッチ 6
刈取下降
ロック金具 5
リール昇降
ロックスイッチ 7
刈取クラッチレバー 3
脱こくクラッチレバー 8
M-8322

◆走行操作関係

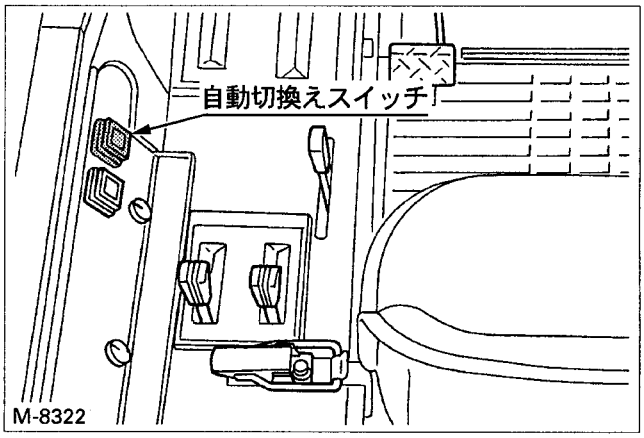
1自動車体水平制御装置(モンロー)

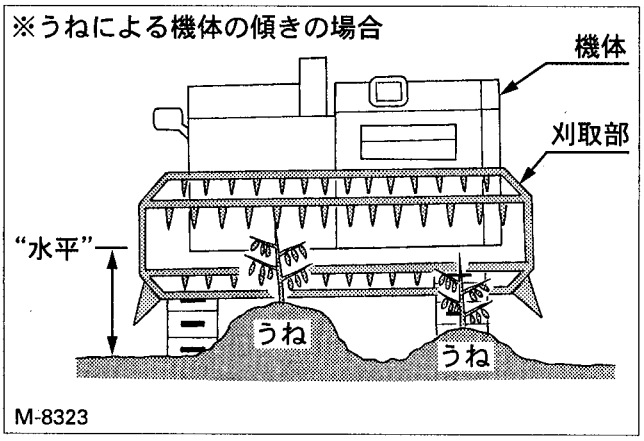
自動車体水平制御装置は，機体が左・右に傾くと，自動的に機体や刈取部を水平状態に修正・保持する装置です。

● **自動切換えスイッチ**

自動入り……ランプが点灯又は点滅し，自動制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動制御が解除されます。





補　足

＊自動切換えスイッチが**自動入り**のとき，下記状態によりランプは点灯又は点滅します。

・メインスイッチ**"入"**……ランプ**点滅**

・エンジン始動……ランプ**点滅**

・脱こくクラッチレバー**"入"**……ランプ**点灯**

＊脱こくクラッチレバーを**"切"**位置又は，自動切換えスイッチを**自動切り**にすると，機体は**最下降位置**まで下がります。

＊対地平行自動刈高制御自動切換えスイッチが**自動入り**のとき

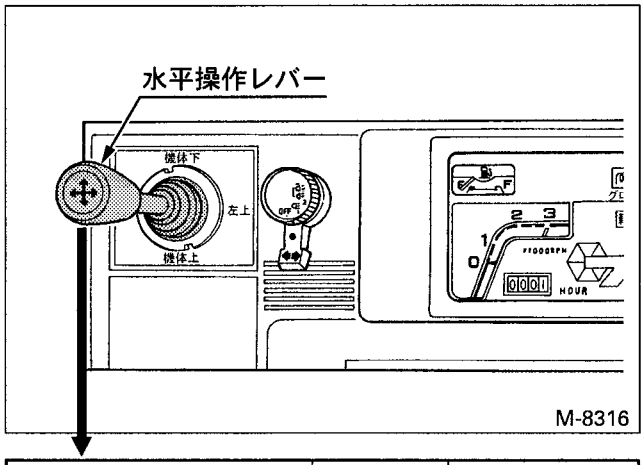
ソリセンサ**入**(接触)……ランプ**点滅**

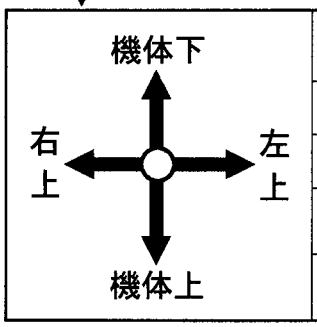
ソリセンサ**切**(非接触)……ランプ**点灯**

(**対地平行自動刈高制御装置**の項参照)

2水平操作レバー

車体の**上昇⟷下降**を行なう手動操作レバーです。





レバーの操作方向	機体の動き
機体上	上昇
機体下	下降
右上	右上がり又は，左下がり
左上	左上がり又は，右下がり

補　足

＊機体の動く方向は，運転席に座って見たときです。

＊自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作レバーによる操作が優先されます。

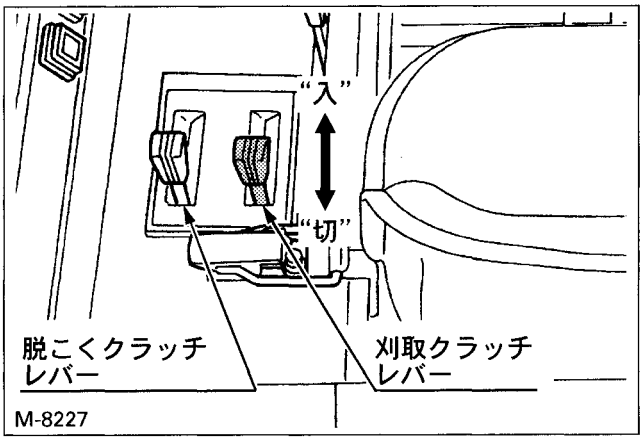
◆刈取関係

3刈取クラッチレバー

刈取部を作動させるレバーです。

"入"……刈取部が作動します。

"切"……刈取部が停止します。



M-8227

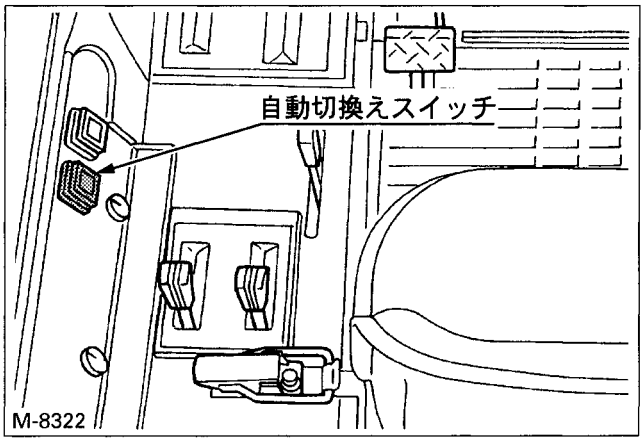
4対地平行自動刈高制御装置（ロイヤルモンロー）

対地平行自動刈高制御装置は，うねの高さが異なるところで刈取作業を行なったとき，刈取部を自動的に異なるうねの高さに対して平行状態に修正・保持する装置です。

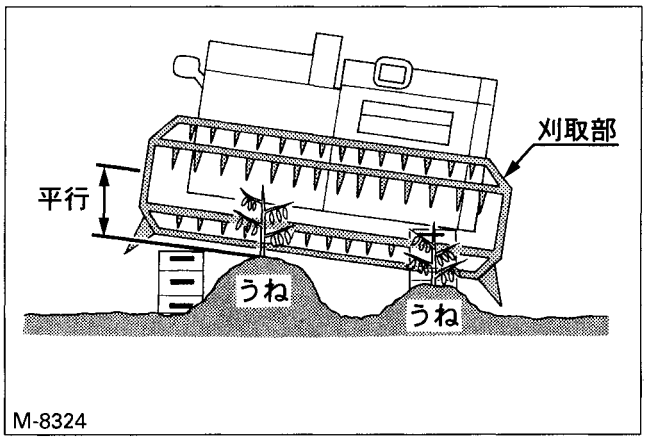
●自動切換えスイッチ

自動入り……ランプが点灯又は点滅し，自動制御が作動します。

自動切り……ランプが消灯し，自動制御が解除されます。



M-8322



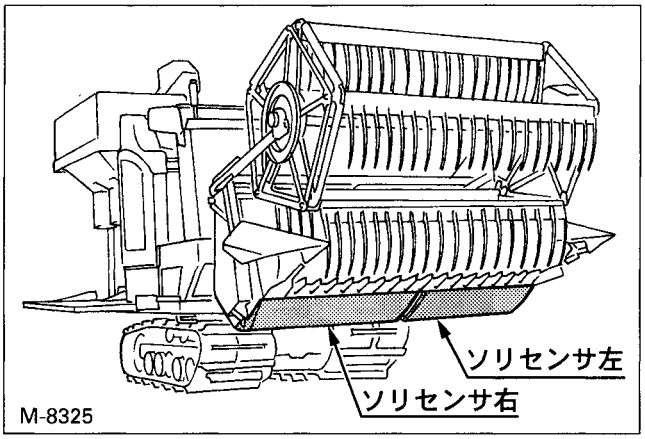
M-8324

補　足

＊自動刈高制御は，自動車体水平制御が作動しないとはたらきません。

＊自動刈高制御がはたらいているときでも，パワーステアリングレバーによる操作が優先されます。

＊刈取部下面のソリセンサ左，右がうねや地面に接触すると対地平行自動刈高制御がはたらき，離れると（非接触）自動車体水平制御がはたらきます。



M-8325

＊自動切換えスイッチが**自動入り**のとき，下記状態によりランプは点灯又は，点滅します。

・メインスイッチ**"入"**……ランプ**点滅**

・エンジン始動……ランプ**点滅**

・脱こくクラッチレバー**"入"**……ランプ**点灯**

・自動車体水平制御自動切換えスイッチが**自動入り**のとき

　ソリセンサ**入**（接触）……ランプ**点灯**

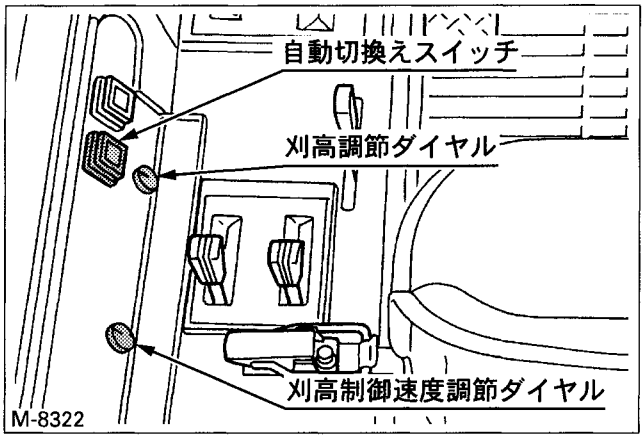
　ソリセンサ**切**（非接触）……ランプ**点滅**

●刈高調節ダイヤル

刈取部の高さ調節を行なうダイヤルです。

●刈高制御速度調節ダイヤル

うねや地面に刈取部が接触したときや離れたときに，適正な刈高さ(約４～６cm)に制御するとき(刈取部の上下の動き)の速度を調節するダイヤルです。



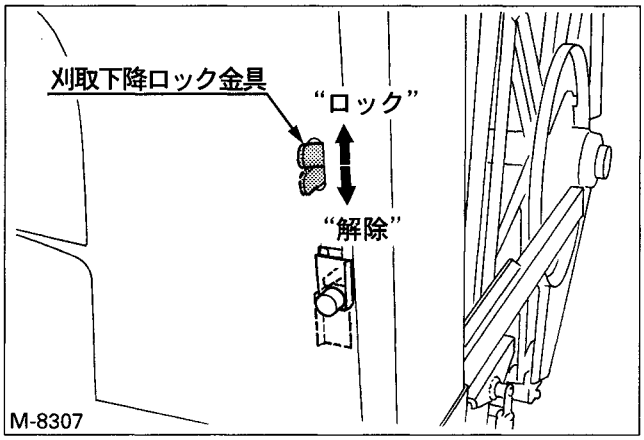
補　足

＊対地平行自動刈高制御の自動切換えスイッチが**自動切り**のときは，はたらきません。

＊調節のしかたについては，**作業に合わせた各部の調節・調整のしかた**の項を参照してください。

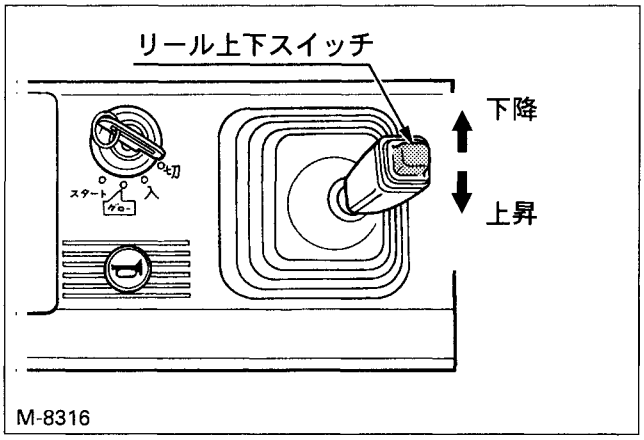
5 刈取下降ロック金具

刈取部の下降防止を行なうロック金具です。ロック金具を上げる(**“ロック”**位置)とパワーステアリングレバーを操作しても刈取部は下降しません。ロック金具を操作するときは，刈取部を上昇させて行なってください。解除するときは，ロック金具を下げて(**“解除”**位置)ください。



6 リール上下スイッチ

刈取部リールの昇降(上下)の操作を行なうスイッチです。

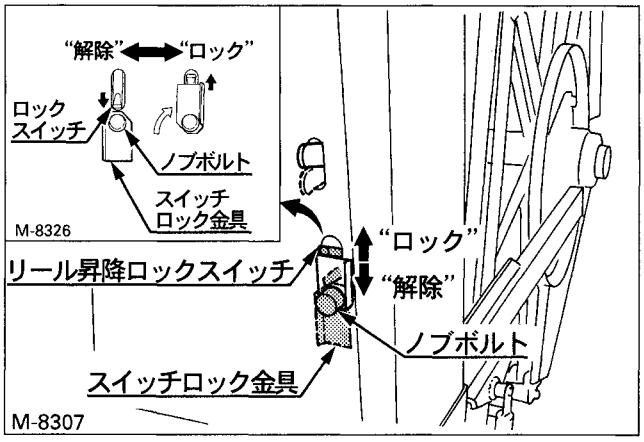


重　要

＊エンジン停止中でもメインスイッチ**“入”**の位置で操作できますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上がり**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

7 リール昇降ロックスイッチ

リールの下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを上げる(**“ロック”**位置)とリール上下スイッチを操作してもリールは下降しません。ロックスイッチを操作するときは，リールを上昇させて行なってください。解除するときは，ロックスイッチを下げて(**“解除”**位置)ください。



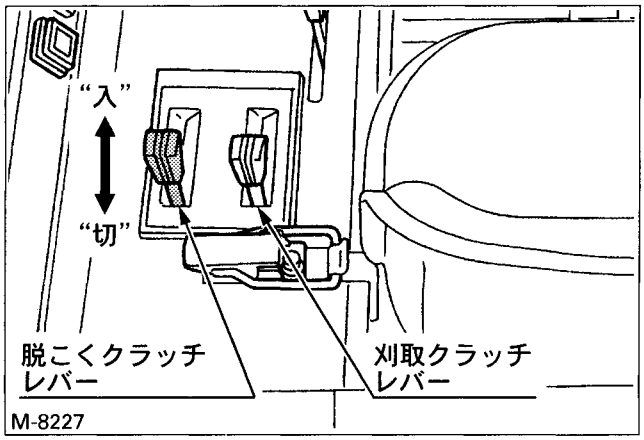
補　足

＊ロックスイッチを上げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチの下降防止を行なってください。スイッチロック金具はノブボルトをゆるめて動かしてください。

◆脱こく関係

8 脱こくクラッチレバー

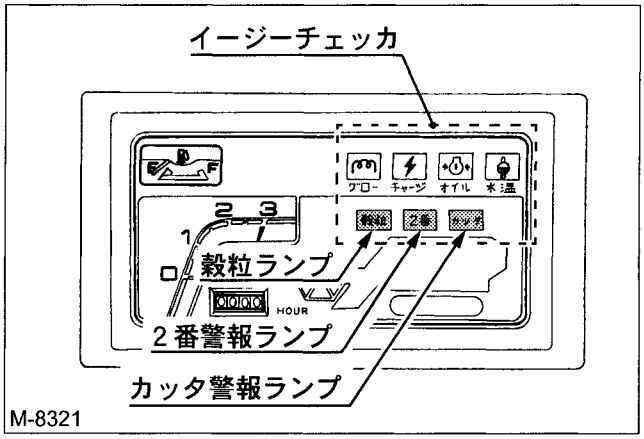
脱こく部を作動させるレバーです。
“入”……脱こく部が作動します。
“切”……脱こく部が停止します。



補　足

＊脱こくクラッチレバーを**“切”位置**にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き，刈取部が停止します。

9 コンバインメータ



◆各ランプ(イージーチェッカ)

● **穀(こく)粒ランプ**

ホッパが満杯になったとき，ランプが点滅しブザーが鳴ります。

● **2番警報ランプ**

2番詰まりが発生すると，エンジンが自動停止(**自動エンジン停止装置**)すると同時に，点滅してブザーが鳴ります。

● **カッタ警報ランプ**

カッタ後カバー・安全カバーを開くとセンサがはたらいて，エンジンが自動停止(**自動エンジン停止装置**)すると同時に，点滅してブザーが鳴ります。

補　足

＊エンジンが停止しているとき，スイッチキーを**“入”**位置にすると，イージーチェッカの全てのランプが点灯し，約2秒後に消灯します。

＊処置については，**コンバインメータによる異常と処置**の項を参照してください。

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は，**メンテナンス**の項を参照。)

警 告

＊必ずエンジンを停止してから行なってください。
＊バッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。

重 要

各部への給油と交換
＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を必ず使用してください。
＊燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆コンバインの回りを歩いて

(1)ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
(2)車体各部の変形や損傷がないか点検します。
(3)油もれや水もれなどないか点検します。
(4)機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

日常点検項目

〈ここを〉		〈点検し異常があれば〉	〈こうする（処置）〉	参照ページ
機体の周りを歩いて	機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はなか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル(⚠表示ラベル)の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充や増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに張換える。	— — 61 48 ⚠-13
	刈刃，カッタ刃	●刃の損傷はないか。	●交換する。	81, 82
	クローラ	●たるみや損傷はないか。	●調整又は，交換する。	86
	防じんあみ	●詰まりはないか。	●掃除する。	62
エンジンルームを開けて	エンジンオイル	●油量は規定量(オイルゲージの**上限線と下限線の間**)あるか。	●規定量まで補給する。 …クボタ純オイルD30又は，D10W30	57, 58
	ラジエータ 冷却水	●リザーブタンクの水量は規定量(タンクの**FULL線とLOW線の間**)あるか。	●清水を規定量まで補給する。	61
	ラジエータ フィン オイルクーラ	●詰まりはないか。	●掃除する。	62
	エアクリーナ	●エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	●掃除又は，エレメントを交換する。	60
	ファン駆動ベルト	●たるみはないか。 ●損傷はないか。	●調整する。 ●交換する。	67
	ホース，パイプ	●油もれや水もれはないか。	●取付部の締付け又は，交換する。	61
	配線コード	●コネクタの外れはないか。 ●被覆の損傷はないか。	●接続する。 ●交換する。	82, 85
メインスイッチを入れて	各ランプ	●各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	●球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。 ●バッテリの充電又は，交換する。	85 82
	コンバインメータ イージーチェッカ 燃料計	●作業に必要な燃料はあるか。	●ディーゼル軽油を補給する。	57
	ホーン	●スイッチを押すと鳴るか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	85
	バックブザー	●主変速レバーを**“後進”**位置にするとブザーが鳴るか。		
エンジンを始動して	コンバインメータ イージーチェッカ 各ランプ	●ランプは消灯するか。	●ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，接続をする。	82, 85
	コンバインメータ イージーチェッカ オイルランプ		●エンジンオイルを規定量まで補給する。	57, 58
	コンバインメータ イージーチェッカ チャージランプ		●購入先に連絡してください。	
	コンバインメータ エンジン回転計	●回転計の作動に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	エンジン マフラ	●異音はしないか。 ●排気ガスの色に異常はないか。	●購入先に連絡してください。	—
	各レバー	●各レバーの作動に異常はないか。	●調整する。	—
	駐車ブレーキ	●機体は停止するか。また，遊び量は適正か。	●調整する。	64

重要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡してください。

移動走行と輸送

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊高速での刈取作業は避けてください。
＊整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。
以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

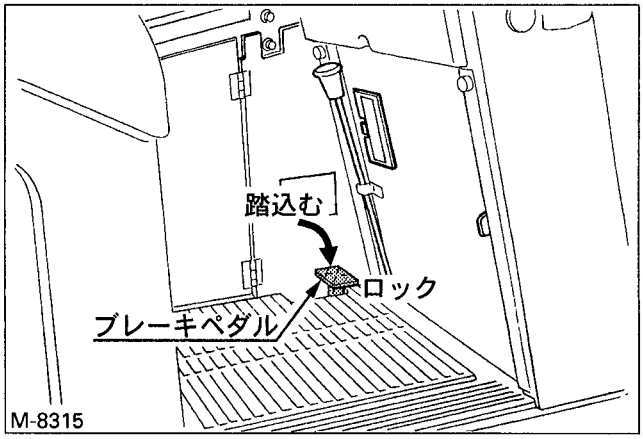
エンジンの始動と停止のしかた

注　意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業をするために”の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

■始動のしかた

1. 駐車ブレーキを掛けます。
ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。



2. 各レバー位置の確認をします。

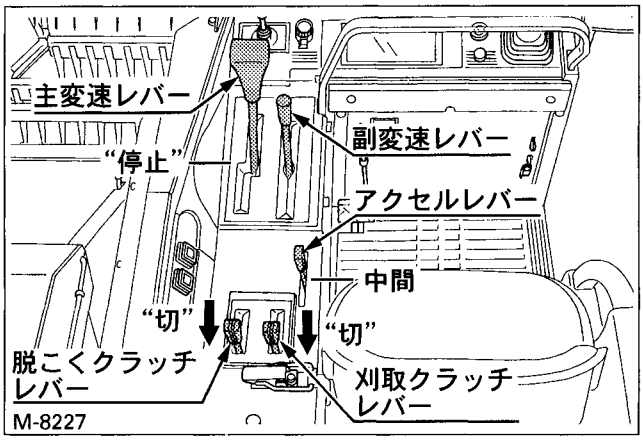
❶主変速レバーを**"停止"**位置にします。

❷各作業クラッチ(刈取，脱こく)レバーを**"切"**位置にします。

補　足

＊主変速レバーが**"停止"**位置又は，刈取・脱こくクラッチレバーが**"切"**位置にしないと，エンジンは掛かりません。

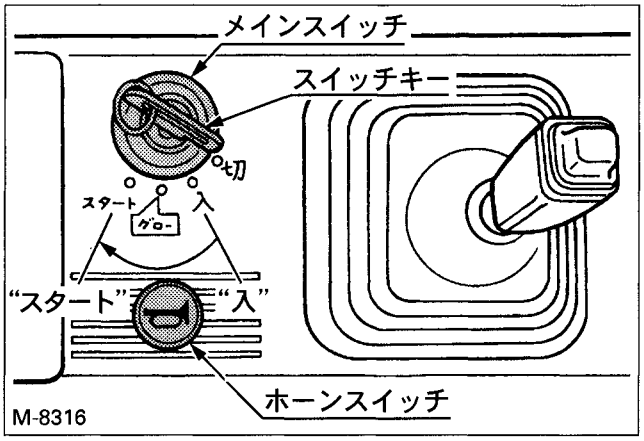
❸アクセルレバーを中間位置まで引きます。



3.　エンジンを始動します。

❶メインスイッチにスイッチキーを差込み**"入"**の位置にしたあと，ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

❷スイッチキーを**"始動"**の位置に回してエンジンを始動します。始動後は，スイッチキーから手を離してください。



重　要

＊スイッチキーを**"始動"**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんキーを**"切"**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。

＊エンジン回転中に，スイッチキーを**"始動"**位置に回すと故障の原因になります。

＊エンジン始動後，オイルランプ，チャージランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

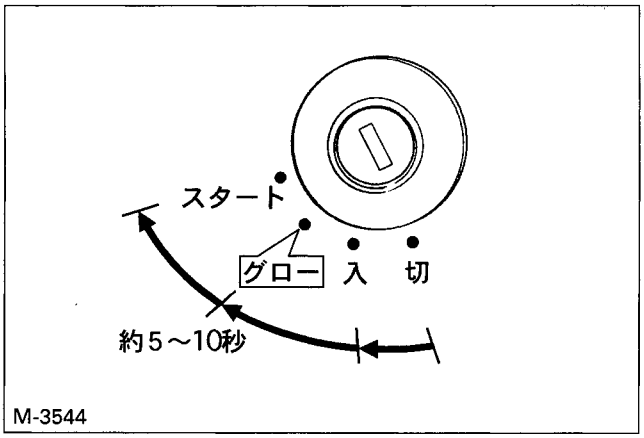
❸エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重　要

＊オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

◆寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスイッチキーを**"グロー"**(予熱)位置で約５～10秒間予熱し，イージーチェッカのグローランプが消灯したあと**"スタート"**位置に回してください。



重　要

＊寒冷時は暖機運転を怠たるとパワーステアリングレバー操作ができなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気　温	暖機運転時間
0℃～－10℃	約10分
－10℃～－15℃	10～15分
－15℃～－20℃	15～20分
－20℃以下	20分以上

補　足

＊スイッチキーを**"グロー"**位置にすると，グローランプは約４秒間点灯したあと消灯します。

◆燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は，

❶各クラッチレバー及びスイッチキーを**"切"**位置にします。

❷燃料タンクに燃料を補給します。

❸**始動のしかた**の**1～3**を確認後，エンジンを始動します。

補　足

＊スイッチキーを**"入"**位置にすると約5～10秒で自動的にエア抜きされます。

■停止のしかた

❶刈取クラッチレバー・脱こくクラッチレバーを**"切"**位置にします。

❷アクセルレバーを**"🐢"(低回転)**位置にします。

❸スイッチキーを**"切"**位置にしてエンジンを停止します。

重　要

＊エンジン停止中でスイッチキーが**"入"**位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

＊スイッチキーを**"切"**位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，ヒューズや配線を点検し，異常がなければ，購入先へ連絡してください。また非常エンジン停止レバーは**非常時以外**は使用しないでください。(**各部の名称とはたらきの非常エンジン停止レバー**の項参照)

移動走行について

注　意

＊ホッパ内に残っているこく粒は全て排出してください。

＊安全のためヘルメットを着用してください。

＊運転者以外の人は乗せないでください。

＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。

＊刈取部を上げてリールを下げ，刈取下降ロック金具で刈取部をロックして下降防止を行なってください。

＊自動車体水平制御(モンロー)は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。

＊あぜごえや傾斜地(坂道やあゆみ板を使うとき)での走行は，転倒しケガをするおそれがあるので下記事項を守ってください。

- 副変速レバーを"低速"位置にし，エンジン回転を下げて低速で走行してください。
- 上り方向は前進，下り方向は後進であぜや斜面に対して直角に走行してください。
- 走行途中にパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルの操作は行なわないでください。
- 走行途中に停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。
- 前後左右とも10度をこえるときは，機械から降りて操作してください。

＊下記のようなところを走行するときは，転倒しケガをするおそれがあるので注意してください。

- 両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩
- 道幅に余裕がなく高いところにある道路(土手)
- 路肩の弱い道路
- 路面の凹凸(溝や穴・窪地など)の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ

＊公道の走行はできないため，必ずトラックで輸送してください。

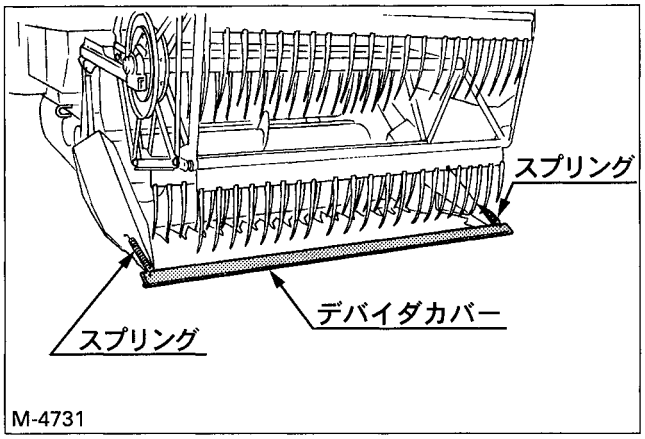
■走行前の準備

注 意

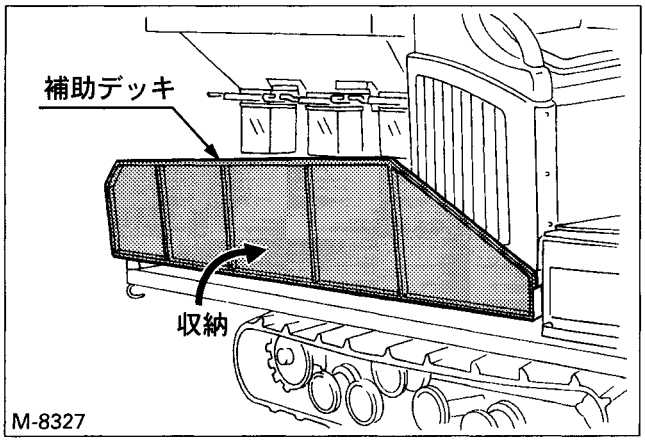
＊準備が終われば，カバー類などが確実に取付けられているか確認してください。

❶ホッパ内に残っているこく粒は，すべて排出します。（**こく粒の排出のしかた**の項参照）

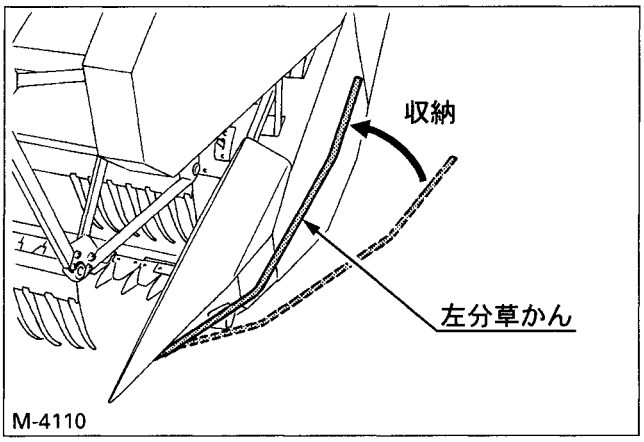
❷デバイダに左，右のスプリングで引掛けて，デバイダカバーを取付けます。



❸補助デッキを**収納**します。



❹分草かんを**収納**します。



❺運転席に座り刈取クラッチレバー，脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にします。

■発進のしかた

注 意

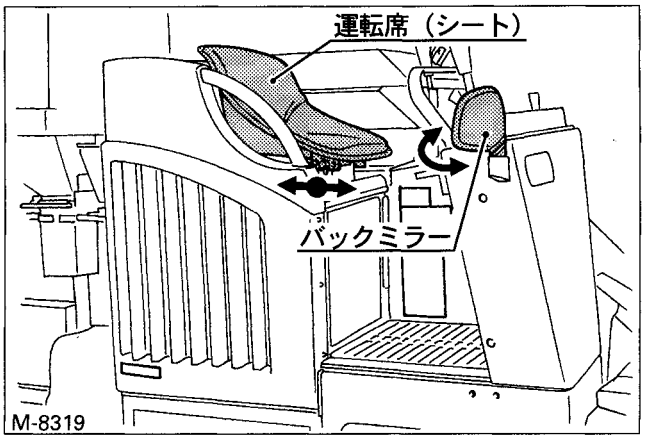
＊発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。

＊急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

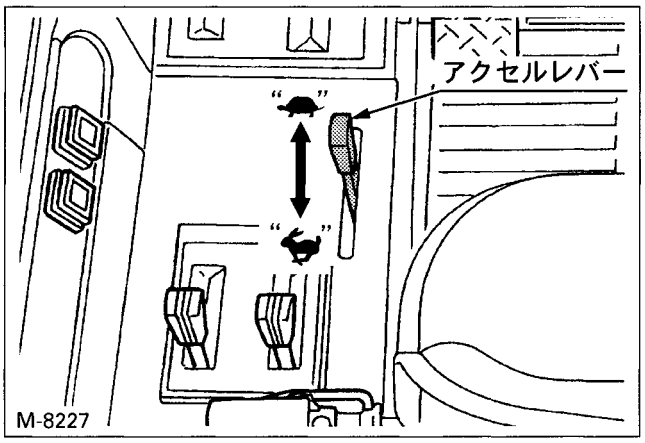
❶運転席前・後の調整を行ないます。（**走行装置の名称**の**運転席（シート）**の項参照）

❷後方の状況が分かるようにバックミラーを調整します。



2. アクセルレバーを操作します。

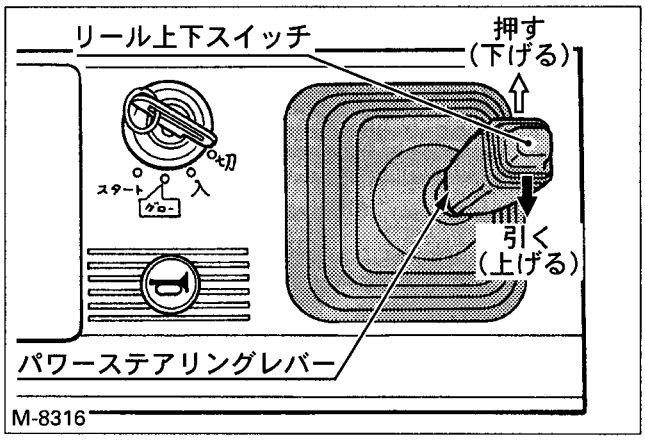
エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転を調整します。

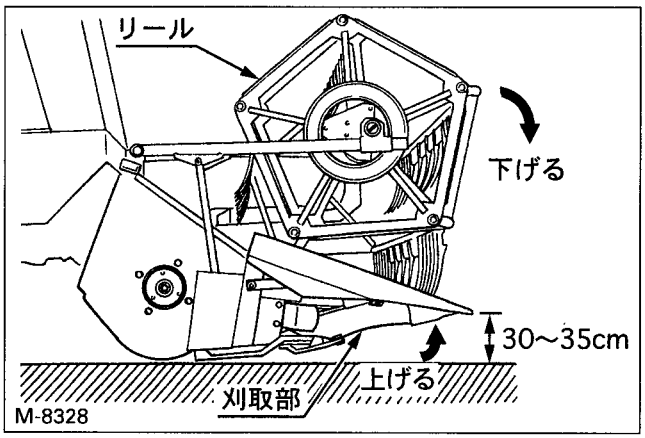


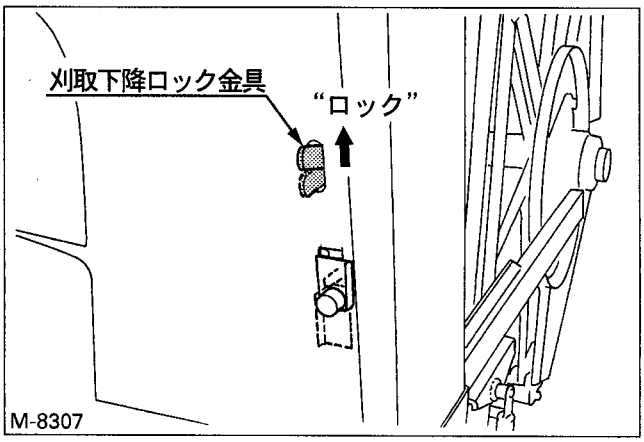
3. 刈取部を上げます。

❶パワーステアリングレバーを引いて，デバイダの先端が地面から30～35cmのところまで刈取部を上げたあと，リール上下スイッチを押してリールを**最下降位置**まで下げます。

❷刈取下降ロック金具で刈取部をロックします。





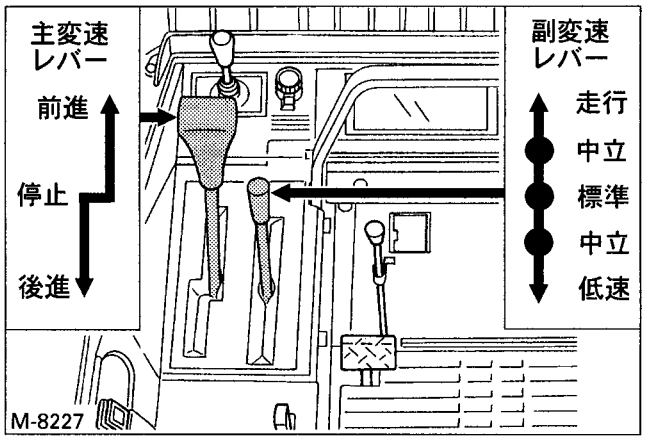


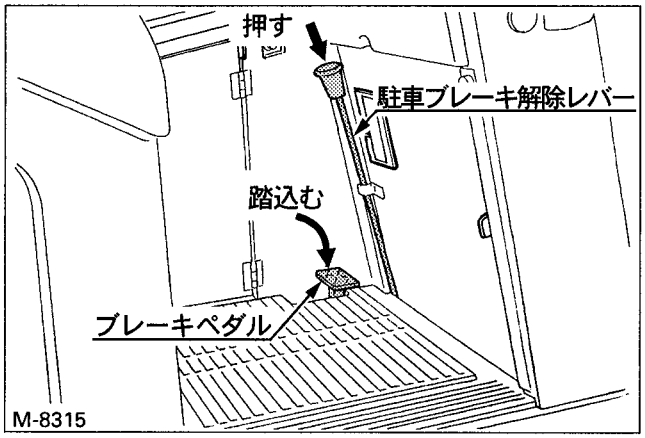
4. 走行速度を選んで発進します。

❶副変速レバーで速度を選びます。

❷ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキ解除レバーを押し，駐車ブレーキを解除します。

❸主変速レバーを**"停止"**位置より前に押すと前進し，後に引くと後進します。





重　要

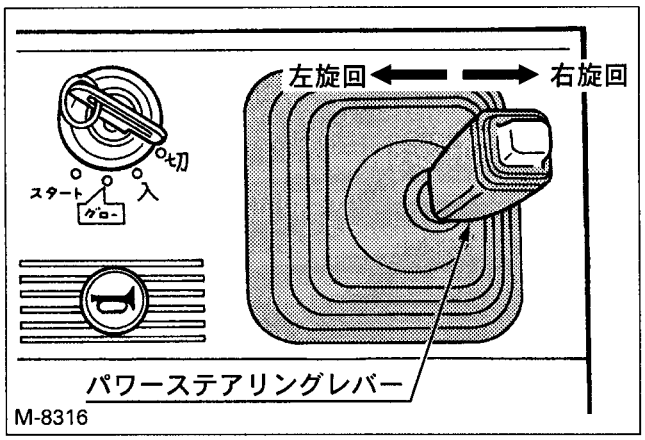
＊副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを**"停止"**位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

■旋回のしかた

注 意

＊高速走行時，パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

旋回する方向にパワーステアリングレバーを倒します。倒す角度に応じて旋回力が変わります。また，いっぱいまで倒すと急旋回します。



重 要

＊砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注 意

＊コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを止めてください。
＊ブレーキペダルは走行中に使用しないでください。
＊坂道で走行を停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。
＊坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

❶主変速レバーを**“停止”**位置にします。
❷駐車ブレーキを掛けます。
❸アクセルレバーを**“🐢”(低回転)**位置にします。
❹副変速レバーを**“低速”**位置にします。
❺エンジンを停止してスイッチキーを抜きます。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注 意

＊積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
＊あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅(55cm以上)，長さ(高さの4倍以上)のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	55cm以上
数 量	2枚
強 度	1枚が1500kg以上の重量に耐えうる

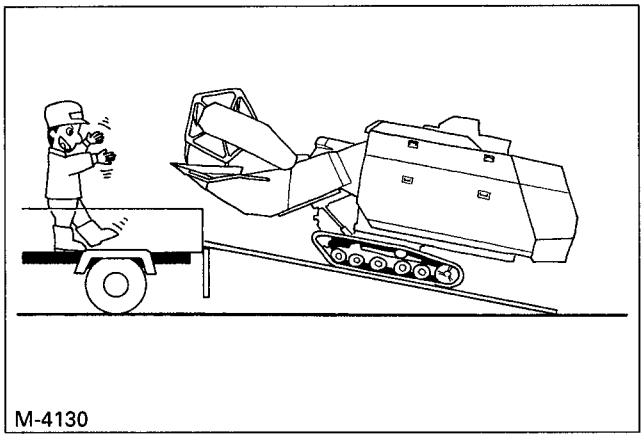
■コンバインの準備

こく粒をすべて排出し，補助デッキや左分草かんをそれぞれ収納したあと，デバイダカバーを取付けます。
(**移動走行についての走行前の準備**の項参照)

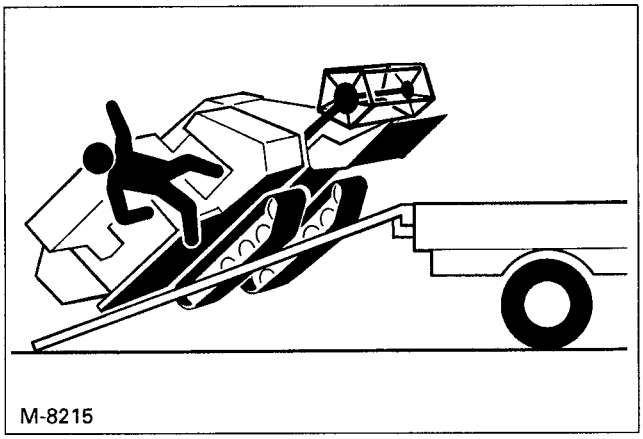
■コンバインの積込み・積降しのしかた

注　意

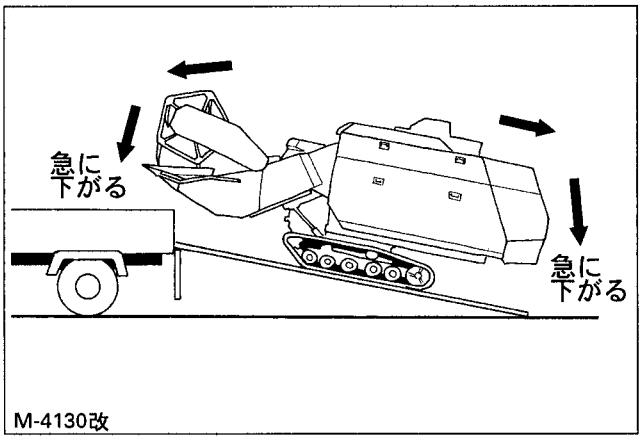
＊積込み・積降し作業を行なうときは，機体に乗り積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。
＊脱こくクラッチレバーを“切”位置又は，対地平行自動刈高制御を“手動”位置にしてください。主変速レバーが“後進”位置に入っていると刈取部が上昇し，人が近くにいるときケガをするおそれがあります。
＊共同作業者は，あゆみ板を走行中のコンバインから離れてください。
＊平たん地を選び，できるだけ助手の立合い誘導のもとに行なってください。また，コンバインの周辺に人を近づけないでください。


M-4130

＊あゆみ板の途中でパワーステアリングレバー・副変速レバー・ブレーキペダルを操作すると，機体の移動方向が変化したり，急降下，落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し，再度上り下りし直してください。


M-8215

＊あゆみ板の途中で停止するときは，ブレーキペダルを踏込まず必ず主変速レバーを操作して停止してください。
＊機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。



M-4130改

◆操作のしかた

❶各作業クラッチレバーを**"切"**位置にします。

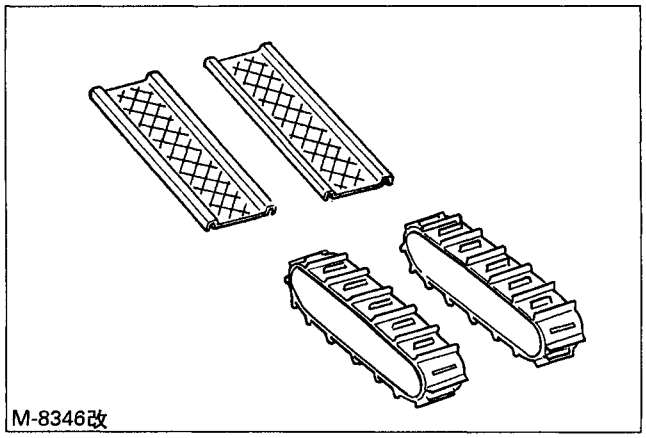
❷アクセルレバーを操作してエンジン回転数を2000rpm以上に調整します。

❸副変速レバーを**"低速"**位置にします。

❹パワーステアリングレバーで刈取部を上げます。

❺主変速レバーを操作して，前・後進**低速**で行ないます。

❻あゆみ板の前でいったん停止し，中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。



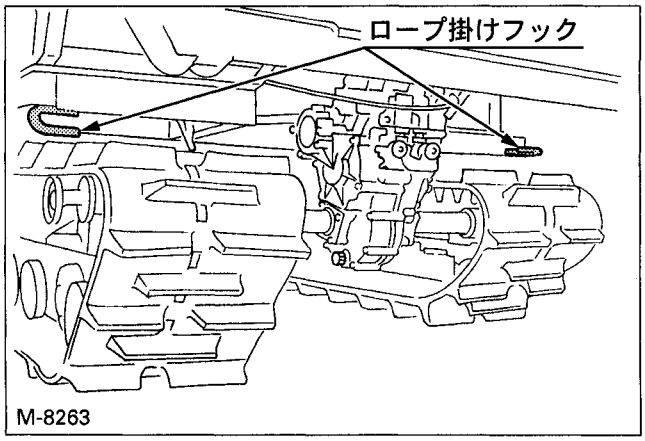
M-8346改

❼荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて，走行を停止します。

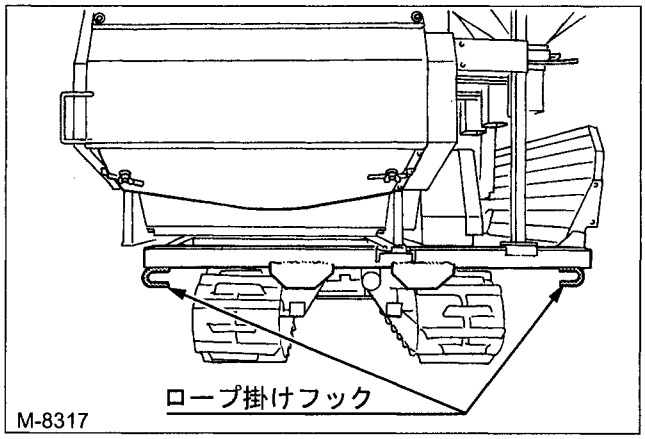
■トラック上での処置

注 意

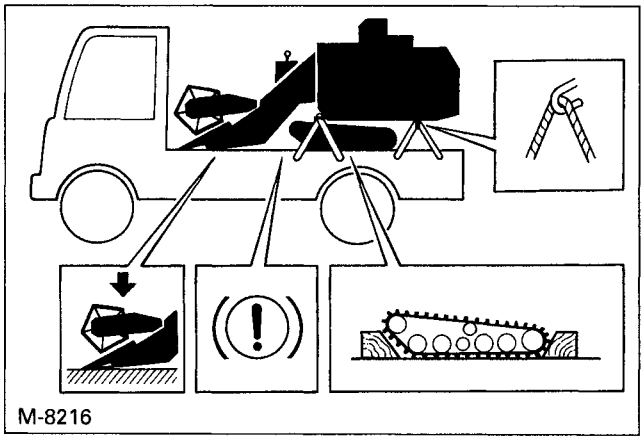
＊刈取部を床まで降し，トラックの駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。



M-8263



M-8317



M-8216

重 要

＊フック以外の所には，ロープを掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の収穫量を上げるにはコンバインに合わせた，ほ場のうね作り・排水管理や作付け・栽培管理及び，適期収穫についてそれぞれ適した作業を行なってください。

補　足

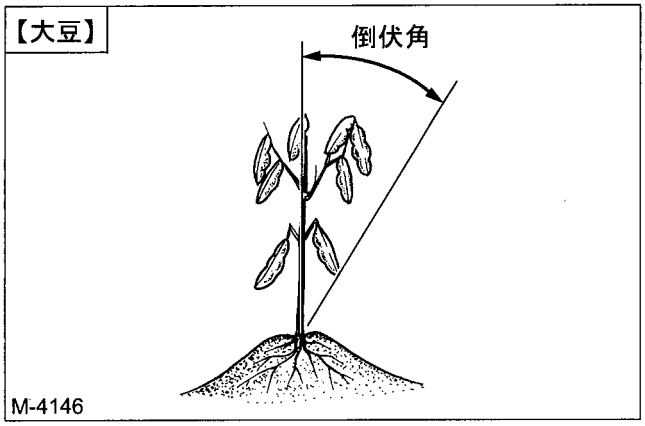
＊作物の品種・収穫時期・栽培管理やほ場の管理のしかたなどは，最寄りの指導機関(JA農協や普及センターなど)や経験者に相談してください。

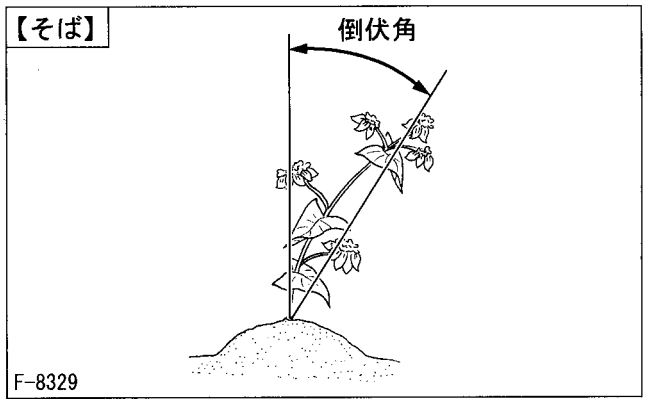
■作物の倒伏とほ場の傾き

◆作物の倒伏

刈取れる倒伏作物は，倒れかた(倒伏角)により異なります。

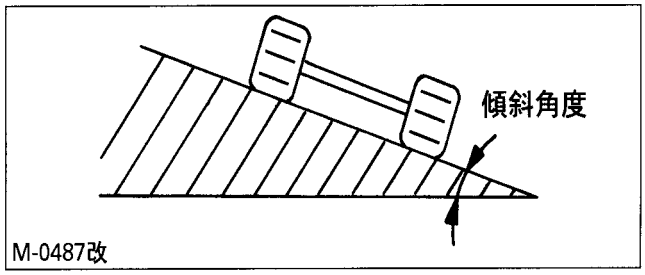
刈取りかた(方向)	倒　伏　角
追い刈り	70度以下
向い刈り	80度以下





◆ほ場の傾き

傾斜角５度以上では，作業できません。



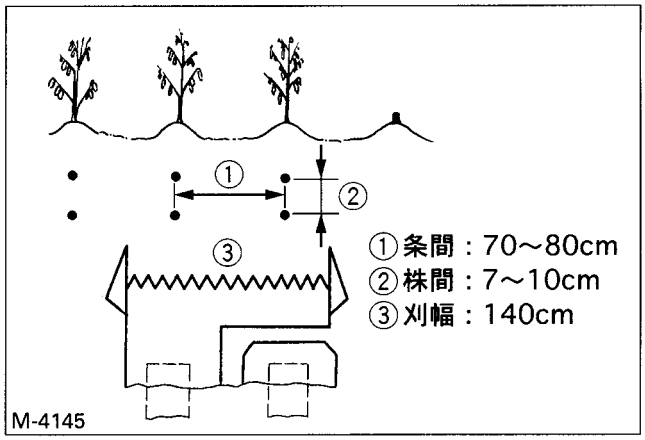
■大豆

◆ほ場について

水はけを良くし，コンバインの刈幅に合わせたうね作りを行なってください。また，このときクローラとうね幅・排水溝の幅は合わせてください。

補　足

＊うねの条間は70～80cmにし(２条刈り基本)，株間は，７～10cmにしてください。



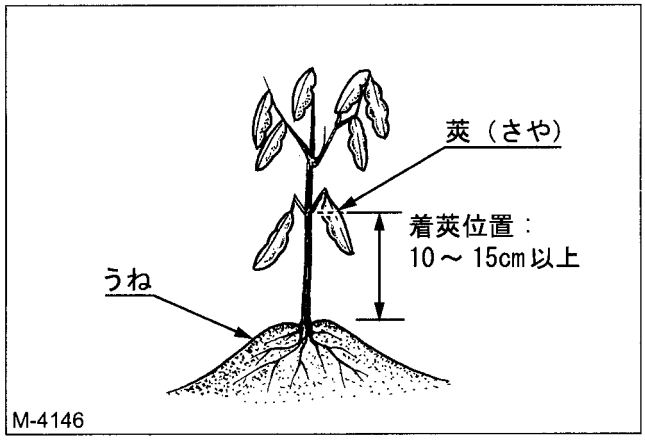
◆作物について

●栽培管理

コンバインでの刈取りに適した品種を選んで栽培を行なってください。また，刈取作業前には雑草や腐った作物などは，取除いてください。

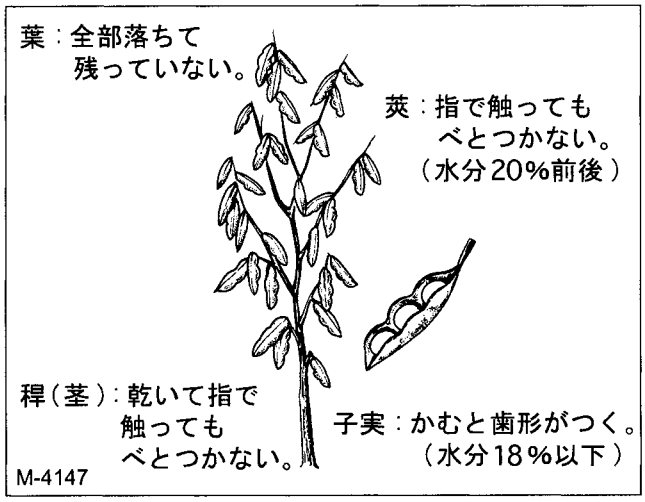
補　足

＊着莢(ちゃっきょう)位置が，うね上面から10～15cm以上で，倒伏や裂莢(れっきょう)のしにくい品種を選んでください。



●収穫適期

成熟期から約１～２週間後を目安とし，莢(さや)・稈(茎)を手でさわってもべとつかず，子実を歯でかむと歯形が少し残る状態が収穫の適期です。(このとき，水分は子実で18%以下・莢で20%前後・稈(茎)で50%以下)



補　足

＊成熟期になると，葉が完全に落ちて莢の80～90%が変色し，子実も品種特有の色となり，振るとカラカラと音がします。

＊刈取作業は，子実や莢が乾いて収穫に適した水分になる時間(午前10時～夕方)で行なってください。

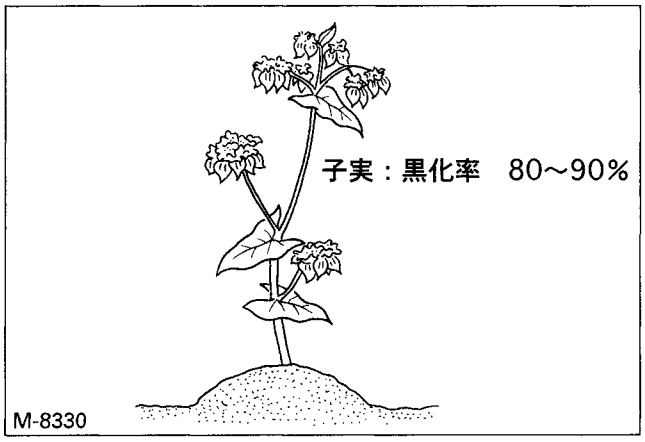
＊収穫適期が，早すぎる（青立大豆）と汚粒が増えたり，莢が割れずに子実が収穫されないまま３番出口から放出される３番口スが増えます。また，遅すぎると刈取部での脱粒口スがふえます。

■そば

◆作物について

●収穫適期

慣行よりも２～３週間後を目安とし，子実の80～90%が黒化している状態が収穫の適期です。

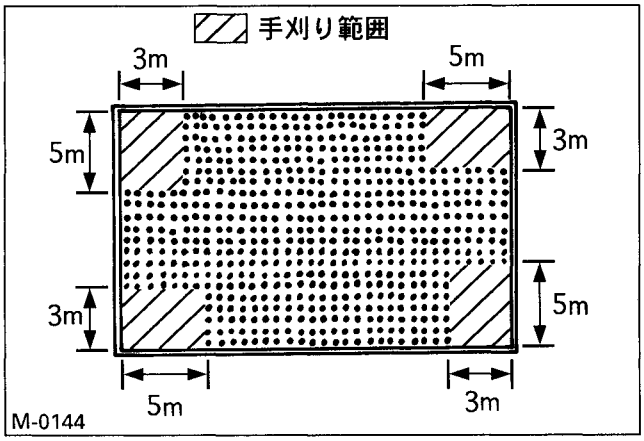


補　足

＊収穫適期が，早すぎると収穫量が減ったり，葉や稈(茎)に水分が多いと選別部の目詰まりの原因となります。また，遅すぎると風雨で子実が落ちたり，刈取部での脱粒口スが増えます。

ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四すみで旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲(面積)の手刈り(枕刈り)をします。



コンバインの準備

警　告

＊平たんな場所に置き，エンジンは必ず止めてください。

＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

■準備のしかた

1. 各部への注油

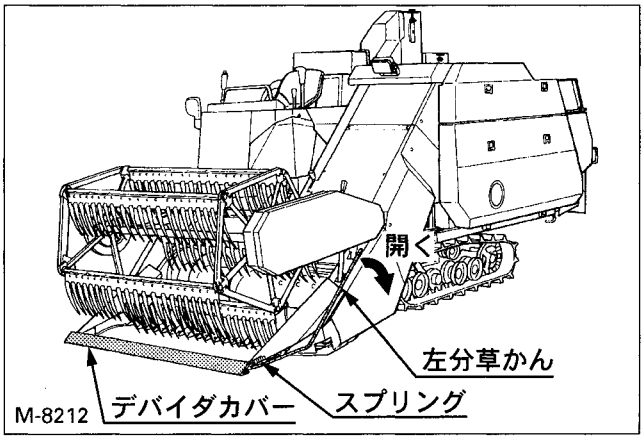
作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。(**各部の掃除と注油のしかた**の項参照)

2. デバイダカバーの取外し

左，右のスプリング２箇所を外してデバイダカバーを取外します。

3. 左分草かんのセット

左分草かんを開きます。



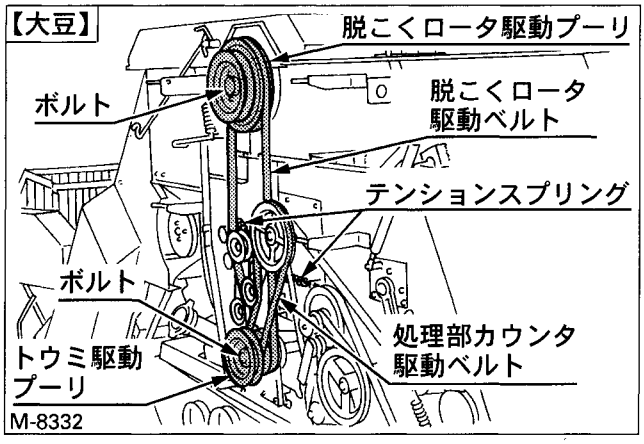
4. 作物に合わせた各部の切換え

作物の種類に合わせ**大豆⟷そば**の切換えを行なってください。(出荷時は**【大豆】の位置**)

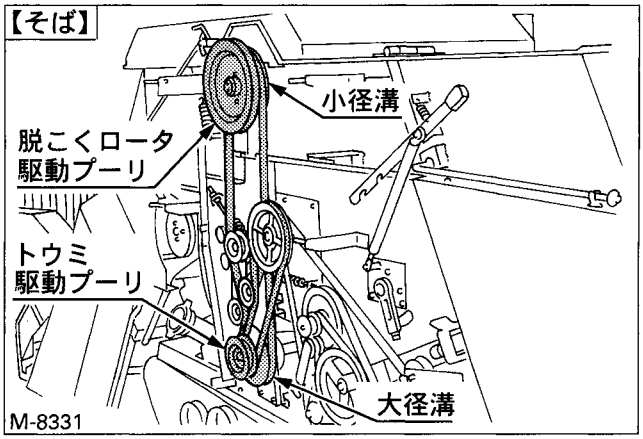
●選別ベルト回転方向の切換え(大豆➡そばの場合)

大豆は機体後方側に回転し，そばは機体前方側に回転します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。
❷脱こくロータ駆動プーリとトウミ駆動プーリのボルトを取外します。
❸脱こくロータ駆動ベルトと処理部カウンタ駆動ベルトのテンションスプリングをそれぞれゆるめます。(**各部ベルトの点検・調整・交換**の項参照)

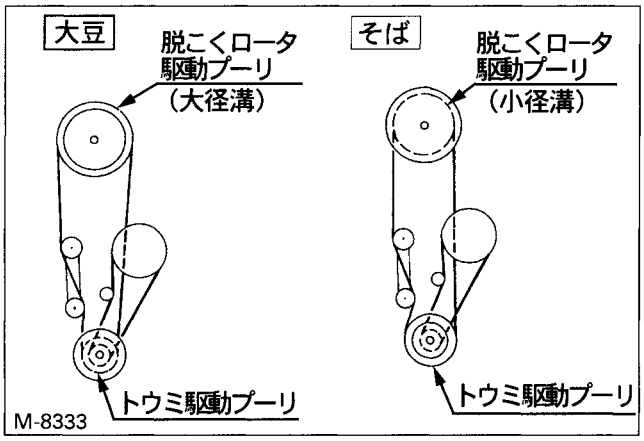


❹処理部カウンタ駆動ベルトを取外したあと，脱こくロータ駆動ベルトを取外します。
❺脱こくロータ駆動プーリを軸から抜いたあと，反転させて軸に取付け，ボルトで締付けます。
❻トウミ駆動プーリを軸から抜いたあと，反転させて軸に取付け，ボルトで締付けます。
❼脱こくロータ駆動ベルトを脱こく駆動プーリの小径溝に入れたあと，トウミ駆動プーリの大径溝に入れて掛けます。
❽処理部カウンタベルトをトウミ駆動プーリの大径溝と小径溝の間を通して掛けます。

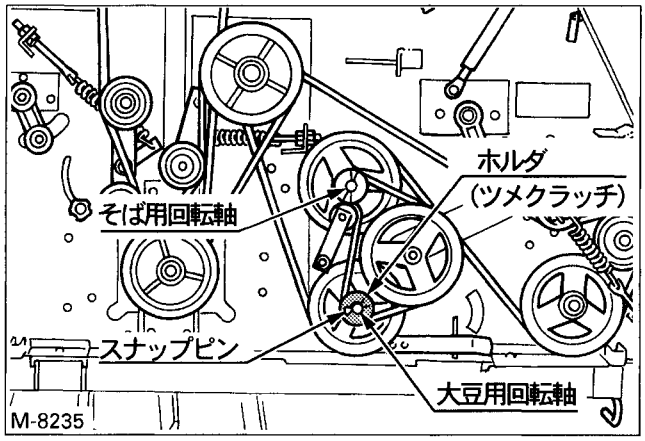


重 要

＊ベルトは掛け間違えないでください。



❾脱こくロータ駆動ベルトと処理部カウンタベルトのテンションスプリングを調整します。(**各部ベルトの点検・調整・交換**の項参照)
❿大豆用回転軸のスナップピンを抜き，ホルダ(ツメクラッチ)をそば用回転軸に差換え，スナップピンを取付けます。



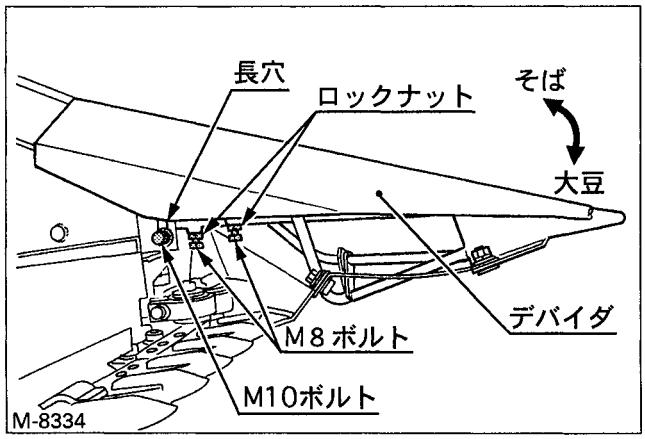
●デバイダ

(1)高さ調節

❶M10ボルトをゆるめます。

❷2箇所のM8ボルトのロックナットをゆるめたあと，M8ボルトをゆるめます。

❸デバイダを少し前方へ引いて上下調節を行ないます。



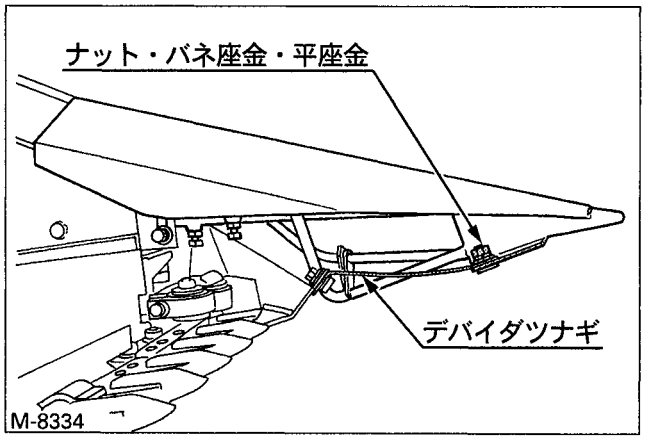
❹左・右のデバイダ共同じようにして同じ高さに調節します。

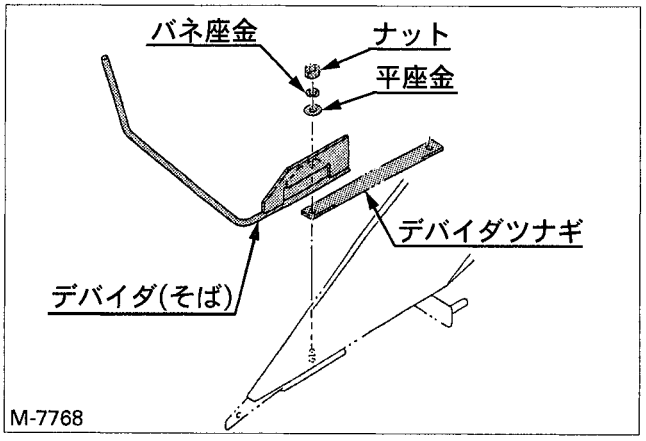
(2)そば用デバイダの取付け【そば】

作物をすくい分けるため，付属部品のそば用デバイダを取付けてください。

❶デバイダツナギを取付けているナット・バネ座金・平座金を取外します。

❷デバイダツナギをボルト部から抜いたあと，そば用デバイダを取付け，デバイダツナギと共にナットで締付けます。





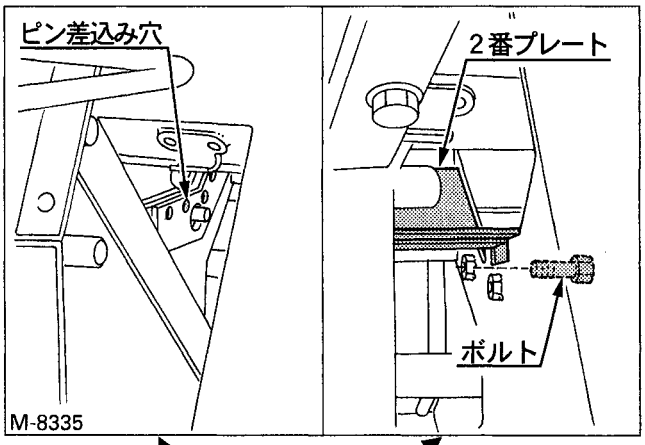
●そば用2番プレートの取付け【そば】

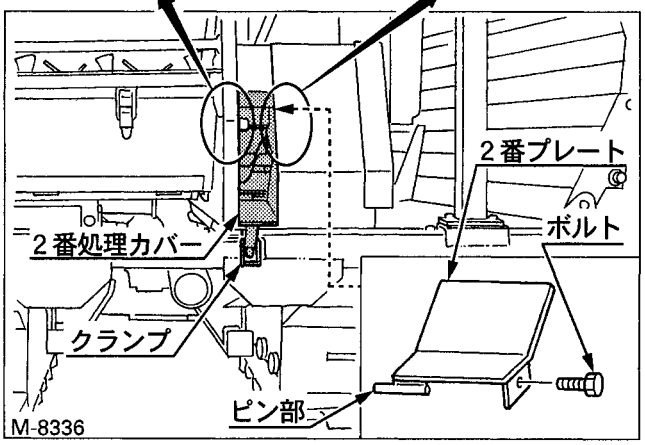
青いそば刈りの場合は，2番処理量が多くなり，排出口で詰まることがありますので，付属部品の2番プレートを組付けてください。

❶クランプを外し，2番処理カバーを開きます。

❷下図の位置から2番プレートを入れ，左横穴から2番プレートを2番処理部へ移します。

❸ピンを穴に差込んだあと，ボルトで締付けます。

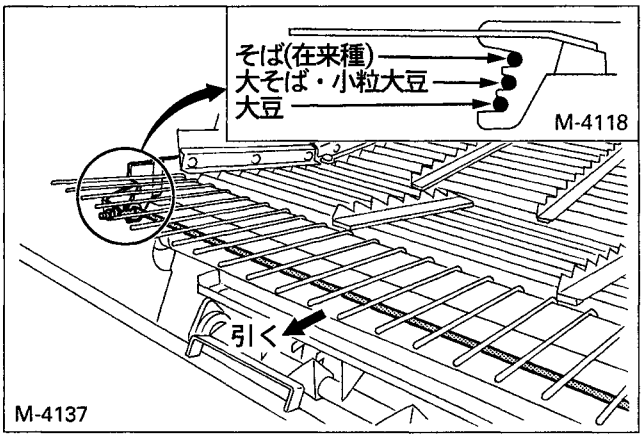




●チャフシーブ

(1)ふるい線の高さ調節

大豆・そば及び粒の大きさにより３段階の切換えが行なえます。それぞれ作物に合わせて切換えを行なってください。切換えを行なうときは，カッタ後カバーを上側に開き，カッタ安全カバーをカッタ側に倒して行なってください。

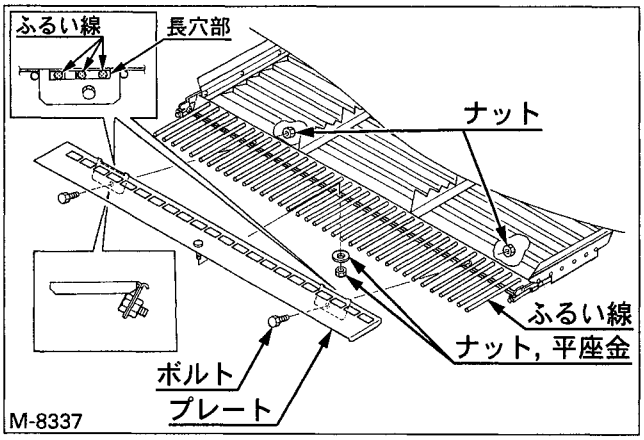


(2)そば用ふるい線プレートの取付け【そば】

ぬれた状態でそばを刈取ると２番処理が多くなり，２番詰まりの原因となりますので付属部品のプレートを取付けてください。

❶カッタ後カバー上側に開き，カッタ安全カバーをカッタ側に倒します。

❷ふるい線にプレートの長穴部を差し込んで，シーブケース側取付け穴２箇所にボルト・ナットで締付けたあと，ふるい線をはさんで下側より平座金とナットで1箇所締付けます。

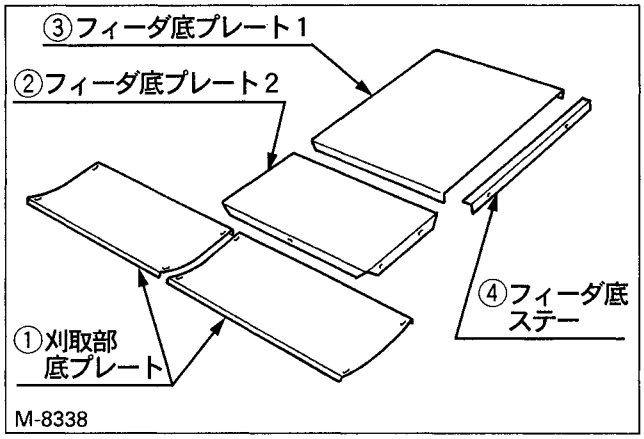


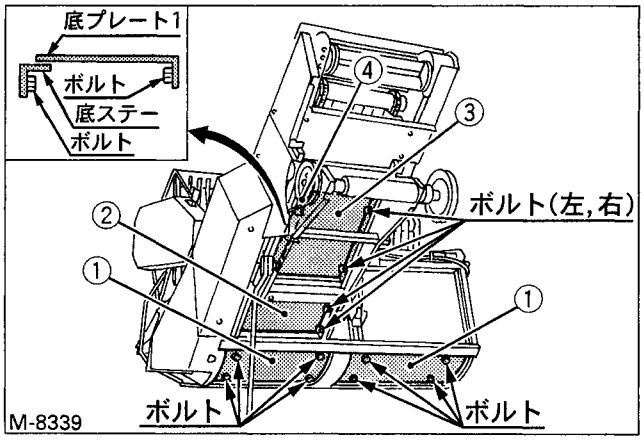
●刈取部底・フィーダ底各プレートの取付け【そば】

● ２番スクリュ底カバーの切換え

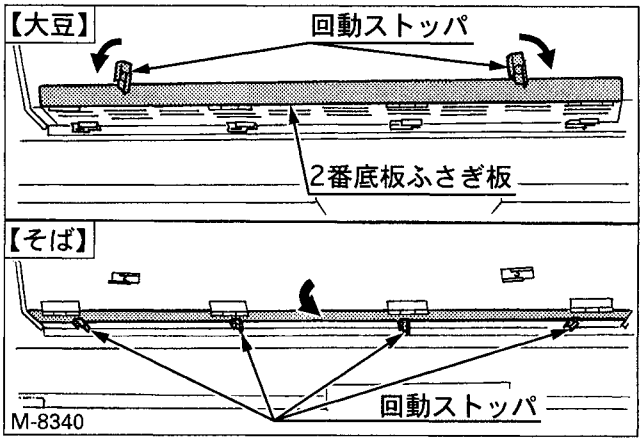
そばの落下防止のため，穴をふさぐプレートの取付け及び底カバーの切換えを行なってください。

❶付属部品の刈取部底プレート２枚，フィーダ底部のプレート１とステー各１枚，プレート２ １枚を各ボルトを取外し，下図のように取付けます。取付けるときは，刈取部を上昇させて刈取部の下降ロックを行なってください。





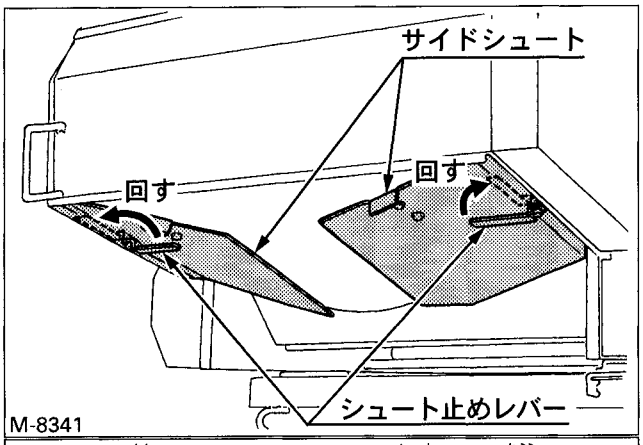
❷２番スクリュ底カバーの回動ストッパを回して，ロックを解除し，底カバーを切換えて回動ストッパでロックします。

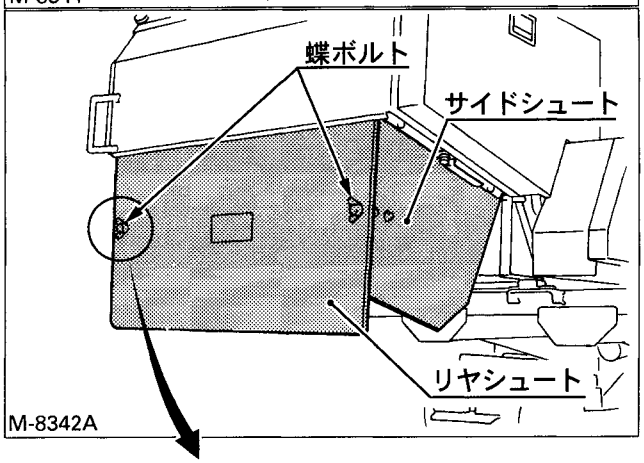


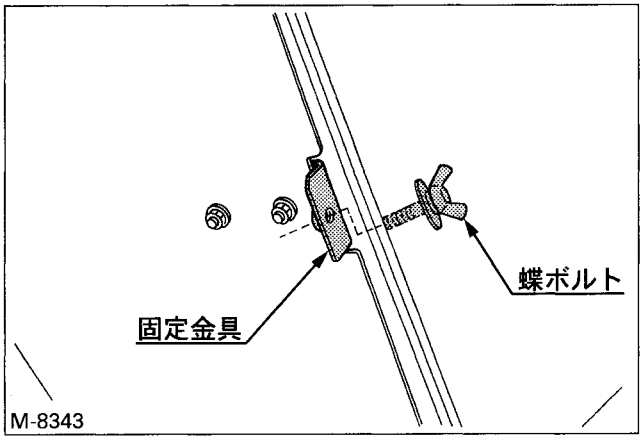
5.リヤシュート・サイドシュートの準備

❶シュート止めレバーを回してリヤシュートとサイドシュートを広げます。

❷蝶ボルトで左・右のサイドシュートを固定します。

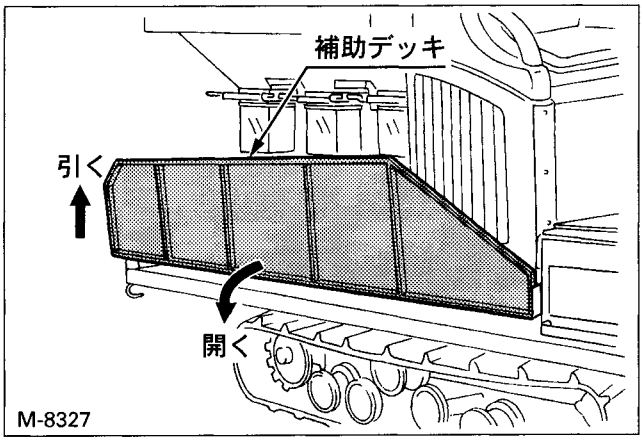




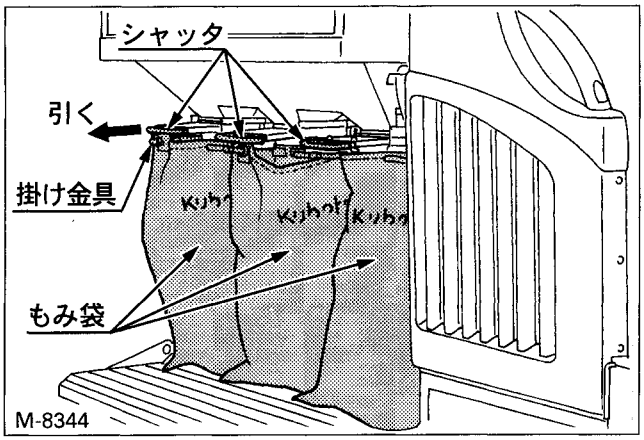


6.補助デッキともみ袋の準備

❶補助デッキを引上げて開きます。



❷もみ袋のファスナを開き，図のように掛け金具にもみ袋を取付けたあと，各吐出口のシャッタを引いて吐出口を開きます。



刈取作業のしかた

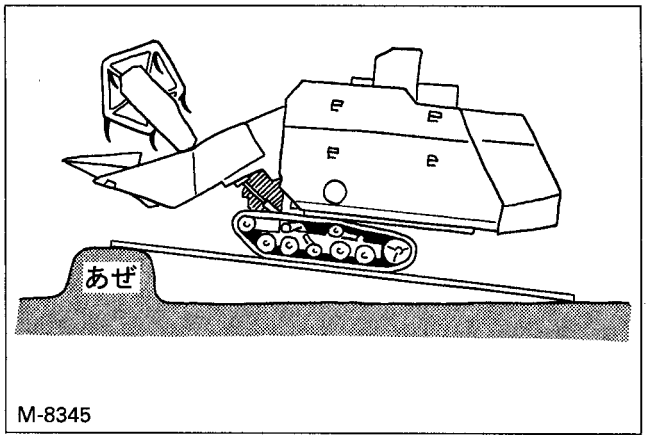
■ほ場の出入りのしかた

注 意

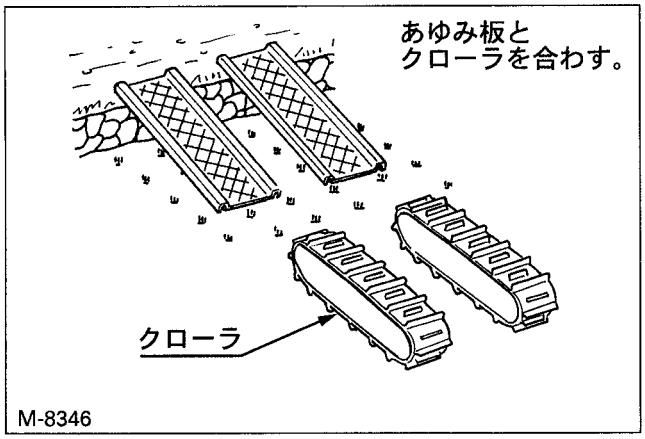
＊10cm以上の段差(あぜやコンクリート畦畔など)のあるところではあゆみ板を使ってください。
＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。
＊あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊後進する場合は後方の安全確認，また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

◆10cm以上の段差があるとき

❶ほ場の四すみを手刈り(枕刈り)をします。(**ほ場の準備**の項参照)
❷あゆみ板を準備し，アクセルレバーを操作してエンジン回転を2000rpm以上にします。
❸副変速レバーを**"低速"**位置にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速で前進します。
❹いったん停車したあと，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，あゆみ板と平行になっているか確認してからほ場へ進入します。



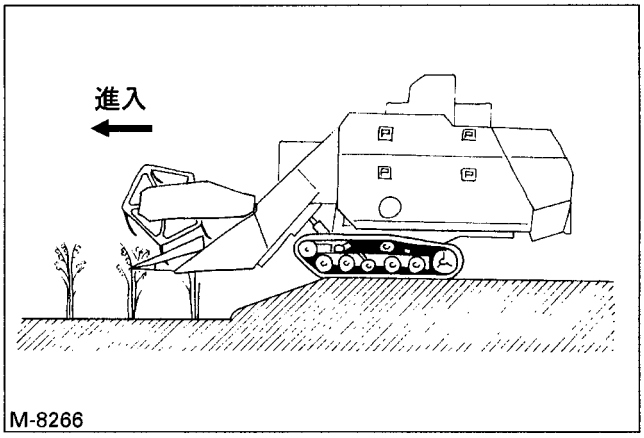
M-8345



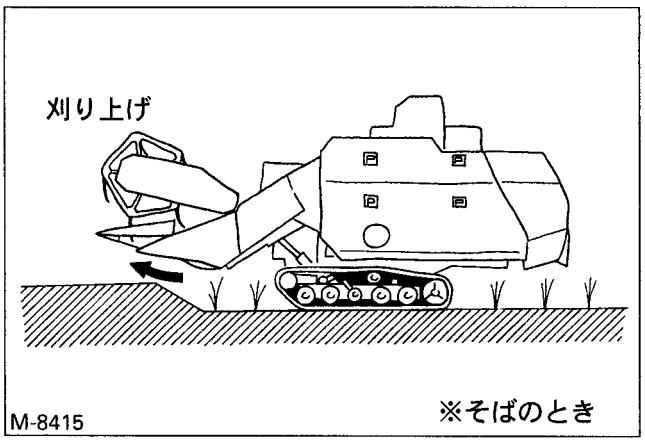
M-8346

◆段差が低いとき，進入口があるとき

刈取りが行なえる状態（**刈取作業の手順**の項参照）にし，副変速レバーを**"低速"**位置にして，ゆっくりと前進でほ場に進入します。



M-8266



M-8415

■刈取作業の手順

注 意

＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

＊夜間など暗いときは，作業は行なわないでください。

重 要

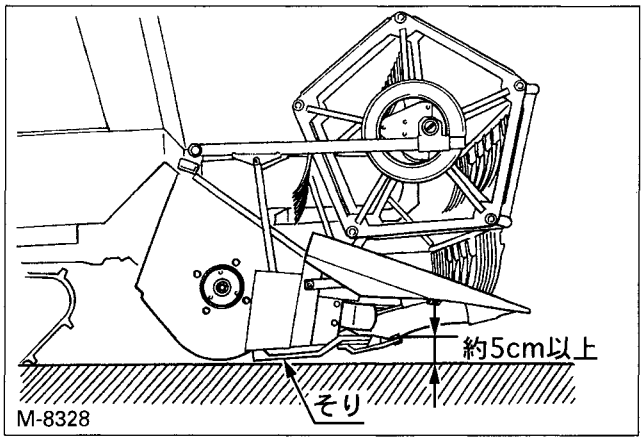
＊作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。
防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンのオーバヒートの原因になりますので注意してください。

＊コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。

＊副変速レバーを**“走行”**位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

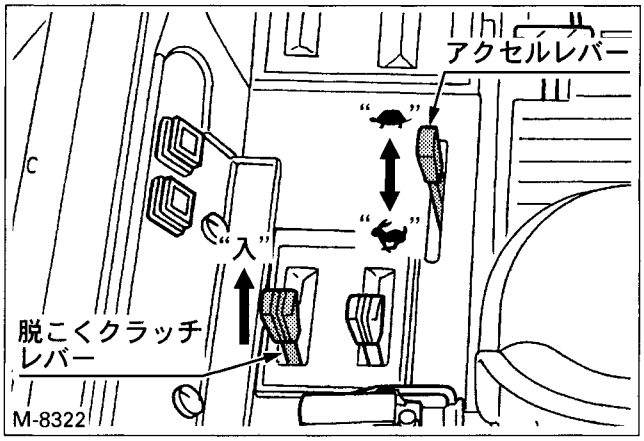
❶ほ場に入ったらコンバインの走行をいったん停止し，主変速レバーを**“停止”**位置・副変速レバーを**“中立”**位置にしたあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転を最低回転数(アイドリング状態)にします。

❷パワーステアリングレバーを操作し，通常はそり部が軽く接する位置から少し上げてください。



❸アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を約2000rpmにします。

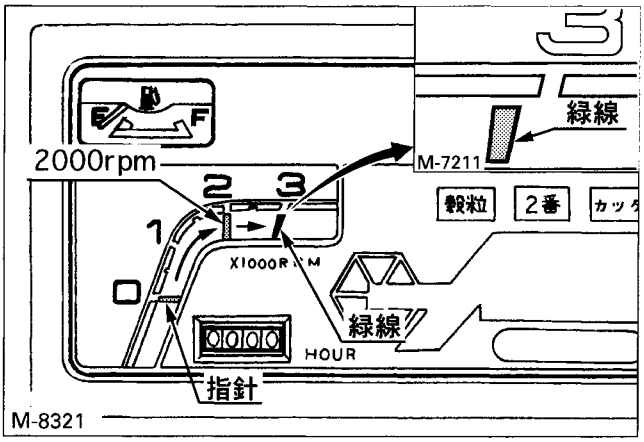
❹脱こくクラッチレバーを**“入”**位置にします。



重 要

＊エンジン回転数が2000rpm以上のとき，脱こくクラッチレバーを入れると駆動ベルトが破損するおそれがあります。

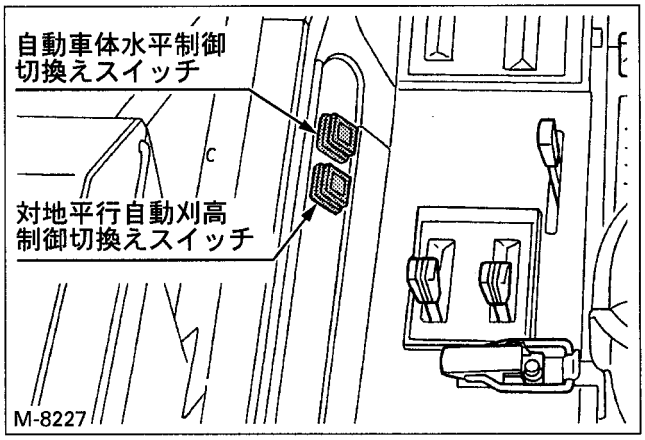
❺アクセルレバーを操作してエンジン回転数を回転計の**緑線の**位置に指針を合わせます。



補 足

＊エンジン回転数は脱こくクラッチレバーを**“入”**位置にし，走行を停止した状態で合わせてください。

❻自動車体水平制御と対地平行自動刈高制御の自動切換えスイッチを押して**自動入り**にします。



補　足

＊自動切換えスイッチは，どちらか一方が**点滅**又は，**点灯**状態となります。

＊刈取部のソリセンサが地面に接地しているときは，自動刈高制御の自動ランプが**点灯**し，自動刈高制御が作動します。ソリセンサが地面から離れると自動水平制御の自動ランプが**点灯**し，自動水平制御が作動します。

＊自動で作業した後，脱こくクラッチレバーを**"切"**位置にするか，又は自動切換えスイッチを**"手動"**にするか又は自動刈高制御だけ**"自動"**位置にして作業した後，刈取部のソリセンサが地面から離れたとき，機体はその状態を保ちますので，手動水平操作レバーで必ず車体を一番下まで下げてください。

＊自動車体水平制御は，刈取作業以外(特に移動走行時，運搬時，格納時)は，機体を一番下まで下げてください。

＊傾斜地では使用しないでください。

＊刈取部の底板と，ソリセンサの間に土が入り込むと，自動刈高制御が正しく作動しません。土が入らないように作業し，入った場合は，確実に取除いてください。

＊枕地の刈取りは，自動刈高制御を**自動切り**位置にして手動操作で行なってください。

❼副変速レバーを作物の条件に合わせて，**"低速"**又は**"標準"**の位置にします。(**作物に合わせた変速の選びかた**の項参照)

補　足

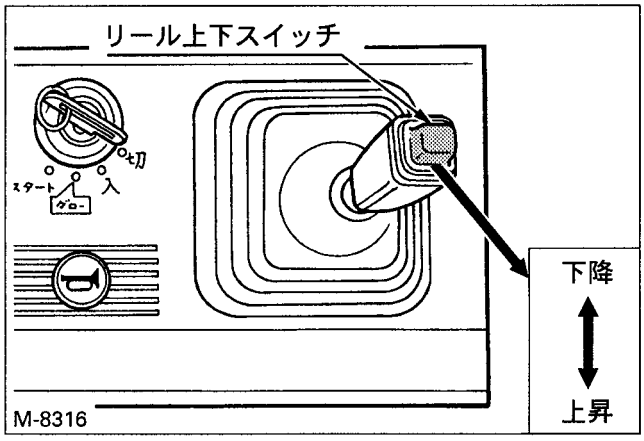
＊刈始めや第1周目の回り刈りを行なうときは，**"低速"**位置にして刈取りを行なってください。

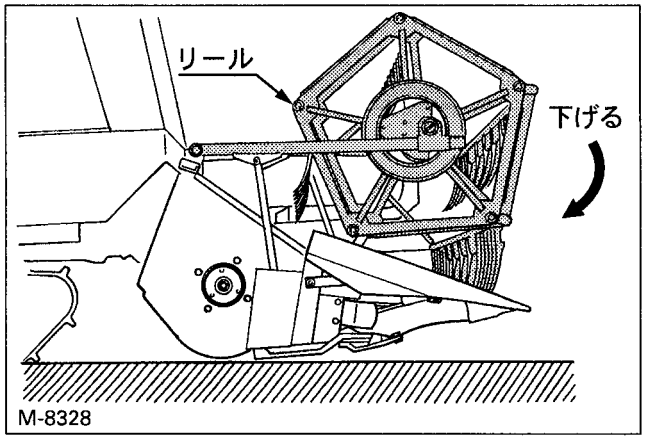
❽刈取クラッチレバーを**"入"**位置にし，主変速レバーを**"前進"**側に倒します。そのあと，パワーステアリングレバーを操作して刈高さを合わせます。

補　足

＊自動刈高制御スイッチが**"自動"**位置で，脱こくクラッチレバーが**"入"**位置のとき，主変速レバーを**"後進"**位置にすると刈取部が自動的に上昇します。(**バックアップ機能**)

❾リール上下スイッチを操作して，リールを最下降位置にします。



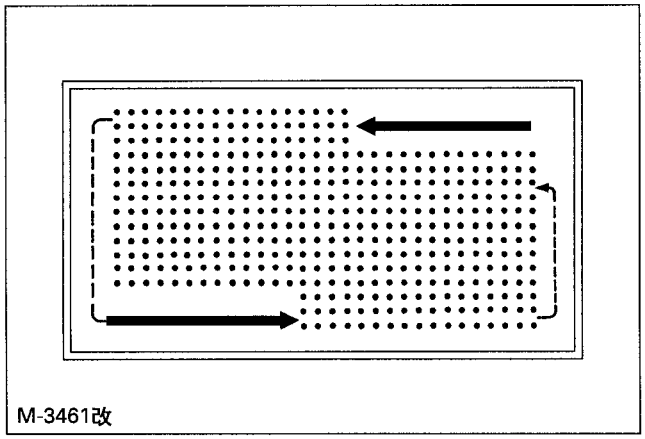


❿刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節(**作業に合わせた各部の調節・調整**の項参照)を行なってください。

⓫刈取作業が終わると，刈取クラッチレバーを**"切"**位置にし，脱こくが終わりもみが全てホッパ内に入ったことを確認して，脱こくクラッチレバーを**"切"**位置にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

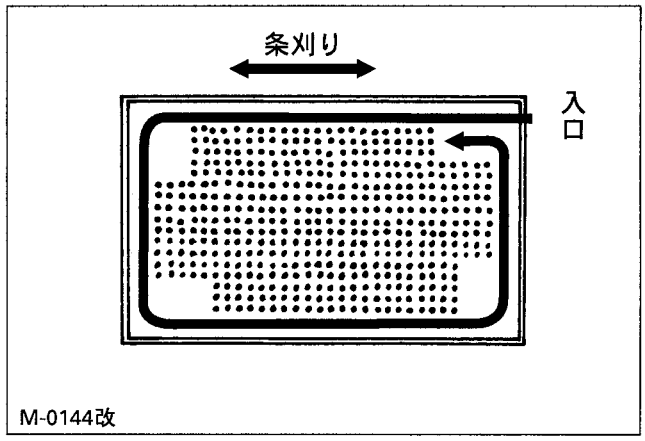
ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈り(大豆は２条刈り)で左回りの２方向刈りを行なってください。


M-3461改

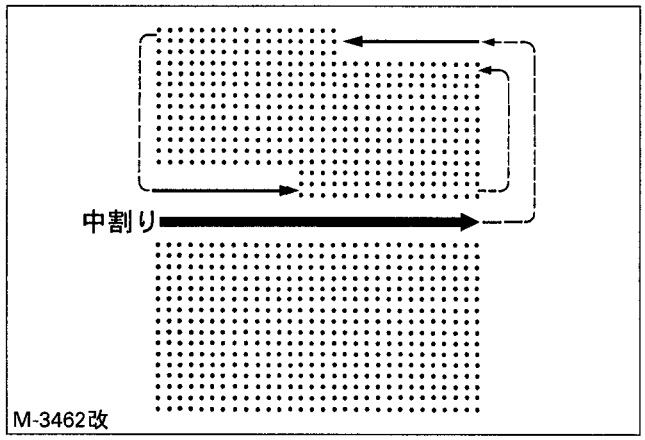
補　足

＊ほ場への進入時や１周目の回り刈り，広いほ場で中割り刈りをして分割するときは，副変速レバーを**“低速”**位置で行なってください。

＊枕地などあぜぎわを刈取るときは，自動刈高制御を**自動切り**にして手動で行なってください。



M-0144改

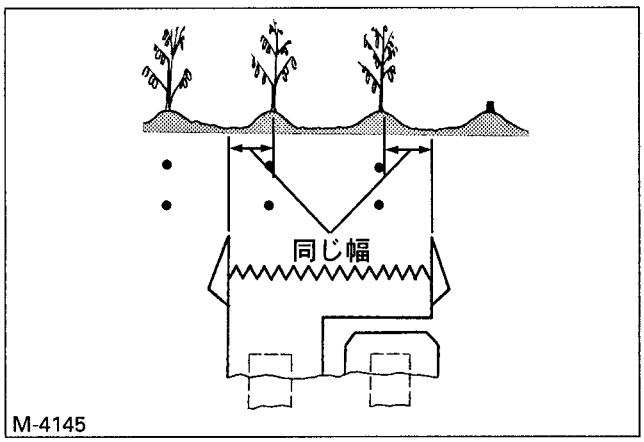


M-3462改

＊中割り刈りなど補助デッキが作物に接触するときは，補助デッキを収納してください。

◆デバイダ(刈取部)の条合わせのしかた【大豆】

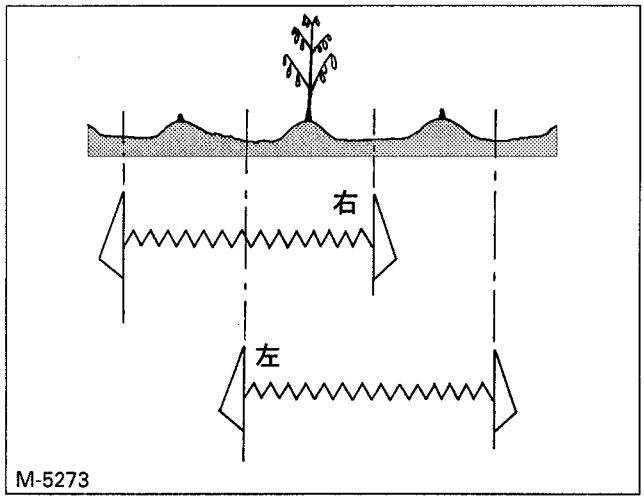
条合せをするときは，コンバインの速度を落とし，下図のように作物とデバイダを同じ幅に合わせてください。



M-4145

補　足

＊自動刈高制御がはたらいているときに１条刈りを行なうときは，２条刈りを行なうときと同じように，作物とデバイダの幅を合わせてください。作物を中央で刈取ると，機体が傾くことがあります。



M-5273

◆旋回のしかた

刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

重　要

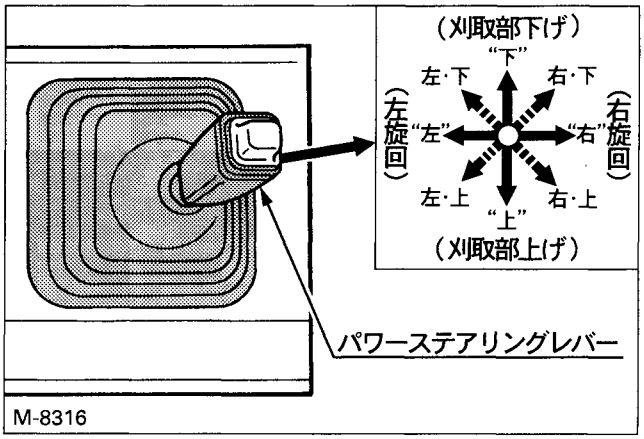
＊エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

＊刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。

＊エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。

＊パワーステアリングレバーを斜め方向に操作すると，機体が旋回と同時に刈取部が上下します。

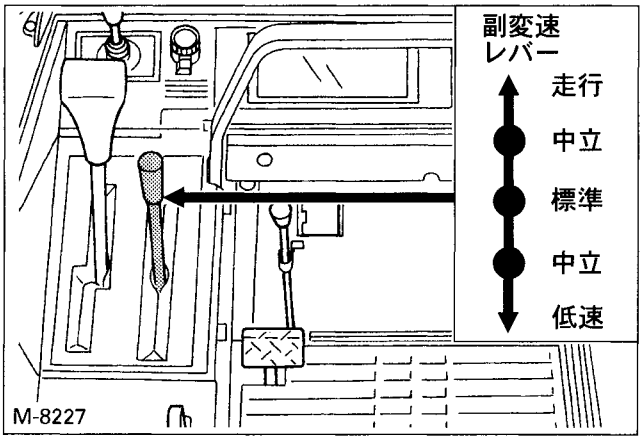


■作物に合わせた変速の選びかた

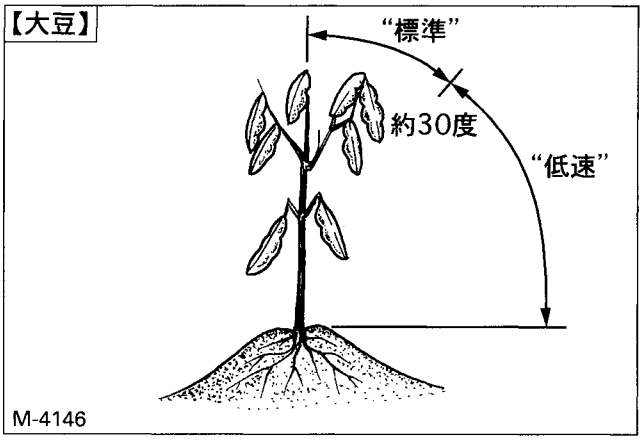
作物の状態により適正な速度を選んでください。

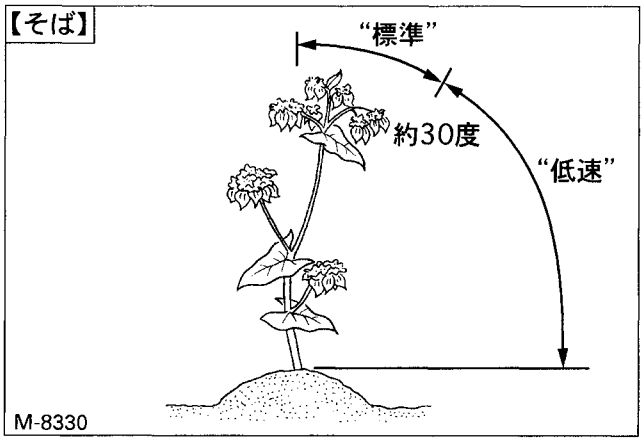
◆作業速度の選びかた

作物の倒伏状態に合わせて副変速レバーの位置を合わせてください。



	倒伏角	
	30度以下	30度以上
副変速レバー位置	**“標準”**	**“低速”**





補　足

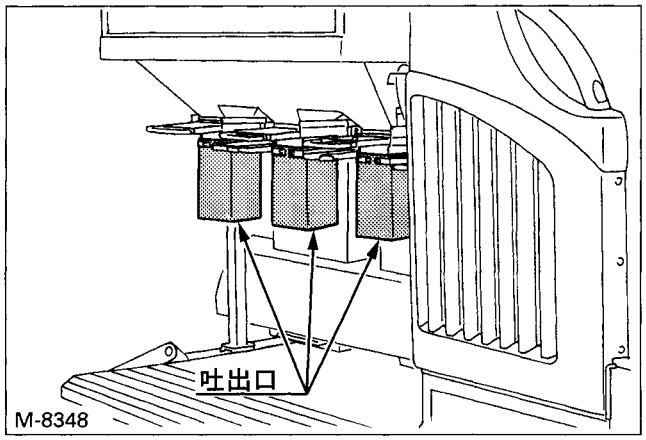
＊リールの回転数は車速に合わせて変化します。（車速同調）

＊収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。上表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

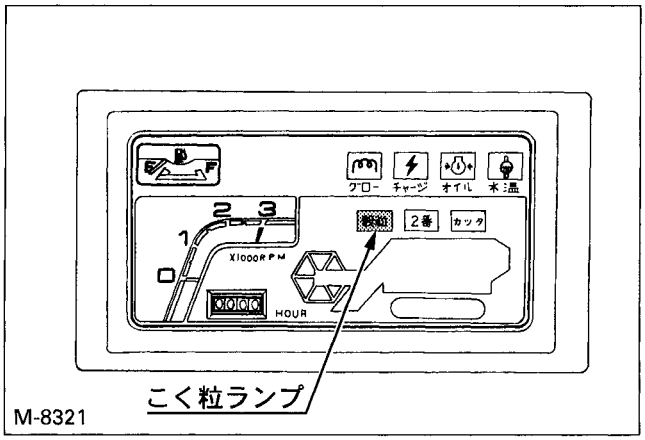
■こく粒の排出のしかた

注 意

＊コンバインを必ず停止してください。
＊吐出口に手は入れないでください。



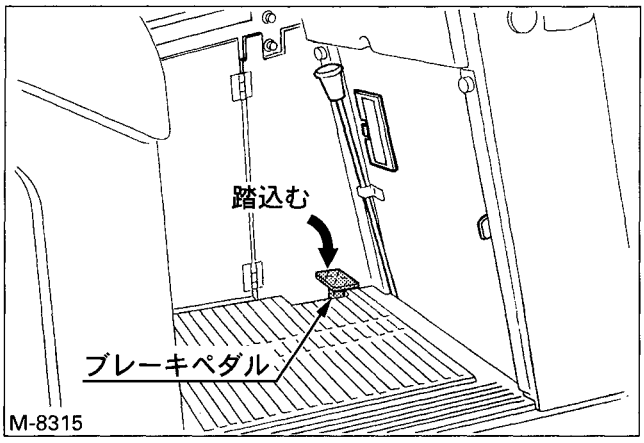
❶ホッパが満杯になると，こく粒ランプが点滅すると同時にブザーが鳴ります。



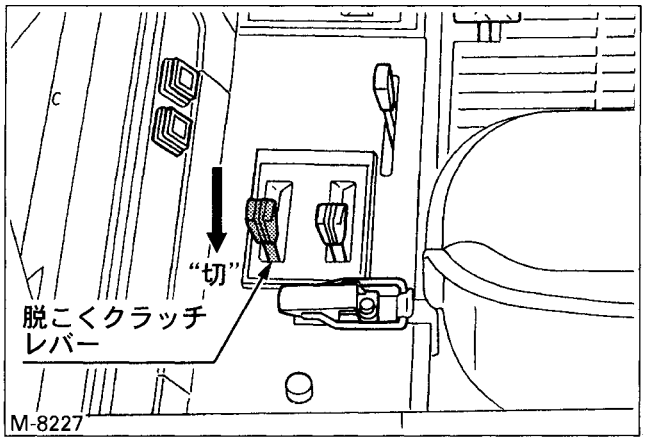
重 要

＊ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，こく粒があふれたり，詰まったりして，故障の原因となります。

❷ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。



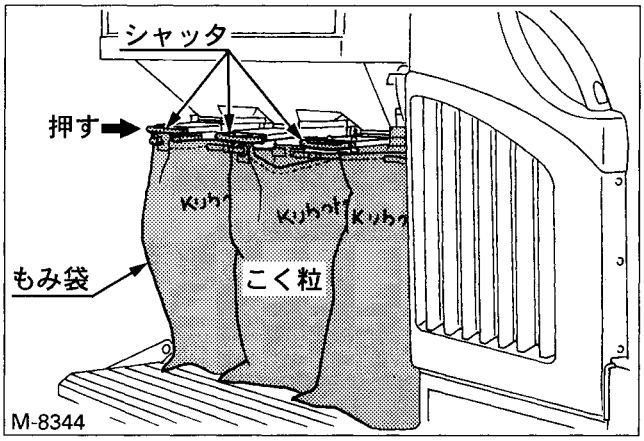
❸20～30秒待ったあと脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にし，脱こく部を停止します。



補 足

＊走行停止後20～30秒経過して行なってください。選別不良の原因となります。
＊脱こくクラッチレバーを**“切”**位置にすると同時に，連動して刈取クラッチレバーも**“切”**位置に動き，刈取部が停止します。

❹シャッタを押して(閉じて)，新しい(空の)もみ袋と交換したあと，シャッタを引き(開き)ます。



補 足

＊こく粒を排出すると，こく粒ランプの点滅は消灯します。

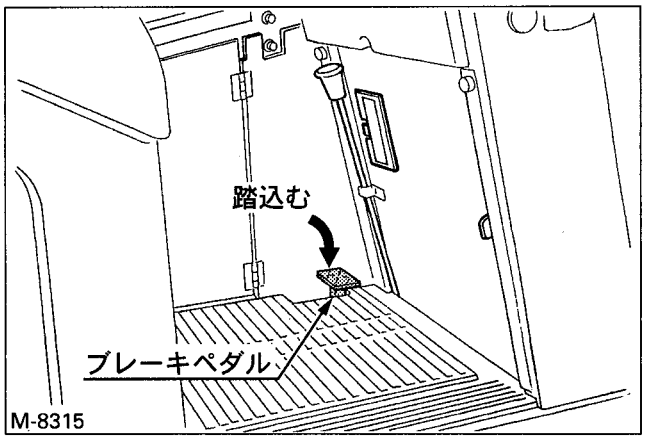
❺駐車ブレーキを解除したあと作業を始めてください。

■手刈り(枕刈り)作物の投げ込み脱こくのしかた

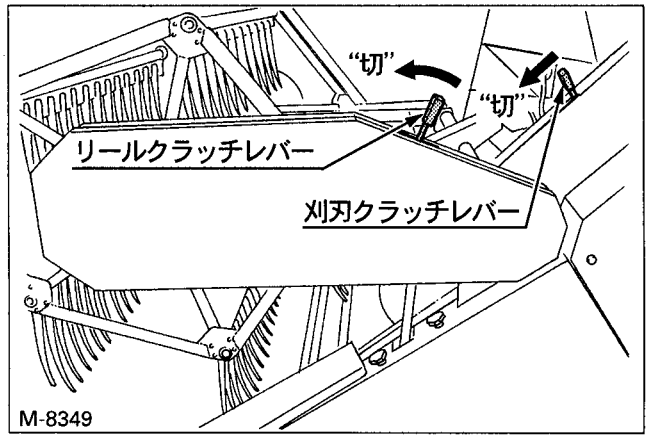
警 告

＊そで口はきっちり止めて，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。
＊刈刃，リール各クラッチレバーを"切"位置にしてください。リールに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊投げ込み脱こくするときは，必ずコンバインの刈取部から少し離れて，作物を少量ずつ投げ込んでください。

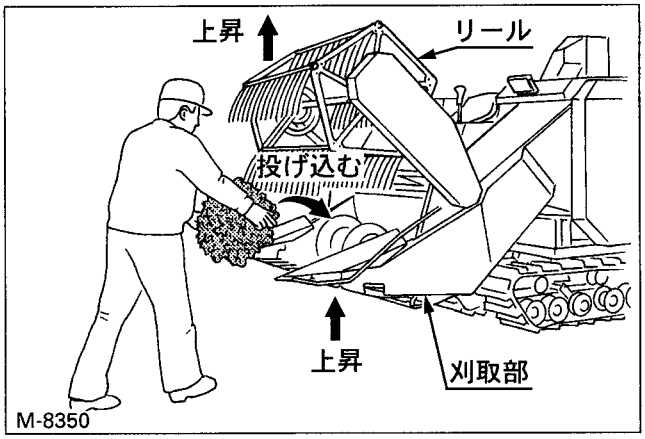
❶平たんな場所を選んで走行を停止したあと，主変速レバーを**"停止"** 位置にし，ブレーキペダルをロックするまでいっぱい踏込み駐車ブレーキを掛けます。

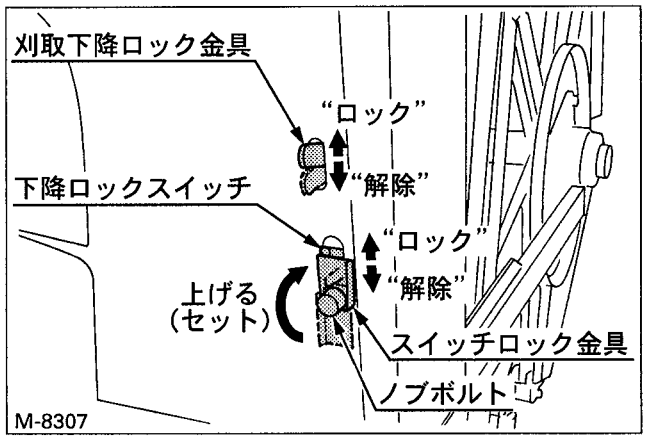


❷刈刃クラッチレバーを**"切"**位置，リールクラッチレバーを**"切"**位置にします。



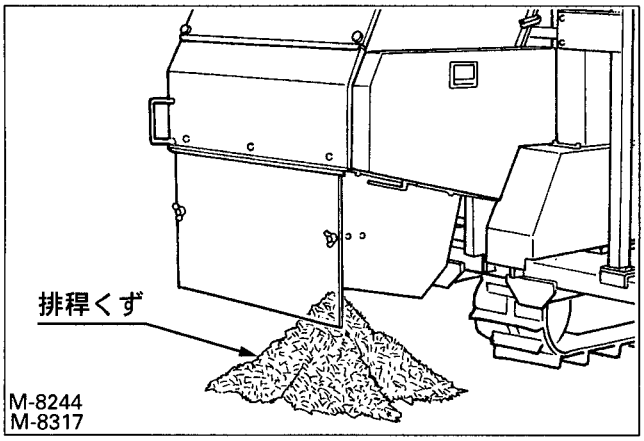
❸刈取部及びリールをそれぞれ**最上昇位置**にしたあと，刈取部及びリールの下降防止を行ないます。
❹脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にしたあと，刈取クラッチレバーを**"入"**位置にします。
❺手刈りした作物を少しずつ投げ込みます。





重 要

＊作物は一度に多量の投入はしないでください。フィーダや脱こくロータでの詰まりの原因となります。
＊走行を停止した状態で多量の脱こくを行なうと，カッタ部の下に切断された排稈くずが堆積し，カッタが詰まったり，火災の原因となりますので，機体を移動させる又は，堆積した排稈くずを取除いてください。



■作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

警 告

＊調節時は必ずエンジンを止めてください。
＊衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。

注 意

＊水平で平たんな場所で行なってください。
＊コンバインを停止するときは，排稈くずの上に止めないでください。マフラ排気口に排稈くずが触れると，火災のおそれがあります。

◆脱こく部

●脱こく状態に合わせた調節・調整

下記もみの流れを参照して，作物の現象(状態)に応じ，各部の調節や調整を行なってください。

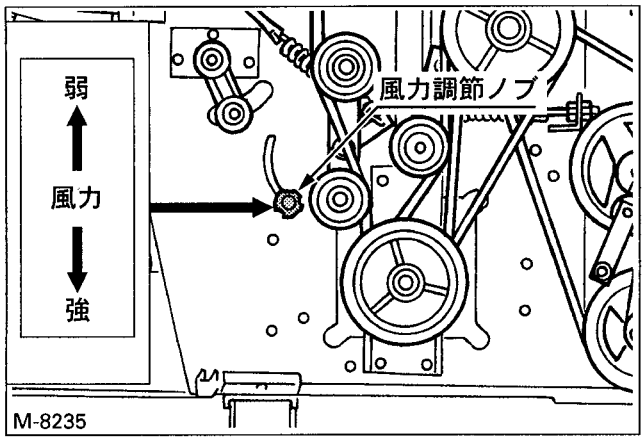
❶チャフシーブ

作物に合わせてチャフシーブを調節します。
(**コンバインの準備の4.作物に合わせた各部の切換え**の項参照)

❷選別ファン(トウミ風力)

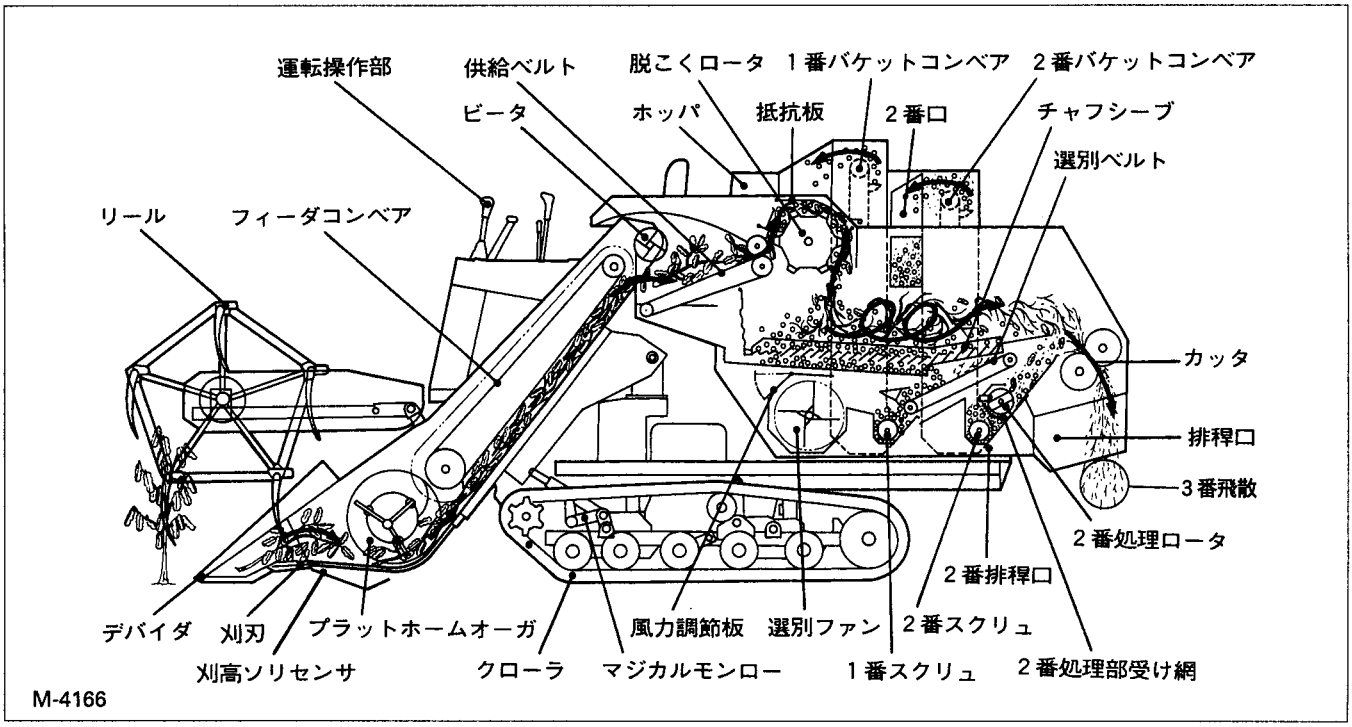
1番こく粒の選別状態と3番飛散粒の状態により，風力を調節します。

	風 力
通 常	標 準
3番飛散粒が多いとき	弱める



補 足

＊作物の流れ



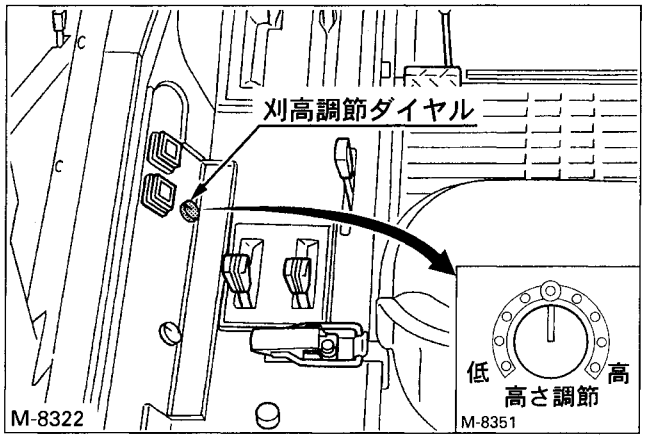
◆走行・操作部

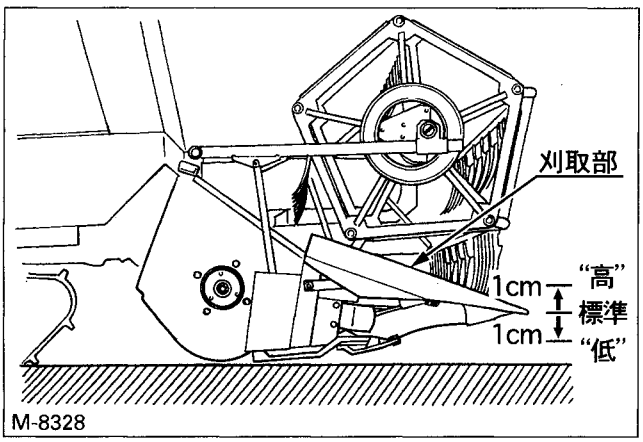
作物の状態やこく粒の状態に合わせて調節を行なってください。

●刈高調節ダイヤル

作物を高刈りしてしまうときや低刈りになり，土をすくってしまうときは，調節してください。

刈高調節ダイヤルは，刈取部の高さ調節を行ないます。調節ダイヤルを**“高”**又は，**“低”**位置に回したとき，刈取部の高さが標準位置より最大1cm上下します。

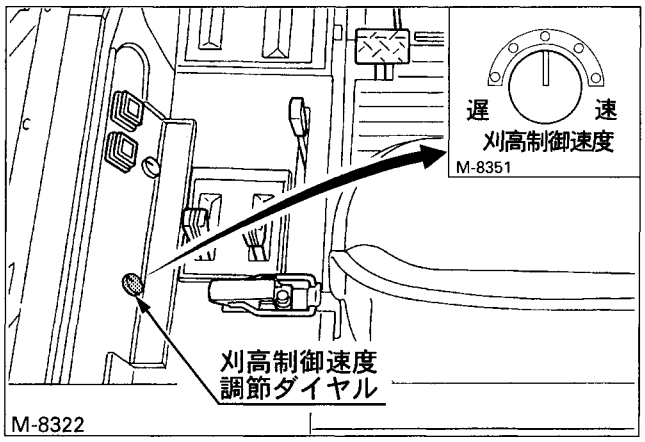




●刈高制御速度調節ダイヤル

ほ場の状態により刈取部が，土をすくって発生する汚粒を避けたいときに調整を行なってください。

ほ場が硬く，制御が効きすぎて，乗心地が悪いときは，ダイヤルを**“遅”**の方向に回してください。また，ほ場が柔かく，制御の効きが悪いとき(刈取部が土をすくうなど)は，ダイヤルを**“速”**の方向に回してください。



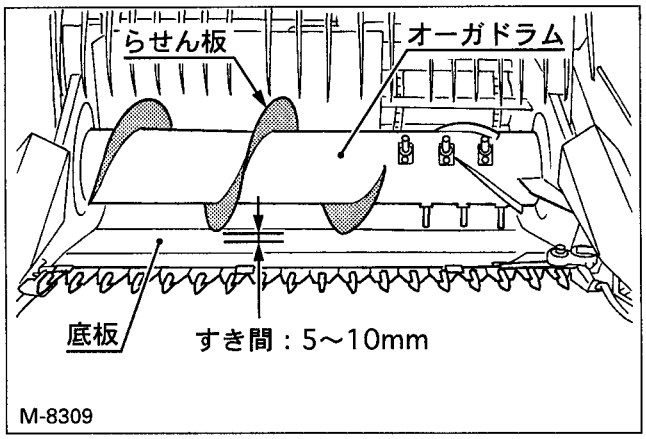
◆刈取部

● オーガドラムの高さ調節(大粒の大豆の場合)

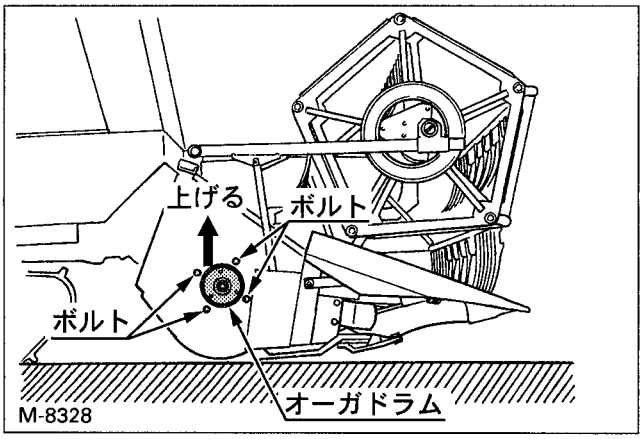
オーガドラムラセンと底板の間で割れが発生するときは，オーガドラムの高さ調節を行なってください。

補　足

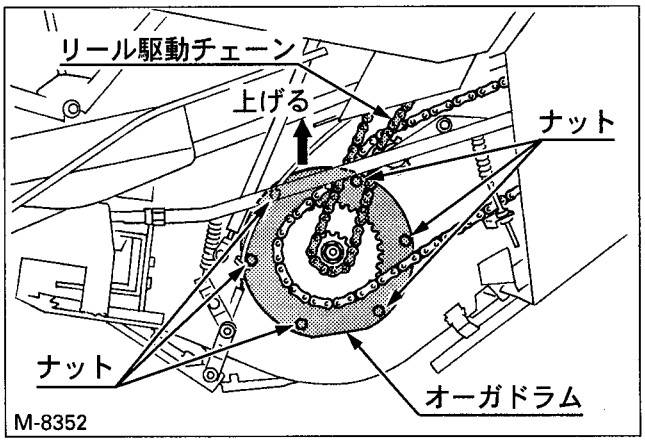
＊出荷時は，オーガドラムのらせん板と底板のすき間は，5～10mmです。



(1)刈取部右側のオーガドラム取付ボルト4本をゆるめて長穴いっぱいまで上げ，ボルトを締付けます。



(2)刈取部左側の刈取サイドカバーのノブボルト3本を取外して外したあと，オーガドラム取付ナット6個をゆるめて長穴いっぱいまで上げ，ナットを締付けます。



重　要

＊オーガドラムの高さ調節を行なったあとは，リール駆動チェーンの半コマを取り，張り調整を行なってください。

(**各部チェーンの点検・調整・交換**の項参照)

補　足

＊オーガドラムを上げたときのすき間は，約18mmです。

■コンバインメータによる異常と処置

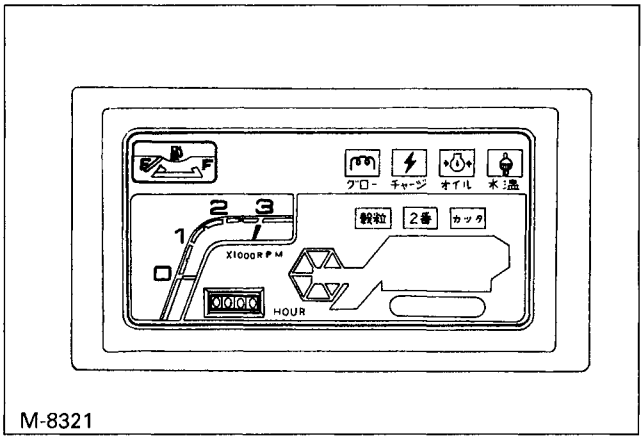
警 告

＊各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めてください。
＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注 意

＊エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがります。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

各ランプが異常箇所を表示したときは，下表の処置を行なってください。



M-8321

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
水温	点滅	—	●水温が上昇しています。 ●そのまま作業を続けると… オーバヒートします。	●約5分間エンジンだけを動かしたあと，エンジンを停止し，30分以上たってから点検と処置をします。 ①冷却水量 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ……ドレーンコック・ラジエータホースのバンドを増締め ②ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィン 汚れ・詰まり……掃除して取除く	59 61 67 62
オイル	点滅	—	●エンジンのオイル圧力が不足しています。 ●そのまま作業を続けると… エンジンが動かなくなります。	●エンジンを停止後，オイル量を点検します。 ●オイルドレーンゴムホースの点検，バンドの増締め ●エンジンが焼付きを起こしていますので，購入先へ連絡してください。	57,58 61
チャージ（充電）	点滅	—	●バッテリに充電されていません。 ●そのまま作業を続けると… バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなりす。	●エンジンを停止後，点検と処置をします。 ①ファンベルト ゆるみ……張り調整 破損など……交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ●バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	67 82

ランプ	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示	ブザー			
穀粒(こく)	点滅	○	●ホッパのこく粒が満杯です。	●刈取作業を中止し，もみ袋を交換してこく粒を排出します。	36
			●そのまま作業を続けると… ホッパからこく粒があふれます。	●こく粒を排出します。	
2番	点滅	○	●2番バケットコンベアが詰まっています。 ●2番スクリュ終端部が詰まっています。 ●2番処理部が詰まっています。	●各部の詰まりを取除きます。	50 49 49
カッタ	点滅	○	●カッタ後カバー又は，カッタ安全カバーが開いています。	●カッタ後カバー又は，カッタ安全カバーを閉じます。	44，49

重要

＊処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡してください。

メンテナンス

各部のオープン(開閉)と脱着のしかた

警 告

＊平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。
＊傾斜地で開閉や脱着は行なわないでください。

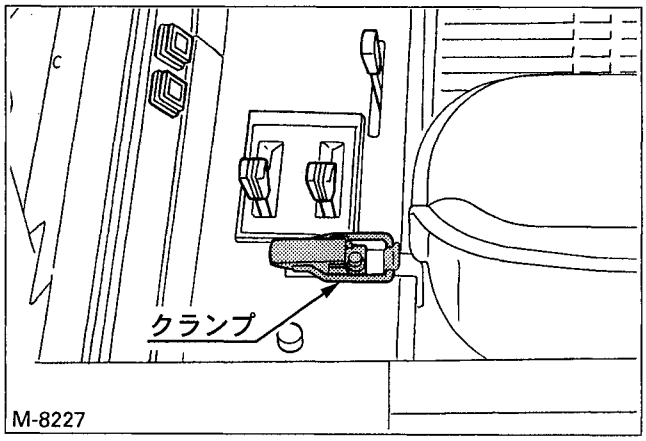
■エンジンルームオープン

注 意

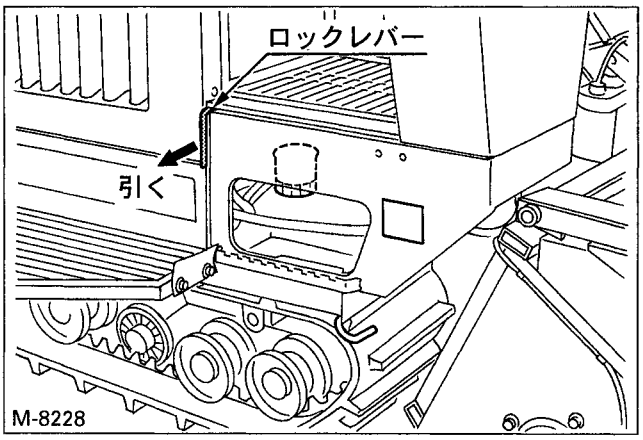
＊オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
(1)作業を中止する。
(2)エンジンを約5分間アイドリング回転で運転した後，エンジンを停止する。
(3)エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
(4)点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
＊エンジンが冷えてないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部，リザーブタンク部などより熱湯が噴出し，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

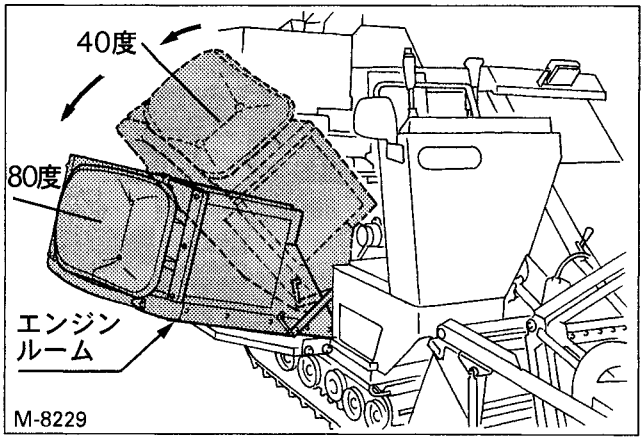
◆開きかた

❶シートフレーム部のクランプを外します。



❷ロックレバーを引き，エンジンルームを外(手前)側に倒して開きます。
エンジンルームは，40度と80度の2段階開きます。40度でいったん止まったあと，再度ロックレバーを引くと80度まで開きます。





◆閉じかた

エンジンルームを閉じたあと，クランプをします。

重 要

＊閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

■脱こくロータカバーオープン

注 意

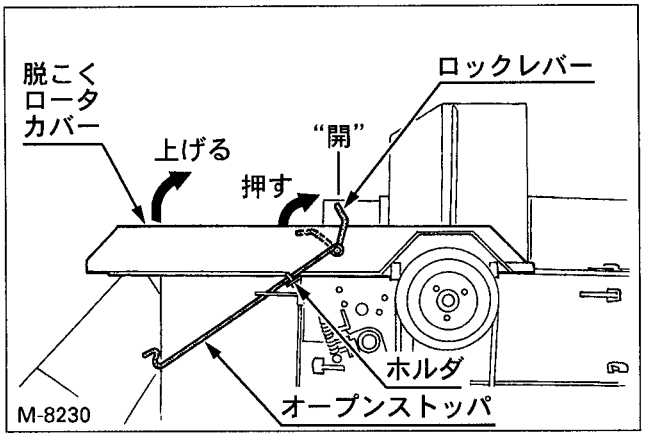
＊手や指をはさまれてケガをするおそれがあるので，脱こくロータカバーはゆっくりと開閉してください。

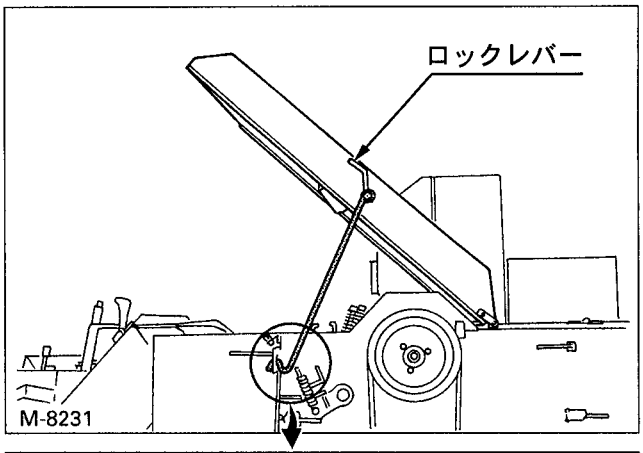
◆開きかた

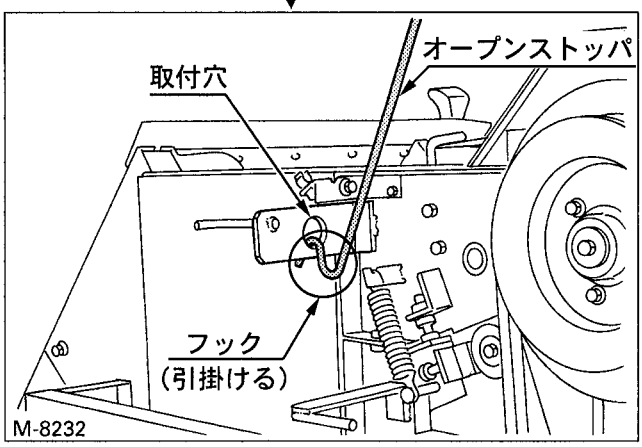
❶脱こく左サイドカバー上を取外します。

❷ロックレバーを"開"方向に押した状態で脱こくロータカバーを上げます。

❸オープンストッパをホルダから取外し，フック部を取付穴に引掛けます。







◆閉じかた

❶脱こくロータカバーを持ち上げて，オープンストッパを取付穴から外し，ホルダに収納します。

❷脱こくロータカバーをゆっくり降します。

補 足

＊閉じたときにすき間がないことを確認してください。

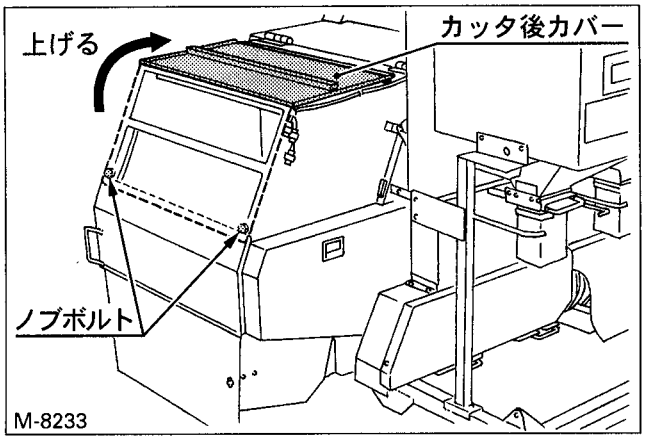
❸脱こく左サイドカバーを取付けます。

■カッタ後カバー・カッタ安全カバーの開閉

◆開きかた

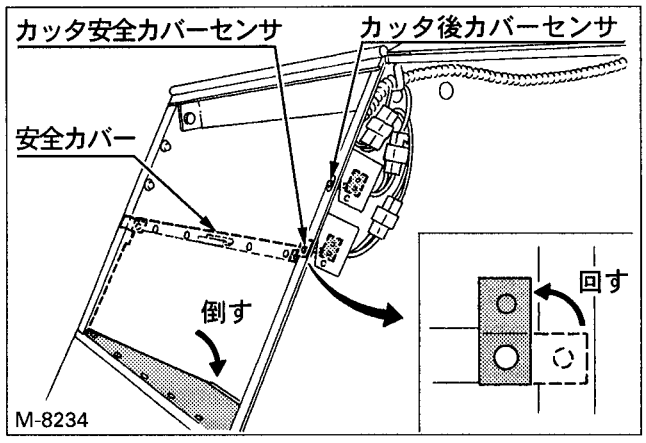
●カッタ後カバー

ノブボルト2個をゆるめ，カッタ後カバーを上げます。



●カッタ安全カバー

安全カバーの取手を引きながら左，右の回動ストッパを90度上側に回し，安全カバーを前(カッタ)側に倒します。



◆閉じかた

開きかたの逆の手順で閉じてください。

補 足

＊エンジンを始動するとき，カッタランプが点滅すると同時にブザーが鳴るときはセンサがはたらいていますので，カバーを正しく閉めてください。

■カッタオープンのしかた

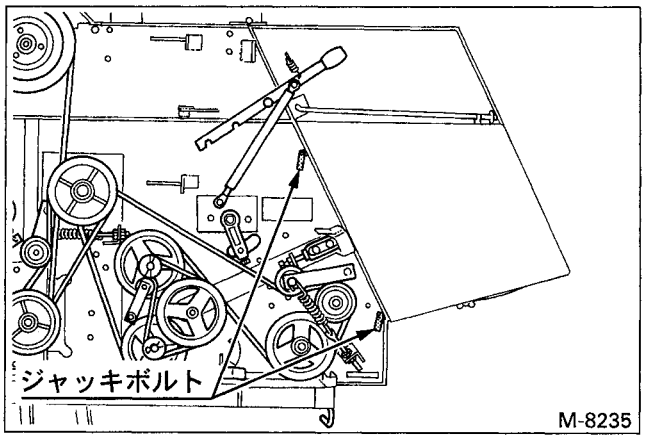
警 告

＊カッタを開いているときは，カッタの刃先に注意してください。

◆開きかた

❶脱こく左サイドカバー上，下を取外します。

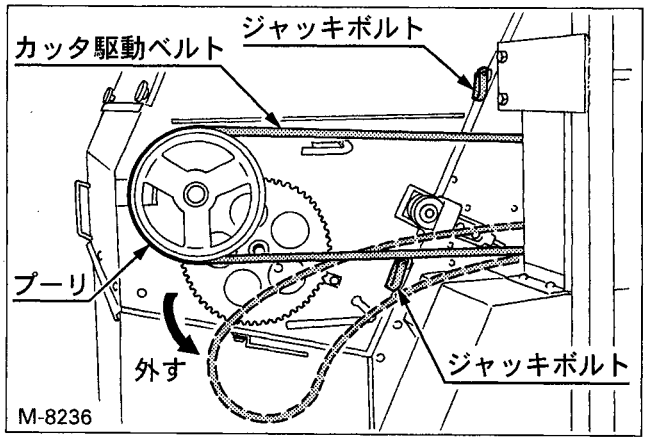
❷ジャッキボルト2本を取外します。



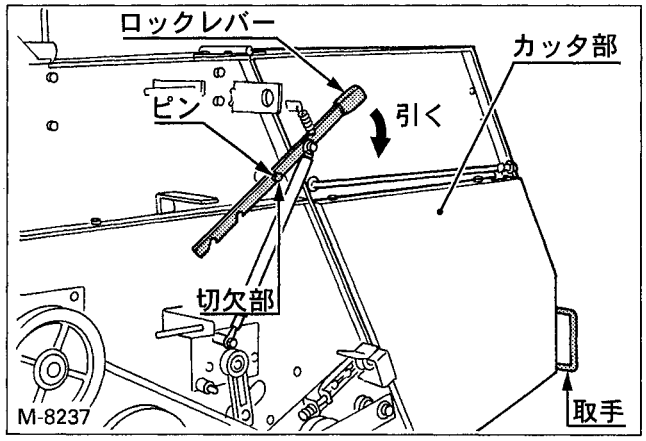
❸カッタ右サイドカバーを取外します。

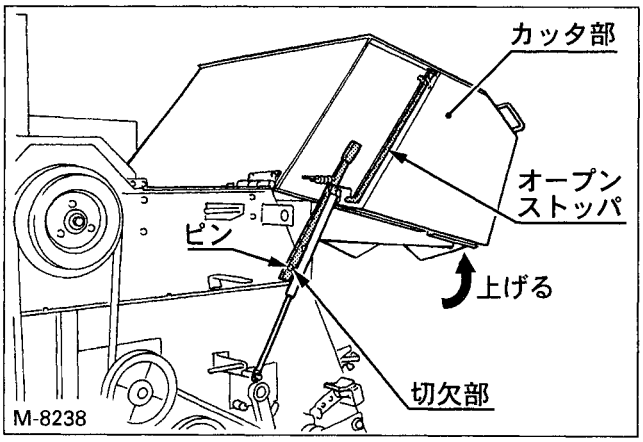
❹蝶ボルト2本と蝶ナット2個を取外して脱こく右サイドカバーを取外し，カッタ駆動ベルトのテンションスプリング調整ナット2個をゆるめます。(**各部ベルトの点検・調整**の**カッタ駆動ベルト**の項参照)

❺カッタ駆動ベルトをプーリから外し，ジャッキボルト2本を取外します。



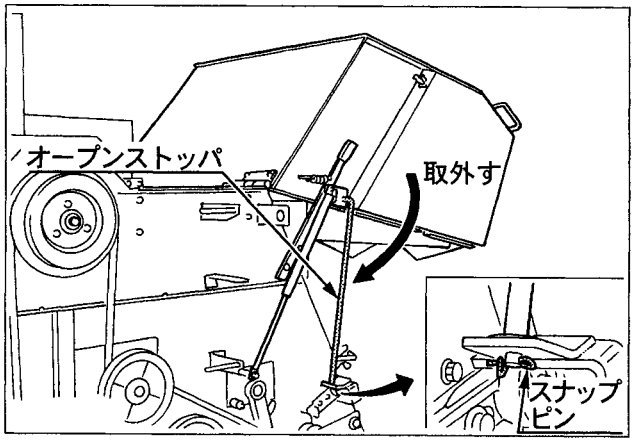
❻ロックレバーを引いてロックを解除し，取手を持ち上げ，カッタ部を上げてロックレバーの切欠部をピントに引掛けてロックします。





❼オープンストッパをホルダから取外し，先端にあるスナップピンを取外します。

❽オープンストッパを取付穴に差込みスナップピンを取付けます。

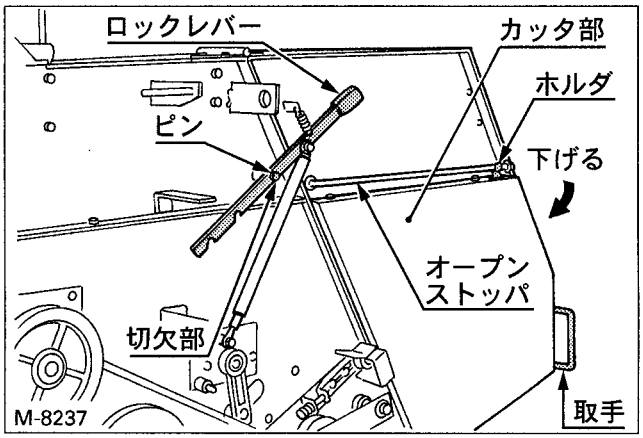


◆閉じかた

❶オープンストッパのスナップピンを取外し，カッタ部を持ち上げてオープンストッパを取付穴から外します。

❷オープンストッパをホルダに収納し，スナップピンを取付けます。

❸ロックレバーを引いてロックを解除し，取手を持ちカッタ部を下げて閉じ，ロックレバーの切欠部をピンに引掛けます。



❹ジャッキボルトを左，右2本ずつ取付けます。

❺カッタ駆動ベルトをプーリに取付けて，テンションスプリングの張り調整を行ないます。(**各部ベルトの点検・調整のカッタ駆動ベルト**の項参照)

重 要

＊ベルトは掛け間違えないでください。

❻脱こく右サイドカバーを蝶ボルト2本と蝶ナット2個で取付けます。

❼カッタ右サイドカバーと脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。

■シーブケースの脱着

注 意

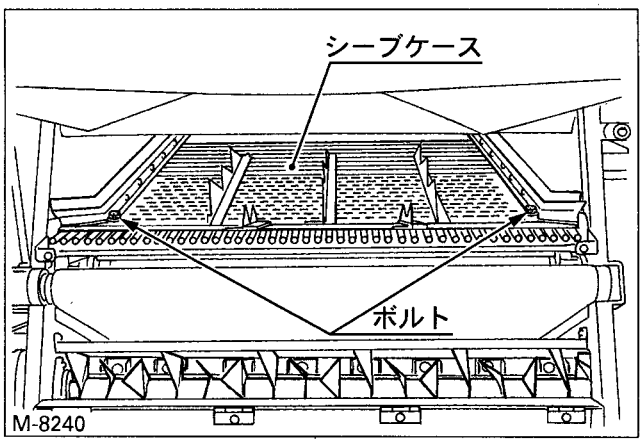
＊脱着作業は，合図を掛け合って2人で行なってください。

◆抜出しかた

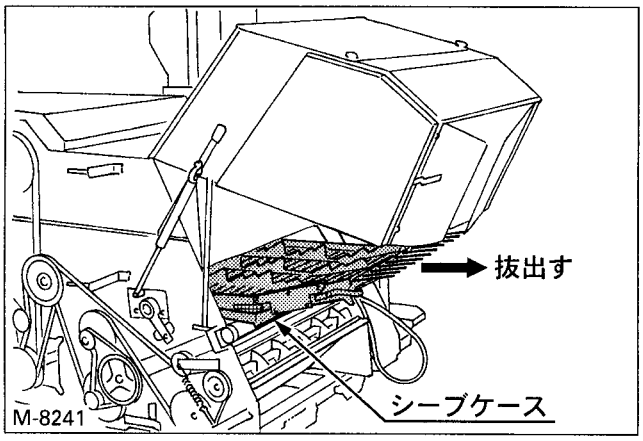
❶リヤシュート・サイドシュートを収納します。(**コンバインの準備のリヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照)

❷カッタオープンをします。
(**カッタオープン**の項参照)

❸シーブケースを固定しているボルト2本を取外します。



❹2人作業で右側と左側からシーブケースを抜出します。

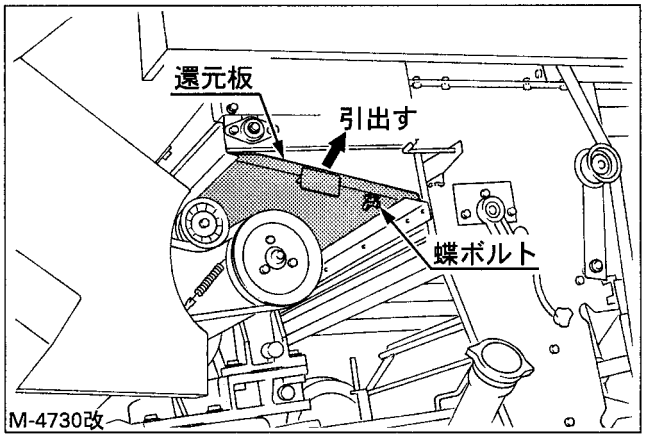


◆取付け方

❶2人作業で右側と左側からシーブケースをそう入します。

補　足

＊最後まで入らないときは，蝶ボルトを取外して還元板を抜き，シーブケース前側を浮かしてください。



❷ボルト2本を締付けてシーブケースを固定します。

❸カッタを閉じます。

❹リヤシュート・サイドシュートを開きます。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊エンジンを必ず止めてください。

＊取外したり，オープンした回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

＊各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。

注　意

＊刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック金具を上げて必ずロックしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

＊リールを上げて作業するときは，下降ロックスイッチを上げたあと，ロック金具で下降ロックスイッチを必ずロックしてください。

＊空運転するときに運転席以外は近づかないでください。

＊オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。(クローラなどのゴム製品は損傷します。)

＊バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。

＊刈刃やカッタの掃除・注油時は刃部に注意してください。

重　要

＊水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。

＊掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除のあとカバーを取付け忘れるとこく粒が飛散します。

＊機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着して残留こく粒が多くなります。

＊取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

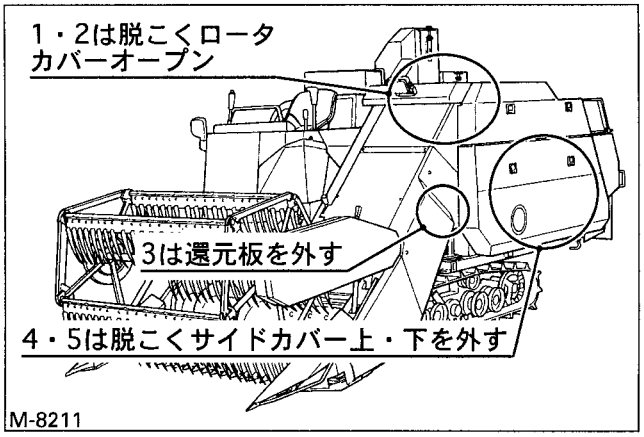
■掃除のしかた

作物の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

◆掃除のしかた

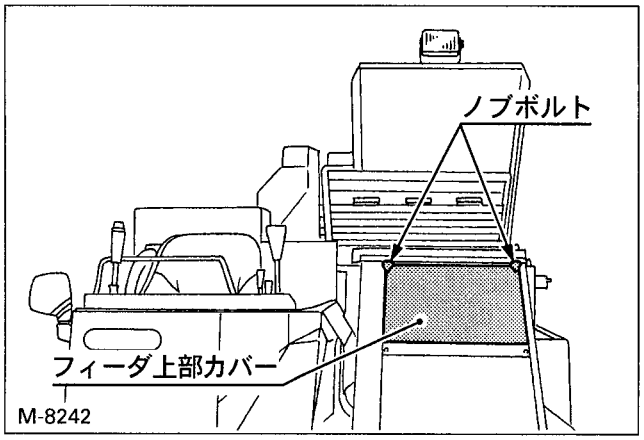
刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，脱こくクラッチを切りエンジンを止めます。
掃除をするときには，各部をオープン(開閉)又は，掃除口を開いて，圧縮空気や付属部品のブラシなどを使用してください。

◆掃除箇所



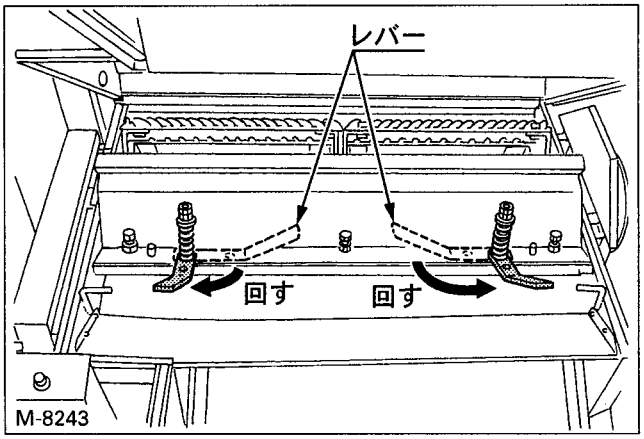
1.フィーダ上部カバー内

脱こくロータカバーをオープンしたあと，ノブボルト2本を取外してフィーダ上部カバーを取外してください。



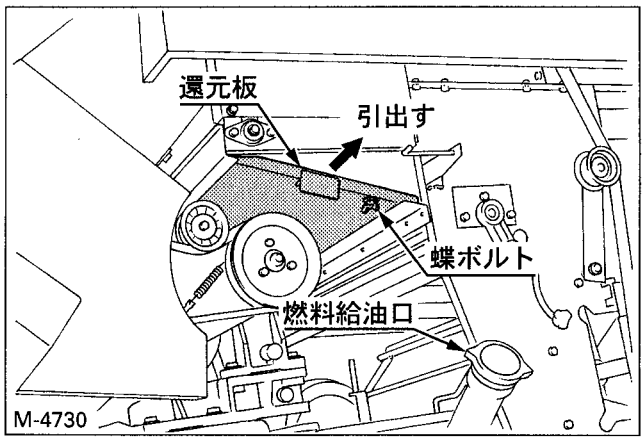
2.抵抗板内

脱こくロータカバーをオープンしたあと，左・右のレバーを前方に回して抵抗板を持ち上げて取外してください。

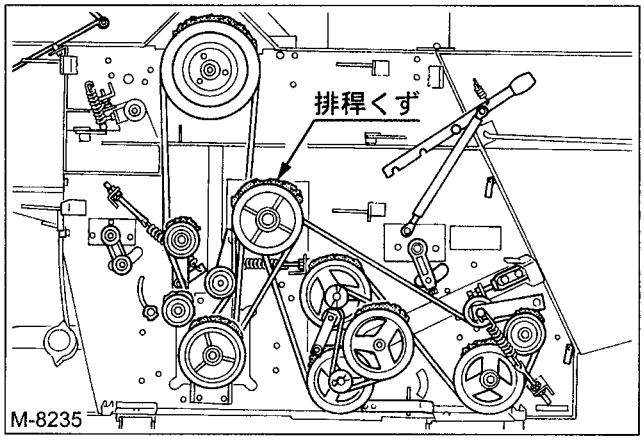


3.還元板の脱着

蝶ボルトを外し，還元板を手前に抜出します。

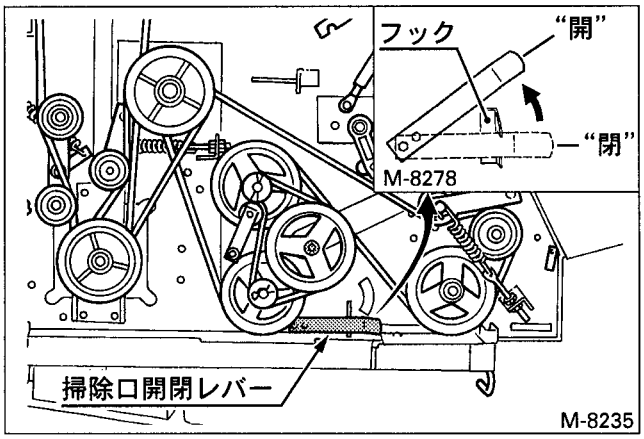


4.ベルトカバー内



5. 1番横スクリュ下部掃除口

掃除口開閉レバーを**"開"**方向に操作して，1番横スクリュ下部にある掃除口の開閉カバーを開いてください。閉じるときは，必ず開閉レバーをフックしてください。

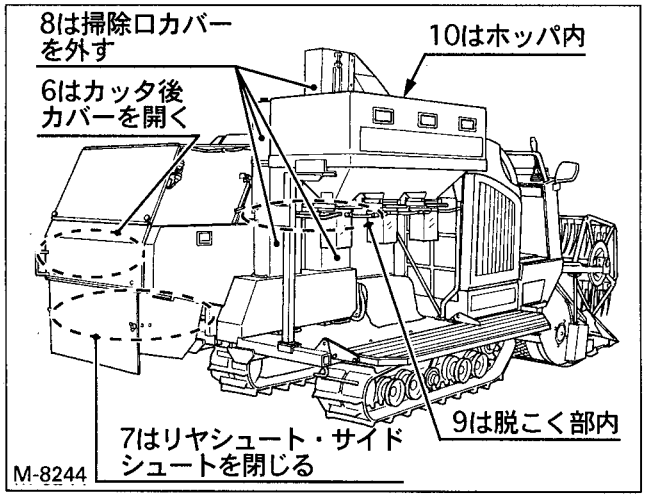


重 要

＊掃除口開閉レバーを使用しないときは，閉位置にフックしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

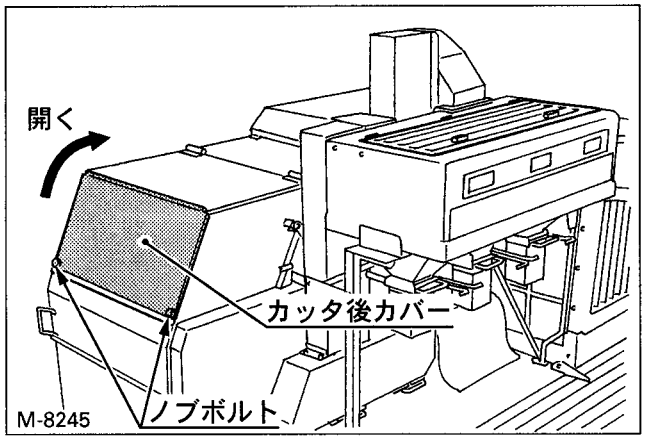
補 足

＊クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し，開閉しなくなります。



6.カッタ部

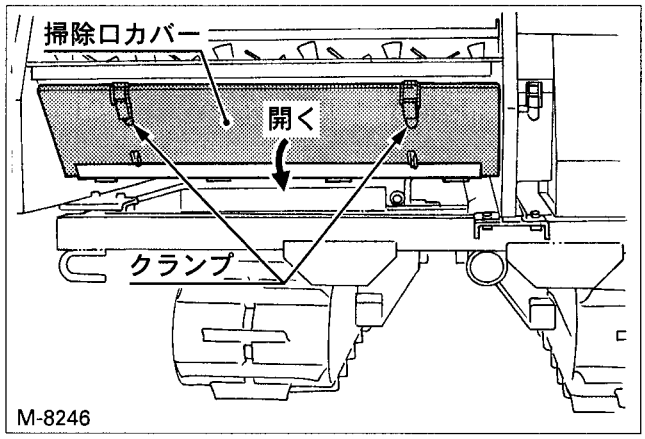
カッタ後カバーのノブボルト2本を取外して，カバーを開きます。



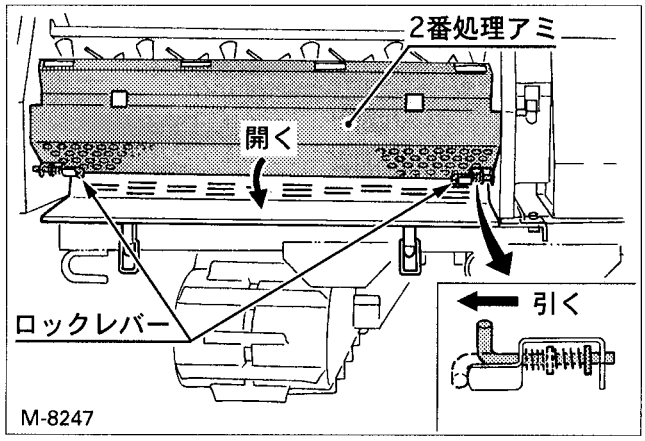
7.2番横スクリュ下部掃除口

❶リヤシュート・サイドシュートを閉じます。

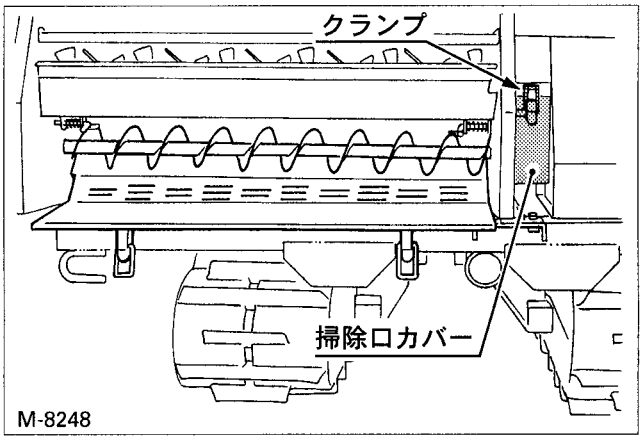
❷2番横スクリュ下部にある掃除口カバーのクランプ2箇所を外して，掃除口カバーを開きます。



❸左・右のロックレバーを引いて2番処理アミを開きます。



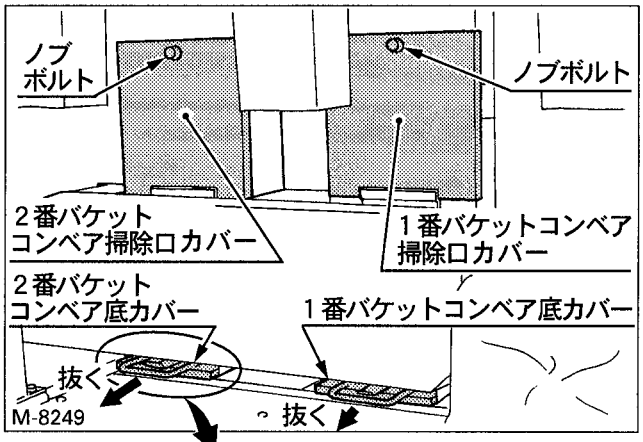
❹クランプを外して機外2番処理部の掃除口カバーを開きます。

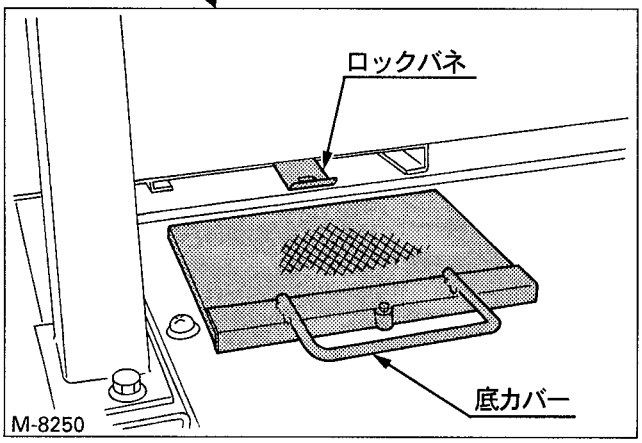


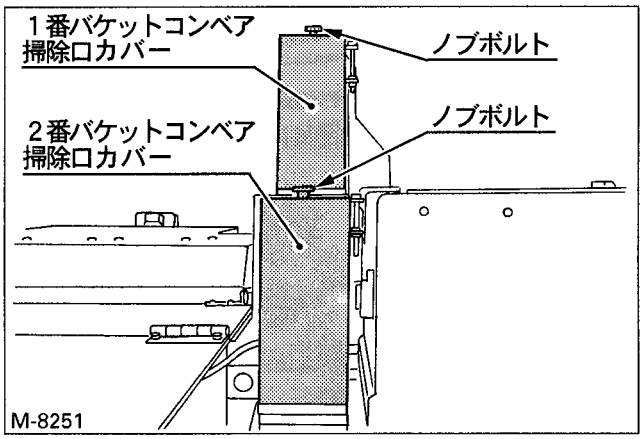
8.1番・2番バケットコンベア掃除口

❶ロックバネを上げて底カバーを抜きます。

❷ノブボルトを取外し，掃除口カバーを少し上げて取外します。

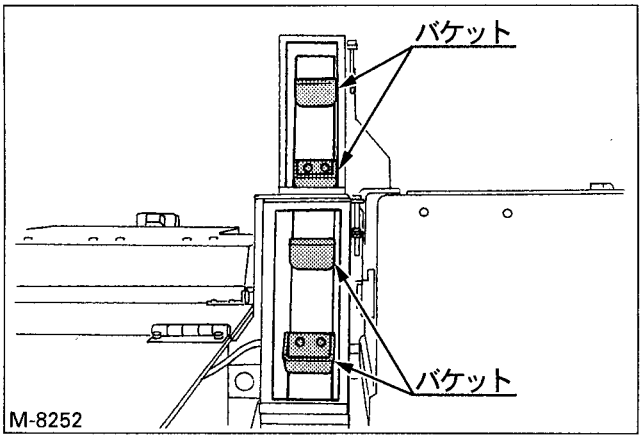






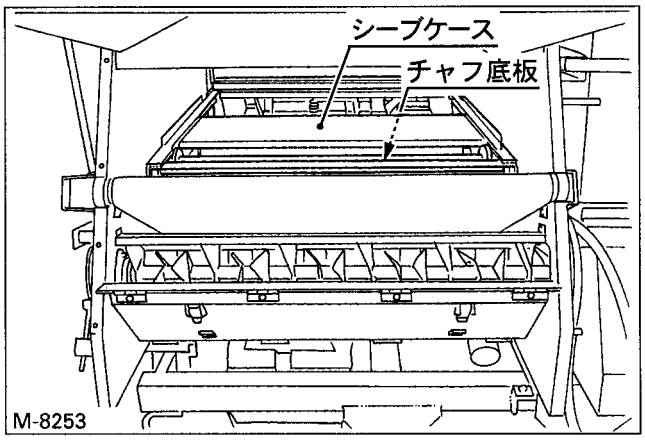
補　足

＊バケットの汚れを布などで拭き取ってください。



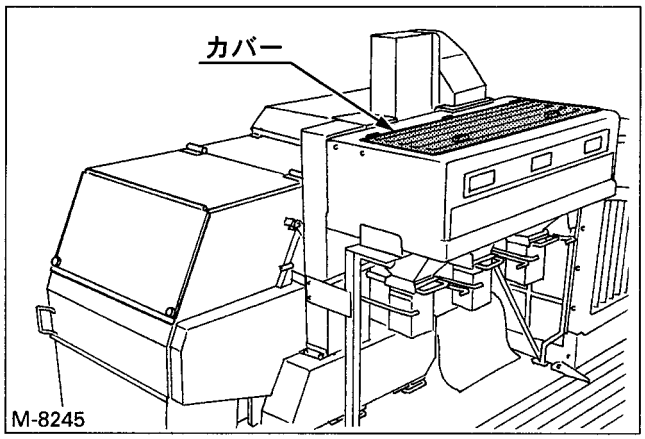
9.脱こく部内

シーブケースを取外し(**シーブケース脱着**の項参照)チャフ底板や周辺を掃除してください。



10.ホッパ内

開閉カバーを開いてください。

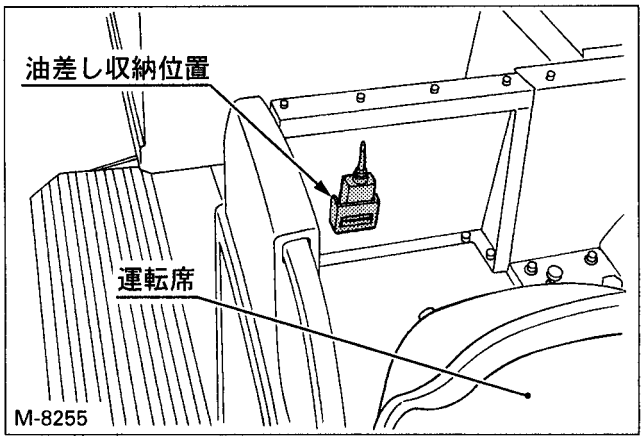


■注油のしかた

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

●油差し収納位置

運転席後部の下図の位置に収納してください。



重 要

＊指定のオイル以外は使用しないでください。また，廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

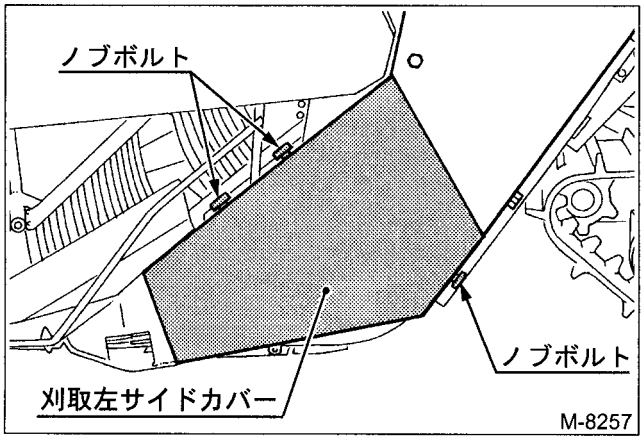
オイルの種類
クボタ純オイル　D10W30又は，D30

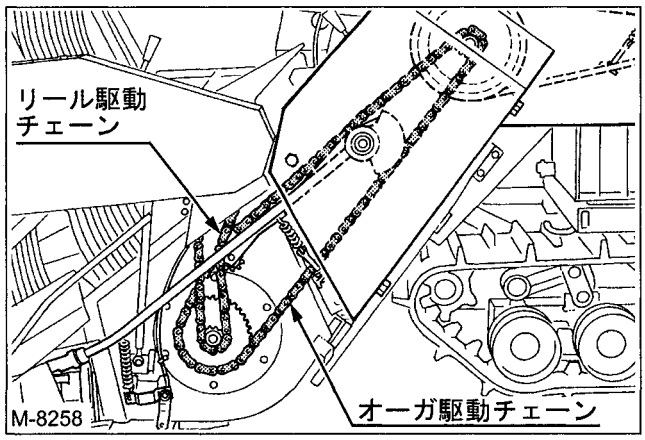
●注油のしかた

平坦な場所に刈取部を接地させたあと，駐車ブレーキを掛けます。

●オーガチェーン・リールチェーン(注油)

ノブボルト3本を取外して刈取左カバーを外してください。



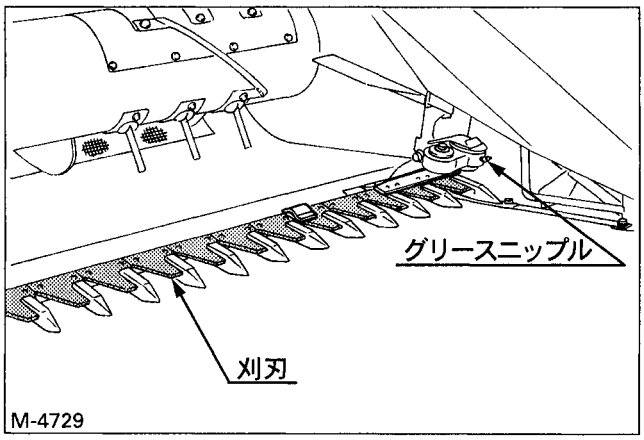


●刈刃(注油・グリース注入)

リールを上げてリールロックスイッチをロックし，下降防止をしてください。

❶刈刃全体に注油します。

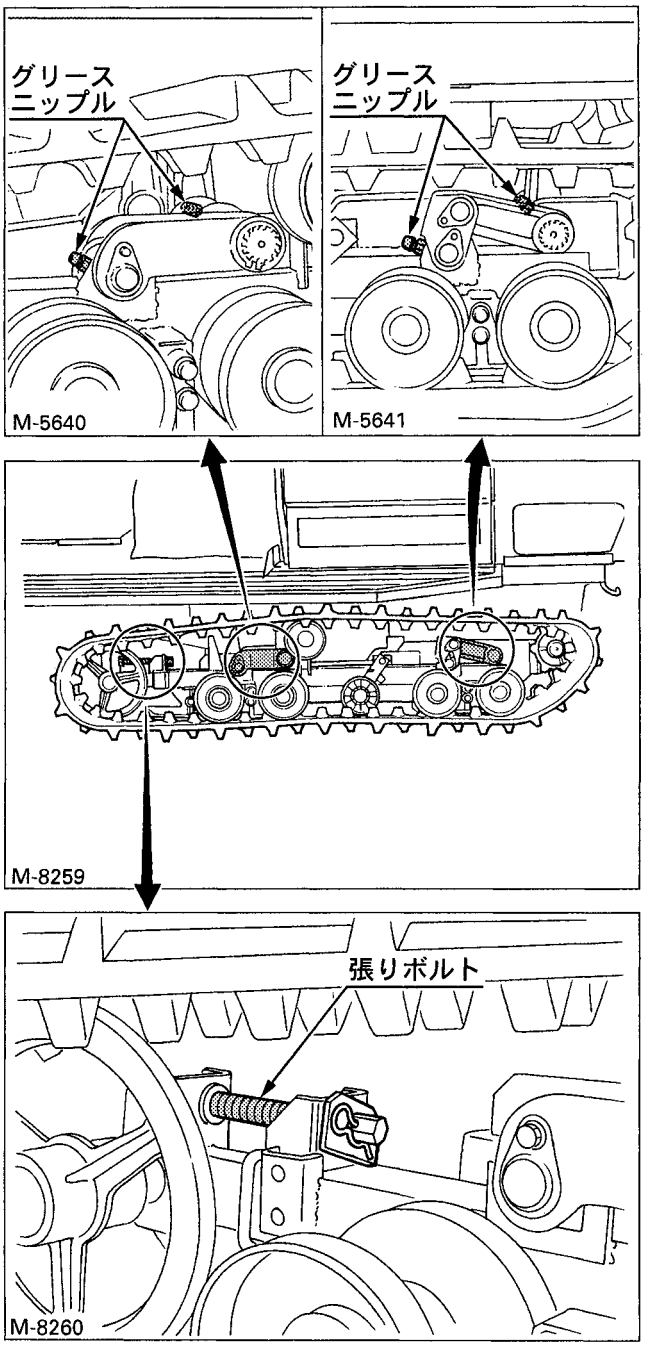
❷グリースニップルからグリースを注入します。



●クローラ(グリース塗布・注入)

❶転輪アームの左，右8箇所のグリースニップルにグリースを注入します。

❷クローラ張りボルトにグリースを塗布します。



定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。
コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊各部の調整・点検・交換を行なうときは，エンジンを必ず停止させ，各レバー類を"切"位置にして，回転部を止めてから作業をしてください。
＊取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降してください。もし刈取部やリールを上げた状態で作業するときは，刈取下降ロック金具やリールロックスイッチで下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊エンジンルームオープンをするときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊オイル交換中は火気厳禁。
＊刈刃やカッタの点検・掃除時は刃部に注意してください。
＊機械は平たんで，回りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先にご相談ください。
＊点検・交換の時期は，使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早目の点検をお願いします。

■オイル・フィルタ類の交換とチェーン・ベルト・クローラの張り調整

＊新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
＊チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20又は，50時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■使用済廃棄物の処分について

廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

■使用者が行なってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 電気系統（自動制御関係）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統
- 電気部品と電気系統
- カッタ刃の交換

■定期点検一覧表

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整

△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
エンジン部	ファン駆動ベルト	調整	交換		●		○		△	●		○		△	●		50又は，100時間ごと	250時間ごと		67 ☆
	エアクリーナエレメント	掃除	交換	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	△	50時間ごと	300時間ごと		60
				（点検・整備が6回目のときに交換）																
	インレットパイプ(エアクリーナ)	締付け	交換				○			△			○			△	注1	注2	△	61 ☆
				（注1：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検） （注2：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）																
	フューエルフィルタアッシ	—	交換					△				△				△	—	200時間ごと		62 ☆
	フューエルフィルタカートリッジ	—	交換									△					—	400時間ごと		62 ☆
	オイルフィルタカートリッジ	—	交換		▲			△				△				△	—	200時間ごと		63 ☆
				（エンジンオイル交換が2回目のときに交換）																
	フユーエルパイプ	締付け	交換				○			△			○			△	注3	注4	△	61 ☆
				（注3：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検） （注4：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）																
	燃料こしあみ	掃除	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—		—
	オイルドレーンゴムホース	締付け	交換				○			△			○			△	注5	注6	△	61 ☆
				（注5：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検） （注6：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）																
	ラジエータホース	締付け	交換				○			△			○			△	注7	注8	△	61 ☆
				（注7：使用時間が150時間又は，6カ月ごとの早い方で点検） （注8：使用時間が300時間又は，2年ごとの早い方で交換）																
	防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	—		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—		62
走行・操作部	走行(ミッション)駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		67 ☆
	(駐車)ブレーキワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間	500時間ごと		64 ☆
	クラッチワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		64 ☆
	パワーステアリングレバー切換えワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		65 ☆
	パワーステアリングレバーリリーフワイヤ	調整	交換			○		○		○		○		△		○	100時間ごと	500時間ごと		65 ☆
	クローラ	調整	交換		●		○		○		○		○	△	●		50又は，100時間ごと	500時間ごと		86 ☆
	HSTオイルフィルタカートリッジ	—	交換		▲					△						△	—	300時間ごと		63 ☆
	油圧タンクオイルフィルタ	—	交換		▲					△						△	—	300時間ごと		63 ☆
	車軸・転輪・後輪各シール	—	交換											△			—	500時間ごと		☆
	キャリアローラシール	—	交換											△			—	500時間ごと		☆
刈取部	刈取クラッチベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		68 ☆
	カウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		70 ☆
	刈刃駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		71 ☆
	フィーダ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		71 ☆
	リール駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		71 ☆

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

○：点検と調整・掃除・締付け(バンド)　　●：ならし運転後の点検と調整
△：交換　　▲：ならし運転後の交換

	点検箇所・項目	時間 点検	時間 交換	点検・交換時期 アワメータ表示時間(時間) 20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	それ以降 点検	それ以降 交換	2年ごと	参照ページ
刈取部	オーガ駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		73 ☆
	リール駆動チエーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		73 ☆
	ビータ駆動チェーン	—	交換							△						△	—	300時間ごと		73 ☆
	フィーダチェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		74 ☆
	フィンガガイド	—	交換						△					△			—	250時間ごと		☆
	刈刃	調整	交換			○		○		△		○		○		△	100時間ごと	300時間ごと		81 ☆
	刈刃アーム・リンクボール取付ボルト,ナットの点検	増締め	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—		☆
脱こく部	脱こくクラッチベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		68 ☆
	脱こくカウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		68 ☆
	供給ロール駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		69 ☆
	処理部カウンタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		69 ☆
	脱こくロータ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		69 ☆
	処理部駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		70 ☆
	選別駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		70 ☆
	供給ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		75 ☆
	選別ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		78 ☆
	供給ベルト駆動チェーン	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		74 ☆
	1番・2番バケットコンベアベルト	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		80 ☆
	1番・2番バケットカップ	点検	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，100時間ごと	300時間ごと		80 ☆
	各ハンプ・スポンジ	—	交換							△						△	—	300時間ごと		☆
カッタ部	カッタ駆動ベルト	調整	交換	●		○		○		△●(320)		○		○		△●(620)	20又は，100時間ごと	300時間ごと		69 ☆
	カッタ刃	調整	交換		●	○		○		△		○		○		△	50又は，	300時間ごと		82 ☆
電装部	ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	—	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	—	△	82,85 ☆
	ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	85
	ランプ（電球）	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	85
	ホーンスイッチ	点検	—			○		○		○		○		○		○	100時間ごと	—	△	85
	バッテリ	充電	—	（注9：セルモータが回りにくいとき充電）													注 9	—		82
	コード	点検	交換	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	注 10		82
	ワイヤハーネス	点検	交換	（注10：破損しているとき交換）													50時間ごと	注 10		85

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場でおこなってください。

■給・注油(水)点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期(アワメータ表示時間) 点検	交換	容量・規定量(L)	種類	参照ページ
燃料	燃料タンク	給油	作業前又は，作業後	—	●容量……28	ディーゼル軽油	57
オイル	エンジン	補給・交換		●初回…50時間目 ●2回目以降…100時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 ……3.5～5.1	クボタ純オイル D30又は，D10W30	57,58
				—	—		—
	トランスミッションケース	補給・交換	100時間ごと	●初回…50時間目 ●2回目以降…200時間ごと	＊規定量 検油口からオイルがにじむまで ……6.8	クボタ純オイル スーパーUDT	58
	油圧オイルタンク	補給		●初回…50時間目 ●2回目以降…300時間ごと	＊規定量 オイルゲージの**下限**と**上限**の間 ……11.3～12.5		59
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前又は，作業後	冬期停止時は排出又は，不凍液を入れ	＊規定量 タンク測面の**L**(下限)と**F**(上限)の間	清水又は，クボタ不凍液	59
	バッテリ液		作業シーズン前，後	—	＊規定量 バッテリ測面の**下限**と**上限**の間	精製水	82
グリース	走行・操作部 車体水平制御アーム軸受部	補給	作業シーズン前，後	—	適量	クボタスペアグリース	☆
	脱こく部 カウンタギヤケース	補給	分解時				
	脱こく部 1番バケットコンベアギヤ	塗布	作業シーズン前，後				
	脱こく部 2番バケットコンベアギヤ						
	カッタ カッタギヤ						

＊参照ページに☆印のある整備項目(交換)については，購入先又は，整備工場で行なってください。

重要

各部への補給と交換

＊点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

＊使用するオイル・グリースは，指定の**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

＊補給や交換の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

■燃料・オイル・グリースの点検・補給・交換

注 意

＊燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。

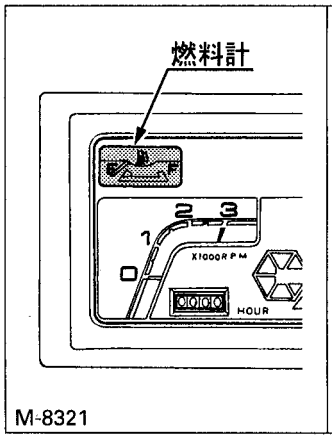
重 要

＊補給・交換を行なうときは，機械の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
- 廃油は使用しないでください。
- 給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。
- 使用するオイル・グリースは**クボタ純オイル・スペアグリース**を使用してください。

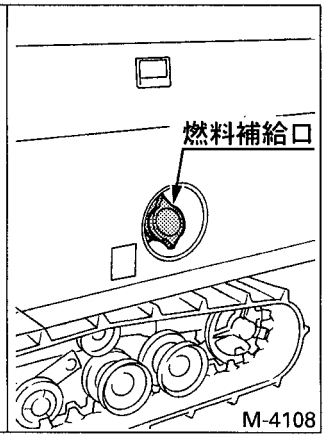
＊点検するときは機体を水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示しません。

1.燃料

燃料計の指針が**"E"**(空)に近づいたら早めに燃料を補給してください。



M-8321



M-4108

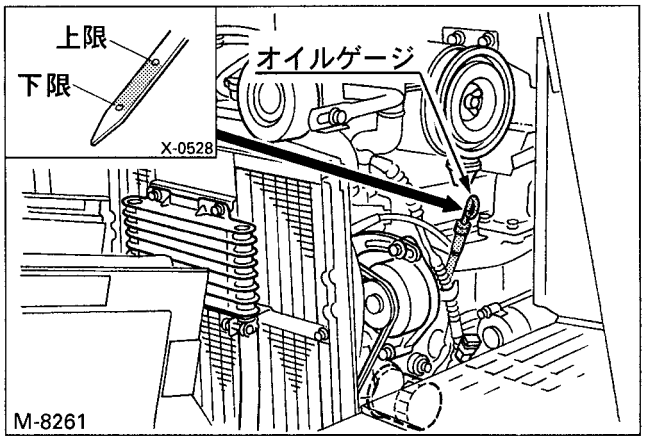
重 要

＊給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

2. エンジンオイル

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

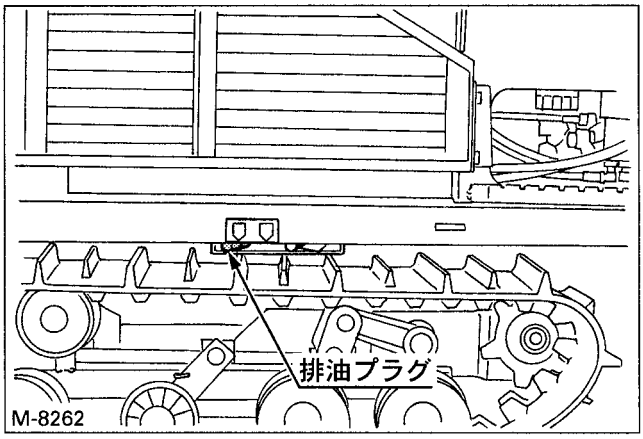


M-8261

◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。



●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓を締付けてください。

重　要

＊指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

気温	オイルの種類	規定オイル容量
15℃以下のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W-30	●上限線…約5.1 L ●下限線…約3.5 L
15℃以上のとき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W-30	

＊クボタ純オイルの入手が困難な場合は，CC級以上のオイルをお使いください。
この場合は気温により下表のように使い分けてください。

気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

※10W-30はオールシーズン用です。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

3. トランスミッションケースオイル

警　告

＊排油するときは，刈取部を上げ，刈取下降ロック金具を上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

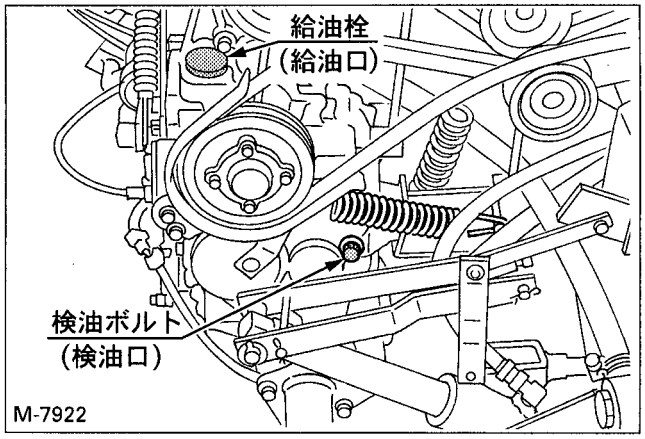
◆交換

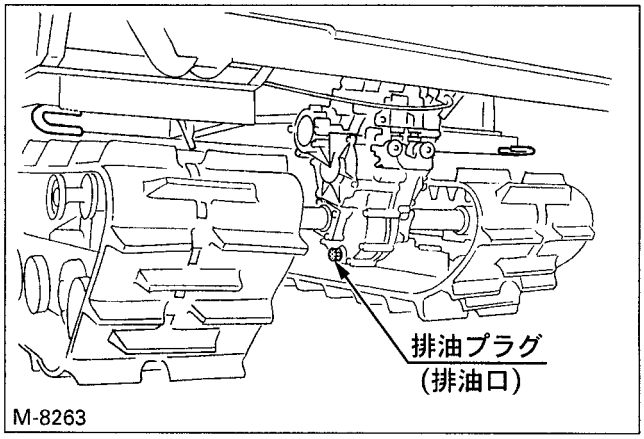
●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。





オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	7L

重　要

＊給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

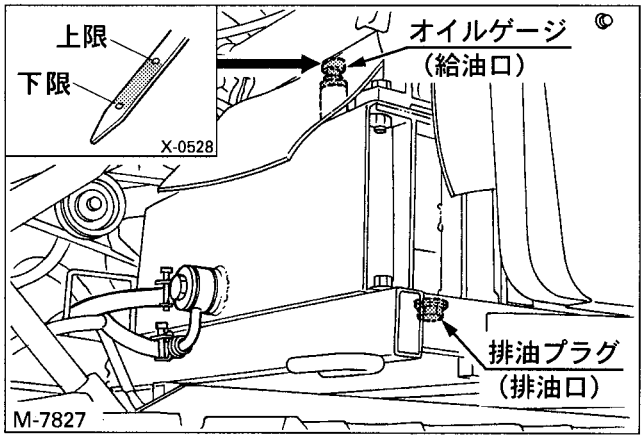
補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

4. 油圧オイルタンクオイル

◆点検・補給

オイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。



◆交換

●排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

●給油のしかた

排油プラグを締付けて，給油口から規定量のオイルを給油し，オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイルスーパーUDT	●上限線…約12.5 L ●下限線…約11.3 L

重　要

＊エンジン始動後，エンジン回転数を約1500rpmに合わせて1分間以上は負荷をかけずに運転を行なってください。

補　足

＊付属部品のじょうごを使用して給油してください。

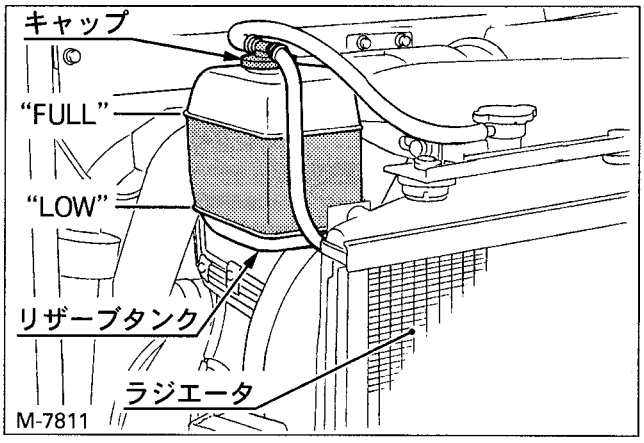
■ラジエータ冷却水の点検・交換

注　意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

◆点検

エンジンルームをオープンしたあとリザーブタンクの水量が**"LOW"**(下限)と**"FULL"**(上限)の間にあるか確かめます。**"LOW"**(下限)の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。



補　足

＊**"FULL"**(上限)の線(約0.6 L)以上は補給しないでください。

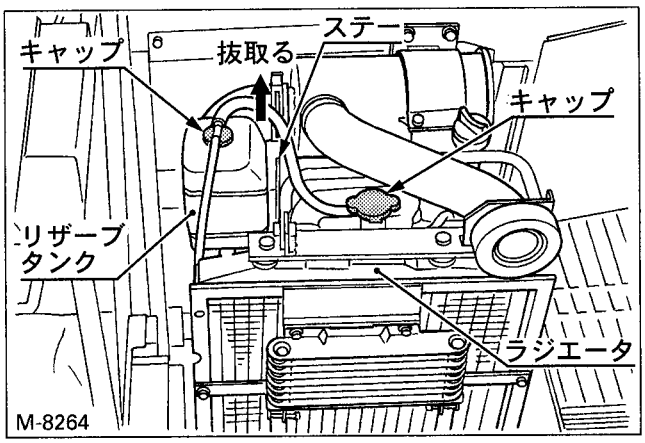
◆交換

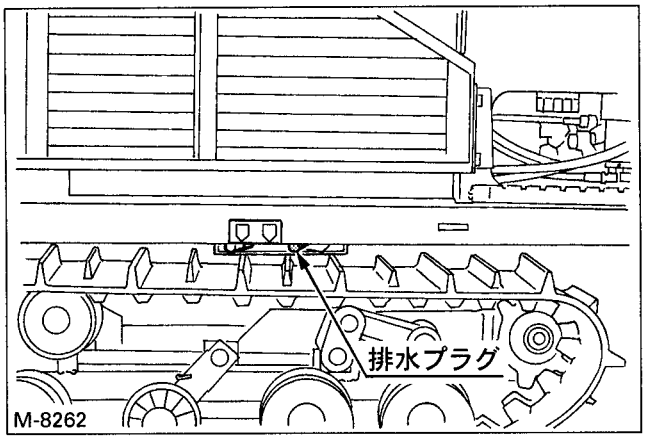
❶ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。

❷リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ(吸引パイプ付)を取外したあと，ステーからリザーブタンクを外して排水します。

❸水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

❹排水プラグを締付けたあと，ラジエータ及びリザーブタンクに不凍液と清水を混合した液を入れます。





ラジエータ容量（L）
3.7

❺ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

補　足

＊不凍液の混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先の人に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はロングライフクーラントをご使用ください。

●不凍液混合比率表

外気温度（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準　不凍液50%

※新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

■エアクリーナの点検・掃除・交換

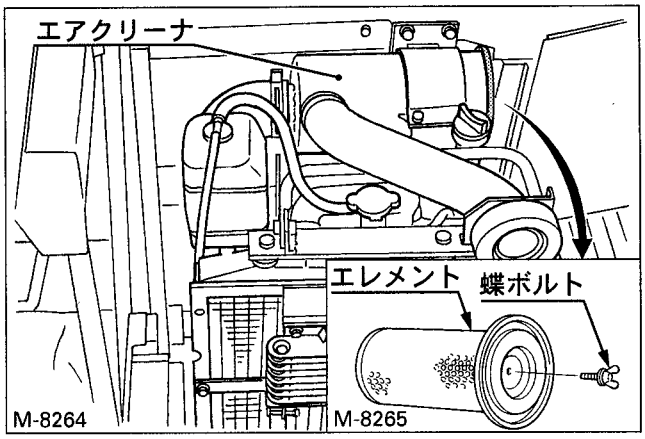
重　要

＊高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。

＊エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。

◆点検

蝶ボルトを取外してエアクリーナのエレメントを抜きます。



◆掃除

エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってゴミを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。

補　足

＊エアの圧力は0.69Mpa(7.0kgf/㎠)をこえないよう注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。

＊カーボンや油分が付着しているときは，クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。

【参考】

＊エレメント洗浄剤
ND-1500(品番：15221-8665-1)

■パイプ・ホース類の点検・交換

注 意

＊運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。

◆点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重 要

＊オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付を起します。
＊油もれや水もれをしていなくても，**2年経過しているときや劣化の激しい場合**は交換してください。

◆交換

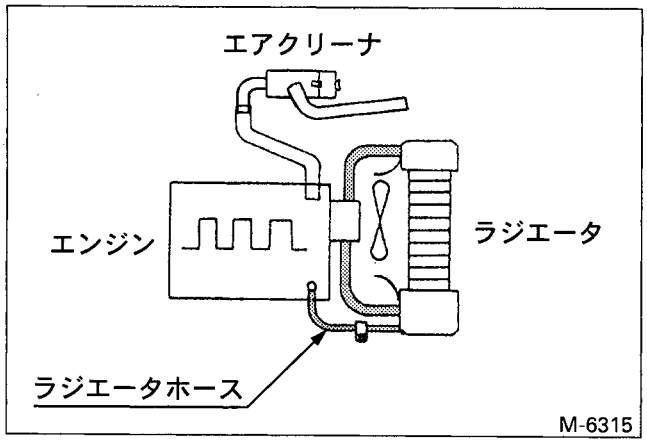
交換時の取付け不良やバンドの締付忘れ，締付不足がないよう取付けてください。

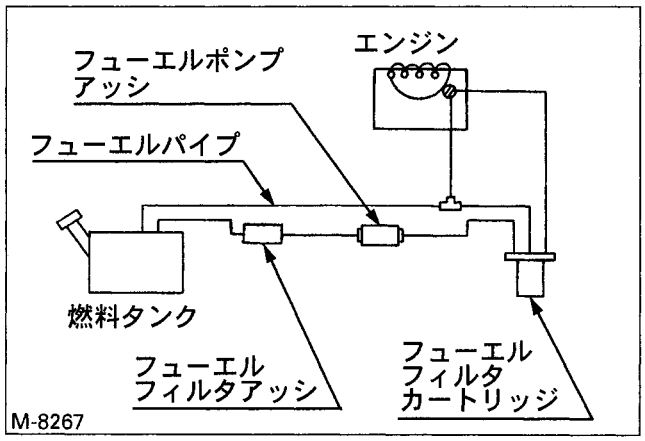
重 要

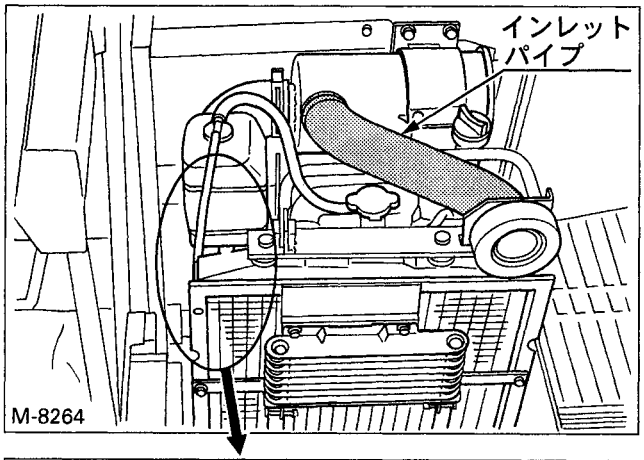
＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。

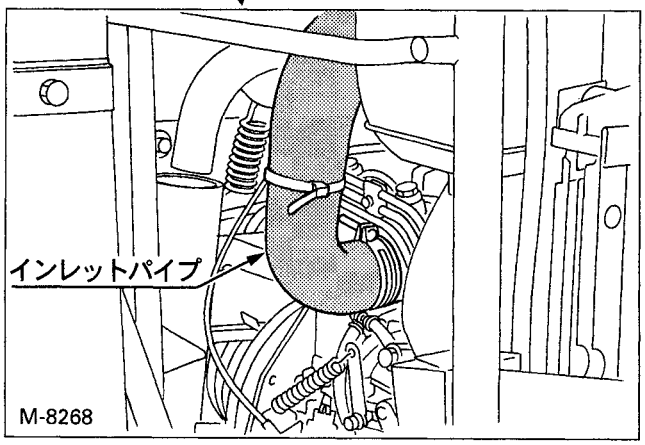
補 足

＊フューエルパイプ交換後は，スイッチキーを**“入”**位置にすると５～10秒で自動的にエア抜きされます。（**フューエルフィルタアッシの交換**の項参照）





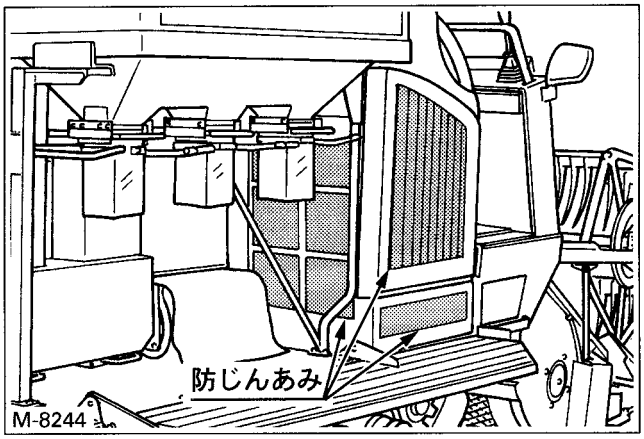


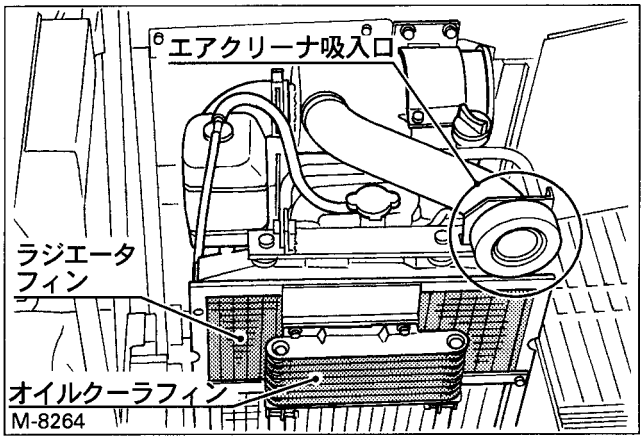


■防じんあみ，ラジエータフィンの掃除
■オイルクーラフィンの掃除

◆掃除

エンジンルームをオープンしたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。





重　要

＊ヘラやドライバなど固いものを使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。特殊フィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

＊エアクリーナの吸入口から水が入ると，エンジンの不調又は，故障の原因となりますので，水が入らないように吸入口を水を通さない物で覆ってください。

■フューエルフィルタカートリッジ・フューエルフィルタアッシの交換

重　要

＊燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料噴射ポンプや噴射ノズルが摩耗し，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊交換後は，スイッチキーを**"入"**位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

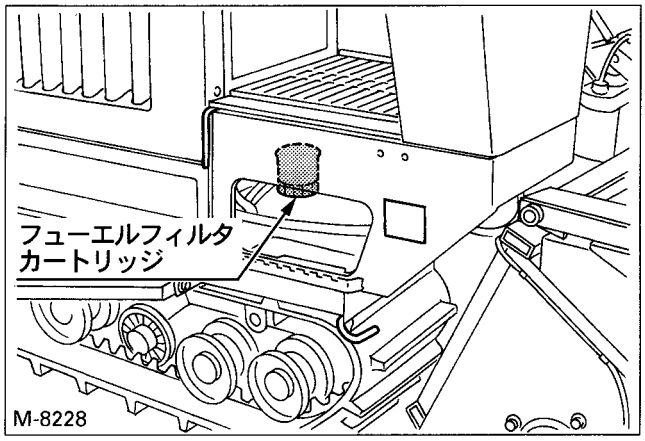
◆フューエルフィルタカートリッジの交換

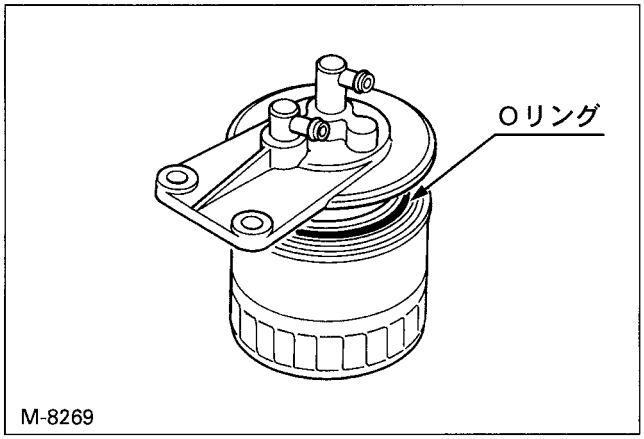
❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



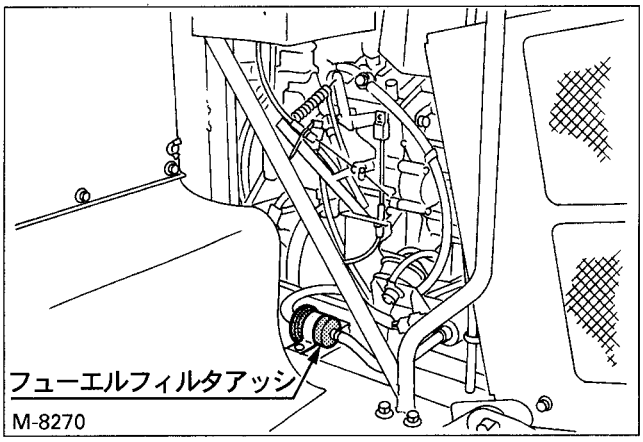


重　要

＊Oリングは傷つけないようにしてください。また，溝にきちんと入れて組付けてください。

◆フューエルフィルタアッシの交換

エンジンルームをオープンしてフューエルフィルタアッシを交換してください。



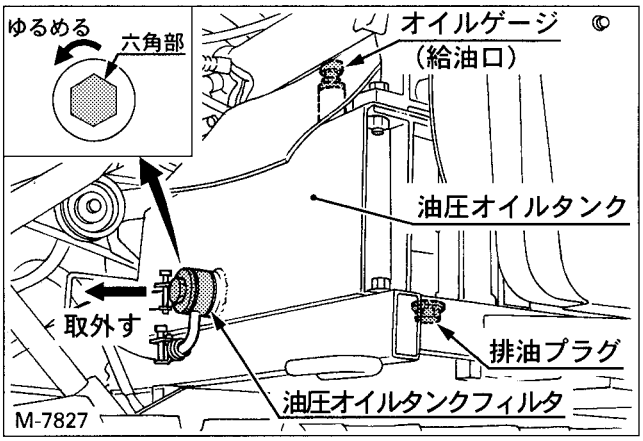
■HSTオイルフィルタカートリッジ・油圧オイルタンクフィルタの交換

フィルタカートリッジとタンクフィルタは同時に交換を行なってください。

◆交換

❶オイルゲージを外してから，油圧オイルタンクの排油プラグを外し，オイルを排出します。

❷タンクフィルタの六角部をゆるめたあとタンクフィルタを取外します。



❸新しいタンクフィルタを取付けます。

❹排油プラグを締付けます。

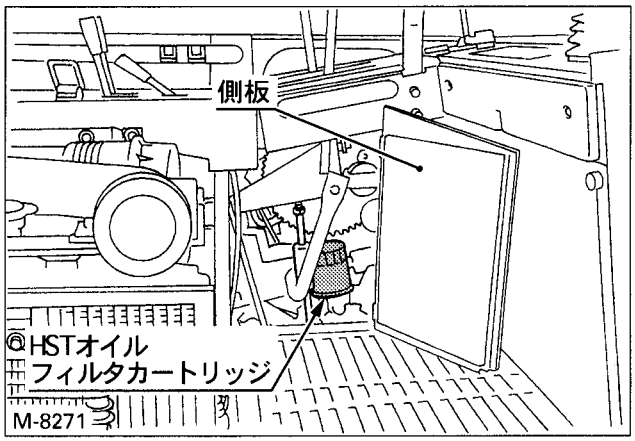
❺エンジンルームをオープンしたあと，ステップ左側の側板を開きます。

❻専用工具を使ってフィルタカートリッジを取外します。

補　足

*取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❼新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。



❽**油圧オイルタンクオイルの点検・補給**の項を参照し，オイルを規定量給油します。

重　要

＊給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて，オイルゲージで点検を行ない，下限より少ないときは，オイルを追加補給してください。

■エンジンオイルフィルタ カートリッジの交換

2回目のエンジンオイルの交換(**エンジンオイルの交換**の項参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームをオープンしてください。

◆交換

❶専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補 足

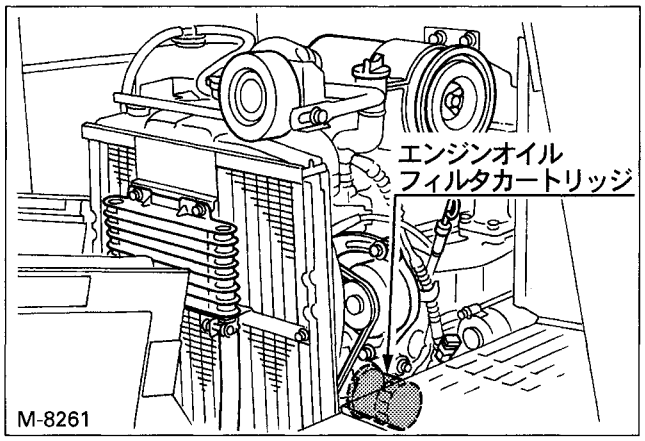
＊取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

❷新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

❸オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，5分程度エンジンを運転して各部及び油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補 足

＊オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。



重 要

＊エンジンオイルを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

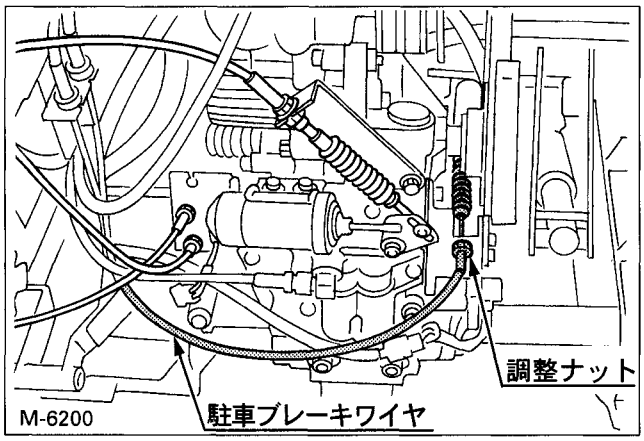
■各部ワイヤの点検・調整

注 意

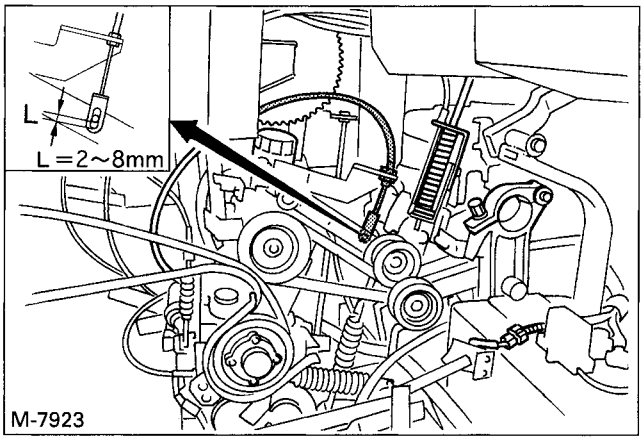
＊点検・調整時は，刈取クラッチを"切"にしてください。

◆駐車ブレーキワイヤ・クラッチワイヤの調整

(1)駐車ブレーキワイヤの調整は，ペダルロックした状態で，ワイヤバネの伸びが17～19mmとなるように調整ナットで調整してください。

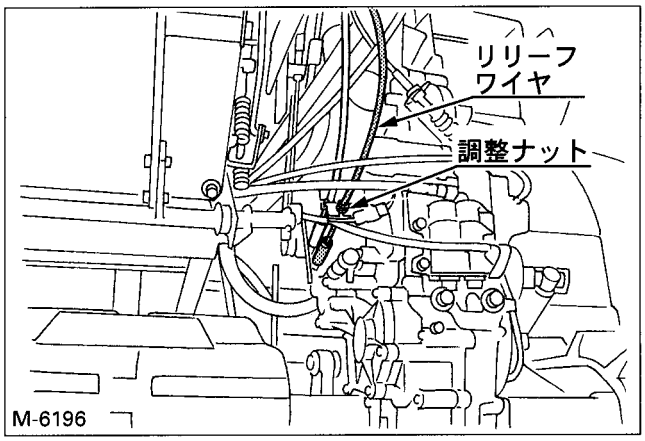


(2)クラッチワイヤの調整は，ペダルを作動させないでインナワイヤの遊びが1mm以下で下図のL＝2～8mmになるようにアウタワイヤ取付け部を調整してください。

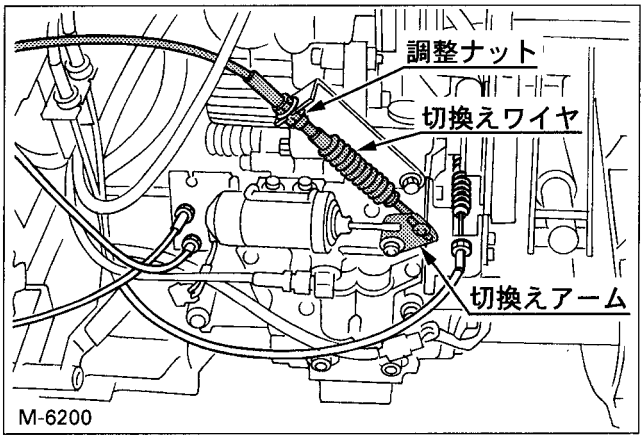


◆リリーフワイヤ，切換えワイヤの調整

(1)リリーフワイヤの遊びは，4.5～6.5mmとなるように調整ナットで調整してください。



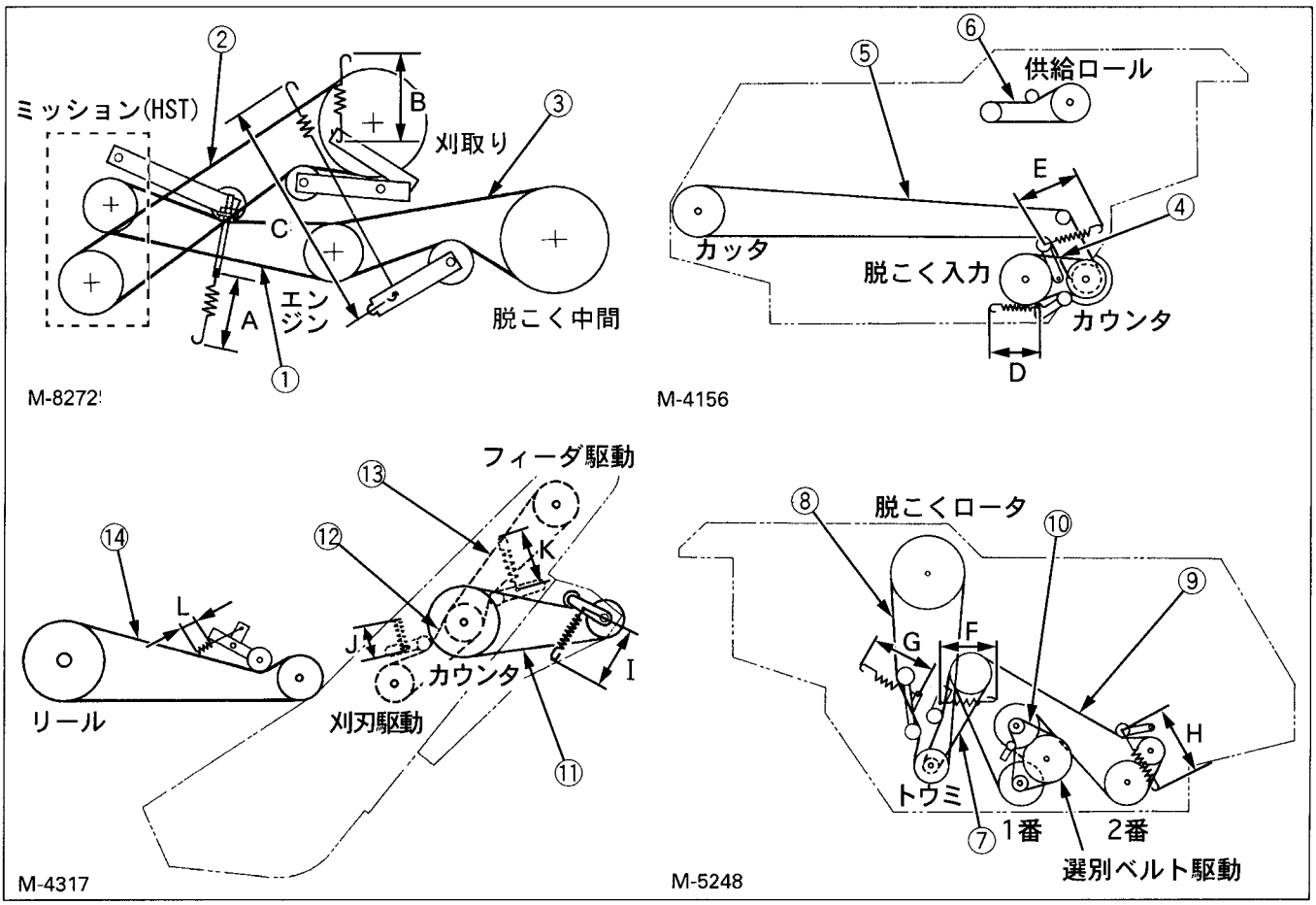
(2)切換えワイヤの先端は，切換えアームの長穴の中心になるように調整ナットで調整してください。



■各部ベルトの点検・調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名称	サイズ	本数(本/台)	張り調整		
					テンションスプリング取付け長さ(mm)		たわみ量(mm)
運転席・刈取部周辺	–	ファン駆動ベルト	34.5ブイベルト	1			7～9
	①	走行（ミッション）駆動ベルト	特B52	2	A	208.5～212.5	—
	②	刈取クラッチベルト	特B75	1	B	146～150	—
	③	脱こくクラッチベルト	特C57	1	C	494～498	—
脱こく部	④	脱こくカウンタベルト	特C37	1	D	150～152	—
	⑤	カッタ駆動ベルト	特B150	1	E	158～162	—
	⑥	供給ロール駆動ベルト	特A31	1	—		10～14
	⑦	処理部カウンタ駆動ベルト	特B45	1	F	147～151	—
	⑧	脱こくロータ駆動ベルト	特C80	1	G	199～201	—
	⑨	処理部駆動ベルト	特B114	1	H	178～182	—
	⑩	選別駆動ベルト	特A33	1	—		12～16
刈取部	⑪	カウンタ駆動ベルト	特B65	1	I	93～97	—
	⑫	刈刃駆動ベルト	特B41	1	J	43～47	—
	⑬	フィーダ駆動ベルト	特B59	1	K	163～167	—
	⑭	リール駆動ベルト	特B90	1	L	43～47	—

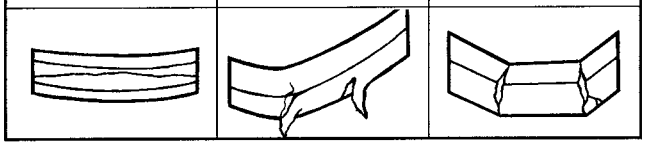


◆点検

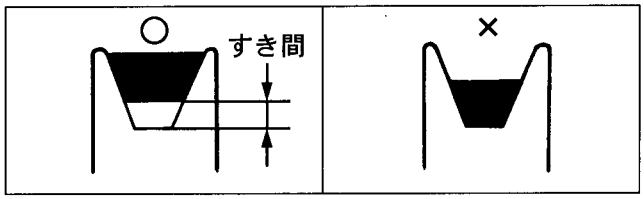
各部のベルトを点検するときは，下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗，被覆のはがれ，き裂やひび割れ

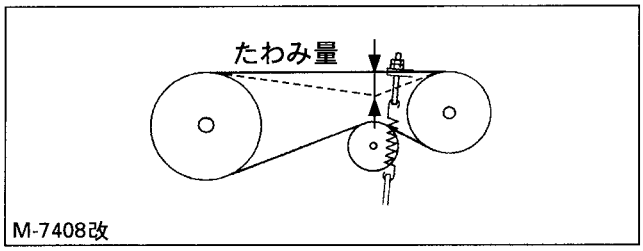
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×



2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間



3. ベルトの伸び(たわみ量)



上記の事項を確認したとき，異常があればベルト交換又は，ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

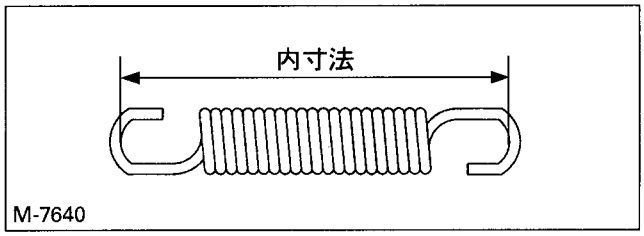
＊ベルトは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



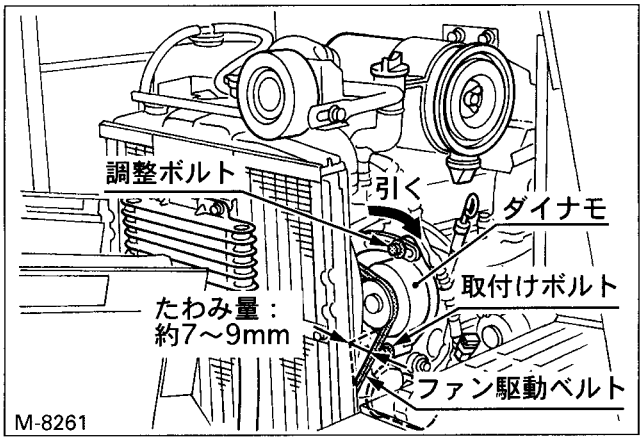
● **ファン駆動ベルト**

ベルトのたわみ量を7～9㎜に調整します。

❶ダイナモの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。

❷ダイナモを引きながら調整します。

❸調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

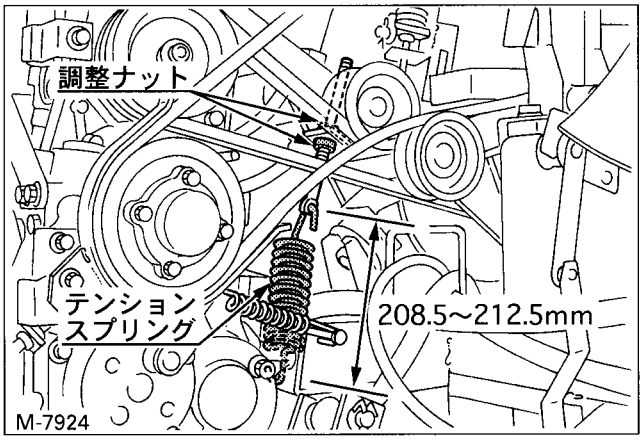


● **走行(ミッション)駆動ベルト**

主変速レバーの下にあるテンションスプリングの長さを208.5～212.5㎜に調整します。

❶調整ナット２箇所をそれぞれゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❷調整ナットを締付けます。



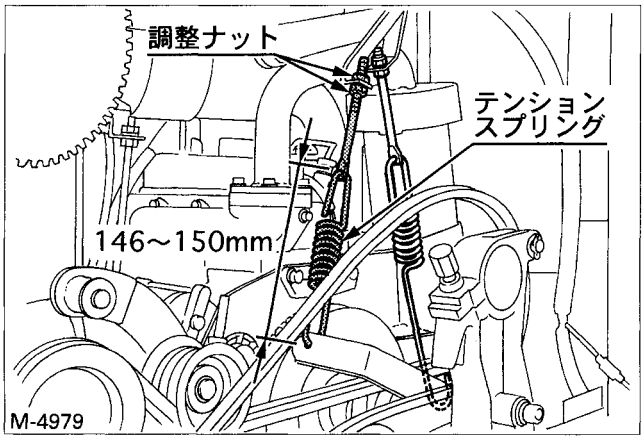
●刈取クラッチベルト

刈取クラッチレバーの下にあるテンションスプリングの長さを146～150mmに調整します。

❶刈取クラッチレバーを**"入"**位置にします。

❷調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けます。



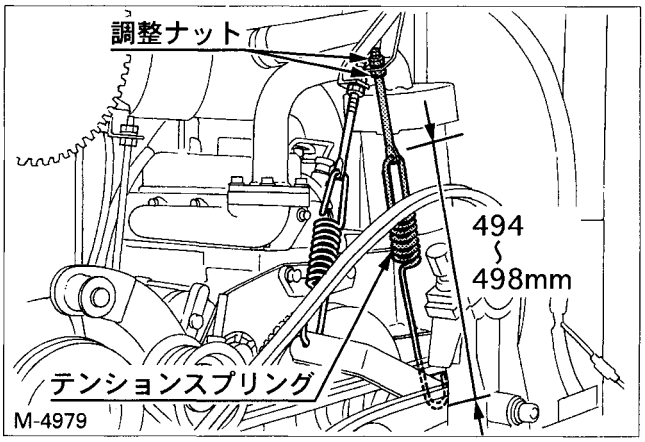
●脱こくクラッチベルト

脱こくクラッチレバーの下にあるテンションスプリングの長さを494～498mmに調整します。

❶脱こくクラッチレバーを**"入"**位置にします。

❷調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。

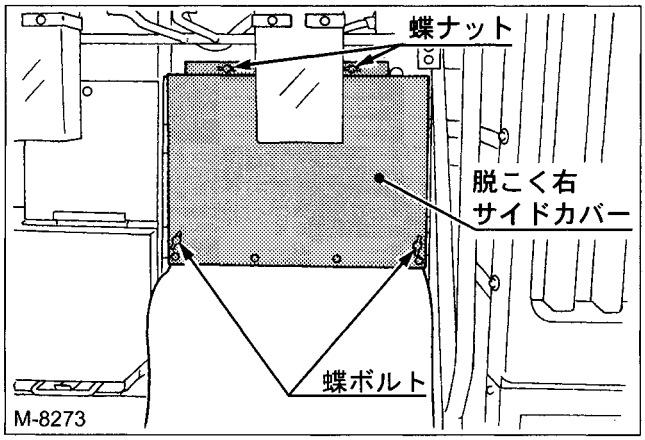
❸調整ナットを締付けます。



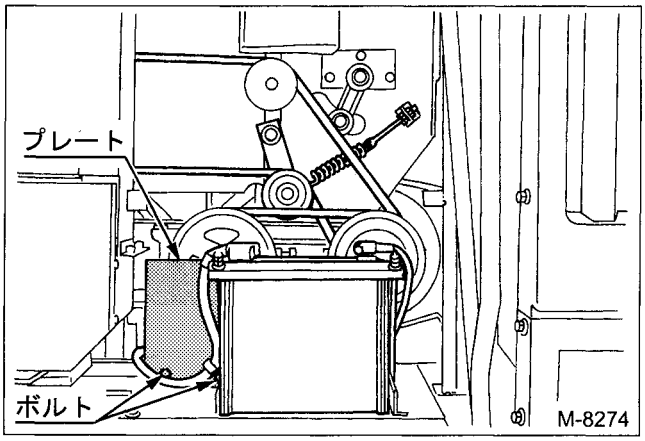
●脱こくカウンタベルト

テンションスプリングの長さを150～152mmに調整します。

❶蝶ナット２個と蝶ボルト２本を取外し，脱こく右サイドカバーを取外したあと，バッテリを取外します。(**バッテリの点検・交換**の項参照)



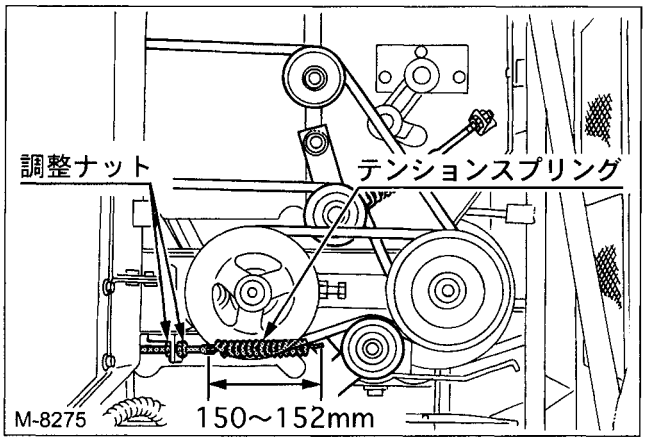
❷ボルト2本を取外し，プレートを外します。



❸調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❹調整ナットを締付けたあと，ボルト2本でプレートを取付けます。

❺バッテリを取付けたあと，脱こく右サイドカバーを取付けます。



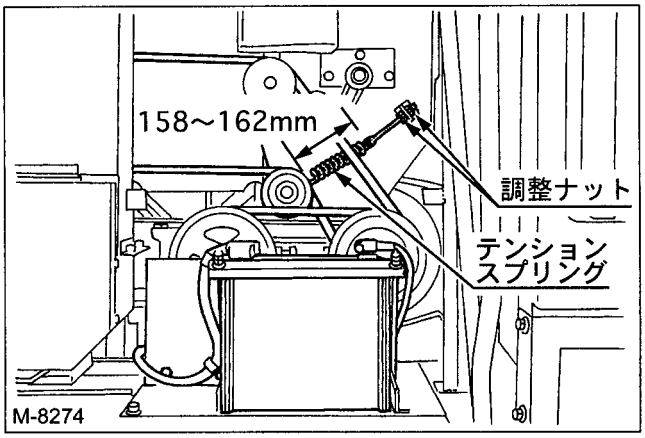
●カッタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを158～162mmに調整します。

❶脱こく右サイドカバーを取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

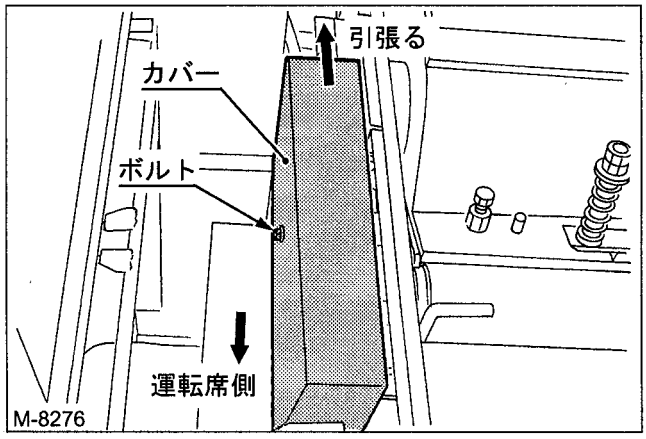
❸調整ナットを締付けたあと，脱こく右サイドカバーを取付けます。



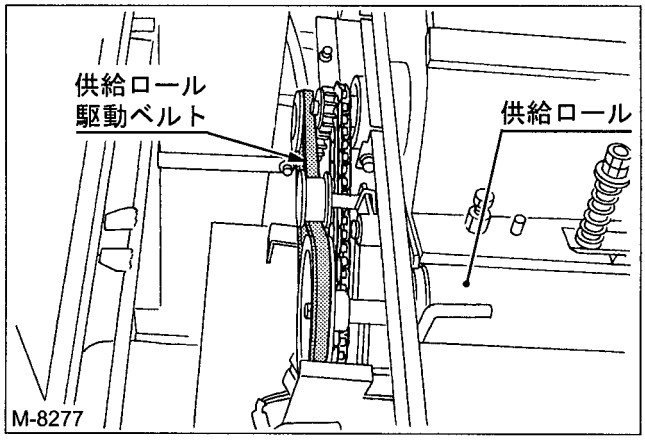
●供給ロール駆動ベルト

ベルトの点検を行なってください。

❶運転席左後部にあるカバーのボルトを取外してカバーを外します。



❷ベルトの点検を行なったあと，カバーを取付けます。



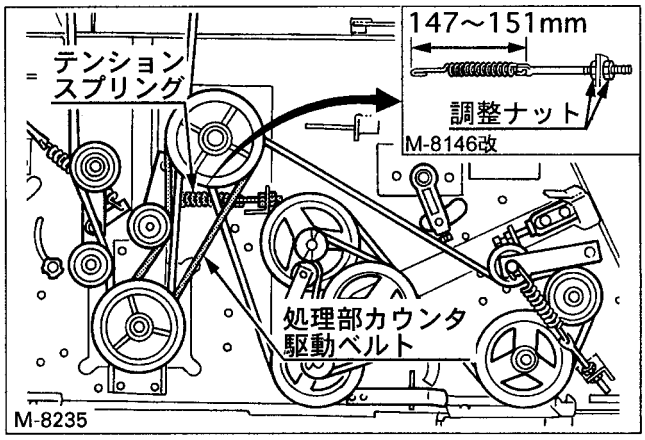
●処理部カウンタ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを147～151mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



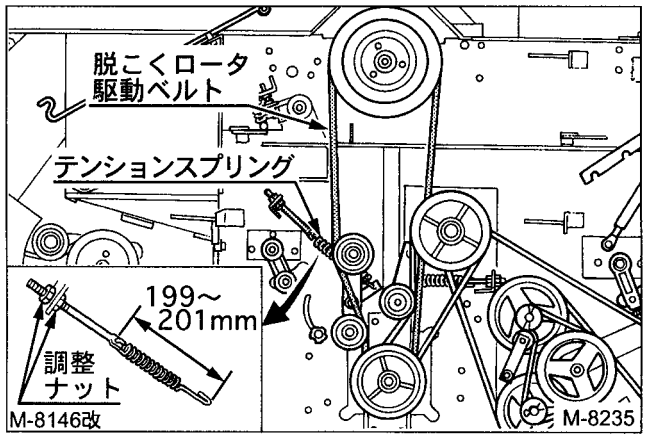
●脱こくロータ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを199～201mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



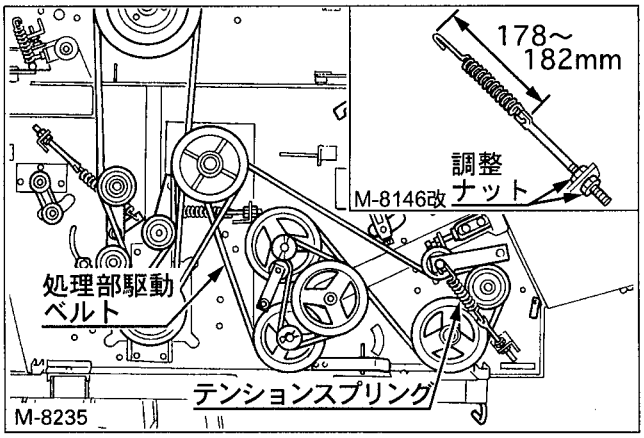
● 処理部駆動ベルト

テンションスプリングの長さを178～182mmに調整します。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。

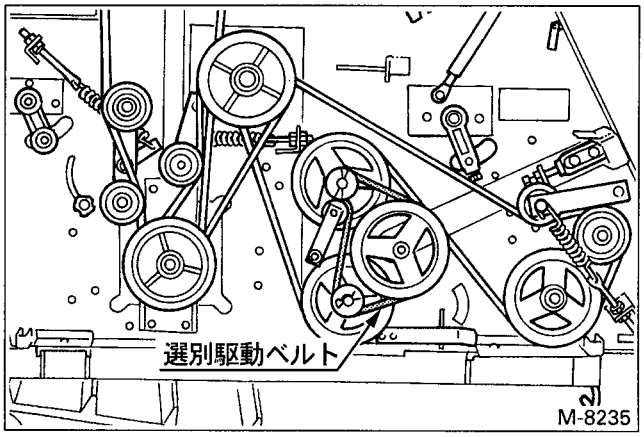


● 選別駆動ベルト

ベルトの点検を行なってください。

❶脱こく左サイドカバー上・下を取外します。

❷ベルトの点検を行なったあと，脱こく左サイドカバー上・下を取付けます。



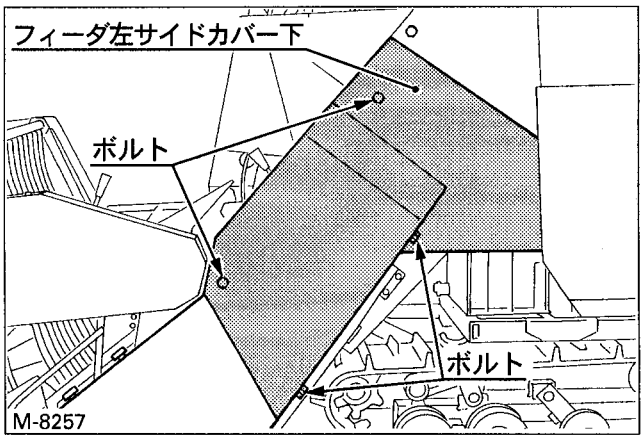
● カウンタ駆動ベルト

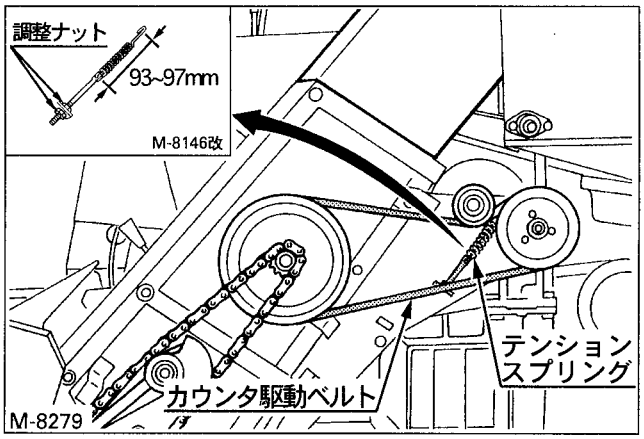
テンションスプリングの長さを93～97mmに調整します。

❶ボルト4本を取外し，フィーダ左サイドカバー下を取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，フィーダ左サイドカバー下を取付けます。





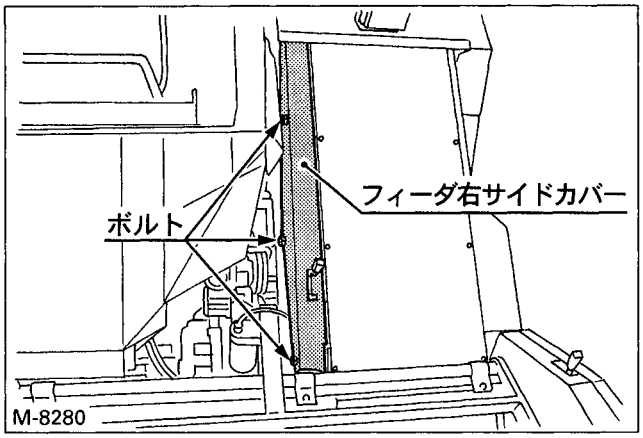
●刈刃駆動ベルト

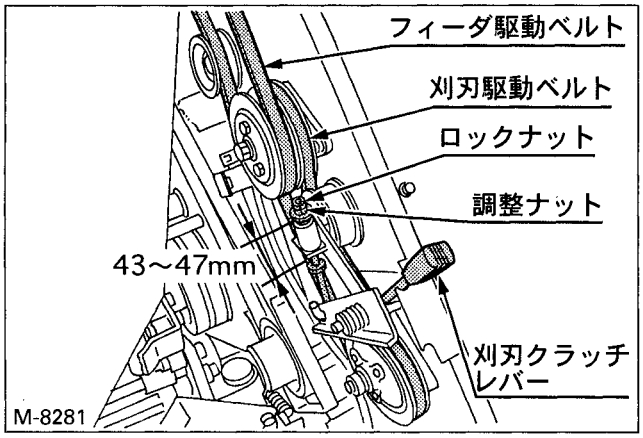
テンションスプリングの長さを43～47mmに調整します。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。

❷ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，フィーダ右サイドカバー上を取付けます。





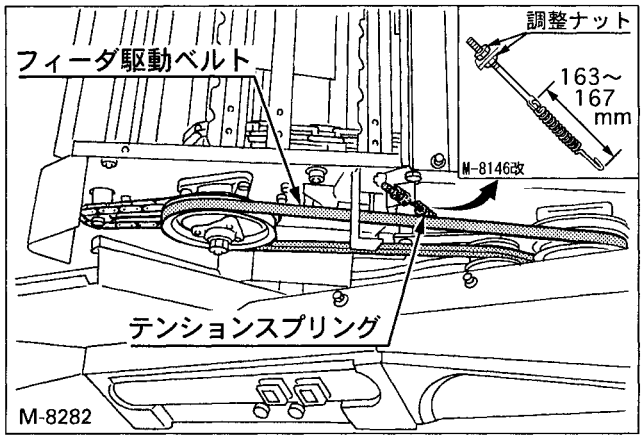
●フィーダ駆動ベルト

テンションスプリングの長さを163～167mmに調整します。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。（**刈刃駆動ベルト**の項参照）

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，フィーダ右サイドカバー上を取付けます。



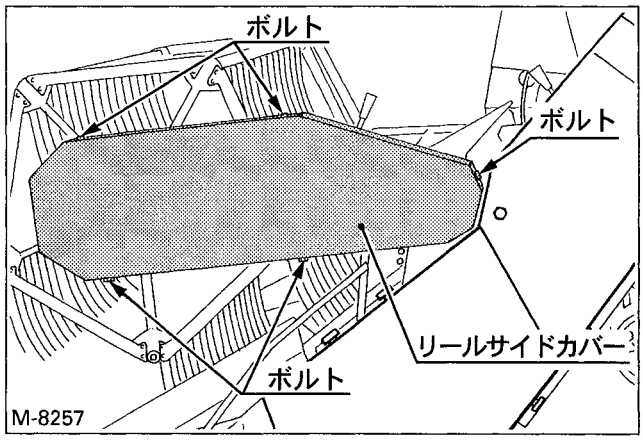
●リール駆動ベルト

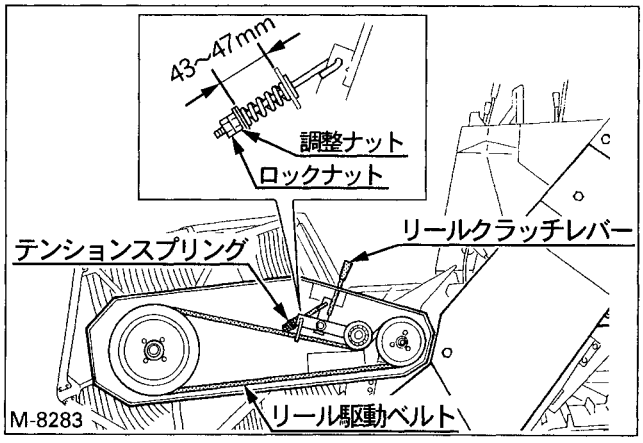
テンションスプリングの長さを43～47mmに調整します。

❶ボルト5本を取外し，リールサイドカバーを取外します。

❷ロックナットと調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸ロックナットを締付けたあと，リールサイドカバーを取付けます。

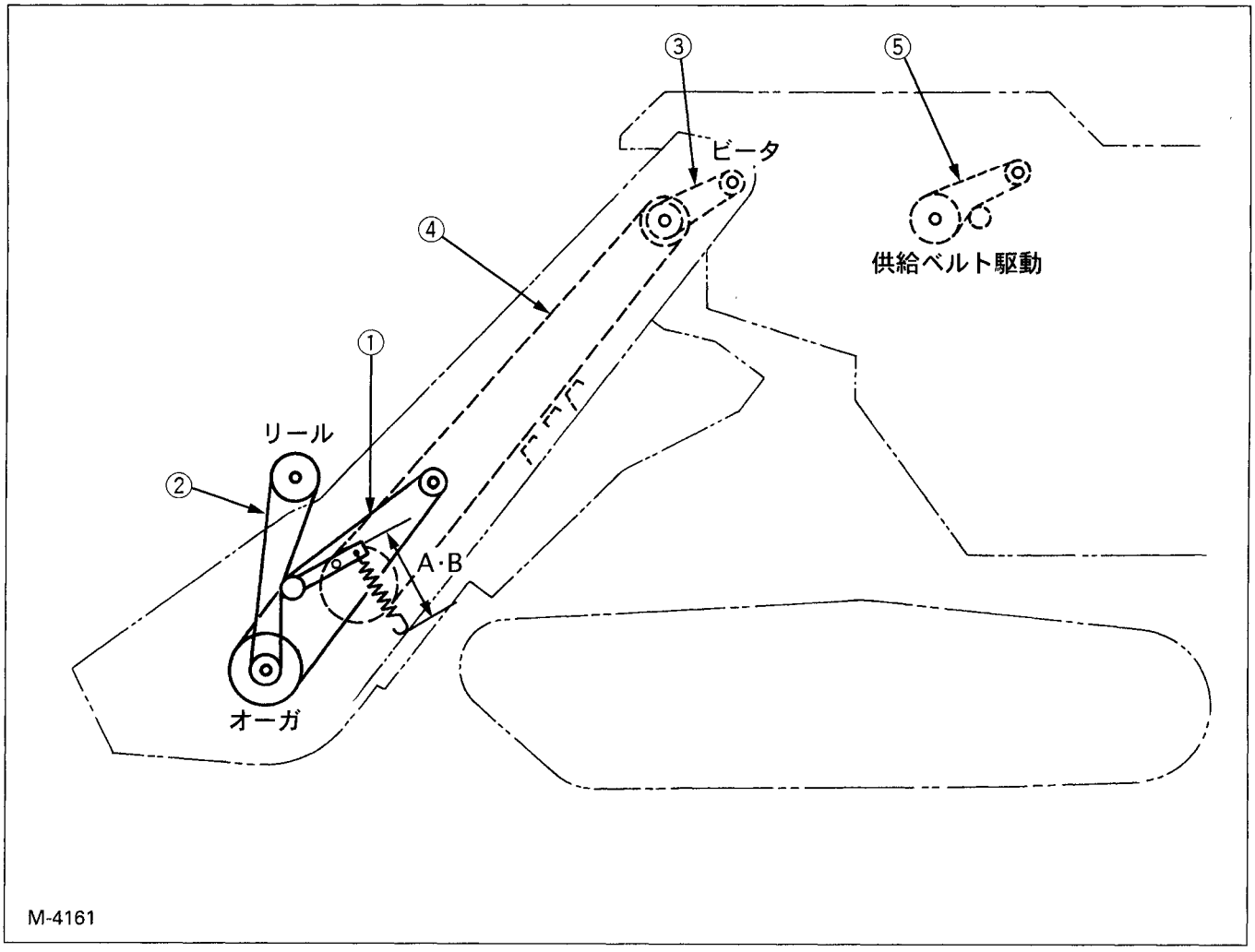




■各部チェーンの点検・調整

◆各部のチェーンサイズ

点検箇所	図番	名　　称	サ　イ　ズ	張り調整 テンションスプリング取付け長さ(mm)	たわみ量 (mm)
刈取部	①	オーガ駆動チェーン	415S（170リンク）	93 ～ 97 mm	—
	②	リール駆動チェーン	415S（95リンク）	93 ～ 97 mm	—
	③	ビータ駆動チェーン	415S（46リンク）	—	—
	④	フィーダチェーン	（87リンク）	—	—
脱こく部	⑤	供給ベルト駆動チェーン	415S（59リンク）	—	10～15



◆点検

各部のチェーンを点検して，異常があればチェーンの交換又は，張り調整を行なってください。チェーンの交換は購入先へ連絡して行なってください。

重　要

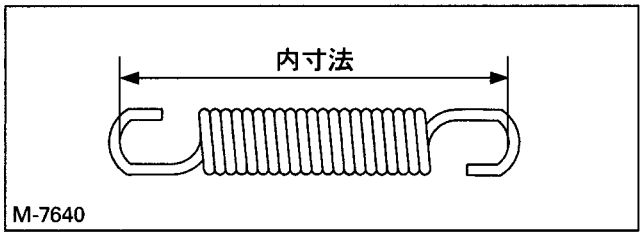
＊チェーンは必ずクボタ純正のものを使用してください。

◆調整

チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



●オーガ駆動チェーン

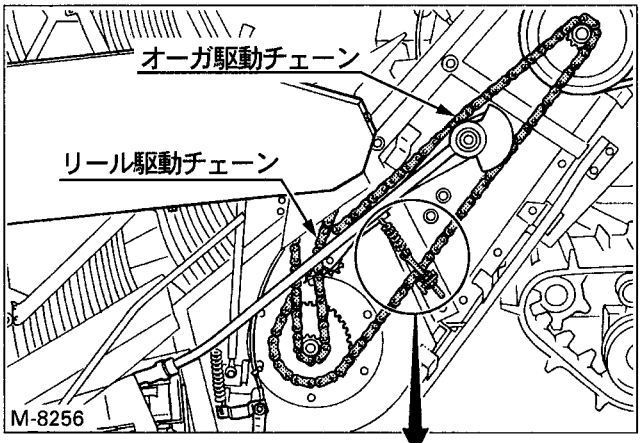
●リール駆動チェーン

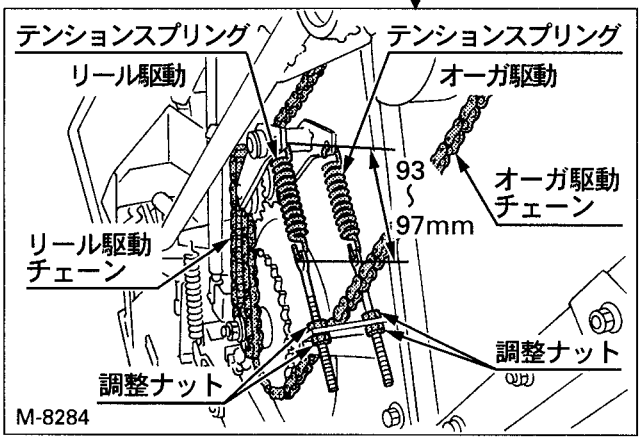
テンションスプリングの長さを93～97mmに調整します。

❶ノブボルト3本を取外し，刈取サイドカバーを取外します。

❷調整ナット2個をゆるめて，調整を行ないます。

❸調整ナットを締付けたあと，刈取サイドカバーを取付けます。



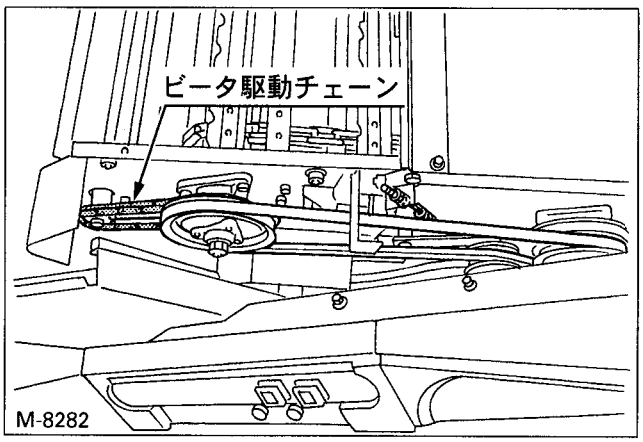


●ビータ駆動チェーン

チェーンの点検を行なってください。

❶ボルト3本を取外し，フィーダ右サイドカバーを取外します。

❷チェーンの点検を行なったあと，フィーダ右サイドカバーを取付けます。



●フィーダチェーン

フィーダチェーンに取付けている搬送板とフィーダの底板のすき間を5～10mmに調整します。

❶脱こくローダカバーをオープンします。

❷ノブボルト2本を取外し，フィーダ上部カバーを取外します。

❸左・右それぞれ4箇所のナット(M8)をゆるめます。

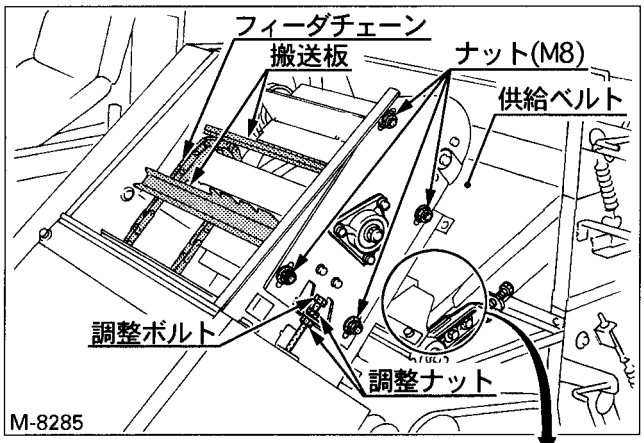
❹調整ボルトを固定している調整ナット2個をゆるめて左・右共調整を行ないます。

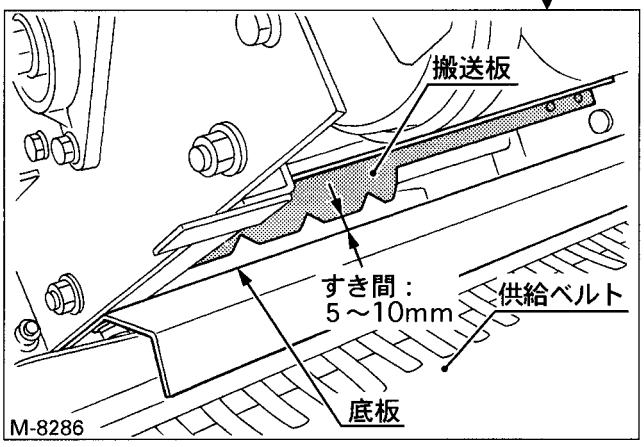
重　要

＊調整ボルトの調整量は同じにしてください。搬送板が左・右方向に傾くと故障の原因となります。

❺調整ナットを締付けたあと，ナット(M8)を左・右それぞれ締付けます。

❻フィーダ上部カバーを取付けたあと，脱こくローダカバーを閉じます。

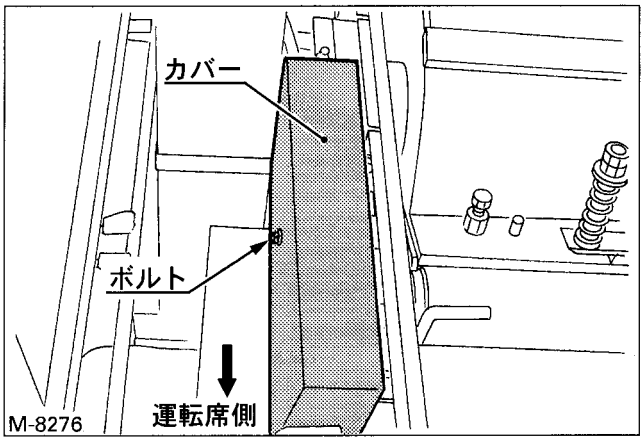




●供給ベルト駆動チェーン

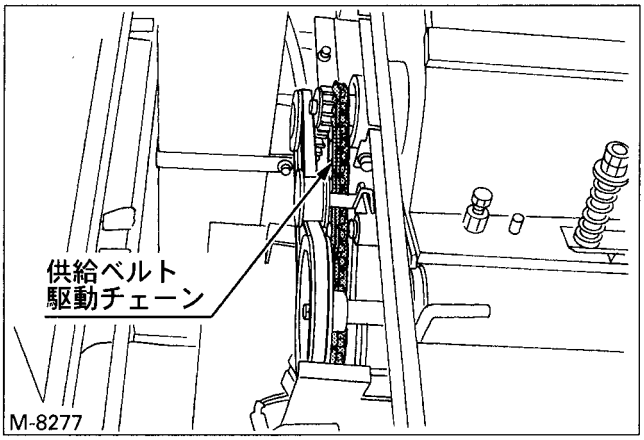
チェーンの点検を行なってください。

❶運転席左後部にあるカバーのボルトを取外してカバーを外します。



❷チェーンを押したとき(約20N{2kgf}の荷重)にたわみ量が，10～15mmより大きいときは購入先に連絡してチェーンの半コマを取外してください。

❸チェーンの点検が終わったあと，カバーを取付けます。



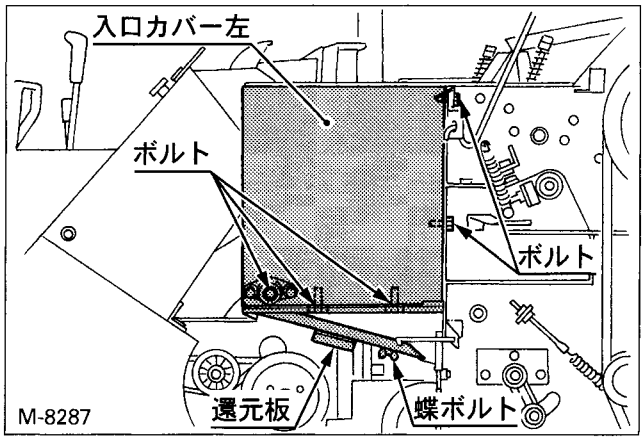
■供給ベルトの点検・調整・交換

◆点検

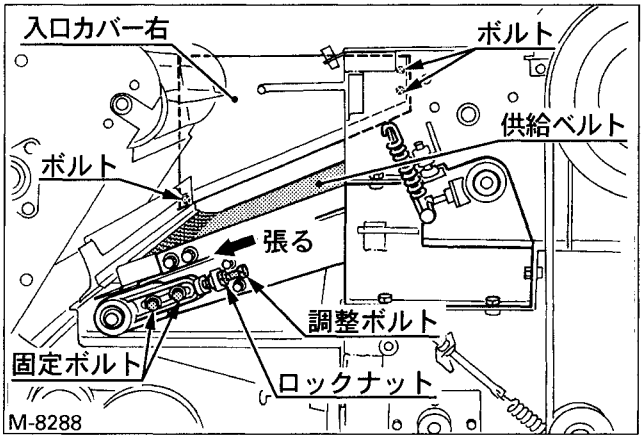
ベルトを点検して，伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損や摩耗，はがれなど異常があれば交換してください。

◆調整

❶脱こく左サイドカバー上，下を取外します。
❷脱こくロータカバーをオープンします。
❸ボルト5本を取外し，入口カバー左を取外します。
❹蝶ボルト1本を取外し，還元板を抜きます。

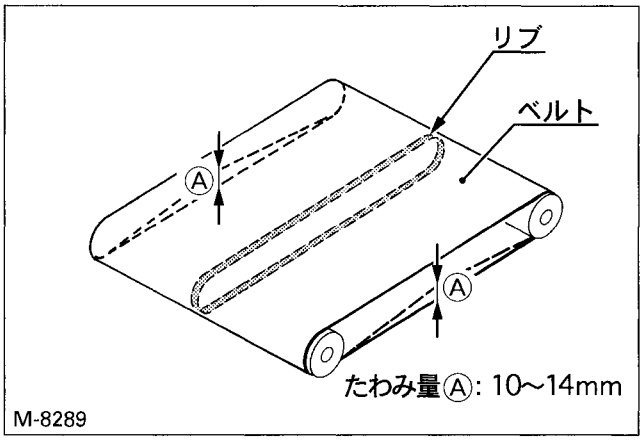


❺ボルト3本を取外し，入口カバー右を取外します。
❻還元板を抜いたところからベルト下面両端部の中央部を押して(約98N{10kgf}の荷重)，ベルトのたわみ量を10～14mmに調整します。
(1)調整ボルトのロックナットをゆるめます。
(2)固定ボルト2本をゆるめます。
(3)調整ボルトで調整します。
(4)調整を左，右共行ないロックナットを締付けたあと，固定ボルト２本を締付けます。



重　要

＊左・右の調整ボルトの調整する量は左・右同じにしてください。調整する量の差が大きくなると，傾きが発生してベルトのリブが溝から外れ，故障の原因となります。



❼入口カバー左・右を取付けたあと，還元板を取付けます。
❽脱こくロータカバーを閉じます。

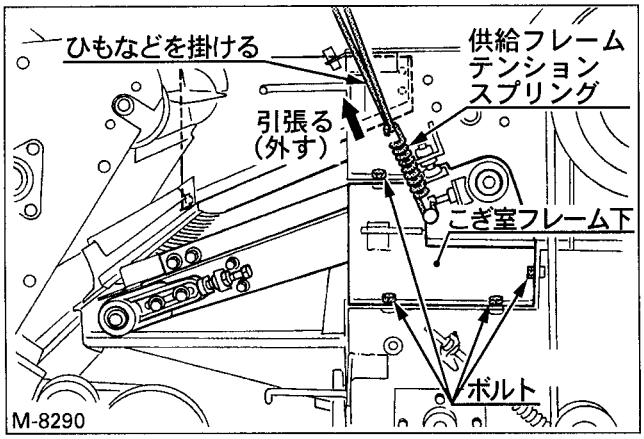
◆交換

●取外しかた

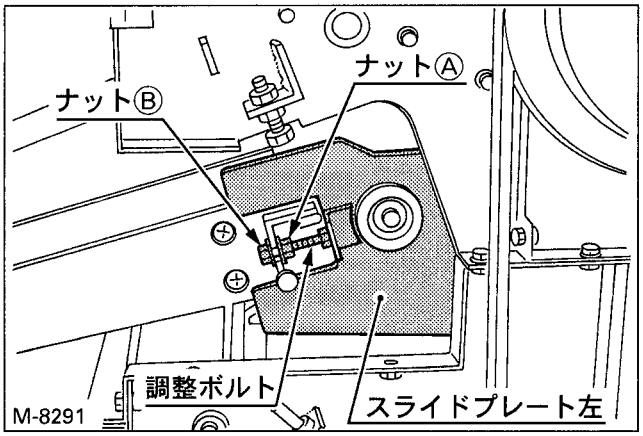
❶調整の工程❶～❸を行ないます。

❷ボルト4本を取外し，こぎ室フレーム下を取外します。

❸ひもなどを引掛けて供給フレームテンションスプリングを外します。



❹調整ボルトのナットⒶ，Ⓑ2個をゆるめてスライドプレート左を取外します。

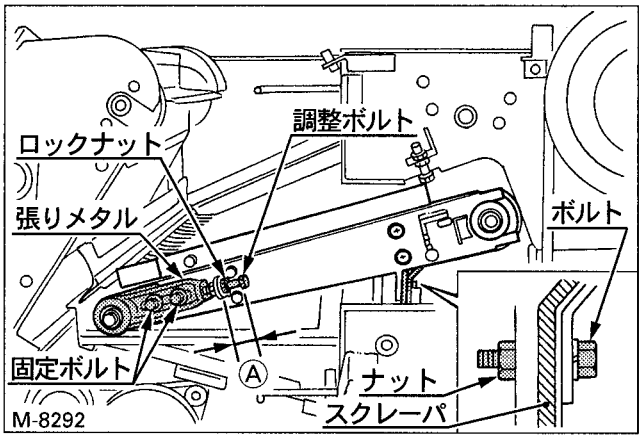


❺スクレーパを取付けているボルトとナットを取外します。

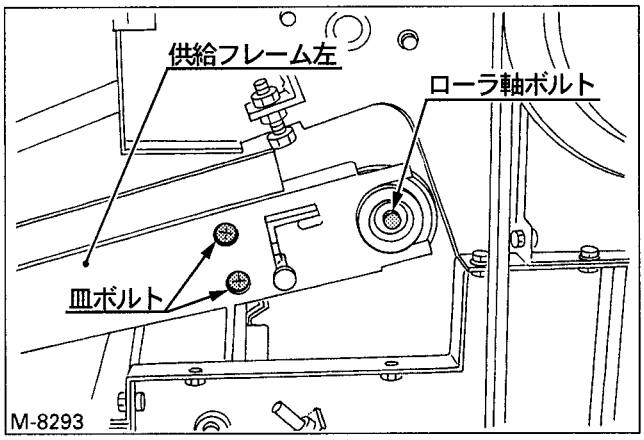
❻調整ボルトの寸法Ⓐを測定し，紙などに測定値を記入します。

❼ロックナットをゆるめ，調整ボルトをゆるめます。

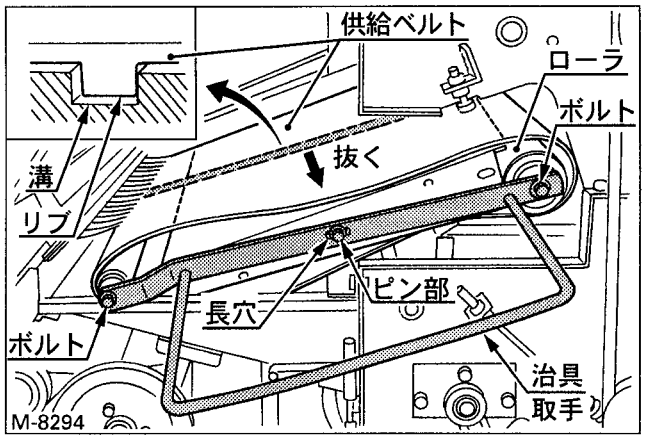
❽固定ボルト2本を取外し，張りメタルを取外します。



❾皿ボルト2本とローラ軸固定ボルトを取外し，供給フレーム左を取外します。



❿ローラ軸を固定する治具を，取外したボルトでローラ軸2箇所に取付けたあと，治具の取手を持ち，少し上げてベルトを取外します。



補　足

＊治具の中央のピン部を供給フレームの長穴に差込んでください。

＊ベルトのズレ防止のため供給フレーム中央の溝にベルトのリブが入っているため，取外すときに引掛かりに注意してください。

＊ローラ軸を固定する治具は下記の品番でご購入してください。

品　番	品　名
51575-8533-0	ステー(キョウキュウベルト)

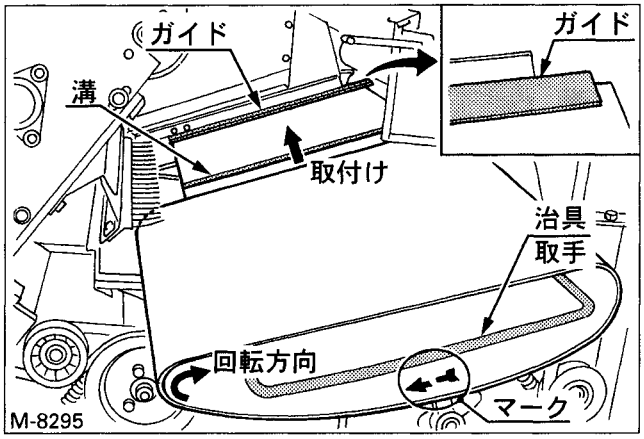
●取付けかた

❶新しいベルトを取付けます。

(1)ベルト内側の端部にある➤➤マークを時計回り(右回転)の方向に合わせます。

(2)治具の取手を少し上げてベルトを取付けます。

(3)取付けたとき，溝にベルトのリブが入り，ガイドにベルトの端部が入っていることを確認します。

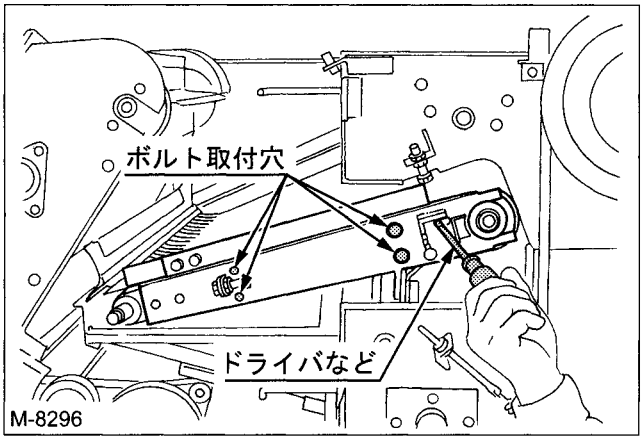


❷ボルト2本を取外し，治具を取外します。

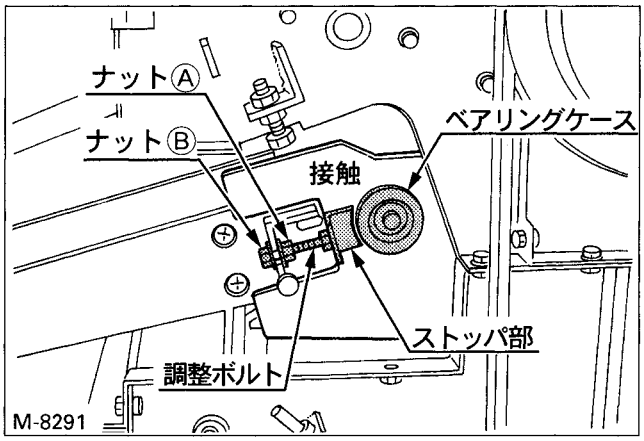
❸供給フレーム左を取付けたあと，張りメタルを取付け，スクレーパをボルトで締付けます。

補　足

*供給フレーム左を取付けるときは，下図のようにドライバーなどを差し込み，ボルトの取付穴の位置決めを行なってください。



❹スライドプレート左を取付けます。このとき，ベアリングケース左に調整ボルトストッパ部のL部先端が接触した状態でナットⒶとⒷを締付けます。



❺ごぎ室フレーム下を取付け，供給フレームテンションスプリングを取付けます。

❻ベルトの調整ボルトを取外しかたの❺の工程で測定した寸法Ⓐまで締付け，ベルトのたわみ量を確認したあと，ロックナットを締付けます。

❼還元板を取付けたあと，入口プレート左を取付けます。

❽脱こくロータカバーを閉じます。

■選別ベルトの点検・調整・交換

◆点検

ベルトを点検して，伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損や摩耗，はがれなど異常があれば交換してください。

◆調整

❶カッタをオープンします。(**カッタオープン**の項参照)

❷シーブケースを取外します。(**シーブケース脱着のしかた**の項参照)

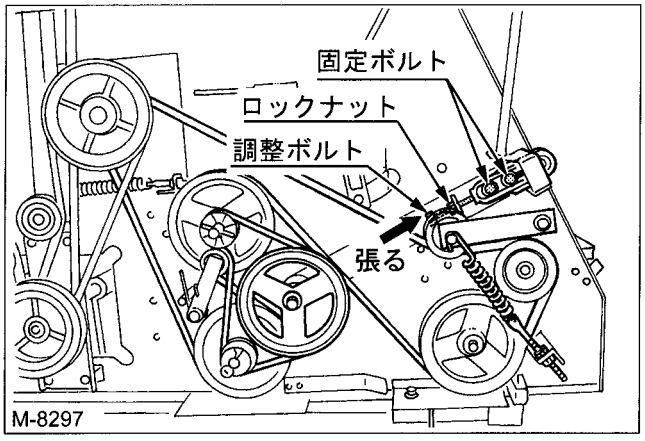
❸ベルト上面両端部の中央部を押して(約98N{10kgf}の荷重)，ベルトのたわみ量を12～16mmに調整します。

(1)調整ボルトのロックナットをゆるめます。

(2)固定ボルト2本をゆるめます。

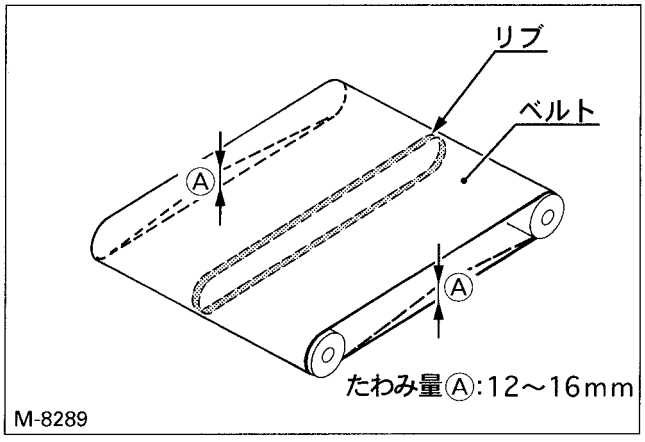
(3)調整ボルトで調整します。

(4)調整を左・右共行ないロックナットを締付けたあと，固定ボルトを締付けます。



重 要

＊左・右の調整ボルトの調整する量は左・右同じにしてください。調整する量の差が大きくなると，傾きが発生してベルトのリブが溝から外れ，故障の原因となります。



❹シーブケースを取付けます。

❺カッタを閉じます。

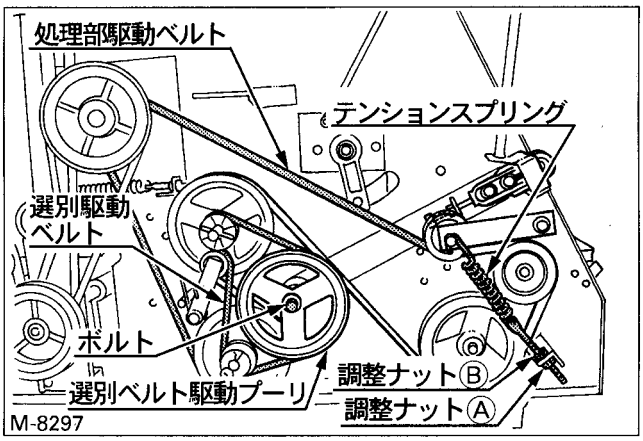
◆交換

●取外しかた

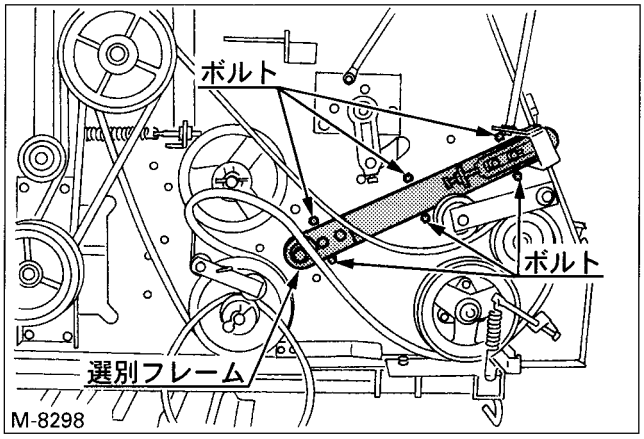
❶調整の工程❶と❷を行ないます。

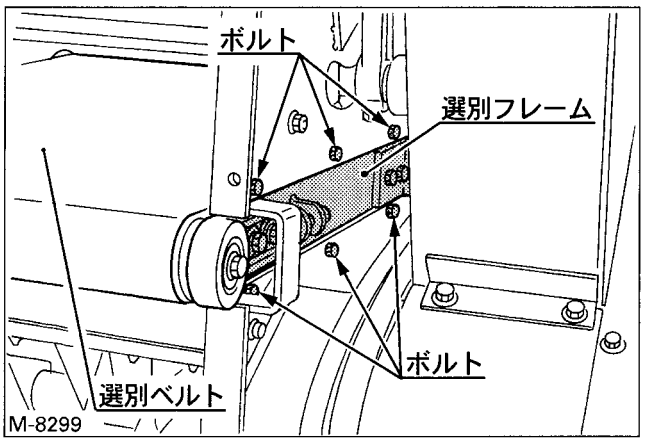
❷ボルトを取外し，選別ベルト駆動プーリを取外します。

❸処理部駆動ベルトのテンションの調整ナットⒶをゆるめ，調整ナットⒷを締付け方向に回してテンションスプリングを外します。

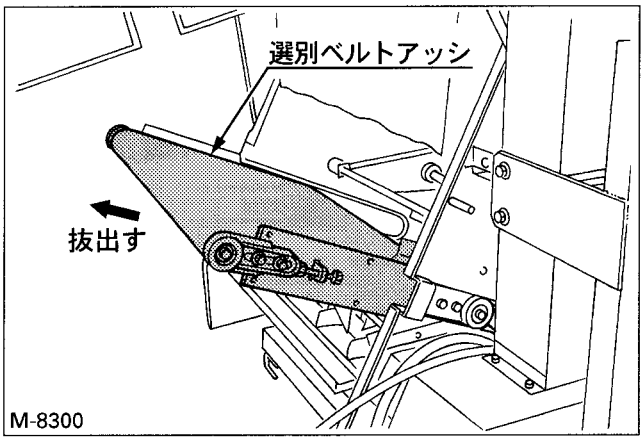


❹選別フレームの取付ボルト6本を左・右それぞれ取外します。





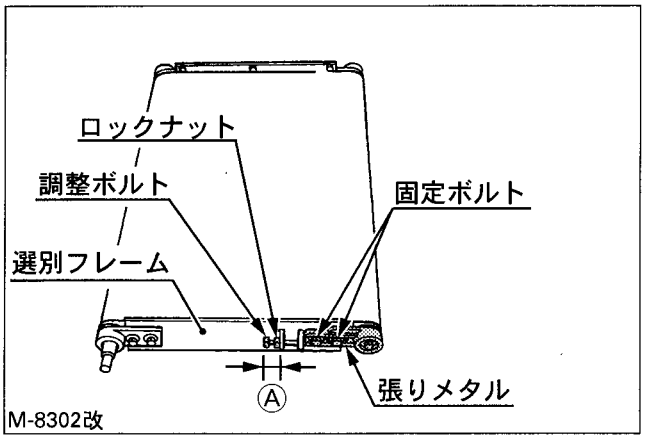
❺選別ベルトアッシを抜出します。



❻調整ボルトの寸法Ⓐを測定し，紙などに側定値を記入します。

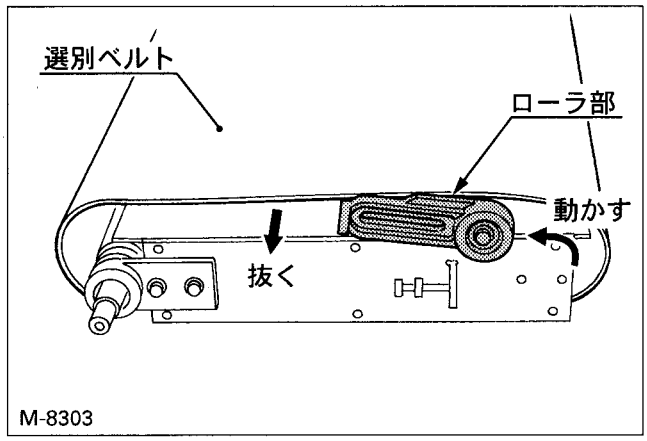
❼ロックナットをゆるめ，調整ボルトをゆるめます。

❽張りメタル固定ボルト2本を取外します。



❾反対側も工程❼と❽を行ないます。

❿下図のようにローラ部を選別フレームの上部へ動かしたあと，ベルトを取外します。



補　足

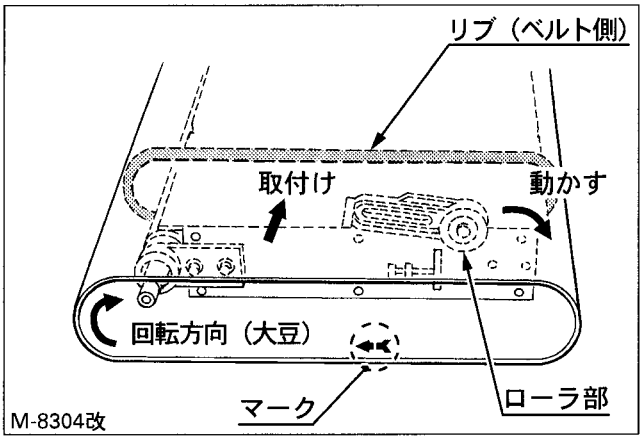
＊ベルトのズレ防止のため選別フレーム中央の溝にベルトのリブが入っているため，取外すときに引掛かりに注意してください。

●取付けかた

❶新しいベルトを取付けます。

(1)ベルト内側の端部にある➤◆マークを時計回り(右回転)の方向に合わせます。

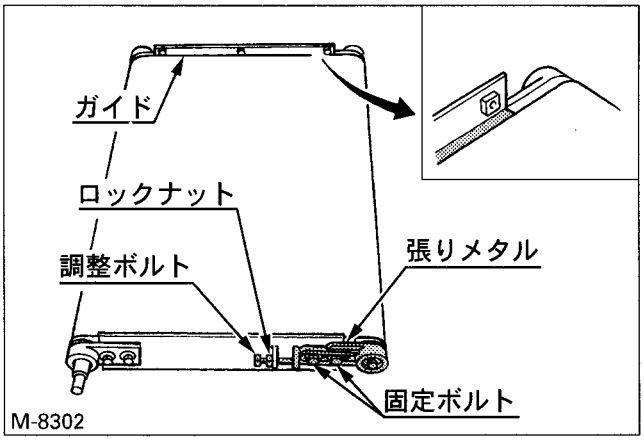
(2)ベルトを取付けます。



(3)ローラ部を選別フレームの取付位置に動かします。このとき，ローラ部にベルトのリブをいれ，両端のガイドにベルトの端部が入っていることを確認します。

(4)張りメタルを固定ボルトで取付けます。

(5)ベルトの調整ボルトを取外しかたの❻の工程で測定した寸法まで締付け，ベルトのたわみ量を確認したあと，ロックナットを締付けます。



❷取外しかたの工程❺から逆の手順で本機側へ取付けます。

補　足

＊ベルトは掛け間違えないでください。

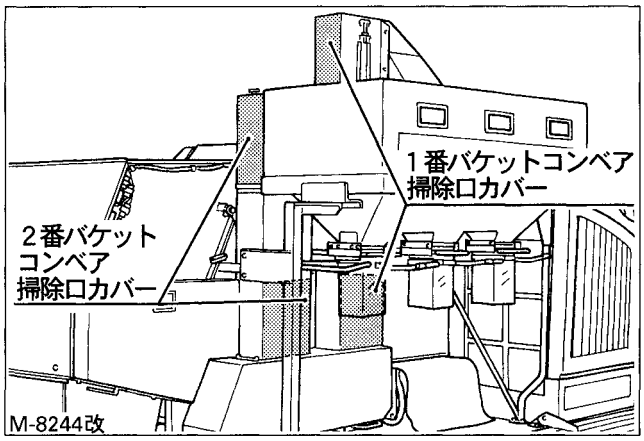
＊処理部駆動ベルトのテンションは，**各部ベルトの点検・調整・交換**の項を参照してください。

■1番・2番バケットコンベアの点検・調整・交換

◆点検・調整

バケットコンベアのバケットとベルトを点検して，ベルトに伸び(たわみ)があるときは張り調整を行なってください。また，ベルトがき裂やひび割れなどによる破損があるときやバケットが破損しているときは，購入先に連絡して交換してください。

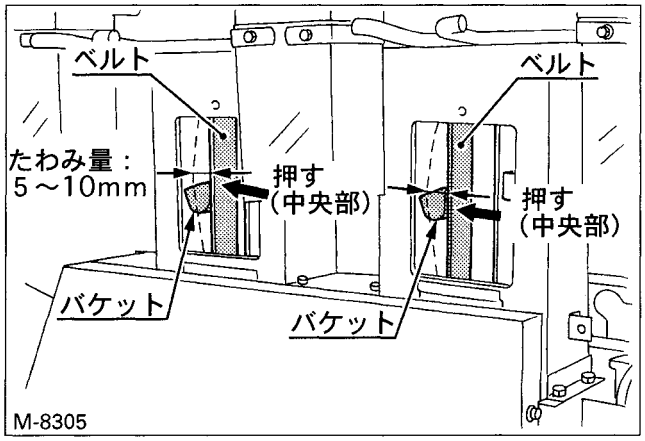
❶1番・2番バケットコンベアの掃除口カバーを取外します。



❷バケットとベルトを点検し，異常があれば調整又は，交換します。

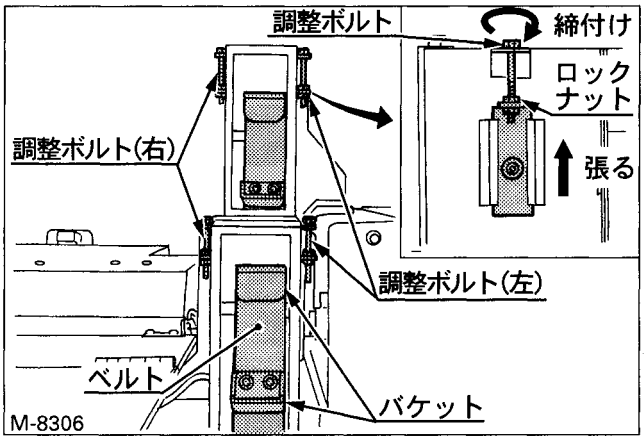
●調整のしかた

指先でベルトの中央部を押したとき(約50N{5kgf}の荷重)のたわみ量を5～10mmに調整します。



(1)バケットコンベア上部の左・右にある調整ボルトを固定しているロックナットをそれぞれゆるめます。

(2)調整ボルトを締付け方向に回してベルトを張ります。このとき，調整する量は左・右同じにします。



(3)ロックナット左・右それぞれ締付けます。

❸1番・2番バケットコンベアの掃除口カバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

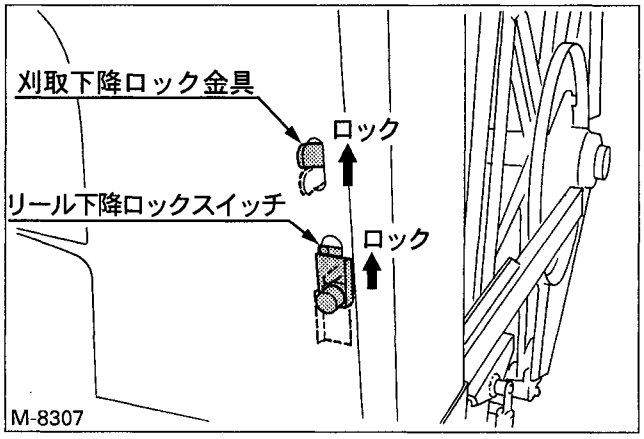
注 意

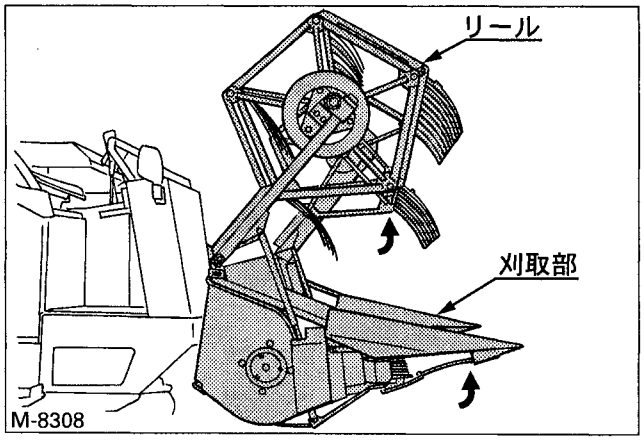
＊平たんな場所で刈取部を上げて，刈取り下降ロック金具を“ロック”位置にし，リールを上げてリールロックスイッチを“ロック”位置にして刈取部を必ずロックし，落下防止の歯止めをしてください。
＊刃部に手を掛けないでください。不用意に歯が動くと危険です。
＊脱着作業は手袋をしてください。

刈刃の刃先が磨耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

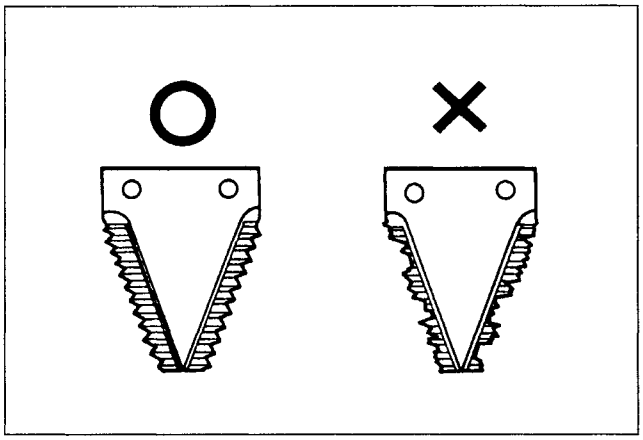
◆点検

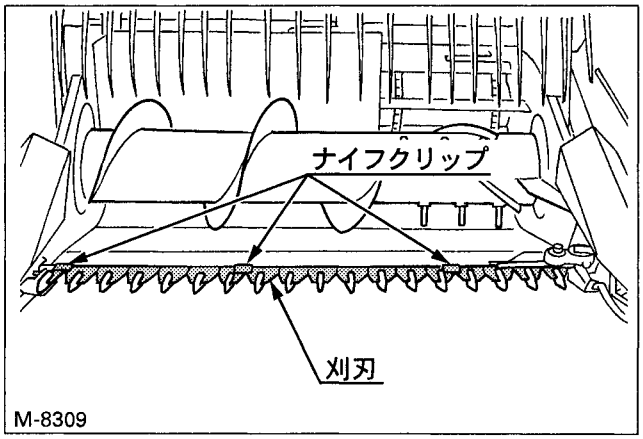
❶パワーステアリングレバー操作で刈取部を上昇させたあとエンジンを停止し，刈取下降ロック金具を**“ロック”**位置にし，リールを上げてリールロックスイッチを**“ロック”**位置にします。

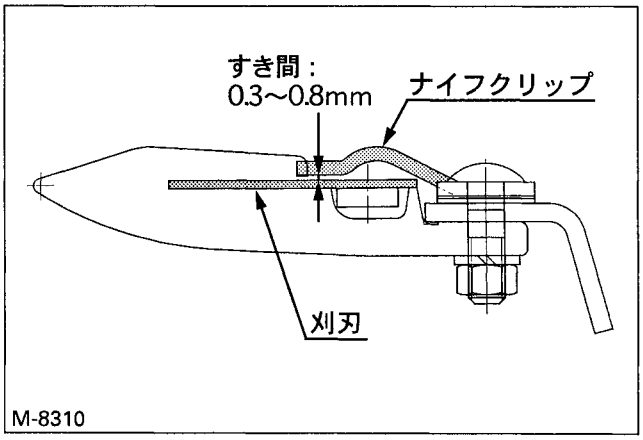




❷刈刃の刃先,ナイフクリップと刈刃のすき間(0.3～0.8mm)を確認し，すき間が大きいときは調整をしてください。また，刃先が磨耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。







補 足

＊すき間はすき間ゲージで測定してください。

■カッタ部の点検

警 告

＊平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。

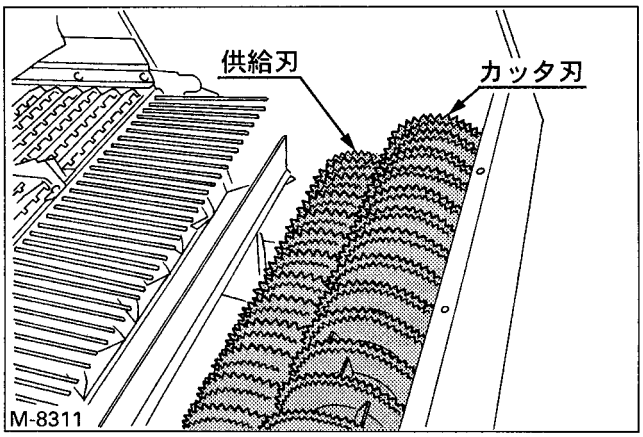
＊手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

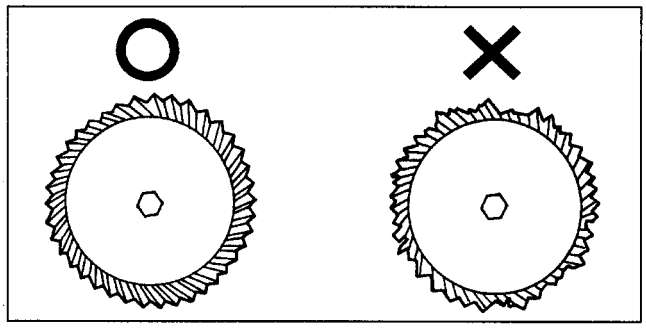
補 足

＊わらくずなどは取除いてください。

◆点検

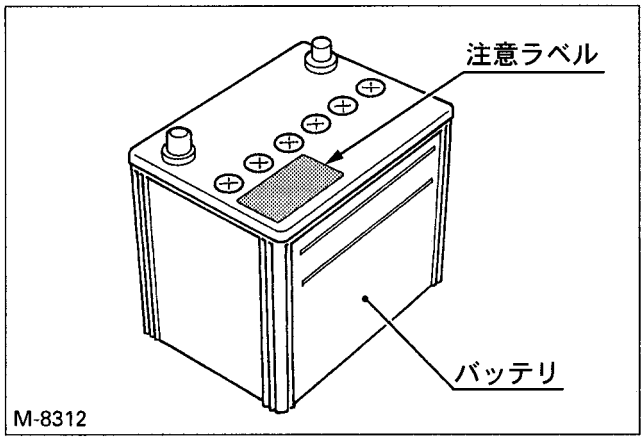
刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して交換してください。





■バッテリの点検・交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。



危 険

＊バッテリの近くに裸火（マッチ・ライター・タバコの火など）を近づけたり，⊕端子と⊖端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。

＊バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。

＊バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。

警 告

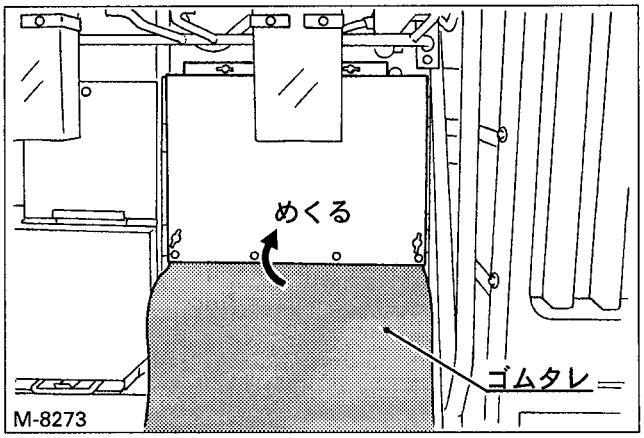
＊バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

◆点検・補水

危 険

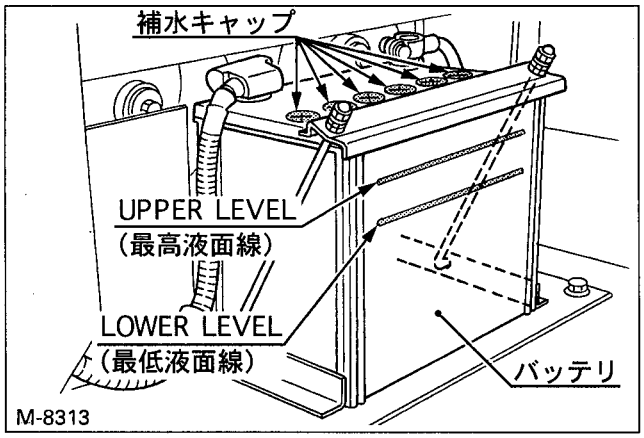
＊バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

❶ゴムタレをめくります。



❷バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1)バッテリ液の量を点検し，“UPPER LEVEL”（最高液面線）と“LOWER LEVEL”（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



重 要

＊バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

＊精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て，機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。

＊バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

＊バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれするおそれがあります。

(2)バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

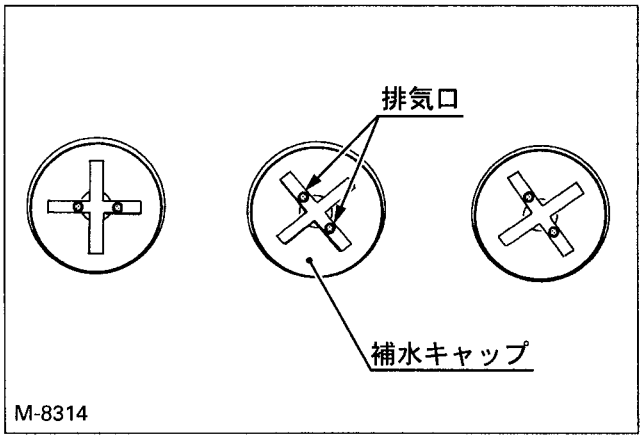
重 要

＊液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

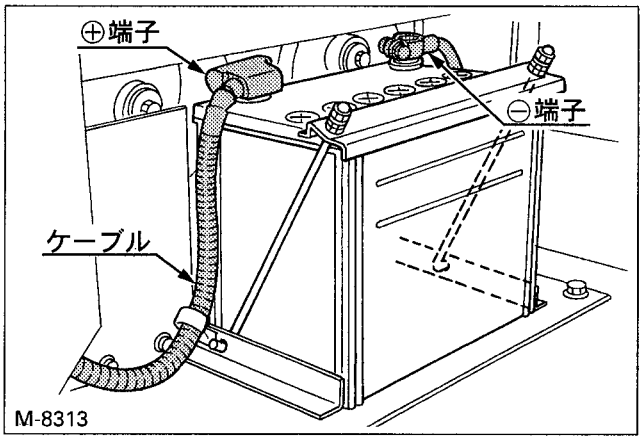
(3)補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重 要

＊排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



(4)バッテリケーブルの破損や⊕端子，⊖端子にゆるみがないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めを行ないます。



◆補充電・交換

危　険

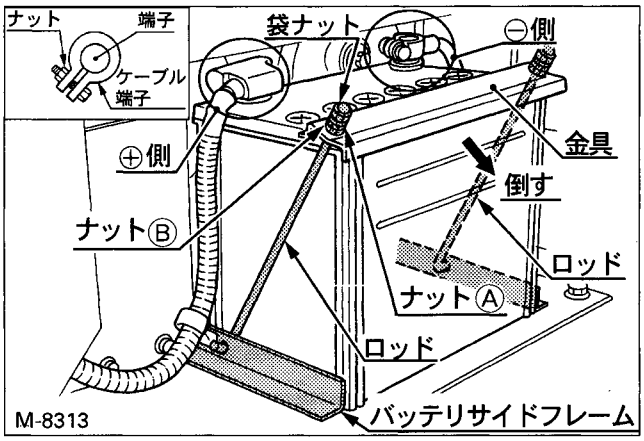
＊バッテリは電解液面が“LOWER LEVEL”（最低液面線）以下での使用や補充電をしないでください。バッテリの爆発の原因となることがありますので補水してから補充電を行なってください。

警　告

＊バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…⊖端子側(アース側)から外す。
・取付け…⊖端子側(アース側)を最後に接続する。
＊バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。
＊バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
＊バッテリの取付方向を間違えないでください。⊕と⊖が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。
＊バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。
＊補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。
- バッテリ電解液の減りが早い。

❶バッテリを機体から取外します。
(1)ロッド左・右のナットⒶゆるめたあと，ナットⒷをゆるめ金具を倒したあと，バッテリサイドフレームからロッド左・右を抜いて外します。
(2)ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず⊖側から取外してください。



重　要

＊バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液(希硫酸)がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

補　足

*袋ナットは外さないでください。

❷補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。また，充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕側に，バッテリの⊖を充電器の⊖側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。

補　足

＊急速充電を行なったときは，作業後必ず補充電を行なってください。

❸補充電が終わると補水キャップを全て取付けたあと，取外したときと逆の手順で取付けます。

重　要

＊バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
バッテリ形式：**65D23L-MF**
＊バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。

❹バッテリを取外しの逆の手順で取付け，ゴムタレを掛けます。

重　要

＊ナットⒷを締付けるときは，締めすぎないでください。金具が変形します。

■電気の各配線コード・各ヒューズの点検・交換

注　意

＊配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。

◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，販売店へ連絡して交換してください。

◆各ヒューズの交換

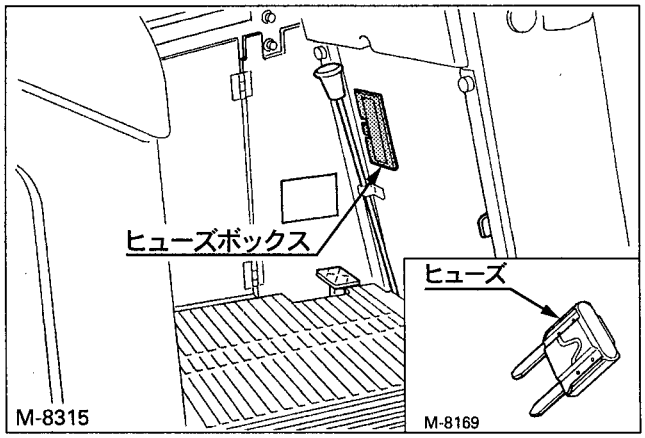
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先に連絡してください。

❶ヒューズケースのカバーを取外します。

❷ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



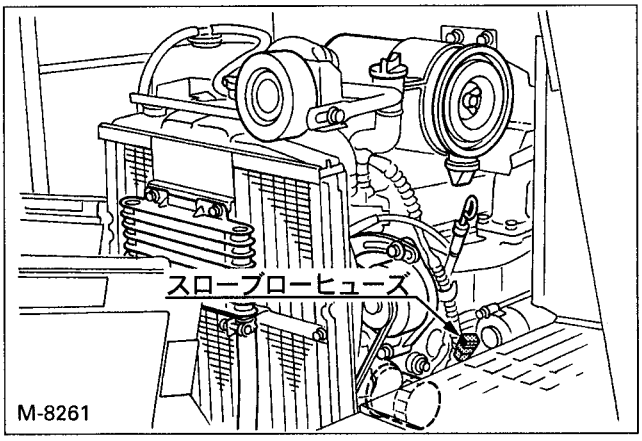
No.	容量	回　　路
1	20A	直　B
2	10A	本　機
3	20A	刈　取
4	15A	ライト
5	10A	制御ボックス
6	20A	ソレノイド

補　足

＊予備ヒューズは，10A1本，15A1本，20A2本がヒューズケース裏面に入っています。

●スローブローヒューズの点検・交換

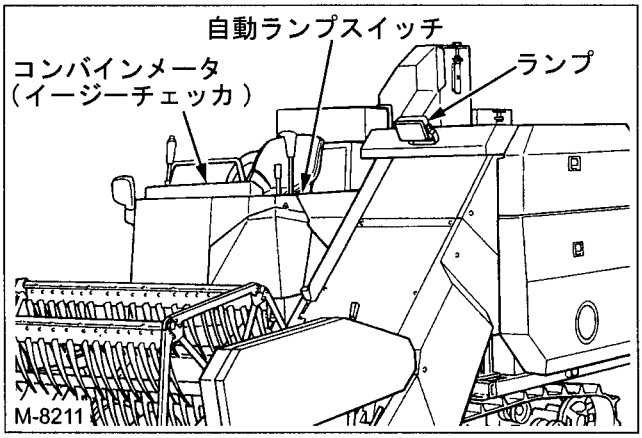
スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し，切れているときは購入先に連絡して交換してください。

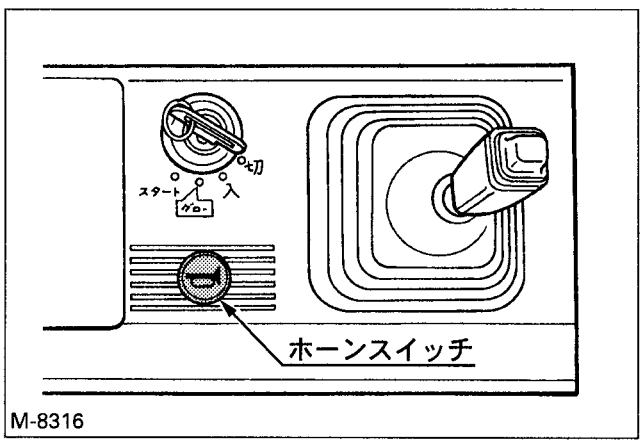


■ランプ(電球)の点検・交換

■ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。





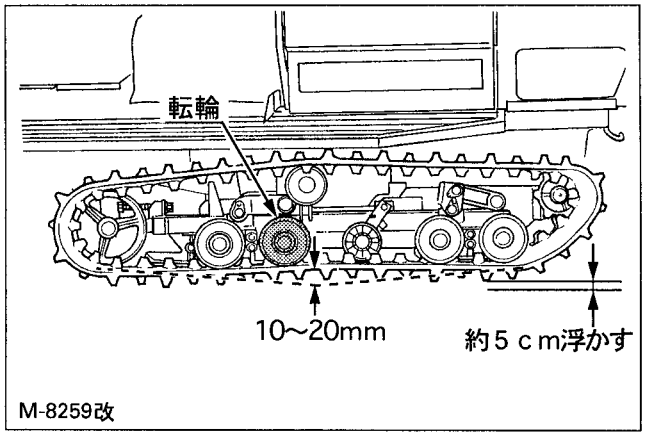
■クローラの張り調整・交換

注 意

＊平たんな場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

＊機体を浮かせた状態で作業を行なうときは，所定の場所でバランスのとれ位置にして作業してください。

地面からクローらを浮かした状態で，クローラ下側上面と後から2番目の転輪下端のすき間を10～20mmに調整してください。また，調整は左・右共行なってください。



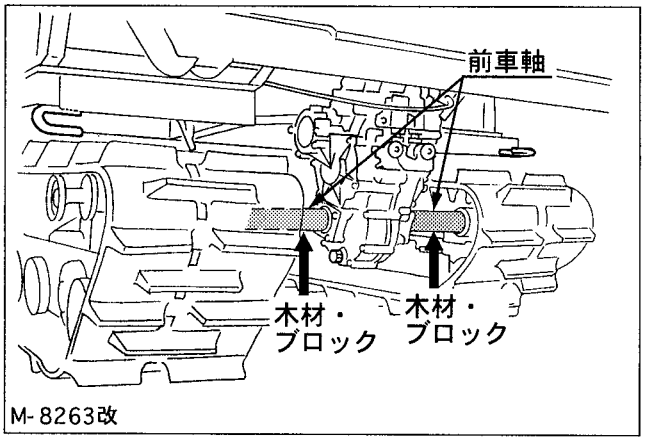
❶車体水平制御の水平操作レバーで機体を**最下降位置**にし，機体を少し前進させたあと，走行を停止します。

❷水平操作レバーで機体を**最上昇位置**にし，エンジンを停止します。

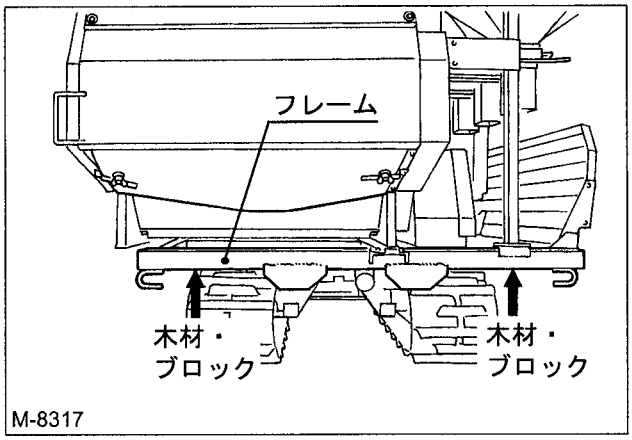
❸機体前部と後部の所定の位置に木材やブロックをそれぞれセットします。

❹エンジンを始動したあと，水平操作レバーを操作して，地面から約5cmクローラを浮かせます。

(1)前部は前車軸の下図の位置に木材やブロックをセットします。

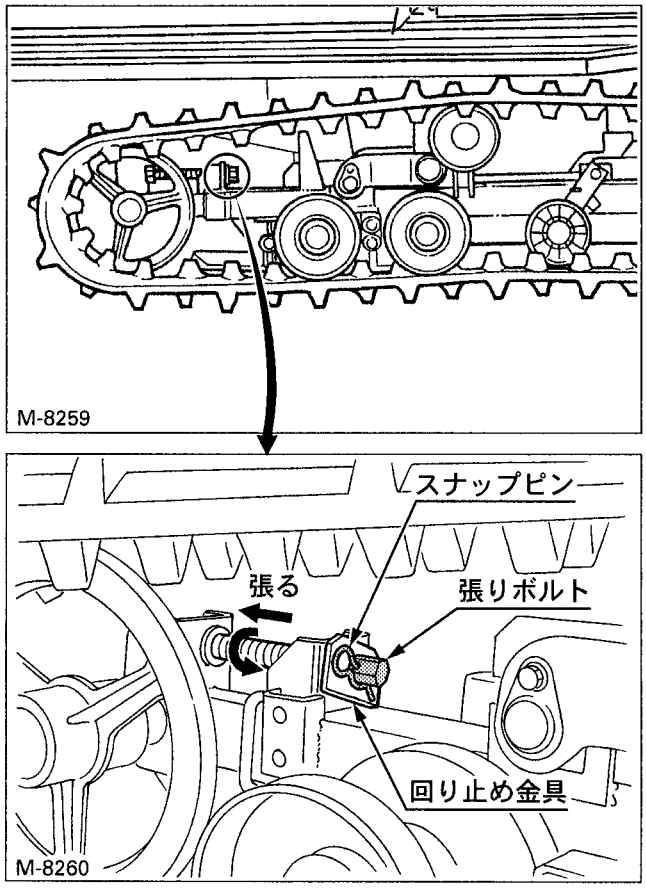


(2)後部はリヤシュート・サイドシュートを収納し，フレームの下図の位置に木材やブロックを2箇所セットします。



❺クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。

❻張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。



❼左・右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。

❽ブロックや木材を取外します。

重 要

＊クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

＊クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に増張りしてください。

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

❶平たんな場所にコンバインを停めます。
❷機体各部の排稈くずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。（**各部の掃除と注油のしかた**の項参照）
❸刈取部を地面に接地させます。
❹メインスイッチのスイッチキーを抜取ります。
❺本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草や排稈くずを，完全に取除いてください。

重　要

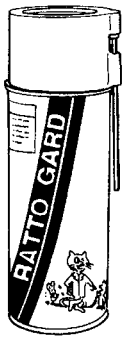
＊機体を洗う場合は，電装部品に水がかからないようにしてください。

補　足

＊各部にこく粒や排稈くずが残っていると，ネズミの巣になったり，配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。また，ネズミによる被害を避けたいときは，クボタ純正部品**ラットガード**（ネズミよけスプレー塗料）の使用をお勧めします。特に，供給ベルトや選別ベルトは高価消耗部品となりますので，使用されるときは全面に吹付けてください。

クボタ純正品　　**ラットガード**

ネズミよけ
スプレー塗料



＊使用の際は，スプレー缶に書いてある使用上の説明・注意をよくお読みください。　M-8318

品　名	品　番
クボタラットガード	07908-5619-0

＊各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないようにじゅうぶん注油してください。
＊塗料のはげた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ラジエータ冷却水

注 意

＊ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

●排水しておくとき

❶ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。（**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照）

❷ラジエータキャップは締付けますが，排水コックは開けたままにし，ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（**ラジエータ冷却水の点検・交換**の項参照）

重 要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を適正量入れ(混合比は最高でも50%以下)，よく水と混ぜ合せてからお使いください。
（ラジエータ容量……3.7L）

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。必ず２年で交換してください。

◆バッテリ

危 険

＊保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注 意

＊バッテリを点検するときには，エンジンを停止し，メインスイッチを“切”にしてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

●保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）

●バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１ヵ月，冬は２ヵ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。

●次のような場所に保管してください。

(1)直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所

(2)雨露が少なく，水没のおそれがない場所

(3)バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，⊖側のケーブルを必ず取外してください。

4. 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

●デバイダカバーを取付けたあと，分草かんを収納します。

●もみデッキを収納します。

●アクセルレバーをいっぱい戻して（“🐢”位置）止めておいてください。

●各作業クラッチ（刈取・脱こく）レバーは**“切”**位置にしておいてください。

●メインスイッチのスイッチキーは，必ず抜取って保管してください。

●エンジンが完全に冷えてから本機カバーをかけておいてください。

コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！ ページ

水温ランプが点滅しブザーが鳴った 90

エンジンがかからない 91

作物を刈取らずに押倒していく 92

ビービーと断続ブザーが鳴る 92

こく粒の飛散が多い 93

選別が悪くなった 93

損傷粒が多い 93

汚粒が出る 94

刈高さ自動で刈刃が突込む 94

警 告

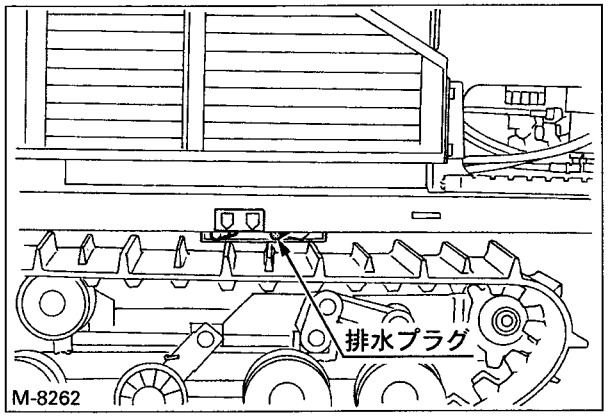
＊各部の調整・点検・交換などを行なうときは，エンジンを必ず止めてから行なってください。

注 意

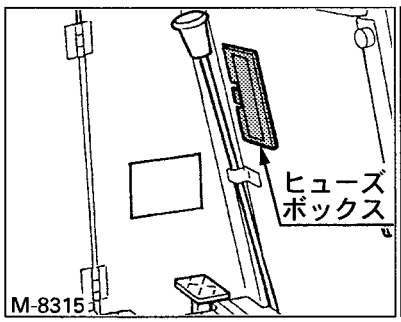
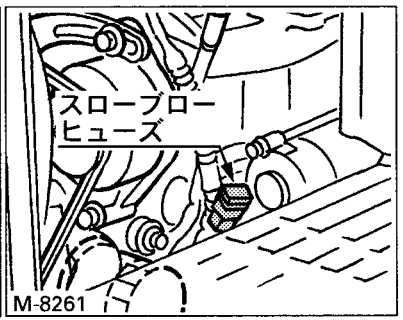
＊各クラッチは，“切”にしてください。
＊エンジン始動時は合図をし，安全を確認してください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。またオーバヒートなどの高温時は，エンジンを約5分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，30分以上経過するまでエンジンカバーを開けないでください。熱湯が噴出したり，高温部でヤケドするおそれがあります。
＊刈刃やカッタの清掃時は刃部に注意してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，火気に注意しきれいにふき取ってください。

水温ランプが点滅しブザーが鳴った

●エンジンがオーバヒート(過熱)している。

すぐにすること	原　因	点滅箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，エンジンを約５分間アイドリング回転で運転したあと止める。	防じん網，又はラジエータフィンがくずなどで目詰まりしている。	防じん網	●防じん網をブラシなどで掃除する。	62
		ラジエータフィン	●圧縮空気か水道水で，フィンを傷つけないように掃除する。	62
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	●清水をラジエータ給水口まで補給する。 (ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷やしてキャップを開けてください。) ●清水をリザーブタンクの“FULL”まで補給する。 ●排水プラグからもれていないか点検する。  	62
	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	●オイルを補給する。	57,58
		エンジンオイル フィルタカートリッジ	●エンジンオイルフィタカートリッジの交換時期になっていれば交換する。	63
	ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトのたわみ	●ダイナモの取付ボルトをゆるめ，ダイナモを手で引張りながらベルトの増張りを行なう。 ●ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	67

エンジンがかからない

すぐにすること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
●メインスイッチを“切”位置にする。	セルモータは回る	燃料がない。	燃料ゲージ	●燃料を補給する。	57
		フューエルフィルタ	フューエルフィルタアッシ フューエルフィルタカートリッジ	●フューエルフィルタの目詰まりがないか点検し，洗浄する。 ●燃料パイプの折れ，破損を点検し，異常があれば交換する。	62 61
		燃料の種類	燃料の種類	●ディーゼル軽油を補給する。	57
	セルモータが回らない	主変速レバーが“停止”，脱こく・刈取りクラッチレバーが“切”になっていない。	主変速レバー 脱こくクラッチレバー 刈取りクラッチレバー	●主変速レバーを“停止”，脱こく・刈取りクラッチレバーを“切”位置にする。 （主変速レバーを“停止”，脱こく・刈取りクラッチレバーを“切”位置にしないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。）	5, 18
		バッテリが上がっている。	バッテリ （ホーンの音が小さい）	●補充電する。 ●バッテリ液を点検し，不足の場合はバッテリ精製水を補給する。	82
		ヒューズ・スローブローヒューズが切れている。	ヒューズボックス スローブローヒューズ	●点検し，切れている場合は同じ容量(A)のヒューズに変換する。（アンペア数に注意）（スローブローヒューズはエンジンルームのオイルゲージ付近にあります。）  	85
	エンジンが始動してもすぐ止まる。	カッタ安全カバーが正しくセットされていない。	カッタ後カバー カッタ安全カバー	● 正しく取付ける。	44

作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，刈取クラッチレバーを切る。 ●必ずエンジンを止める。	刈刃や搬送部に根・株・泥・石や木片などの異物がかみこんでいる。	刈刃部	●異物を取除き，刈刃部を点検する。	81
		搬送部	●異物を取除き，周辺を点検する。	—
	刈取クラッチベルトがスリップしている。	刈取クラッチベルト テンションスプリング	●テンションスプリングを張る。	68

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること		原　因	点検箇所	処　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，イージーチェッカをみる。	こく粒ランプが点滅している。	ホッパが満杯。	ホッパ	●もみ袋を交換する。	50

こく粒の飛散が多い

すぐにすること	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
●刈取作業を中止して，搬送部にある作物を流しきる。	脱こく回転数が高い。	回転計	●回転計をみながら，アクセルレバーで正規回転にする。	32
	トウミ風力調節が強すぎる。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を**“弱”**の方に調節する。	38

選別が悪くなった

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
莢からや，茎ぎれが入っている。	エンジン回転数が低い。	回転計	●回転計を見ながらアクセルレバーで正規回転にする。	32
	トウミ風力調節が弱い。	トウミ風力調節	●トウミ風力調節を**“強”**の方に調節する。	38
	チャフシーブのすき間が広すぎる。	チャフシーブの切換え	●チャフシーブの目合を一段落とす。	29

損傷粒が多い

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
破砕粒や皮切れ粒が多い。	エンジン回転数が高い。	回転計	●回転計を見ながら，アクセルレバーで正規回転にする。	38

汚粒がでる

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
大豆に黒い斑点が付く。	刈取適期が早い。	作物成熟度	●葉が完全に落ちて莢をふるとカラカラと乾いた音がする時期までのばす。	25
	刈取時間が早い。	作物の乾燥度	●莢水分20％前後，指でさわってベトつかない時間までのばす。	25
	雑草や青立が多い。	ほ場管理	●雑草や青立茎は完全に取除く。	25
	土が入った。	自動刈高制御の自動切換えスイッチ	●自動刈高制御のスイッチを**“自動”**にする。 一度，土をかみ込んだら完全に取除いてから作業を始めてください。	12,23
		ソリセンサ	●ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入り込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	12

刈高さ自動で刈刃が突込む

現　　象	原　　因	点 検 箇 所	処　　置	参照ページ
刈刃が突込む	枕地の横刈りやほ場の起伏が多い。	自動刈高制御の自動切換スイッチ	●枕地のうねの横刈りや起伏の激しいほ場では自動車体水平制御**“自動”** 刈高制御**“手動”**で行なってください。 ●各条の刈初めは，ゆっくりと刈高さを合わせながら操作してください。	12,33
	ソリセンサの上に土が入っている。	ソリセンサ	●ソリセンサと刈取部の底板の間に土が入り込んでいたら，完全に取除いてから作業を始めてください。	34

付 表

主要諸元

農機型式名				DC-1S
商品名				DC-1S
機体寸法	全長 (mm)			4270
	全幅 (mm)			1780
	全高 (mm)			2045
機体質量 (kg)				1725
エンジン	型式名			D1105-C
	種類			水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル
	総排気量 (L{cc})			1.123 {1123}
	出力/回転速度 kW(PS)/rpm			18(25)/3000
	使用燃料/タンク容量 (L)			ディーゼル軽油/28
	始動方式			セルスタータ
	バッテリ (V・Ah)			12・52
走行部	クローラ	中心距離 (mm)		885
		幅×接地長 (mm)		350×1200
		平均接地圧 KPa(kgf/cm²)		20.1 (0.205)
	変速方式			油圧モータ式 (HST)
	変速段数			前進無段・後進無段〔副変速各3段〕
	走行速度 (m/s)	前進		倒伏：0～0.63　標準：0～1.0　走行：0～2.12
		後進		
	旋回方式			ブレーキターン
刈取部	引起し方式			リール引起し
	リール	径(mm)×バーの数 (本)		800×5
		変速方式		車速同調
		上下調節方式		電動モータ
	刈幅〔デバイダ間隔〕 (mm)			1400
	刃幅 (mm)			1370〔フィンガ式〕
	刈高さ〔昇降〕範囲 (mm)			-50～610〔刈刃先端〕
脱こく部	脱こく方式			コーンケーブレスアンダーブロー
	口ータ	径×幅 (mm)		300×770
		回転数 (mm)		590〔大豆〕・1070〔そば〕
	選別方式			揺動・傾斜ベルト・風選
	2番還元方式			バケットコンベア
こく粒取出部	ホッパ	容量 (L)		200
		口数・取出方式		3口・袋詰め
排稈処理部	工場出荷仕様			70mm切断カッタ
諸装置	自動化装置	自動刈高制御		○
		刈取対地平行制御		○
		車体水平制御		○
	警報装置			オイル・充電・燃料・水温・こく粒満杯・2番警報・カッタ警報
作業能率 (a/hr{分/10a})				25～30 {24～20}
適応作物				大豆・そば

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊サービスブック	1	
＊取扱説明書	1	
＊本機カバー	1	
＊もみ袋	3	

【そば用部品】

＊2番プレート	1	(28ページ参照)
＊ソバ用デバイダ	1	(28ページ参照)
＊刈取底プレート	2	(29ページ参照)
＊フィーダ底プレート1	1	
＊フィーダ底プレート2	1	
＊フィーダ底ステー2	1	
＊ふるい線プレート	1	(29ページ参照)

＊工具	1セット
・工具箱	
・10－12スパナ	1
・12－14スパナ	1
・14－17スパナ	1
・⊕⊖ドライバ	1
・プライヤ	1
・油差し	1
＊じょうご	1
＊延長パイプ	1
＊ブラシ	1

オプション（別売品）

■キャビン（簡易タイプ）

運転席側へ飛散してくるゴミやちりを防ぎます。

品　　番	品　　名
51576-00000	DC-FA　キャビン

※キャビン用オプション

●DC-1Sクーラキット

DC-FA（簡易キャビン）用後付クーラキットです。

品　　番	品　　名
51579-00000	DC-1Sクーラキット

■プーリアッシ

ロータの回転数を下げ，こく粒の損傷を防ぎます。

品　　番	品　　名
51561-9953-0	プーリ，アッシ（テイソク）

■Vベルト（C77）

ロータの回転数を上げ，収穫量増加に役立ちます。

品　　番	品　　名
51561-9957-0	Vベルト（C77）

※莢がはじけないと効果はありません。

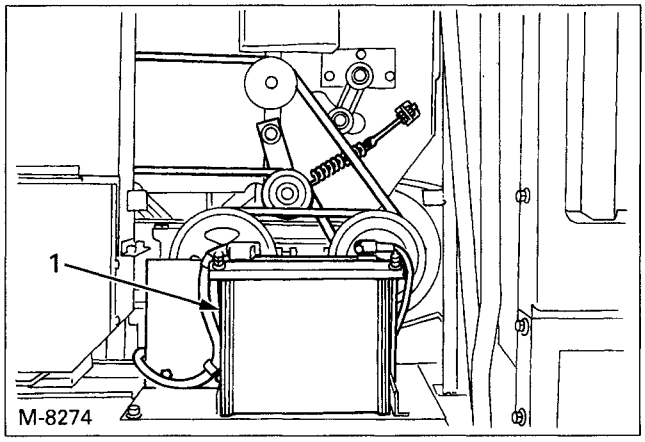
■大袋ホッパ

1度に450L（約10a分）の作物を貯蔵できます。

品　　番	品　　名
51585-00001	大袋ホッパ

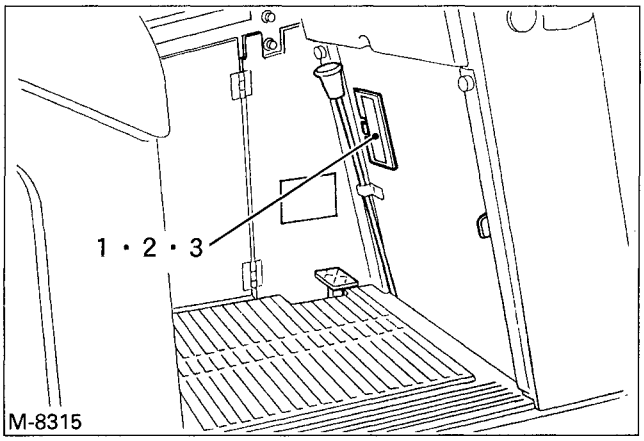
消耗部品

◆バッテリ



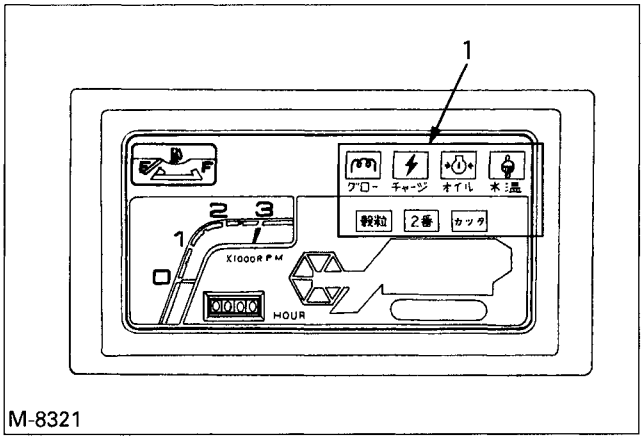
図番	品　名	品　番
1	バッテリ（65D-23L-MF）	52600-4111-0

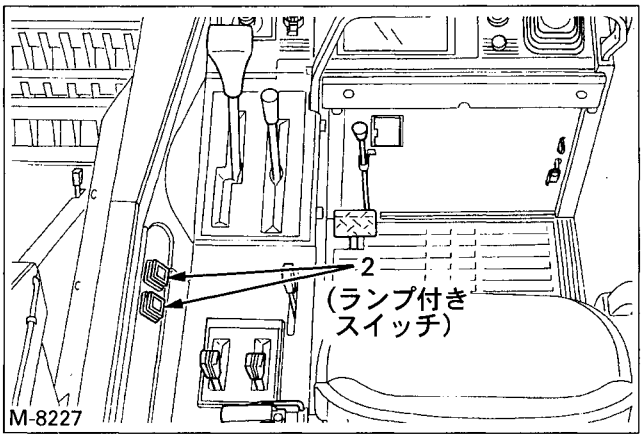
◆ヒューズ

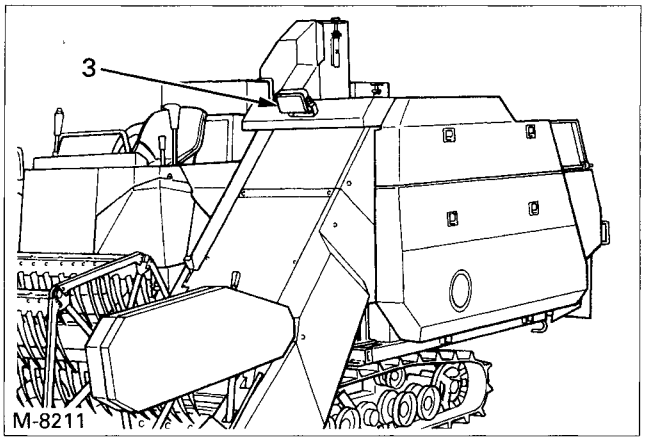


図番	品　名	品　番
1	10Aオートヒューズ	36730-7555-0
2	15Aオートヒューズ	35820-7556-0
3	20Aオートヒューズ	36919-5665-0

◆ランプ（電球）

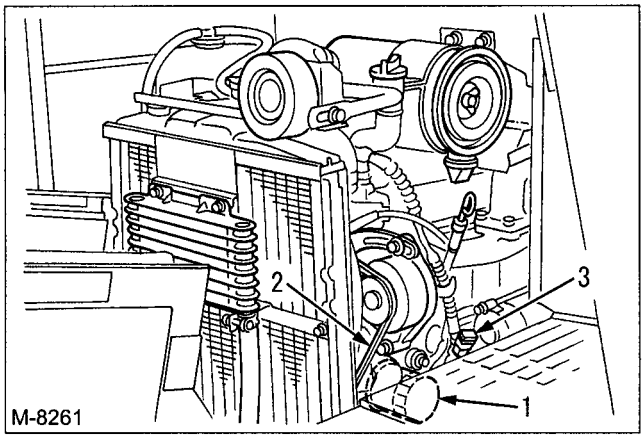






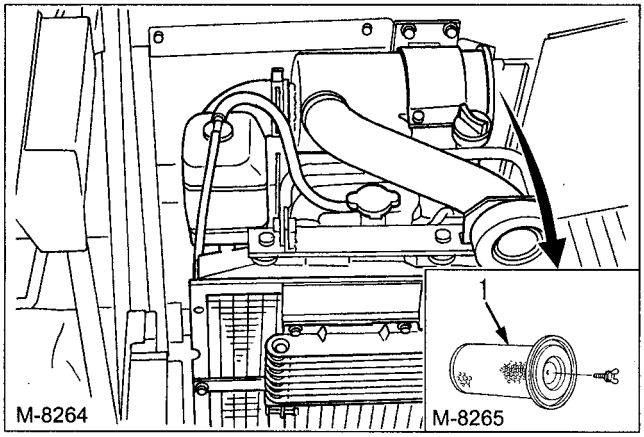
図番	品　名	品　番
1	バルブ（7個）	52300-4142-0
2	バルブ	52200-4233-0
3	ランプバルブ	52200-4186-0

◆オイルフィルタカートリッジ
◆ファン駆動ベルト（37.5ブイベルト）
◆スローブローヒューズ



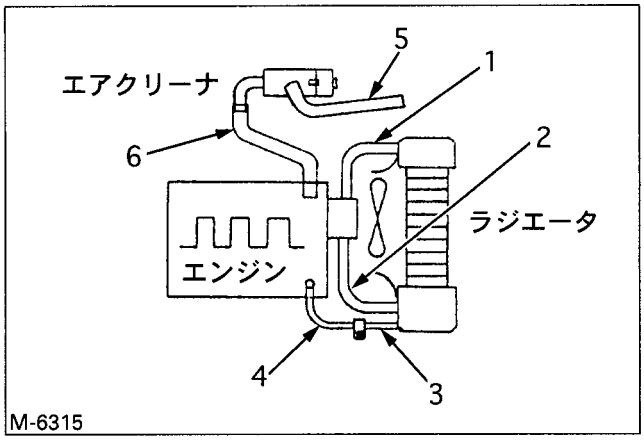
図番	品　名	品　番
1	オイルフィルタカートリッジ	15241-3209-0
2	37.5ブイベルト	16282-9701-0
3	スローブローヒューズ 60A	52200-4117-0

◆エアクリーナエレメント



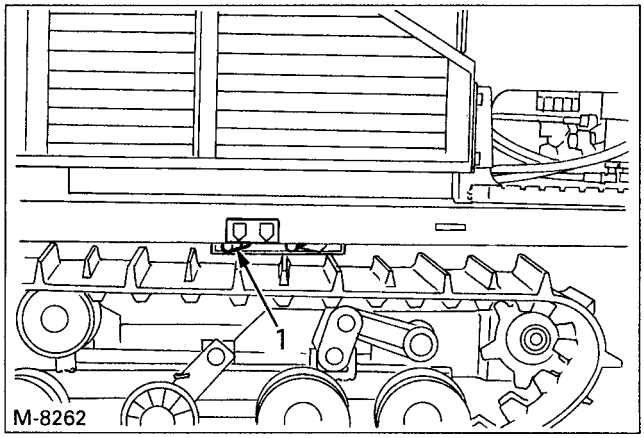
図番	品　名	品　番
1	エレメント,アッシ(エアクリーナ)	15741-1108-3

◆ラジエータホース，インレットパイプ



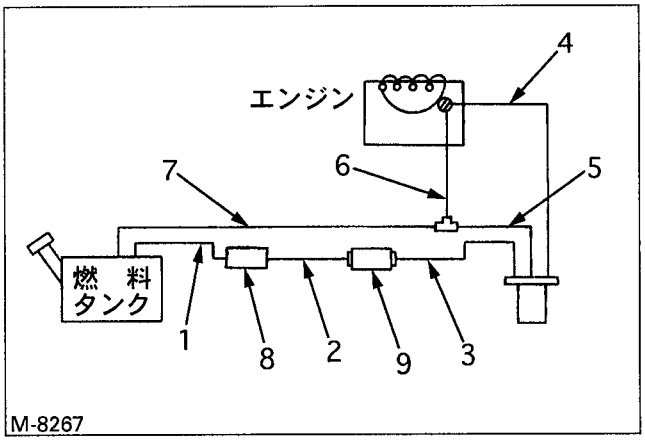
図番	品　名	品　番
1	ホース（1，ウォータ）	52000-2571-2
2	ホース（2，ウォータ）	52000-2572-0
3	ホース（ハイスイ）	52000-2574-0
4	ホース（ウォータリターン）	52000-2573-0
5	インレットパイプ1	52600-2631-0
6	ホース（2，インレット）	52000-2632-0

◆オイルドレーンゴムホース



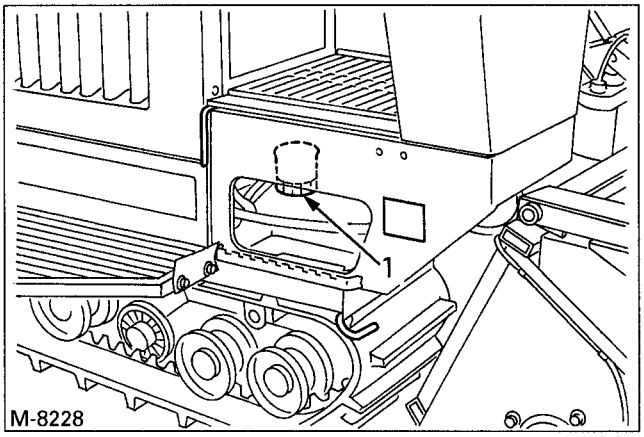
図番	品　名	品　番
1	オイルドレーンホース	52600-2531-2

◆フューエルパイプ
◆フューエルフィルタアッシ，フューエルフィルタカートリッジ



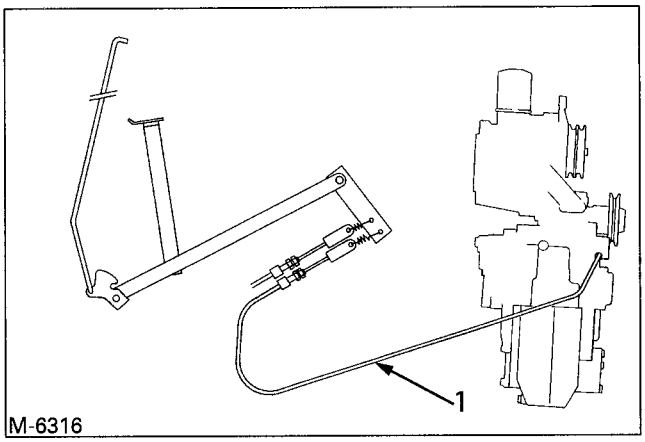
図番	品　　名	品　番
1	フューエルチューブ	09661-71850
2	フューエルチューブ	09661-70550
3	フューエルチューブ	09661-70600
4	フューエルチューブ	09661-71100
5	フューエルチューブ	09661-70900
6	フューエルチューブ	09661-70380
7	フューエルチューブ	09661-70950
8	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2
9	フューエルポンプアッシ	16851-5203-2

◆フューエルフィルタアッシ



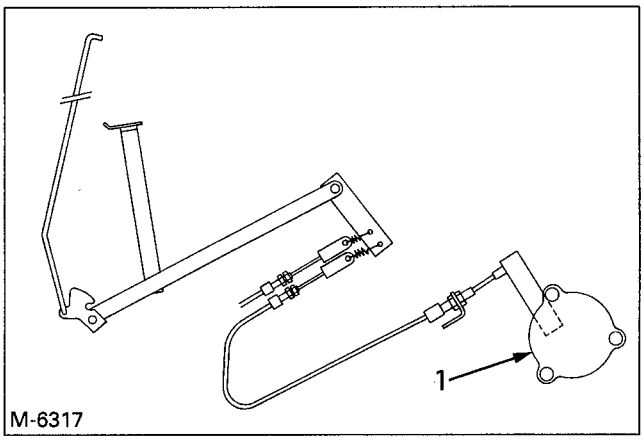
図番	品　　名	品　番
1	フューエルフィルタアッシ	52000-2680-0

◆駐車ブレーキワイヤ



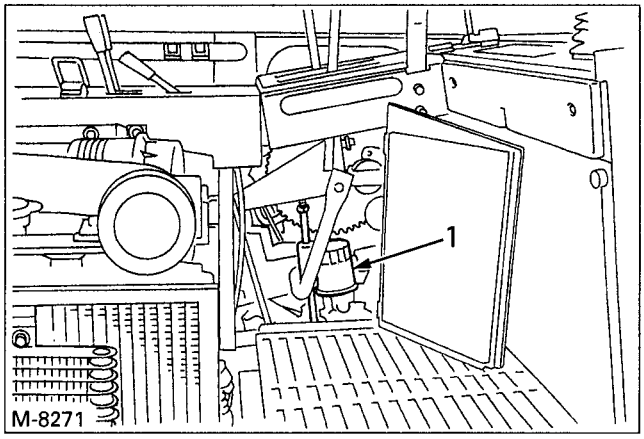
図番	品　　名	品　番
1	ワイヤ（ブレーキ）	59900-3216-0

◆駐車ブレーキシュー



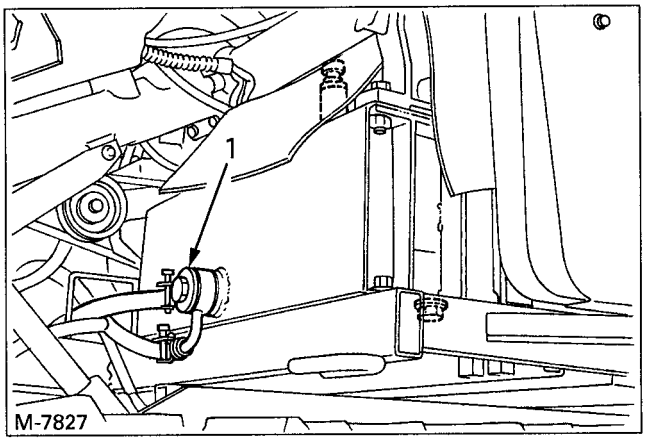
図番	品　　名	品　番
1	ブレーキアッシ（2）	59900-1771-0

◆HSTオイルフィルタ



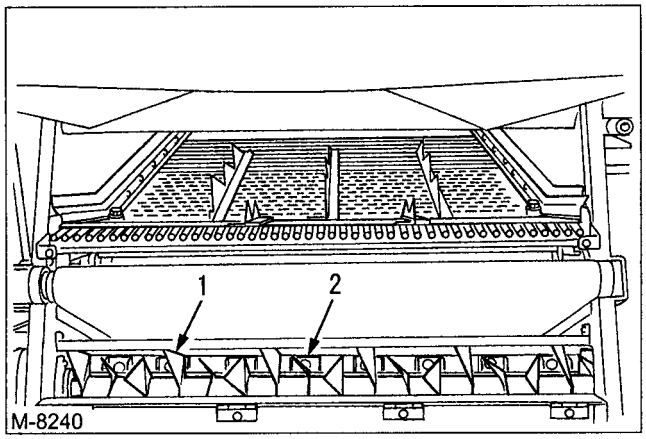
図番	品　　名	品　番
1	HSTオイルフィルタ	66021-3606-0

◆油圧オイルフィルタカートリッジ



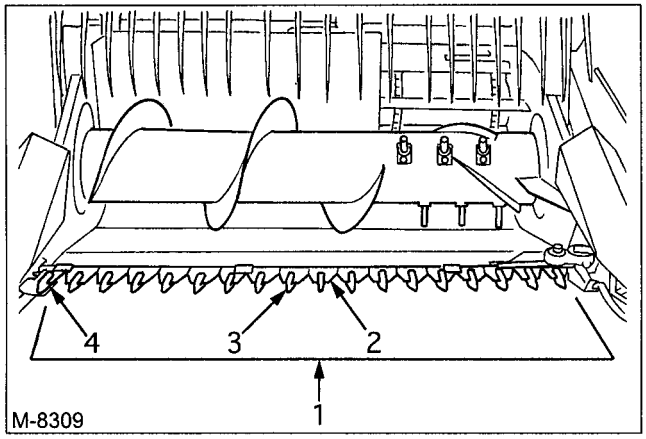
図番	品　　名	品　番
1	油圧オイルフィルタ	52600-2765-0

◆処理羽根・固定刃



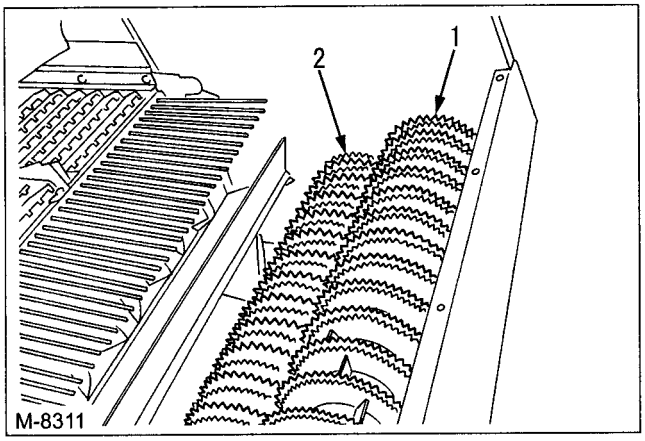
図番	品　　名	品　番
1	処理羽根	51161-7912-0
2	固定刃	51161-7143-0

◆刈刃



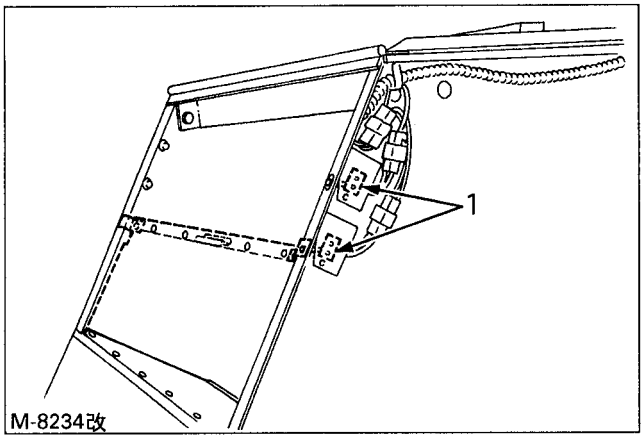
図番	品　　名	品　番
1	刈刃アッシ	51161-5350-0
2	刈刃	51601-5132-0
3	フィンガ1	51601-5136-0
4	フィンガ2	51601-5137-0

◆カッタ刃



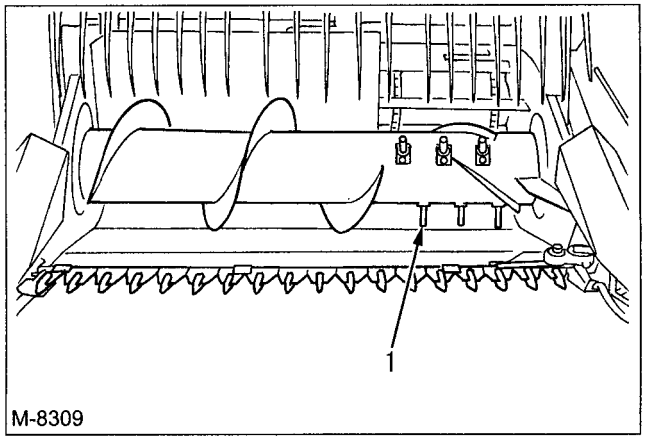
図番	品　　名	品　番
1	160 セツダンバ	57759-2115-0
2	150 セツダンバ	57613-1229-0

◆カッタセンサ



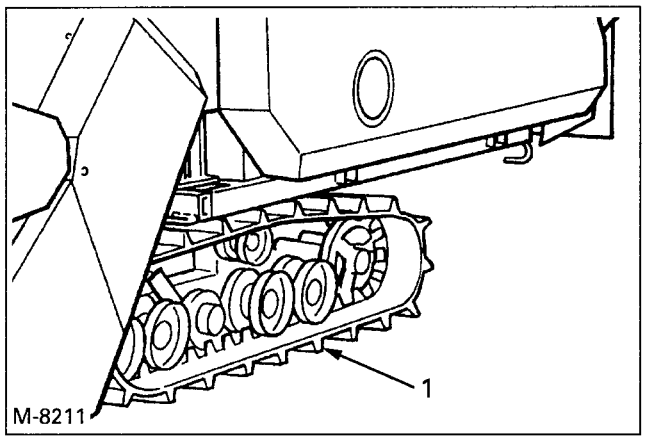
図番	品　　名	品　番
1	スイッチ（シャタイ.NO)	PA401-6881-2

◆フィンガ



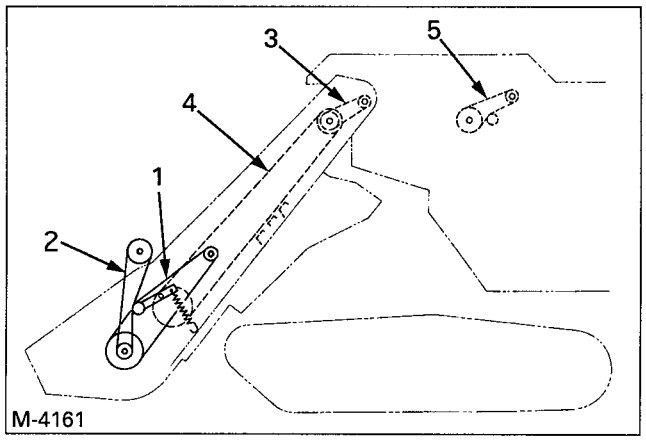
図番	品　　名	品　番
1	フィンガジク	51161-5319-0

◆クローラ



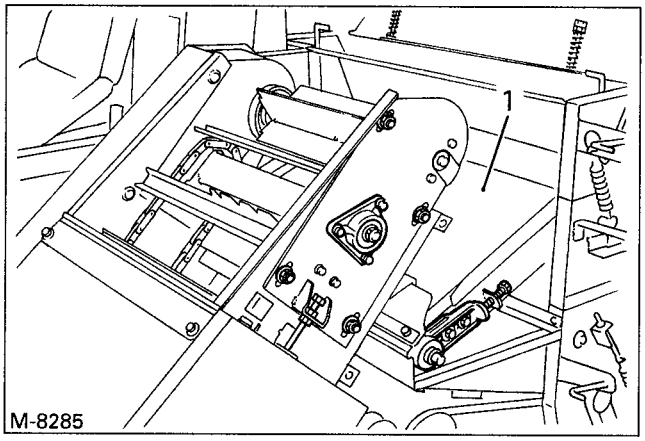
図番	品　名	品　番
1	Sクローラ　350M	52600-2153-0

◆チェーン関係



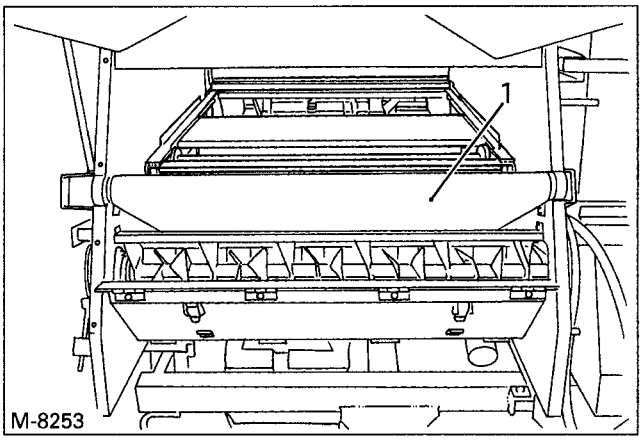
図番	品　名	品　番
1	オーガ駆動チェーン	51161-5336-0
2	リール駆動チェーン	51161-5515-2
3	ビータ駆動チェーン	51161-5184-0
4	フィーダ駆動チェーン	51161-5187-0
5	供給ベルト駆動チェーン	51161-7455-0

◆供給ベルト



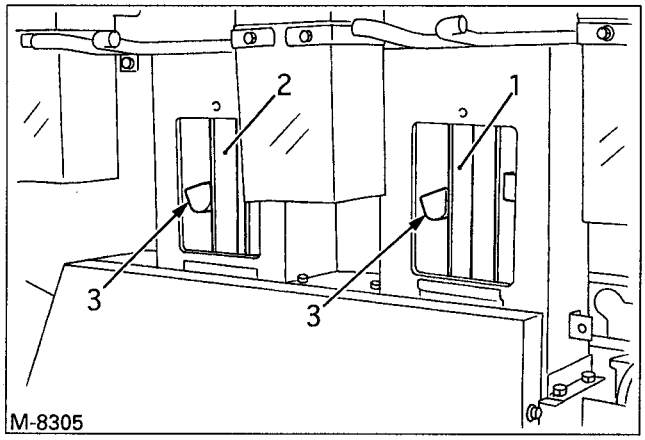
図番	品　名	品　番
1	ベルト（キョウキュウ）	51574-7437-0

◆選別ベルト



図番	品　名	品　番
1	選別ベルト	51161-7815-0

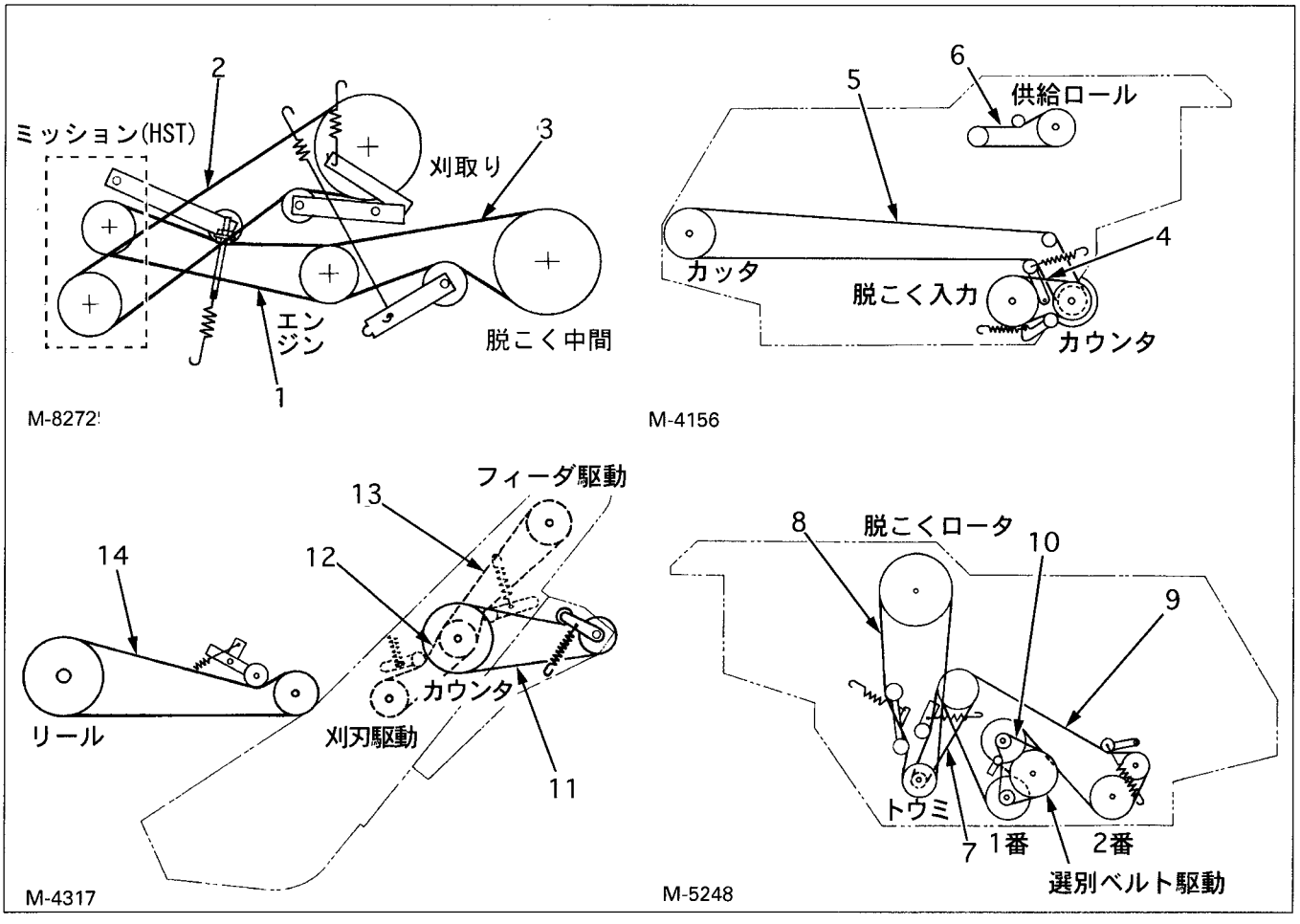
◆1番・2番バケットコンベア



図番	品　名	品　番
1	ベルト(イチバンショウコウキ)	51574-7748-0
2	ショウコウキベルト2	51161-7952-0
3	バケット	51161-7757-0

◆各部駆動ベルト

	図番	品　　名	品　　番
エンジン周辺部	1	B-52ベルト	52600-1161-3
	2	ブイベルト（B75）	51571-1165-0
	3	C-57ベルト	51161-1173-0
脱こく部	4	ブイベルト（C-37）	51161-7223-4
	5	ブイベルト特B150	51161-7233-0
	6	ブイベルト特A31	51161-7425-0
	7	ブイベルト（B-45）	51161-7564-0
	8	ブイベルト（C-80）	51161-7545-0
	9	ブイベルト（B-114）	51161-7554-0
	10	ブイベルト特A-33	51161-7828-0
刈取部	11	ブイベルト（B-65）	51161-5141-2
	12	ブイベルト（B-41）	51561-5159-0
	13	フィーダクドウベルト　B-59	51161-5186-0
	14	ブイベルト（B-90）	51161-5542-2



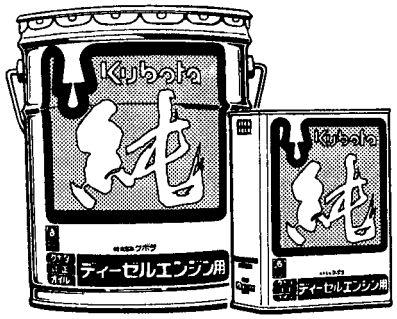
クボタ純オイル

■オイルは クボタ純オイル をお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

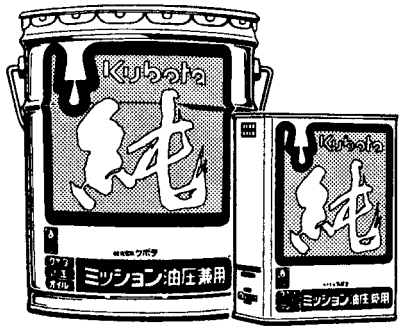
お買求めは，販売店またはＪＡ農協へご用命ください。

●D30又はD10W30（ディーゼルエンジン用）



Z-1025　20ℓ　4ℓ

●M80B（ミッション油圧兼用）

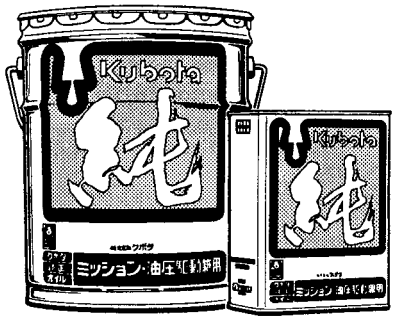


Z-1024　20ℓ　4ℓ

●M90（一般ミッション・各ギヤ用）

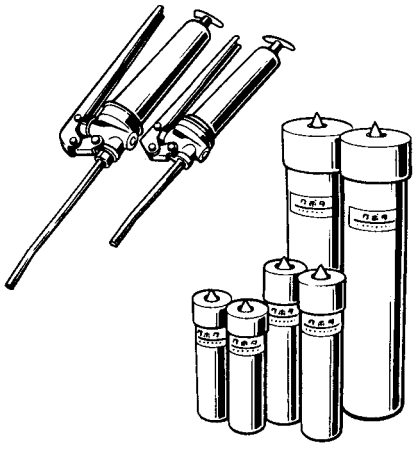
Z-1023　20ℓ　4ℓ

●スーパーUDT（油圧駆動・ミッション油圧兼用）



Z-1021　20ℓ　4ℓ

■クボタスペアグリース



Z-1026　60　100　400

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号

万一購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011) 662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048) 862-1121　〒338-0832　浦和市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(0722) 41-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092) 606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号

株式会社クボタアグリ東日本

秋田事業所：電(0188) 45-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台事業所：電(022) 384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の１
東京事業所：電(048) 862-1124　〒338-0832　浦和市西堀５丁目２番36号
新潟事業所：電(025) 285-1261　〒950-0992　新潟市上所上１丁目14番15号

株式会社クボタアグリ西日本

金沢事業所：電(0762) 75-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-１
名古屋事業所：電(0586) 24-5111　〒491-0031　一宮市観音町１番地の１
大阪事業所：電(0722) 41-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子事業所：電(0859) 33-5011　〒683-0804　米子市米原７丁目１番１号
岡山事業所：電(086) 279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松事業所：電(0878) 74-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所：電(092) 606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘２丁目２番76号
熊本事業所：電(096) 357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　51575-8511-2

Kubota